

北若松原遺跡
若松原南遺跡

令和元年12月

宇都宮市教育委員会

序

北若松原遺跡は、塚山古墳群から東に0.5kmの宇都宮市北若松原1丁目に所在する遺跡です。また、若松原南遺跡は、宇都宮市若松原2丁目に所在する宇都宮市立若松原中学校の南側に広がる遺跡です。周囲は、先述の古墳以外に、二軒屋遺跡、若松原遺跡、西原北遺跡など、縄文時代から平安時代にかけての遺跡が密集するエリアになります。

北若松原遺跡については、平成3年度と平成5年度に計画された2件の大型店舗建設に伴い、影響を受けることとなった本遺跡の取り扱いにつきまして、事業者をはじめ、関係機関との協議の上、記録保存のための発掘調査を実施することとなりました。その結果、古墳～平安時代の住居跡が28軒確認され、塚山古墳群の造営期間中に営まれた集落の一部を記録保存することができました。

若松原南遺跡については、近隣の宅地開発等の結果、交通量が増大した市道749号線の拡幅工事に伴い、市教育委員会と市道路建設課で協議の結果、記録保存のための発掘調査を実施することとなりました。その結果、古墳時代の竪穴住居跡7軒、掘立柱建物跡3棟が確認され、雀宮地区の古代の歴史を知るうえで、貴重な資料を得ることができました。

本報告書は、それぞれの発掘調査において得られた成果をまとめたものであり、多くの方々にさまざまな方面でご活用いただければ幸いです。

最後になりますが、埋蔵文化財の取り扱い協議から発掘調査、そして報告書作成・刊行に至るまで多大なるご協力とご理解をいただきました関係各位、関係機関に対しまして、厚く御礼申し上げます。

令和元年12月

宇都宮市教育委員会

教育長 小堀茂雄

例 言

- 1 本報告書は、栃木県宇都宮市北若松原1丁目に所在する北若松原遺跡と宇都宮市若松原3丁目に所在する若松原南遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 北若松原遺跡の発掘調査は下表に示すとおり平成3年(第1次調査)と5年(第2次調査)、いずれも大型店舗建設に伴う事前調査として実施したものである。調査の実施に当たってはいずれも事業主の依頼により宇都宮市教育委員会が調査主体となり、費用は事業主が負担した。

調査年次	調査期間	所在地	調査の原因	事業主
第1次調査	平成3年4月2日～ 5月10日	北若松原1丁目 1665-10他	大型店舗建設	とちぎコープ生活協同 組合
第2次調査	平成5年5月13日～ 11月30日	北若松原1丁目 1497-16他	大型店舗建設	(株)ヨークベニマル

また若松原南遺跡の発掘調査は、宇都宮市道の拡幅工事に伴う事前調査で、平成19年10月16日～平成20年2月12日に実施したものである。

- 3 調査対象面積は、北若松原遺跡の第1次調査が約2,500㎡、第2次調査が約13,000㎡、若松原南遺跡が約1,000㎡である。
- 4 北若松原遺跡の発掘調査における測量及び写真撮影等は神野安伸・梁木誠が、若松原南遺跡の発掘調査における測量及び写真撮影等は今平利幸がこれにあたった。また本報告書作成に伴う遺構・遺物の整理及び写真撮影等は、森千鶴子、斎藤詩穂、角田祥一の協力を得て、澁谷麻友子・梁木がこれにあたった。
- 5 本書の編集・執筆は、近藤真との協議を踏まえ、梁木と澁谷がこれにあたった。
- 6 本遺跡出土の遺物及び図面・写真等の記録類は、宇都宮市教育委員会で保管している。
- 7 発掘調査の関係者は次のとおりである。

○北若松原遺跡発掘調査時(平成3年度・5年度)

[指導助言]

宇都宮市文化財保護審議委員会委員	埴 静夫
”	大金宣亮
”	橋本澄朗
宇都宮市教育委員会 教育長	藤田昌平
教育次長	近能忠良
(調査担当) 文化課長	安達光政(平成3年度)、横堀杉生(平成5年度)
文化財保護係長	定岡明義
文化財保護係	手塚英男・梁木 誠・大塚雅之・小松俊雄・神野 安伸・今平利幸・吉澤宣行(囑託)

○若松原南遺跡発掘調査時(平成19年度)

[指導助言]

宇都宮市文化財保護審議委員会委員	埴 静夫
”	橋本澄朗

宇都宮市教育委員会	教育長	伊藤文雄
	教育次長	高井 徹
(調査担当)	文化課長	篠崎 茂
	文化課長補佐	篠原 豊
	文化財保護係長	大塚雅之
	文化財保護係	富川 努・神野安伸・今平利幸・君島直人・須田浩太郎・前原義之・井上俊邦・黒須 寛・寛 芳子

○報告書作成時（令和元年度）

[指導助言]

宇都宮市文化財保護審議委員会委員		橋本澄朗
〃		竹澤 謙
宇都宮市教育委員会	教育長	小堀茂雄
	教育次長	菊地康夫
(調査担当)	文化課長	山口達雄
	文化課主幹	今平利幸
	文化財保護グループ係長	前原義之
	文化財保護グループ	近藤 真・竹下 亘・星野治彦・清地良太・田中宏迪・柳川実咲・齋藤なつの・高橋直也・梁木 誠(囑託)・澁谷麻友子(囑託)

- 8 発掘調査の実施並びに本書の作成にあたっては、栃木県教育委員会の指導を受けるとともに、次の諸機関及び諸氏のご指導・ご協力を賜った。記して感謝の意を表する。(敬称略、順不同)
栃木県立博物館、(公財)とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター、小島豪市郎

凡 例

- 1 挿図の縮尺は、原則として竪穴住居跡を1/60とし、遺物は土器を1/3、鉄製品を1/2、石製品を原寸で示した。また、遺物実測図番号は遺構平・断面図の番号及び図版の番号と一致する。
- 2 断面図基準線は標高であり、平面図の方位は磁北を示す。
- 3 遺構実測図の土層説明においては、次の略号を使用した。
ローム粒：LR、ロームブロック：LB、七本桜パミス：SP、今市パミス：IP、炭化物：C、
焼土粒：SY、焼土ブロック：SYB、カクラン：K、石：S
- 4 遺構においては次の略号を使用した。
竪穴住居跡：SI、土坑：SK
なお、北若松原遺跡第1次調査の竪穴住居跡（1～4号竪穴住居と呼称）4軒と土坑（1号土坑と呼称）1基については、第2次調査からの連番とし、以下のように改名した。
1号住居跡→SI25、2号住居跡→SI26、3号住居跡→SI27、4号住居跡→SI28、1号土坑→SK17
- 5 竪穴住居跡平面図の網掛けは焼土を示す。

目 次

・序・例言・凡例

第1章 北若松原遺跡

I はじめに

- 1 調査の経過..... 1
- 2 遺跡の環境..... 2

II 遺構と遺物

- 1 竪穴住居跡..... 6
- 2 土坑..... 17

III おわりに

- 1 出土土器について..... 90
- 2 竪穴住居跡について..... 91
- 3 集落について..... 92

第2章 若松原南遺跡

I はじめに

- 1 調査の経過..... 93
- 2 遺跡の環境..... 93

II 遺構と遺物

- 1 竪穴住居跡..... 94
- 2 掘立柱建物跡..... 96
- 3 柱穴列..... 96
- 4 土坑..... 97

III おわりに..... 110

・報告書抄録

・写真図版 PL28

挿 図 目 次

(北若松原遺跡)

第1図	遺跡位置図	1	第40図	SI27	46
第2図	周辺の遺跡分布図	3	第41図	SI28	47
第3図	調査地区図	18・19	第42図	土坑集成図	48
第4図	遺構配置図	18・19	第43図	SI02出土遺物	49
第5図	SI01	20	第44図	SI03出土遺物	50
第6図	SI02	21	第45図	SI04出土遺物	49
第7図	SI02カマド	21	第46図	SI05出土遺物	51
第8図	SI03	22	第47図	SI06出土遺物	52
第9図	SI03カマド	22	第48図	SI07出土遺物 (1)	53
第10図	SI04	20	第49図	SI07出土遺物 (2)	54
第11図	SI05	23	第50図	SI08出土遺物	49
第12図	SI06	24	第51図	SI09出土遺物	55
第13図	SI07	25	第52図	SI10出土遺物	56
第14図	SI08	26	第53図	SI11出土遺物	55
第15図	SI09	27	第54図	SI12出土遺物 (1)	57
第16図	SI10	28	第55図	SI12出土遺物 (2)	58
第17図	SI11	25	第56図	SI12出土遺物 (3)	59
第18図	SI12	29	第57図	SI13出土遺物	60
第19図	SI13	30	第58図	SI14出土遺物	61
第20図	SI14	31	第59図	SI15出土遺物	62
第21図	SI14カマド	31	第60図	SI16出土遺物 (1)	63
第22図	SI15	32	第61図	SI16出土遺物 (2)	62
第23図	SI15カマド	32	第62図	SI17出土遺物	64
第24図	SI16 (1)	33	第63図	SI18出土遺物	67
第25図	SI16 (2)	34	第64図	SI19出土遺物 (1)	65
第26図	SI17 (1)	35	第65図	SI19出土遺物 (2)	66
第27図	SI17 (2)	36	第66図	SI20出土遺物	66
第28図	SI18	37	第67図	SI21出土遺物	67
第29図	SI19	38・39	第68図	SI22出土遺物	68
第30図	SI19カマド	38・39	第69図	SI23出土遺物	69
第31図	SI20	40	第70図	SI24出土遺物	70
第32図	SI21	40	第71図	SI25出土遺物 (1)	71
第33図	SI22	37	第72図	SI25出土遺物 (2)	72
第34図	SI23	41	第73図	SI26出土遺物 (1)	73
第35図	SI24	42	第74図	SI26出土遺物 (2)	72
第36図	SI25 (1)	43	第75図	SI27出土遺物	74
第37図	SI25 (2)	44	第76図	SI28出土遺物	75
第38図	SI26 (1)	45	第77図	SK10・その他出土遺物	75
第39図	SI26 (2)	44			

(若松原南遺跡)

第78図	調査地区図	98	第89図	SB01	104
第79図	遺構配置図	98	第90図	SB02	104
第80図	SI01	99	第91図	SB03	104
第81図	SI01カマド	99	第92図	SX01	103
第82図	SI02	100	第93図	SX02	103
第83図	SI03	100	第94図	土坑集成図(1)	105
第84図	SI04	101	第95図	土坑集成図(2)	106
第85図	SI04カマド	102	第96図	土坑集成図(3)	107
第86図	SI05	103	第97図	SI01出土遺物	108
第87図	SI06	103	第98図	SI04出土遺物(1)	108
第88図	SI07	103	第99図	SI04出土遺物(2)	109

表 目 次

(北若松原遺跡)

第1表	周辺遺跡一覧	4	第24表	SI17出土石製品観察表	84
第2表	土坑一覧	17	第25表	SI17出土鉄製品観察表	84
第3表	SI02出土土器観察表	76	第26表	SI18出土土器観察表	84
第4表	SI03出土土器観察表	76	第27表	SI18出土鉄製品観察表	84
第5表	SI04出土土器観察表	76	第28表	SI19出土土器観察表	84
第6表	SI05出土土器観察表	76	第29表	SI20出土土器観察表	85
第7表	SI05出土鉄製品観察表	77	第30表	SI21出土土器観察表	85
第8表	SI06出土土器観察表	77	第31表	SI21出土石製品観察表	85
第9表	SI07出土土器観察表	77	第32表	SI22出土土器観察表	85
第10表	SI07出土鉄製品観察表	78	第33表	SI23出土土器観察表	86
第11表	SI08出土土器観察表	78	第34表	SI23出土石製品観察表	86
第12表	SI09出土土器観察表	78	第35表	SI24出土土器観察表	86
第13表	SI10出土土器観察表	79	第36表	SI25出土土器観察表	87
第14表	SI11出土土器観察表	79	第37表	SI26出土土器観察表	87
第15表	SI12出土土器観察表	80	第38表	SI26出土石製品観察表	87
第16表	SI13出土土器観察表	81	第39表	SI26出土鉄製品観察表	88
第17表	SI14出土土器観察表	81	第40表	SI27出土土器観察表	88
第18表	SI15出土土器観察表	82	第41表	SI27出土石製品観察表	89
第19表	SI15出土鉄製品観察表	82	第42表	SI27出土鉄製品観察表	89
第20表	SI16出土土器観察表	82	第43表	SI28出土土器観察表	89
第21表	SI16出土石製品観察表	83	第44表	SK10・その他出土土器観察表	89
第22表	SI16出土鉄製品観察表	83	第45表	古墳時代堅穴住居跡の様相	91
第23表	SI17出土土器観察表	83			

(若松原南遺跡)

第46表	土坑一覧	97	第48表	SI04出土土器観察表	109
第47表	SI01出土土器観察表	109			

図 版 目 次

(北若松原遺跡)

- PL 1 調査前の風景、トレンチ調査、遺構確認調査、遺構の確認状況
- PL 2 SI01土層断面、SI01完掘状況、SI02完掘状況、SI02カマド、SI03完掘状況、SI03遺物出土状況、SI03カマド、SI04遺物出土状況
- PL 3 SI05完掘状況、SI06土層断面、SI06完掘状況、SI06炉跡、SI07遺物出土状況、SI07完掘状況、SI08完掘状況、SI08貯蔵穴遺物出土状況
- PL 4 SI09完掘状況、SI09間仕切り溝と柱穴、SI10完掘状況、SI11完掘状況、SI12遺物出土状況（西から）、同（北から）、SI12土器出土状況、SI12完掘状況
- PL 5 SI13完掘状況、SI13貯蔵穴、SI14完掘状況、SI14カマド、SI15完掘状況、SI15カマド土層断面、SI16完掘状況、SI16炉跡
- PL 6 SI17完掘状況、SI17間仕切り溝と小柱穴列、SI17遺物出土状況、SI17貯蔵穴、SI18遺物出土状況、SI19完掘状況、SI19遺物出土状況、SI19カマド
- PL 7 SI20遺物出土状況、SI21土層断面、SI21遺物出土状況、SI21完掘状況、SI22遺物出土状況、SI23完掘状況、SI23遺物出土状況、SI23土器出土状況
- PL 8 SI24遺物出土状況、SI24完掘状況、SI25遺物出土状況、SI25完掘状況、SI25貯蔵穴、SI26遺物出土状況、SI26完掘状況、SI26北壁の小横穴列
- PL 9 SI27完掘状況、SI27貯蔵穴遺物出土状況、SI28完掘状況、SI28貯蔵穴遺物出土状況、SK02完掘状況、SK10完掘状況、SK16完掘状況、SK20完掘状況
- PL10 調査区全景（西から）、同（東から）
- PL11 SI02出土遺物、SI03出土遺物、SI04出土遺物
- PL12 SI05出土遺物、SI06出土遺物
- PL13 SI07出土遺物
- PL14 SI08出土遺物、SI09出土遺物、SI10出土遺物（1）
- PL15 SI10出土遺物（2）、SI11出土遺物、SI12出土遺物（1）
- PL16 SI12出土遺物（2）
- PL17 SI12出土遺物（3）、SI13出土遺物
- PL18 SI14出土遺物、SI15出土遺物
- PL19 SI16出土遺物
- PL20 SI17出土遺物、SI18出土遺物、SI20出土遺物
- PL21 SI19出土遺物、SI21出土遺物
- PL22 SI22出土遺物、SI23出土遺物
- PL23 SI24出土遺物、SI25出土遺物、SI26出土遺物（1）
- PL24 SI26出土遺物（2）、SI27出土遺物、SI28出土遺物

(若松原南遺跡)

- PL25 SI01土層、SI01カマド、SI01完掘状況（西から）、SI01完掘状況（南から）、SI02遺物出土状況、SI02完掘状況、SI04遺物出土状況、SI04柱穴埋土遺物出土状況
- PL26 SI04カマド遺物出土状況、SI04完掘状況、SB01（北東から）、SB03（北東から）、SB02柱穴、SX01（東から）、SK02（北から）、SK03（南から）
- PL27 SK05（南から）、SK08（南から）、SK12（南東から）、SK18（南東から）、調査区全景（西から）、調査区全景（東から）
- PL28 SI01出土遺物、SI04出土遺物

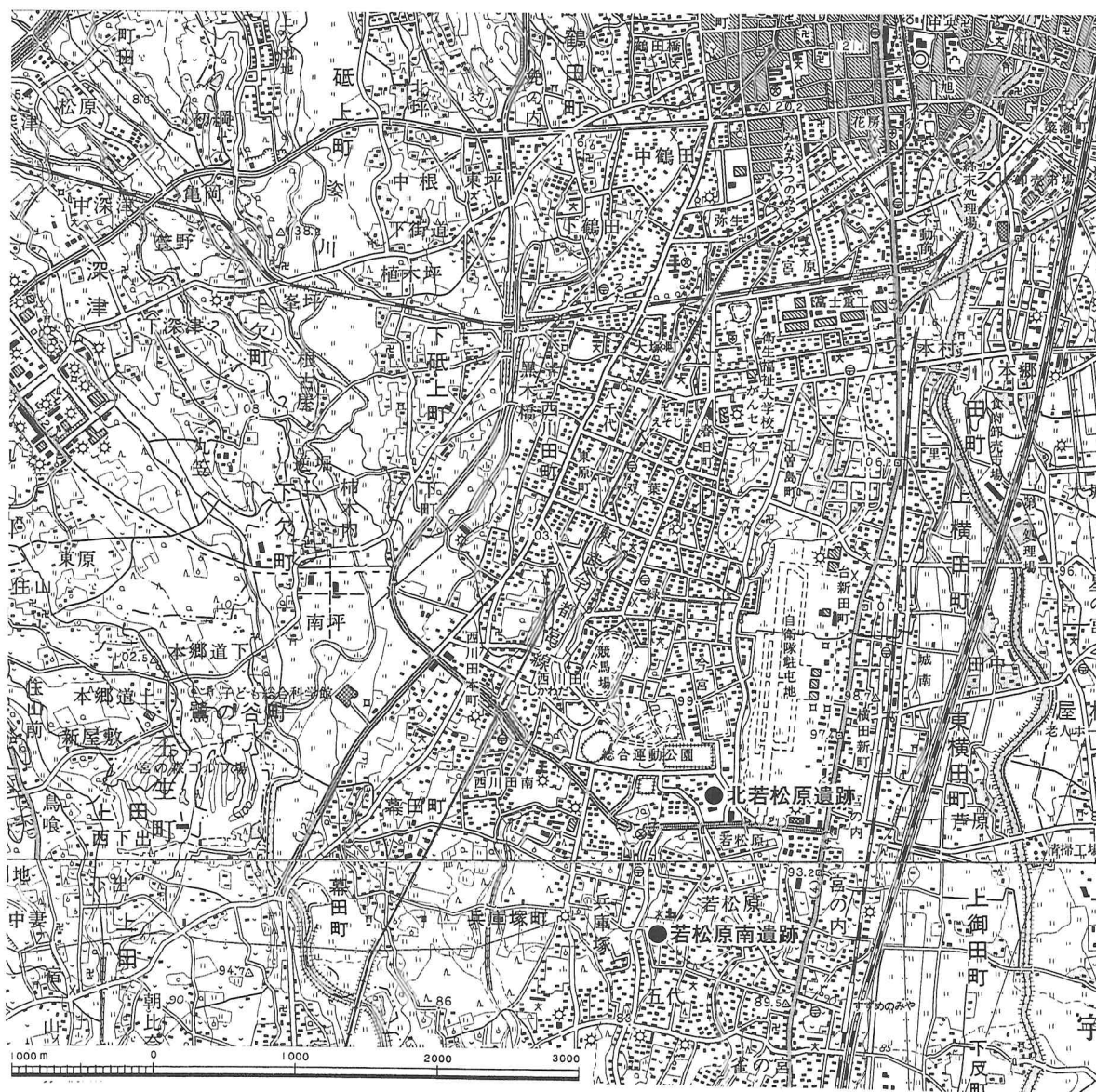
第 1 章

北若松原遺跡

I はじめに

1 調査の経緯

宇都宮市街地の南方約5km、宇都宮市北若松原1丁目に所在する北若松原遺跡は、古墳から奈良平安時代の集落跡として登録（県番号3226）された周知の埋蔵文化財包蔵地である。本遺跡地に関わる第1回目の土木工事計画が提出されたのは、平成2年10月、とちぎコープ協同組合による大型店舗建設事業であった。宇都宮市教育委員会と事業者は、確認調査の資料等をもとに文化財保護の立場から協議を進めた結果、記録保存のための発掘調査を実施することで合意し、現地調査は翌平成3年の4～5月に行うこととした。また、調査は宇都宮市教育委員会が担当し、必要な費用は事業主であるとちぎコープ協同組合が負担することとした。第2回目の土木工事計画が提出されたのは、2年後の平成5年1月で、株式会社ヨークベニマルによる大型店舗建設事業であった。この事業計画地は前回のとちぎコープ店舗建設地の北側隣接地であり、集落跡の広がりが見られる地点であった。宇都宮市教育委員会と事業



第1図 遺跡位置図

者は、とちぎコープ店舗建設地の発掘調査や事前の確認調査等の資料をもとに協議を進めた結果、記録保存のための発掘調査を実施することで合意し、現地調査は同年5月～11月に行うこととした。また、調査は同様に宇都宮市教育委員会が担当し、必要な費用は事業主である株式会社ヨークベニマルが負担することとした。なお便宜上、平成3年のとちぎコープ店舗建設に伴う発掘を第1次調査、平成5年のヨークベニマル店舗建設に伴う発掘を第2次調査とした。

第1次調査の経過

平成3年2月28日 事前の確認調査を実施。店舗建設予定地内に東西方向トレンチ（幅1m、長さ50～70m）を6本設定した結果、竪穴住居跡4軒・土坑1基を確認する。

平成3年4月上旬 4月2日に本調査を開始。まずトレンチ調査により遺構が確認された地点を拡張し、それぞれの平面プランを確定する。

平成3年4月中・下旬 各遺構の調査。4軒の竪穴住居跡はいずれも炉を有するものであること、内2軒には拡張を伴う建て替えがあることなどが確認された。

平成3年5月上旬 各遺構の写真撮影・実測等を仕上げ、5月10日に調査を終了する。

第2次調査の経過

平成5年4月12～14日 事前の確認調査を実施。店舗建設予定地（約8,000㎡）に東西方向トレンチ（幅1m・長さ140～150m）を6本設定した結果、竪穴住居跡10数軒が確認される。

平成5年5月 5月13日に本調査を開始。4月のトレンチ調査により遺構がほぼ全域に散在している様子がみられたことから、まずは表土全面を重機で除去し遺構確認にあたった。この結果、竪穴住居跡18軒・土坑10基余りが確認され、かなり広範囲に広がる集落跡であることが確認された。

平成6～7月 調査は東西に長い調査区の西側から順に進めた。確認された竪穴住居跡は、一辺が3m前後の小型なものから7mを超える大型のものまで様々であり、大型のものは高い確率で床面に間仕切り溝が確認されている。またカマドを有するものも一定量確認されている。なお、8・9月は事業者の都合により調査を中断。

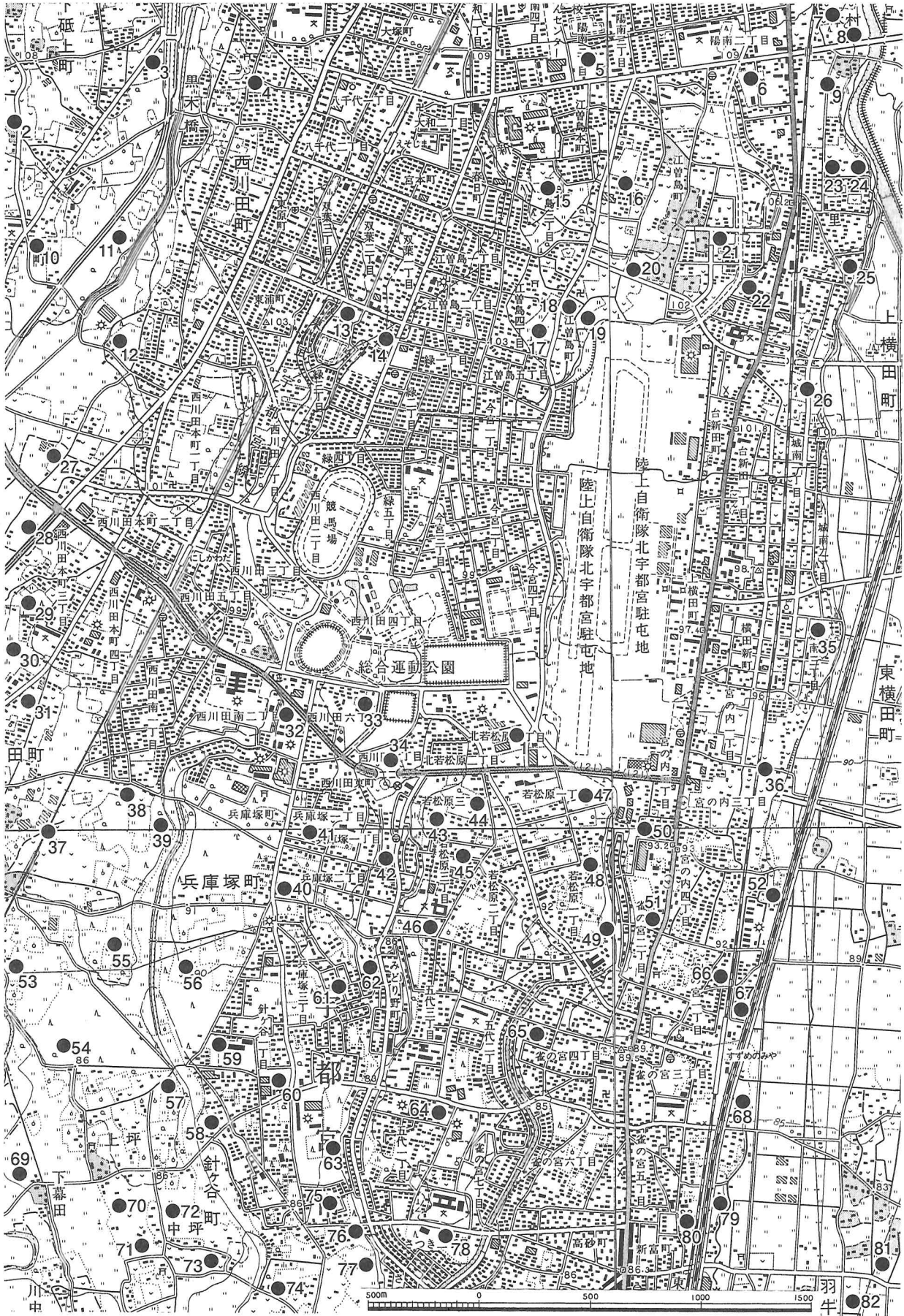
平成5年10月 事業計画地が北側に拡張されたことから、新たに遺構の確認調査を実施。この結果、竪穴住居跡6軒と土坑7基が追加され、遺構総数は竪穴住居跡24軒・土坑17基となる。

平成5年11月 各遺構の写真撮影・実測等を仕上げ、11月30日に調査を終了する。

2 遺跡の環境

宇都宮市は関東平野の北端に位置し、平野部から北西部に広がる日光・足尾山地帯への変換点付近にあたる。宇都宮市の平野部は関東ローム層で覆われ、南流する河川等により東から宝積寺・田原・宝木・鹿沼等の台地が形成されている。本遺跡はこの内の宝木台地上に立地し、東約2kmには田川、西約3kmには姿川がそれぞれ南流している。また、近隣には兵庫川・新川等の小河川（いずれも姿川の支流）がみられ、水田耕作等に適した谷戸等が形成されていたものと考えられる。なお本遺跡の標高は95m前後で、これら低地との標高差は2～3m程度である。

宇都宮市南部でも本遺跡周辺の宝木台地上は遺跡の密集地帯であり、縄文時代以降多数の遺跡（第2図・第1表参照）が確認されている。縄文時代の遺跡はかなり広範囲に及んでいるが、特に本遺跡の南西方面に集中地域がみられる。兵庫川・西川田川といった小河川のほとりに集落が営まれたものと思われるが、時期はやはり中期が中心である。弥生時代は遺跡数が減少するが、縄文時代と同様、



第2図 周辺の遺跡分布図

第1表 周辺遺跡一覧

No	遺跡名	種別	時代等	No	遺跡名	種別	時代等
1	北若松原遺跡	集落	古墳・奈良平安	42	旭ヶ丘団地遺跡	集落	縄文
2	下砥上愛宕塚古墳	古墳	円墳・横穴式石室	43	二軒屋遺跡	集落	縄文・弥生・古墳
3	並塚遺跡	集落	古墳・奈良平安	44	若松原遺跡	集落	縄文・古墳
4	ヤジカ遺跡	集落	奈良平安	45	西原北遺跡	集落	縄文・弥生・古墳
5	ガンセンター東遺跡	集落	奈良平安	46	若松原南遺跡	集落	古墳
6	河原ヶ沼遺跡	集落	奈良平安	47	一向寺別院付近遺跡	集落	古墳・奈良平安
7	本村遺跡	集落	弥生・古墳	48	溜西遺跡	集落	古墳・奈良平安
8	本村古墳群	古墳	前方後円墳・円墳	49	溜西南遺跡	集落	古墳・奈良平安
9	西原境遺跡	集落	縄文・弥生・古墳・奈良	50	本田技研西遺跡	集落	縄文
10	下の内北遺跡	集落	奈良平安	51	十里木古墳	古墳	横穴式石室
11	下砥上山ノ神遺跡	集落	縄文	52	御田神社古墳	古墳	円墳
12	北之原遺跡	集落	奈良平安	53	幕田南原遺跡	集落	奈良平安
13	自動車教習所北遺跡	集落	縄文	54	幕田古墳群	古墳	円墳
14	緑ヶ丘小北遺跡	集落	奈良平安	55	堂前東遺跡	集落	古墳・奈良平安
15	雷電山遺跡	集落	古墳・中世	56	兵庫塚西原遺跡	集落	古墳・奈良平安
16	並松遺跡	集落	古墳・奈良平安	57	上坪遺跡	集落	弥生・古墳・奈良平安
17	おしめ尽遺跡	集落	古墳・奈良平安	58	上坪新田遺跡	集落	縄文・弥生・古墳・奈良平安
18	江曾島桑原遺跡	集落	奈良平安	59	針ヶ谷新田古墳群	古墳	円墳
19	おしめ尽東遺跡	集落	奈良平安	60	針ヶ谷新田遺跡	集落	弥生・古墳
20	関道遺跡	集落	縄文・古墳・奈良平安	61	下原遺跡	集落	古墳・奈良平安
21	江曾島北原遺跡	集落	古墳・奈良平安	62	兵庫塚三丁目東遺跡	集落	縄文・奈良平安
22	江曾島北原南遺跡	集落	縄文・奈良平安	63	針ヶ谷新田遺跡	集落	弥生・古墳
23	台内手遺跡	集落	古墳・奈良平安	64	大谷田遺跡	集落	奈良平安
24	台内手古墳群	古墳	円墳	65	雀の宮四丁目遺跡	集落	古墳
25	大山祇神社古墳	古墳	円墳	66	綾女塚古墳	古墳	古墳
26	大房林遺跡	集落	古墳・奈良平安	67	雀宮東浦遺跡	集落	奈良平安
27	西の内遺跡	集落	縄文・奈良平安	68	雀宮駅東遺跡	集落	奈良平安
28	辻の内遺跡	集落	縄文・古墳・奈良平安	69	下幕田遺跡	集落	古墳・奈良平安
29	西川田屋宮神社古墳	古墳	円墳	70	熊野神社南遺跡	集落	奈良平安
30	姿川第1小南遺跡	集落	古墳・奈良平安	71	塔の前遺跡	集落	奈良平安
31	上ノ畑北遺跡	集落	奈良平安	72	立海道遺跡	集落	縄文・古墳・奈良平安
32	小野測器北遺跡	集落	縄文	73	見明遺跡	集落	縄文・弥生・奈良平安
33	塚山北遺跡	集落	古墳	74	赤岩遺跡	集落	縄文・古墳
34	塚山古墳群	古墳	前方後円墳・円墳	75	二子塚北遺跡	集落	縄文・弥生
35	城南三丁目遺跡	集落	奈良平安	76	二子塚古墳	古墳	前方後円墳
36	宮の内遺跡	集落	古墳・奈良平安	77	島の前遺跡	集落	縄文・古墳・奈良平安
37	中畑遺跡	集落	奈良平安	78	天狗原雀宮中前遺跡	集落	縄文・弥生・古墳
38	東屋敷遺跡	集落	縄文	79	牛塚東遺跡	集落	奈良平安
39	東屋敷古墳	古墳	円墳	80	雀宮牛塚古墳	古墳	帆立貝型前方後円墳
40	兵庫塚二丁目遺跡	集落	古墳・奈良平安	81	羽牛田C遺跡	集落	奈良平安
41	旭ヶ丘団地北遺跡	集落	縄文	82	御田長島A遺跡	集落	古墳・奈良平安

兵庫川・西川田川沿いに集中しているのは興味深い。時期はいずれも後期の『二軒屋式期』であり、本遺跡の南西約0.5kmの二軒屋遺跡（43）はこの標識となった遺跡である。また、同じく南西約1.5kmの針ヶ谷新田遺跡（60）では、同時期の竪穴住居跡が6軒確認され、当時のムラの様子を考える上で貴重な資料となっている。

本遺跡に関わる古墳時代以降になると遺跡数は激増し、その分布も台地上のほぼ全域に及んでいる。はじめに集落跡をみると、本遺跡の南方約2.2kmの天狗原雀宮中前遺跡（78）では、本遺跡に先行する古墳時代前期の竪穴住居跡が発掘されている。また本遺跡の北方約2.5kmの雷電山遺跡（15）では、本遺跡と同じ古墳時代中期から後期初頭で、竪穴住居跡が整然と配列する特徴的な集落跡が発掘されている。古墳時代後期になるとさらに遺跡数は増え、関道遺跡（20）・姿川第1小南遺跡（30）・溜西南遺跡（49）等、発掘例も多い。一方古墳では、まず注目されるのが本遺跡の西約0.5kmの塚山古墳群（34）である。主墳の塚山古墳は全長98mの本県を代表する中期の大型前方後円墳で、帆立貝型の西古墳・南古墳と合わせ三代に渡る造営が確認されている。時期的にも、距離的にも、本遺跡の集落跡が最も深く関わった古墳群とみられる。他に中期古墳では、画文帯神獣鏡をはじめ多数の副葬品を出土した雀宮牛塚古墳（80）や箱式石棺が確認された本村古墳群（8）等が特筆される。後期古墳では、本遺跡の南西約2kmの針ヶ谷新田古墳群（59）で横穴式石室を主体部とする小型円墳が複数発掘されている。調査例は少ないが、各地でこのような円墳群が営まれていたものとみられる。

なお奈良平安時代の遺跡分布状況は古墳時代とほぼ同じであり、集落はかなり継続的に営まれていたものと思われる。

（参考文献）

- 宇都宮市教育委員会 1969 『雀宮牛塚古墳』
- 宇都宮市教育委員会 1983 『針ヶ谷新田古墳群』
- 宇都宮市教育委員会 1994 『天狗原遺跡』
- 宇都宮市教育委員会 1994 『雷電山遺跡』
- 宇都宮大学考古学研究会 1995 『峰考古』第9号 一塚山古墳外形確認調査報告一
- 宇都宮市教育委員会 1996 『塚山古墳群』
- 宇都宮市教育委員会 2003 『塚山西古墳・塚山南古墳』
- 宇都宮市教育委員会 2003 『本村遺跡（弥生・古墳編）』
- 宇都宮市教育委員会 2013 『針ヶ谷新田遺跡』
- 宇都宮市教育委員会 2017 『宇都宮市遺跡分布地図』

II 遺構と遺物

今回北若松原遺跡においては、第1次・2次合わせて約15,500㎡（東西約180m・南北約160m）が発掘調査の対象となった。調査前の土地利用は、第1次調査区が水田、第2次調査区が果樹園といずれも農地であり、調査対象地全体はほぼ平坦であった。発掘調査の結果、竪穴住居跡28軒と土坑17基が確認されたが、遺構はほぼ全体にまんべんなく広がり、竪穴住居跡間の重複関係が認められないのが一つの特徴である。

1 竪穴住居跡

S101 (第5図)

概要：今回確認された中で最も小規模な竪穴住居跡。平面形は楕円もしくは隅丸長方形で、主軸の方位はN-31°-Eである。なお住居跡としたが、炉とカマドは確認されていない。**位置：**第2次調査区の南西隅で、他の竪穴住居跡からやや孤立している。**規模：**南北2.52m×東西2.95mの楕円もしくは隅丸長方形で、確認面から床面までの深さは0.35m前後である。**覆土：**自然堆積で、下層にはローム粒が多く含まれていた。**床面：**ほぼ平坦であるが、あまり踏み固められた様子はみられない。

柱穴：北西コーナー付近から2つの小穴P1（直径45cm・深さ28cm）とP2（直径48cm・深さ22cm）が確認されているが、柱穴としては形状的にも位置的にも疑問である。**壁溝：**幅10～15cm・深さ3cm程の壁溝が、北壁のみに確認されている。**貯蔵穴：**確認されない。**出土遺物：**なし。

S102 (第6・7・43図)

概要：東壁にカマドを有する小規模の竪穴住居跡で、主軸の方位はN-18°-Eである。**位置：**第2次調査区の南西部。**規模：**南北3.30m×東西4.03mのほぼ長方形で、確認面から床面までの深さは0.42m前後である。**覆土：**全体にロームブロック・ローム粒の混入が多く、人為的に埋め戻された可能性が高い。**床面：**ほぼ平坦で、カマド周辺は良く踏み固められていた。**柱穴：**床面に主柱穴と言えるものは無く、南西コーナーに直径42cm・深さ46cmの柱穴が1本（P1）確認されたのみである。**壁溝・間仕切り溝・入口ピット等：**確認されない。**貯蔵穴：**南北84cm×東西73cm×深さ35cmの隅丸長方形で、カマド脇の南東コーナーに位置する。**カマド：**東壁のほぼ中央に位置し、煙道は壁を35cm程掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体として造られたもので、幅95cm・奥行き70cm程の大きさである。燃烧部床面には直径25cm・深さ10cm程の小穴が確認される。なお、北東コーナー床面からは粘土塊が確認されている。**出土遺物：**出土遺物は非常に少なく、図示し得たのは土師器の壺1点・甗1点であり、いずれもカマド近辺からの出土である。

S103 (第8・9・44図)

概要：東壁にカマドを有する小規模の竪穴住居跡で、主軸の方位はN-32°-Eである。**位置：**第2次調査区の南西部。**規模：**南北3.13m×東西4.12mの長方形で、確認面から床面までの深さは0.45mである。**覆土：**自然堆積で、中・下層にはローム粒が含まれていた。**床面：**ほぼ平坦で、カマド周辺は良く踏み固められていた。**柱穴・壁溝・間仕切り溝・入口ピット等：**確認されない。**貯蔵穴：**南北58cm×東西71cm×深さ31cmの隅丸長方形で、カマド脇の南東コーナーに位置する。**カマド：**東壁のやや南よりに位置し、煙道は壁を30cm程掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体とし

て造られたもので、幅90cm・奥行き60cm程の大きさである。 **出土遺物**：図示し得たのは土師器の坏3点・埴1点・高坏2点・甕3点・甗2点で、ほとんどが床面直上からの出土である。なお、貯蔵穴内から出土した11の甗は短頸壺の転用とみられ、底部の穿孔は焼成後である。

SI04 (第10・45図)

概要：今回確認された中で2番目に小規模な竪穴住居跡で、主軸の方位はN-42°-Eである。 **位置**：第2次調査区の西端付近。 **規模**：南北2.86m×東西3.09mのやや隅丸の長方形で、確認面から床面までの深さは0.20m前後と浅めである。 **覆土**：自然堆積で、中・下層にはローム粒が多く含まれていた。 **床面**：ほぼ平坦であるが、全体に踏み固められた様子は認められない。 **柱穴・壁溝・間仕切り溝・入口ピット・貯蔵穴・炉等**：いずれも確認されない。 **出土遺物**：図示し得たのは土師器の坏1点・埴1点・甗1点で、3の甗は床面直上からの出土である。

SI05 (第11・46図)

概要：中規模の竪穴住居跡で、北半分ほどが調査区外となっている。主軸方位はN-23°-Eである。床面から多量の炭化材・焼土が確認されており、焼失家屋とみられる。 **位置**：第2次調査区の西端。 **規模**：南北3.90m以上×東西4.73mのほぼ正方形と思われ、確認面から床面までの深さは0.55m前後である。 **覆土**：自然堆積で、下層には炭化材・焼土・ローム粒等が多量に含まれていた。 **床面**：ほぼ平坦で、炉周辺は良く踏み固められていた。なお炭化材の出土は床面ほぼ全体にみられ、大きい物では長さ90cm・太さ10数cm程のものもみられた。また、南西コーナー付近では住居跡中心部から放射状に延びている状況も確認された。 **柱穴**：確認された主柱穴はP1・P2（直径33～36cm・深さ64～72cm）の2本で、柱間距離は2.30mである。調査区外のもの合わせ4本主柱であったものと思われる。 **壁溝・間仕切り溝・入口ピット等**：いずれも確認されていない。 **貯蔵穴**：南北65cm×東西73cmの隅丸長方形で、南東コーナーに位置する。深さは15cmと浅く、焼土・炭化物が多く含まれていた。 **炉**：床面中央部やや北よりに設けられた地床炉で、南北80cm以上×東西74cm×深さ数cmの楕円形と思われる。 **出土遺物**：図示し得たのは、土師器の坏5点・甕2点、及び鉄製品として鉄鏃3点・鉄鎌1点・刀子1点である。このうち坏の3・4・5は貯蔵穴内からの一括で出土したものである。

SI06 (第12・47図)

概要：中規模の竪穴住居跡で、北壁が通路（生活道路）にかかったため未確認となっている。主軸方位はN-2°-Eである。 **位置**：第2次調査区の西端部で、SI04・05等と近接する。 **規模**：南北4.30m以上×東西4.95mのほぼ正方形と思われ、確認面から床面までの深さは0.65m前後と深めである。 **覆土**：自然堆積で、下層には小ロームブロックが含まれていた。 **床面**：ほぼ平坦であるが、中央部から炉周辺は良く踏み固められ、壁際より数cmほど低くなっている。 **柱穴**：主柱穴はP1～P4（直径36～48cm・深さ52～79cm）の4本で、柱間距離は南北2.45m・東西2.40mとほぼ正方形の配置である。 **壁溝・間仕切り溝・入口ピット**：いずれも確認されていない。 **貯蔵穴**：南北73cm×東西105cm×深さ39cmの隅丸長方形で、南東コーナーに位置している。 **炉**：南北52cm×東西48cm×深さ5cmの不正円形地床炉で、中央部東壁近くに位置する。なおすぐ東のP5（直径18cm・深さ14cm）は、炉に伴うピットと思われる。 **出土遺物**：図示し得たのは、土師器の坏1点・甕5点・甗1点及び須恵器壺(?) 1点であり、いずれも埋土下層から中層にかけての出土である。

S107 (第13・48・49図)

概要：中規模の竪穴住居跡で、主軸方位はN-24°-Wである。なおSI01同様、炉もカマドも確認されない竪穴である。**位置**：第2次調査区のほぼ中央部で、すぐ南に土坑群が近接している。**規模**：南北4.73m×東西4.07mの長方形で、確認面から床面までの深さは0.45m前後である。**覆土**：自然堆積で、下層には多量の土器片が含まれていた。**床面**：ほぼ平坦で、あまり踏み固められた様子はみられない。**柱穴**：中心部で確認されたP1(直径38cm×深さ45cm)が唯一柱穴とみられるものであるが、覆土の状況から竪穴使用時は埋められていた可能性が高い。**壁溝・間仕切り溝・入口ピット**：いずれも確認されない。**貯蔵穴**：南北56cm×東西51cm×深さ16cmの不正隅丸方形で、南東コーナーに位置している。**出土遺物**：竪穴規模のわりに遺物は多く、土師器の坏6点・壺1点・高坏2点・壺2点・甕6点及び不明鉄製品2点である。大部分は床面直上から覆土下層にかけて出土した破片資料であり、一括して投棄されたものと思われる。

S108 (第14・50図)

概要：中規模の竪穴住居跡で、主軸方位はN-28°-Wである。**位置**：第2次調査区の中央部南寄り、SI09・10・13等の住居跡と一群を形成している。**規模**：南北4.85m×東西4.82mのほぼ正方形(若干歪んで平行四辺形気味)で、確認面から床面までの深さは0.70m前後と深めである。**覆土**：自然堆積で、ローム粒・炭化物等を含んでいる。**床面**：ほぼ平坦で、中央部から炉周辺は良く踏み固められている。**柱穴**：支柱穴はP1~P4(直径32~35cm×深さ52~74cm)の4本で、柱間距離は南北2.15m・東西2.10mとほぼ正方形の配置である。なおP6~P9はいずれも小規模な穴(直径20cm前後×深さ7~15cm)で、位置的に間仕切り等に伴うものと思われる。**壁溝**：幅10~15cm・深さ5~8cmの壁溝が、北東及び南東コーナー付近の一部を除きほぼ全周している。**間仕切り溝**：壁溝とほぼ同規模のものが、西壁とP1・P3を繋ぐように掘られている。**入口ピット**：南壁ほぼ中央の約60cm内側で確認されたP5(直径22cm×深さ27cm)が、位置的に入口ピットとみられる。**貯蔵穴**：南北54cm×東西78cm×深さ57cmの隅丸長方形で、南東コーナーに位置する。なお北東コーナー寄りのP10(直径55cm・深さ27cm)は、形状的に貯蔵穴として使用されたものとみられる。**炉**：南北48cm×東西40cm×深さ5cmの不整楕円形地床炉で、中央北壁寄りに位置する。**出土遺物**：遺物は少なく、図示し得たのは土師器の坏1点・壺1点・甕1点である。このうち3の甕は、貯蔵穴内よりほぼ完形で出土したものである。

S109 (第15・51図)

概要：やや大型の竪穴住居跡で、主軸方位はN-1°-Eである。**位置**：第2次調査区の中央部南寄りで、SI08・10・13等の住居跡と一群を形成している。**規模**：南北5.16m×東西5.27mのほぼ正方形で、確認面から床面までの深さは0.50~0.55mである。**覆土**：自然堆積で、下層にはローム粒が多量に含まれていた。**床面**：ほぼ平坦で、中央部は良く踏み固められ、周囲より数cmほど窪んでいる。**柱穴**：支柱穴はP1~P4(直径38~52cm×深さ64~83cm)の4本で、柱間距離は南北2.75m・東西2.85mとほぼ正方形の配置である。**壁溝**：幅10~15cm・深さ7~10cmの壁溝が、ほぼ全周している。**間仕切り溝**：南東コーナーを除く各コーナーにおいて、支柱と隣り合う壁を結ぶように間仕切り溝(壁溝とほぼ同規模)が掘られ、方形または長方形の小空間が造られている。因みに南西コーナーの空間は南北90cm×東西175cmの長方形で、丁度大人が横になれる大きさである。なおP6(直径35cm×深さ25cm)は間仕切り溝に伴う柱穴である。**入口ピット**：南壁ほぼ中央の約65cm内側で確認さ

れたP5(直径28cm×深さ24cm)が、位置的に入口ピットとみられる。**貯蔵穴**:南北63cm×東西78cm×深さ52cmの隅丸長方形で、南東コーナーに位置する。**炉**:西壁中央部の僅か30cm内側で確認された不整楕円形地床炉で、大きさは南北35cm×東西68cm×深さ5cmである。**出土遺物**:遺物はやや少なく、図示し得たのは土師器の坏4点・甕2点である。坏の1・2は貯蔵穴内からの出土である。

S110(第16・52図)

概要:やや大型の竪穴住居跡で、主軸方位はN-14°-Wである。**位置**:第2次調査区の中央部南寄り、SI08・09・13等の住居跡と一群を形成している。**規模**:南北5.42m×東西5.47mのほぼ正方形で、確認面から床面までの深さは0.50～0.60mである。**覆土**:自然堆積で、全体にローム粒が多く含まれていた。**床面**:ほぼ平坦で、中央部の炉周辺は良く踏み固められていた。**柱穴**:支柱穴はP1～P4(直径34～43cm×深さ34～55cm)の4本で、柱間距離は南北2.10m・東西2.20mとほぼ正方形の配置である。**壁溝**:幅10～18cm・深さ6～9cmの壁溝が、全周している。**間仕切り溝**:壁溝と同規模の溝が、東西両壁から支柱に向かってそれぞれ2本ずつ延びている。**入口ピット**:南壁やや東寄りで約60cm内側に確認されたP5(直径28cm×深さ20cm)が、位置的に入口ピットとみられる。**貯蔵穴**:南北84cm×東西115cm×深さ46cmの隅丸長方形で、南東コーナーに位置する。**炉**:南北60cm×東西48cm×深さ4cmの不整楕円形地床炉で、ほぼ中央に位置する。**出土遺物**:図示し得たのは、土師器の坏3点・壺2点・甕8点である。なお5の壺と9の甕は同一個体の可能性が高い。

S111(第17・53図)

概要:小規模な竪穴住居跡で、主軸方位はN-2°-Wである。南辺は調査区外のため未確認である。**位置**:第2次調査区の南端中央部で、周囲は比較的住居跡が多くみられる地域である。**規模**:南北2.70m以上×東西3.18mの方形とみられ、確認面から床面までの深さは0.25m前後と浅めである。**覆土**:自然堆積で、下層には焼土や炭化物が含まれていた。**床面**:ほぼ平坦で、全体に踏み固められた様子はあまりみられない。**柱穴・壁溝・間仕切り溝・入口ピット・貯蔵穴等**:いずれも確認されない。**炉**:南北65cm×東西58cm×深さ数cmの不整楕円形地床炉で、やや西壁寄りに位置する。**出土遺物**:図示し得たのは、土師器の坏2点・甕2点・甗2点であり、いずれも覆土の下層から上層の出土である。

S112(第18・54・55・56図)

概要:中型の長方形竪穴住居跡で、主軸方位はN-25°-Wである。**位置**:第2次調査区の南端中央部で、周囲は比較的住居跡が多くみられる地域である。**規模**:南北3.90m×東西5.59mの長方形で、北西コーナーのみが隅丸となる。確認面から床面までの深さは0.50m前後である。**覆土**:人為的に埋め戻された可能性が高く、下層から床面直上にかけては多量の土器・土器片とともに炭化材・焼土が出土している。焼失家屋の可能性も考えられる。**床面**:ほぼ平坦で、中央部は踏み固められていた。**柱穴**:支柱穴はP1・P2(直径26～30cm×深さ42～50cm)の東西2本で、柱間距離は南北2.60mである。**壁溝**:幅15～18cm・深さ5～7cmの壁溝で、南壁及び西壁の一部を除きほぼ全周している。**入口ピット**:位置的には南壁中央直下で確認されたP3(直径25cm×深さ7cm)が入口ピットの可能性が高いが、やや壁に近すぎる。なおP4(直径22cm×深さ13cm)は炉に伴うものか。**貯蔵穴**:南北57cm×東西85cm×深さ31cmのやや崩れた隅丸長方形で、南東コーナー近くに位置する。**炉**:地床炉が2カ所確認され、中央部北壁寄りの炉1は南北45cm×東西28cm×深さ4cmの不整楕円形、西支柱穴P1近くの炉2は南北36cm×東西30cm×深さ5cmの不整円形である。

出土遺物:今回確認された住居跡の中では最も土器の量が多く、図示し得たものは土師器の坏12点・高坏3点・鉢1点・甕6点・甑1点及び須恵器の坏1点である。出土層位は床面直上から覆土中層に及ぶが、人為的な埋め戻しにより短時期に投棄されたものと思われる。

S113 (第19・57図)

概要: 中型の竪穴住居跡で、主軸方位はN-2°-Eである。 **位置:** 第2次調査区の中央部南寄りで、SI08・09・10等の住居跡と一群を形成している。 **規模:** 南北4.93m×東西5.02mのほぼ正方形で、確認面から床面までの深さは0.60～0.65mである。 **覆土:** 自然堆積で、ローム粒・炭化物が含まれていた。 **床面:** ほぼ平坦であるが、中央部は良く踏み固められ、周囲より7～8cm程低くなっている。 **柱穴:** 主柱穴はP1～P4 (直径27～35cm×深さ62～68cm)の4本で、柱間距離は南北2.50m・東西2.55mとほぼ正方形の配置である。 **壁溝:** 幅10～15cm・深さ5～6cmの壁溝が、東壁中央及び南東コーナーの一部を除きほぼ全周する。 **間仕切り溝:** 壁溝と同規模の溝が、西壁と主柱P1・P3を繋ぐように2本掘られている。 **入口ピット:** 西壁中央部で約70cm内側に位置するP5 (直径36cm・深さ16cm)が入口ピットと思われる。なおP6 (直径27cm・深さ11cm)は、炉1に伴うものか。 **貯蔵穴:** 南北56cm×東西82cm×深さ26cmの隅丸長方形で、南東コーナーに位置する。 **炉:** 主炉とみられる炉1は南北43cm×東西66cm×深さ5cmの楕円形の地床炉で、東壁中央のほぼ壁直下に位置する。なお中央部やや北寄りに位置する炉2は、長軸45cm×短軸26cm×深さ3cmの小規模な地床炉である。 **出土遺物:** 図示し得たのは、土師器の坏4点・埴3点・甕2点である。

S114 (第20・21・58図)

概要: 小型の竪穴住居跡で、主軸方位はN-17°-Eである。 **位置:** 第2次調査区の南東部で、SI15・18等の小型住居跡と一群を形成している。 **規模:** 南北3.18m×東西3.34mのほぼ正方形で、南西及び北西コーナーは隅丸である。確認面から床面までの深さは0.41mである。 **覆土:** 自然堆積で、下層には焼土・炭化物が若干含まれていた。 **床面:** ほぼ平坦で、カマドの前面は良く踏み固められていた。 **柱穴・壁溝・間仕切り溝・入口ピット・貯蔵穴等:** いずれも確認されない。 **カマド:** 東壁のほぼ中央に位置し、煙道は壁を50cm程大きく掘り込んで造られている。袖部は川原石 (長さ28cm・太さ10cm)を芯にして灰褐色粘土で造られたもので、大きさは幅80cm・奥行き50cm程である。燃焼部床面中央からは支脚として使用されたとみられる川原石 (長さ23cm・太さ8cm)も確認されている。なお、煙道部には土師器甕(6)が構築材として使用されていたものとみられる。 **出土遺物:** 図示し得たのは、土師器の坏3点・高台付き坏1点・甕3点であり、1の坏以外はカマドからの出土である。

S115 (第22・23・59図)

概要: 小型の竪穴住居跡で、南半分は調査区外である。主軸方位はN-19°-Eである。 **位置:** 第2次調査区の南東部で、SI14・18等の小型住居跡と一群を形成している。 **規模:** 南北2.40m以上×東西3.53mの方形で、確認されているコーナーは隅丸である。確認面から床面までの深さは0.22mである。 **覆土:** 自然堆積で、下層には焼土・炭化物が若干含まれていた。 **床面:** ほぼ平坦で、カマド前面は良く踏み固められていた。 **柱穴・壁溝・間仕切り溝・入口ピット等:** いずれも確認されていない。 **貯蔵穴:** 南北64cm×東西65cm×深さ22cmの不整形円で、北東コーナーに位置する。 **カマド:** 北壁の東寄り、貯蔵穴のある北東コーナー寄りに位置し、煙道は壁を約35cm掘り込んで築かれている。袖部

は灰褐色粘土で作られており、大きさは幅90cm・奥行き60cm程である。燃焼部中層には構築材とみられる川原石(長さ26cm・太さ10cm)が確認されている。 **出土遺物**: 図示し得たのは、土師器の坏3点・甕3点及び鉄製品の鉄鏃2点・刀子1点である。なお、7の甕破片には「夫」の墨書がみられる。

SI16 (第24・25・60・61図)

概要: 大型の竪穴住居跡で、主軸方位はN-2°-Wである。SI25・28等と同様に、長方形竪穴からの拡張が確認される。 **位置**: 第2次調査区の南東部で、すぐ東側にはさらに大型のSI17が位置している。 **規模**: 本住居跡は、主柱の配置・壁溝の状況等から拡張を伴う2度の建て替えのあったことが想定される。第1次住居はP7・P8の2本を主柱とするもので、規模は南北4.10m×東西5.85mの長方形竪穴。第2次住居はP9・P10・P5・P6の4本を主柱とするもので、規模は南北6.45m×東西5.85mで南北がやや長い長方形竪穴。最終の第3次住居はP1~P4の4本を主柱として主に西壁を拡張したもので、規模は南北6.45m×東西6.17mのほぼ方形の竪穴。なお確認面から床面までの深さは第3次住居が0.45m、第1・2次住居が0.50m前後である。 **覆土**: 自然堆積で、下層には焼土・炭化物が若干含まれていた。 **床面**: 全体にはほぼ平坦。第2次住居へ拡張する際に、第1次住居の床面に数cmの貼り床(小ロームブロック混じりの暗褐色土)を行っている。 **柱穴**: 第1次住居の主柱はP7・P8(直径26~32cm×深さ64~70cm)の2本で、柱間距離は2.55m。第2次住居の主柱はP9・P10・P5・P6(直径31~38cm×深さ62~78cm)の4本で、柱間距離は南北2.60m・東西2.65mとほぼ正方形の配置。第3次住居の主柱はP1~P4(直径34~43cm×深さ57~75cm)の4本で、柱間距離は南北3.55m・東西3.25mとやや長方形の配置。 **壁溝**: 残存状況からすると第1次住居はほぼ全周していたものと思われるが、第2・3次住居では南側が不明瞭となっている。なお、溝の大きさは幅12~18cm・深さ5~6cmである。 **間仕切り溝**: 主に第2・3次住居に伴うものとみられ、北壁及び西壁沿いをそれぞれ3分割するような溝が掘られている。溝が2本単位で配されているように見えるのは、建て替えに伴う付け替えの痕跡と思われる。なお溝の大きさは壁溝とほぼ同じである。 **貯蔵穴**: 貯1は南北65cm×東西74cm×深さ25cmの不整形貯蔵穴で、第1次住居の南東コーナーに位置したものとみられる。貯2は南北62cm×東西80cm×深さ28cmの楕円形貯蔵穴で、第2・3次住居の南東コーナーに位置している。 **炉**: 南北75cm×東西120cm×深さ6~7cmの不整形楕円形地床炉で、位置関係等から第3次住居の東壁南よりに設けられたものと思われる。 **出土遺物**: 図示し得たのは、土師器の坏6点・埴2点・高坏2点・甕1点・甗1点、石製模造品1点、砥石1点、鉄鏃6点及び鉄滓4点である。大型の住居跡のわりに遺物は少なく、大型の甕や甗はみられない。

SI17 (第26・27・62図)

概要: 今回確認された中で最も大型の竪穴住居跡で、主軸方位はN-9°-Eである。 **位置**: 第2次調査区の東端部で、すぐ西側にはやはり大型のSI16が位置する。 **規模**: 南北6.63m×東西6.52mのほぼ方形で、確認面から床面までの深さは0.45~0.50m前後である。 **覆土**: 床面近くには炭化材や焼土塊が散在し、覆土全体にローム粒・焼土・炭化物等が多く含まれていた。消失後、人為的に埋め戻された可能性が高い。 **床面**: ほぼ平坦で、中央部から炉周辺は良く踏み固められていた。なお南壁中央部の床面には、ロームブロックを積んだ土手状の高まり(幅40~50cm・高さ5~6cm)が貯蔵穴を囲むように設けられている。 **柱穴**: 主柱はP1~P4(直径34~50cm×深さ71~76cm)の4本で、柱間距離は南北・東西とも3.40mの正方形配置である。なお西壁北

寄りから確認されたP 5～P 12(直径18～23cm×深さ7～11cm)は、東西1間(柱間寸法は70cm)・南北3間(柱間寸法は40～50cmで総長は143cm)の掘立柱建物跡状小柱穴列である。柱穴列の大きさ及び壁・間仕切り溝等との位置関係から、寝台等が置かれていたものと考えられる。**壁溝**：幅10～15cm・深さ6～10cmの壁溝が全周する。**間仕切り溝**：壁溝と同規模のもので、いずれも壁と支柱穴の空間に設けられている。西壁はまず中心部で2当分され、さらにコーナー寄りが1m前後、中心寄りが2m前後になるようそれぞれ仕切られ、都合4つに分割されている。他の壁はいずれも溝1本の確認であるが、西壁はほぼ中心で仕切られ、そのすぐ北側にセットされるように小柱穴列(寝台か?)が配置されている。**貯蔵穴**：南北72cm×東西88cm×深さ43cmの隅丸方形貯蔵穴で、南壁のほぼ中央に位置している。なお、今回確認された本集落跡の貯蔵穴は、コーナー-またはコーナー寄りに位置するものがほとんどである。**炉**：炉は3カ所確認されている。炉1は南北55cm×東西54cm×深さ7cmの不整円形地床炉で、ほぼ中央に位置する。炉2は南北48cm×東西92cm×深さ6cmの不整楕円形地床炉で、ほぼ東壁寄りやや南に位置する。炉3は南北25cm×東西48cm×深さ4cmの不整楕円形地床炉で、東壁より中央部に位置する。なお炉3は小柱穴列に切られており、途中で廃絶したものと思われる。**出土遺物**：今回確認された住居跡の中で最も規模の大きいものであるが、遺物は少なく、図示し得たものは土師器の坏1点・手捏ね土器1点・高坏1点・壺1点・甕2点、須恵器の甕3点、石製模造品1点、砥石1点、鉄鏃2点、刀子1点で、ほとんどが破片資料である。

S118(第28・63図)

概要：小型の竪穴住居跡で、南側半分以上が調査区外となっている。主軸方位はN-1°-E程と思われる。**位置**：第2次調査区の最東端。**規模**：南北1.60m以上×東西3.74mのほぼ方形と思われる。確認面から床面までの深さは0.12～0.18mである。**覆土**：後世の攪乱が多いが、自然堆積と思われる。**床面**：ほぼ平坦であるが、東部が数cm程上がっている。**柱穴**：確認できたのは東壁寄りのP 1(直径45cm・深さ36cm)のみである。**壁溝・間仕切り溝・貯蔵穴・炉等**：いずれも確認されていない。**出土遺物**：図示し得たのは、土師器の坏1点・埴1点・甕2点及び鉄製品2点(鉄鏃?と刀子)である。いずれも覆土下層からの出土である。

S119(第29・30・64・65図)

概要：カマドを持つ大型の竪穴住居跡で、支柱や貯蔵穴の配置等から拡張の痕跡が認められる。主軸方位はN-21°-Eである。**位置**：第2次調査区の北部に位置し、小型不整形住居のSI20や土坑群が隣接している。**規模**：南北6.05m×東西6.07mのほぼ正方形で、確認面から床面までの深さは0.50～0.65mである。**覆土**：自然堆積で、下層には炭化材・焼土・小ロームブロック等が含まれていた。焼失家屋の可能性も考えられる。**床面**：全体に平坦で、中央部からカマド周辺は良く踏み固められている。なお中央部は壁際周辺部より数cmほどレンズ状に低くなっている。**柱穴**：支柱穴はP 1～P 4(直径33cm～45cm×深さ48cm～57cm)の4本で、柱間距離は南北3.10m×東西3.05mの正方形配置である。なおP 1・P 5～P 7(直径30cm～34cm×深さ38cm～56cm)が当初(拡張前)の4本支柱であり、柱間距離は南北2.25m×東西2.50mのやや長方形の配置となっている。**壁溝**：幅10～15cm・深さ7～10cmの壁溝が、北壁及び南東コーナー付近のみに確認された。**間仕切り溝**：明確に確認されたのはP 2・P 3と壁を結ぶ2本で、いずれも幅25cm前後と壁溝よりやや広い。どちらも拡張後の間仕切り溝である。**入口ピット**：南壁やや西寄りの

P 9 (幅25cm×長さ78cm×深さ30cm) は内側が深い溝状のピットで、位置的に入口ピットと思われる。またやや内側のP 8 (直径34cm×深さ25cm) も同様な位置であるが、貯蔵穴等との関係から拡張前に伴う入口ピットと思われる。 **貯蔵穴**：拡張後の貯蔵穴(貯2)は南北93cm×東西114cm×深さ68cmの隅丸長方形で、南東コーナーに位置する。ほぼ同位置で内側にある貯1(南北69cm×東西73cm×深さ32cm)は拡張前の貯蔵穴で、拡張後の主柱P 4に切られている。 **カマド**：東壁のやや南寄りに位置し、煙道は壁を約70cmとやや深く掘り込んで築かれている。袖部は灰褐色粘土で作られており、大きさは幅112cm・奥行き76cm程である。燃焼部には支脚に用いたとみられる土師器高坏が確認されている。 **出土遺物**：図示し得たのは、土師器の坏3点・高坏1点・壺1点・甕8点及び須恵器の坏1点である。いずれも炭化材や焼土とともに覆土下層から出土した破片資料であり、完形品等はみられない。

SI20 (第31・66図)

概要：小型でやや不整長方形の竪穴住居跡で、主軸方位はN-15°-Eである。 **位置**：第2次調査区の北部に位置し、大型住居のSI19や土坑群に隣接している。 **規模**：南北3.36m×東西2.92mのやや不整な長方形で、確認面から床面までの深さは0.20m前後である。 **覆土**：自然堆積で、下層には炭化物・ローム粒等が含まれていた。 **床面**：ほぼ平坦で、あまり踏み固められた様子はみられない。 **柱穴・壁溝・間仕切り溝・貯蔵穴・炉等**：いずれも確認されない。 **出土遺物**：図示し得たのは土師器の甕1点であり、覆土下層からの出土である。

SI21 (第32・67図)

概要：小型でやや長方形の竪穴住居跡で、主軸方位はN-16°-Eである。 **位置**：第2次調査区の北西部で最も北に位置する。 **規模**：南北3.88m×東西3.46mの南北にやや長い長方形竪穴で、確認面から床面までの深さは0.50m前後と深めである。 **覆土**：自然堆積で、下層には炭化物や小ロームブロックが比較的多く含まれていた。 **床面**：ほぼ平坦で、中央部から炉周辺は良く踏み固められていた。 **柱穴**：確認された3つのピットP1~P3(直径22cm~28cm×深さ6cm~15cm)はいずれも浅く小規模で、柱穴としては不適と思われる。 **壁溝**：幅7~15cm・深さ6~10cm程の壁溝が、断続的ではあるが、ほぼ4面の壁下に巡らされている。 **入口ピット**：西壁中央部のP1(直径22cm×深さ6cm)は、位置的に入口ピットの可能性があると思われる。 **炉**：南北53cm×東西30cm×深さ8cmの楕円形地床炉で、北東コーナー寄りに位置する。なお炉のすぐ北東脇には、土師器の甕と甌の口縁部片が逆さにして重ねられていた。炉とセットで置かれたものと思われる。 **出土遺物**：図示し得たのは、土師器の坏1点・甕1点・甌1点及び須恵器甌1点等である。

SI22 (第33・68図)

概要：小型の長方形竪穴住居跡で、主軸方位はN-30°-Wである。 **位置**：第2次調査区の北西部で、SI21・23等と近接する。 **規模**：南北4.12m×東西3.25mの南北に長い長方形竪穴で、確認面から床面までの深さは0.68mとかなり深めである。 **覆土**：自然堆積で、下層には小ロームブロックが比較的多く含まれていた。 **床面**：ほぼ平坦で、中央部から炉周辺は良く踏み固められていた。 **柱穴**：主柱穴は中軸線上に位置するP1(直径23cm×深さ44cm)とP2(直径28cm×深さ65cm)の2本で、柱間距離は2.10mである。 **壁溝**：幅10~15cm・深さ7~10cmの壁溝が、コーナーの一部を除きほぼ全周する。 **貯蔵穴**：南北108cm×東西96cm×深さ46cmの不整円形貯蔵穴で、南西コーナーに位置する。 **炉**：東壁寄りやや南に位置する炉1は、南北82cm×東西42cm×深さ18cmの楕円形地床炉で、炉床に川

原石が2個確認されている。南壁寄りの炉2は、南北36cm×東西30cm×深さ5cmの小規模な地床炉である。 **出土遺物**：図示し得たのは、土師器の坏3点・埴1点・甕3点であり、2の坏と4の埴が床面直上の出土である。

S123 (第34・69図)

概要：やや大型の長方形竪穴住居跡で、主軸方位はN-38°-Eである。 **位置**：第2次調査区の北西部で、SI21・22等と近接する。 **規模**：南北5.67m×東西4.85mの長方形竪穴で、確認面から床面までの深さは0.45m～0.50mである。 **覆土**：自然堆積で、下層にはローム粒・小ロームブロックが多く含まれていた。 **床面**：ほぼ平坦で、中央部から炉周辺は良く踏み固められていた。 **柱穴**：主柱穴はP1～P4（直径31cm～43cm×深さ52cm～61cm）の4本で、柱間距離は南北2.50m×東西2.35mのやや長方形の配置である。なおP5（深さ19cm）・P6（深さ37cm）は主柱穴としてはやや浅めである。 **壁溝**：幅15cm～30cm・深さ4～8cmの壁溝が、西壁の一部を除きほぼ全周している。 **間仕切り溝**：壁溝とほぼ同規模の溝で、主柱穴と壁の間を仕切るように配されている。特に南東コーナーでは2本の間仕切り溝により方形の空間が形成されている。 **貯蔵穴**：南北64cm×東西50cm×深さ31cmの隅丸長方形で、西壁のやや南寄りに位置する。 **炉**：炉1は南北55cm×東西38cm×深さ5cmの楕円形地床炉で、東壁寄り中央部に位置する。なお炉2は直径22cm×深さ3cm程のかなり小規模な地床炉である。 **出土遺物**：図示し得たのは、土師器の坏7点・埴2点・埴1点・鉢1点・甕1点及び砥石1点である。床面直上は4・5の坏と11の甕だけで、他は覆土の下層から中層にかけての出土である。

S124 (第35・70図)

概要：やや大型の竪穴住居跡で、主軸方位はN-20°-Eである。 **位置**：第2次調査区のほぼ中央で、SI07や土坑群が隣接する。 **規模**：南北5.28m×東西5.43mのほぼ正方形竪穴で、確認面から床面までの深さは0.50m～0.60m前後である。 **覆土**：自然堆積で、下層には炭化材・焼土・ロームブロック等を多く含んでいた。炭化材の状況から焼失家屋の可能性が高いものと思われる。 **床面**：ほぼ平坦で、中央部から炉周辺は良く踏み固められていた。 **柱穴**：主柱穴はP1～P4（直径33cm～42cm×深さ55cm～59cm）の4本で、柱間距離は南北2.60m×東西2.65mのほぼ正方形配置である。なおP5（直径29cm×深さ12cm）とP6（直径36cm×深さ33cm）はやや浅めであるが、位置的に棟持ち柱の可能性が高いと思われる。 **壁溝**：幅15～20cm・深さ6～10cmのやや広めの壁溝が一部を除いてほぼ全周している。 **間仕切り溝**：壁溝とほぼ同規模の溝で、東西壁と主柱穴P3・P4を繋ぐ2本が確認できる。 **入口ピット**：南壁ほぼ中央部で壁から約80cm内側に位置するP7（直径25cm×深さ26cm）が、位置的に入口ピットと思われる。 **貯蔵穴**：南北64cm×東西90cm×深さ48cmの隅丸長方形で、南東コーナーに位置する。 **炉**：炉1は南北87cm×東西55cm×深さ5cmの楕円形地床炉で、北壁寄り中央に位置する。中央部やや南よりに位置する炉2は、南北43cm×東西24cm×深さ3cmの小規模な地床炉である。 **出土遺物**：図示し得たのは土師器の高坏1点・壺1点・甕3点であり、1の高坏と2の壺は貯蔵穴内からの出土である。

S125 (第36・37・71・72図)

概要：中規模の竪穴住居跡で、主軸の方位はN-33°-Eである。小型長方形竪穴からの拡張が確認され、今回確認された竪穴住居跡の中では唯一張り出し貯蔵穴を有する。 **位置**：第1次調査区の北東隅。 **規模**：南北5.10m×東西5.25mのほぼ方形で、確認面から床面までの深さは0.45～0.50mである。なお拡張前は、南北3.57m×東西4.30mの長方形で、深さはほぼ同じである。 **覆土**：自

然堆積で、中・下層には土器片が多く含まれていた。**床面**：中央部は良く踏み固められており、周囲の壁際より数cm低くなっている。**柱穴**：支柱穴はP1～P4（直径54～61cm・深さ52～76cm）の4本で、柱間距離は南北2.70m×東西2.65mのほぼ方形に配置されている。なお拡張前の支柱穴はP5・P6（直径37～40cm・深さ52～55cm）の2本で、柱間距離は2.10mである。**壁溝**：幅10～15cm・深さ4～5cmの壁溝が、張出し貯蔵穴部分を除き全周している。なお拡張前もほぼ同規模の壁溝が全周していたが、拡張に伴い埋め戻されたものとみられる。**間仕切り溝**：溝の規模は幅20～25cm・深さ8～10cmで、壁溝よりやや大きい。西壁及び南壁で2本ずつ確認され、内3本は壁と支柱穴を繋ぐように配されている。なお拡張前のものは確認されていない。**貯蔵穴**：拡張後の貯蔵穴は貯1で、南壁やや東寄りに幅約80cm・奥行60cmの張出部を設け、そこにやや不整形の穴（南北64cm×東西72cm×深さ45cm）が掘られたもの。なお拡張前の貯蔵穴（貯2）は、南東コーナーに設けられた方形の穴（南北65cm×東西58cm×深さ30cm）で、ロームブロックを多く含む層で埋め戻されていた。**炉**：拡張後の炉は北壁寄り中程に設けられた炉1で、南北80cm×東西34cm×深さ5cmの細長い地床炉である。なお、拡張前の炉（炉2）は、やはり北壁寄り中程に位置した不整形の地床炉（南北48cm×東西36cm×深さ7cm）で、底面南寄りに長さ20cm程の細長い石が置かれていた。**出土遺物**：図示し得たのは、土師器の甕6点と甌1点である。覆土中からは投棄されたとみられる大量の土師器片が出土しているが、そのほとんどが甕類である。

S126（第38・39・73・74図）

概要：中規模の竪穴住居跡で、主軸の方位はN-3°-Wである。**位置**：第1次調査区のほぼ中程。**規模**：南北5.12m×東西5.08mのほぼ方形で、確認面から床面までの深さは0.50m前後である。**覆土**：自然堆積で、中・下層には炭化物やローム粒が含まれていた。**床面**：ほぼ平坦で、支柱に囲まれた中央部は良く踏み固められている。**柱穴**：支柱穴はP1～P4（直径36～45cm・深さ42～54cm）の4本で、柱間距離は南北2.33m×東西2.35mのほぼ方形に配置されている。なお支柱と同様の大きさ（直径36cm・深さ48cm）を持つP5は、P2～P4の桁に組ませた柱の穴と思われる。なお北壁ほぼ中央部で床面から10cm程の高さのところに4つの小横穴（P7～P10）が一行に穿たれている。大きさは直径20～25cm、深さは8～13cmといずれも浅い。列の全長（P7～P10間）は1.58mで、柱間距離は東から58cm-42cm-58cmと中央間がやや短い。炉とも近距離であり、用途が興味深い小穴列である。**壁溝**：幅15～20cm・深さ6～8cmの壁溝が全周している。**間仕切り溝**：溝の規模は壁溝とほぼ同じで、北東・北西・南西のコーナーでは支柱を起点に直交する2本の間仕切り溝が配されている。ただし貯蔵穴のある南東コーナーでは、間仕切り溝は北側のみで西側にはみられない。**入口ピット**：南壁ほぼ中央から60cmほど内側で確認されたP6は、南北25cm×東西35cm×深さ28cmの隅丸長方形の小穴であり、位置的に入口ピットと思われる。なお、この部分で壁溝が八の字状に広がり、P6に取り付いている。**貯蔵穴**：南北67cm×東西82cm×深さ46cmの隅丸長方形で、南東コーナーに位置する。**炉**：中央やや北壁寄りの炉1は、南北98cm×東西45cm×深さ7cmの長楕円形の地床炉である。なお東壁よりの炉2は不整形な地床炉（南北47cm×東西56cm×深さ5cm）で、炉1に比べあまり使い込まれた様子が見られない。**出土遺物**：土器で図示し得たのは、土師器の坏5点・埴1点・甕4点及び須恵器の甕1点である。石製品は砥石2点・打製石斧1点および滑石製模造品の勾玉1点・白玉14点である。また鉄製品として鉄鏃1点が出土している。

SI27 (第40・75図)

概要：やや小型で長方形の竪穴住居跡で、主軸の方位はN-3°-Eである。 **位置：**第1次調査区の最も南。 **規模：**南北3.37m×東西4.32mの長方形で、確認面から床面までの深さは0.45～0.50mである。 **覆土：**自然堆積で、中・下層には炭化物やローム粒が含まれていた。 **床面：**ほぼ平坦で、出入り口から炉周辺は良く踏み固められている。 **柱穴：**支柱穴は東西に配置されたP1・P2（直径30～34cm・深さ35～38cm）の2本で、柱間距離は1.75m。 **壁溝：**幅10～16cm・深さ5～12cmの壁溝が全周している。 **入口ピット：**南壁から内側に約40cm、南東コーナーの貯蔵穴寄りに位置するP3が入口ピットとみられる。南北20cm・東西25cm・深さ36cmの長方形の掘方で、壁に向かって斜めに掘り込まれている。なお、壁溝と同規模の溝で南壁と結ばれている。 **貯蔵穴：**南北62cm×東西84cm×深さ32cmの隅丸長方形で、南東コーナーに位置する。 **炉：**床面中央部やや北壁寄りに位置する地床炉で、中央に川原石が置かれた炉1（長軸64cm×短軸45cm×深さ6cm）から炉2（長軸68cm×短軸52cm×深さ7cm）に付け替えられている。なお床面からは、他に3カ所ほど焼土が確認されている。 **出土遺物：**図示し得たのは、土師器の坏2点・埴1点・甕4点及び滑石製模造品の白玉1個・鉄族3点である。

SI28 (第41・76図)

概要：中規模の竪穴住居跡で、主軸の方位はN-31°-Eである。SI26と同じく小型長方形竪穴からの拡張が確認される。 **位置：**第1次調査区の南西隅。 **規模：**南北4.48m×東西4.67mのほぼ方形で、確認面から床面までの深さは0.45～0.53mである。なお拡張前は、柱穴と貯蔵穴の位置関係から、東西はやや狭いかほぼ同じで、南北が3.0m前後の長方形であったものと思われる。 **覆土：**自然堆積で、中・下層にはローム粒や焼土が多く含まれていた。 **床面：**ほぼ平坦であるが、中央部は良く踏み固められており、周囲の壁際より数cm低くなっている。 **柱穴：**支柱穴はP1～P4（直径33～36cm・深さ55～65cm）の4本で、柱間距離は南北2.35m×東西2.40mのほぼ方形に配置されている。また拡張前の支柱穴はP5・P6（直径37～43cm・深さ57～62cm）の2本で、柱間距離は1.70mである。なお拡張後のP4は、拡張前の貯蔵穴を埋め戻した後に掘ったものである。 **壁溝：**幅10～15cm・深さ5～10cmの壁溝が全周している。なおP1とP2を結ぶように確認された溝は、炉1に切られており、拡張前の北壁に伴う壁溝の可能性が高い。 **間仕切り溝：**支柱穴に向かって西壁から2本、東壁から1本が伸び、南壁・北壁のそれぞれ中央部から1本ずつ伸びている。いずれも規模は壁溝と同じくらいである。 **入口ピット：**南壁やや東寄り、60cmほど内側で確認されたP7が位置的に入口ピットとみられる。東西35cm×南北24cm×深さ30cmの隅丸長方形の小穴で、南壁に向かってやや傾斜気味に掘られている。なお拡張前の入口ピットと思われるのはP8で、東西34cm×南北25cm×深さ27cmと拡張後とほぼ同型・同大である。 **貯蔵穴：**拡張後の貯蔵穴は東南コーナーに位置した貯1で、南北54cm×東西67cm×深さ45cmの精美な長方形土坑である。拡張前の貯蔵穴も同じ南東コーナーに位置し、ほぼ同型・同大（南北55cm×東西68cm×深さ43cm）で、拡張に伴って埋め戻されたものである。 **炉：**拡張後の炉は北壁寄り中程に設けられた炉1で、南北66cm×東西38cm×深さ8cmの楕円形地床炉である。拡張前の炉は、東壁寄り中程に位置した炉2で、南北20cm×東西56cm×深さ3cmの細長い地床炉である。 **出土遺物：**図示し得たのは、土師器の坏3点・高坏1点・甕2点及び須恵器の高坏1点である。

2 土坑

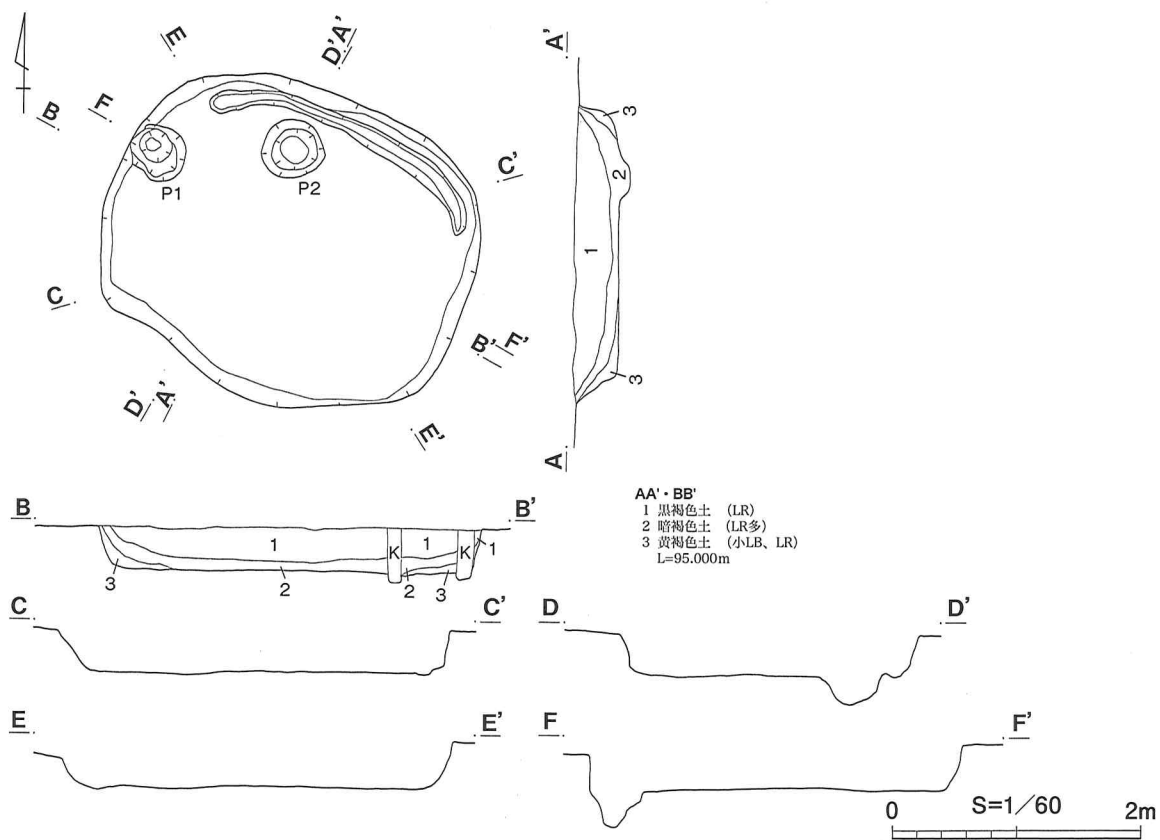
今回の発掘調査では17基の土坑が確認されている。平面形からは概ね円形（楕円形を含む）と長方形の2つに分類される。

円形土坑 楕円形のものも含めると全体の8割近くを占めている。大きさは直径40cm弱のものから150cm近いものまでまちまちであるが、形状的には底部がほぼ平坦な寸胴形が大半である。なおSK16は、深みのある胴部の中程が鼓状にしぼり込まれた特異な形状を有している。

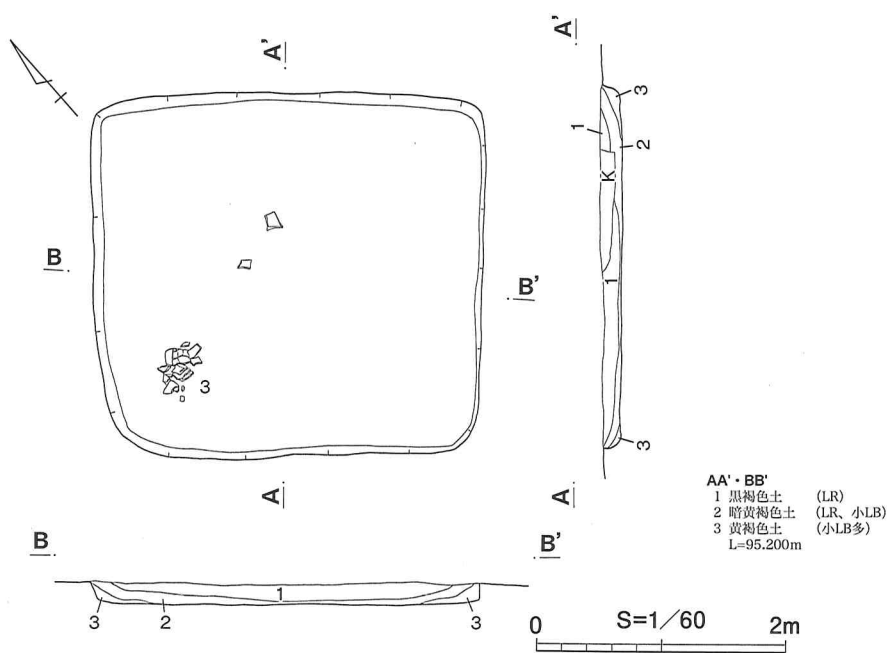
長方形土坑 確認されたのは3基で、円形のものに比べ少ない。いずれも長軸を南北方向にとる点で共通しているが、大きさはまちまちである。この内SK10は規模・形状等から土坑墓の可能性が高いものと思われ、中層からは土師器甕等も出土している。

第2表 土坑一覧

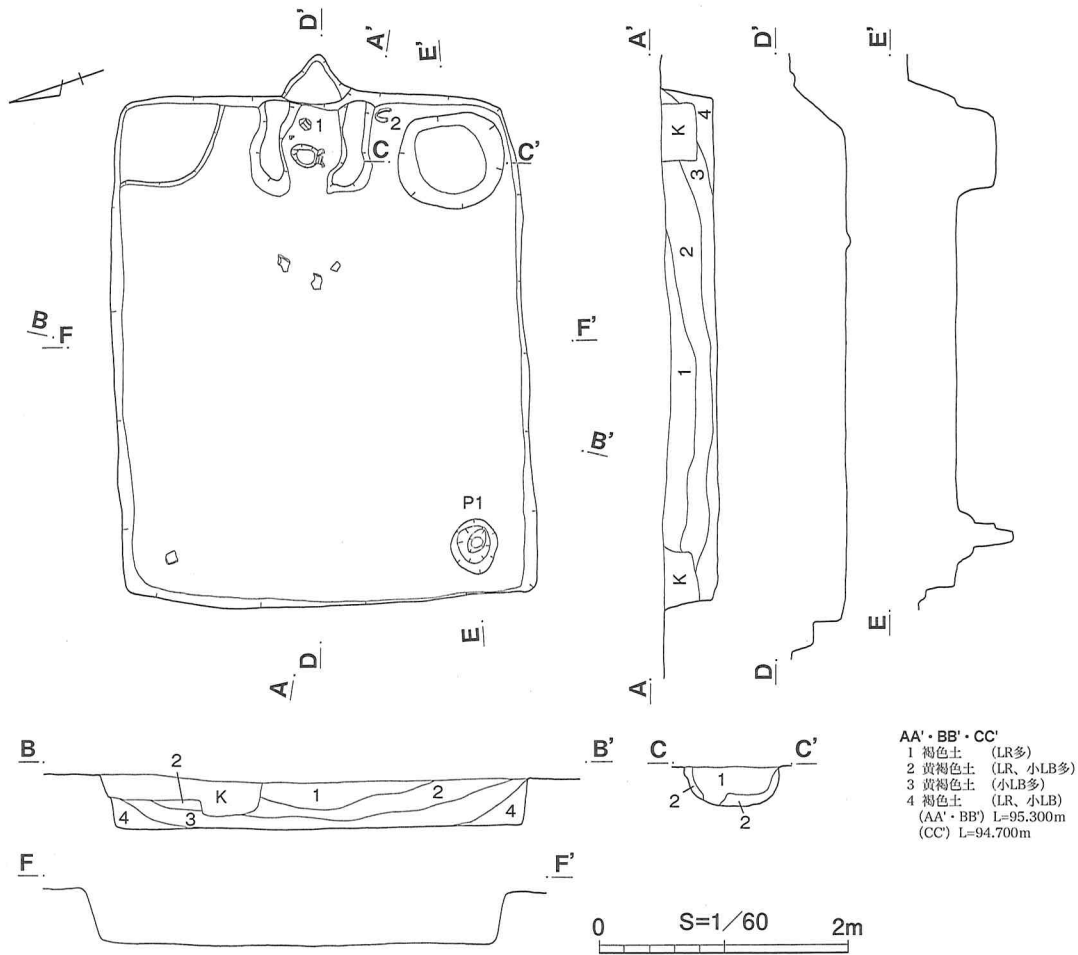
遺構名	平面形	大きさcm	深さcm	遺構名	平面形	大きさcm	深さcm
SK01	円形	94×92	36	SK10	長方形	188×85	21
SK02	長方形	93×67	24	SK11	長方形	123×64	29
SK03	円形	75×72	22	SK12	楕円形	112×93	27
SK04	楕円形	(81) ×79	28	SK13	楕円形	117×86	25
SK05	楕円形	43×34	25	SK14	円形	93×78	25
SK06	円形	75×66	27	SK15	円形	115×103	28
SK07	円形	43×42	33	SK16	楕円形	146×127	88
SK08	円形	47×42	20	SK17	円形	134×122	34
SK09	円形	48×44	26				



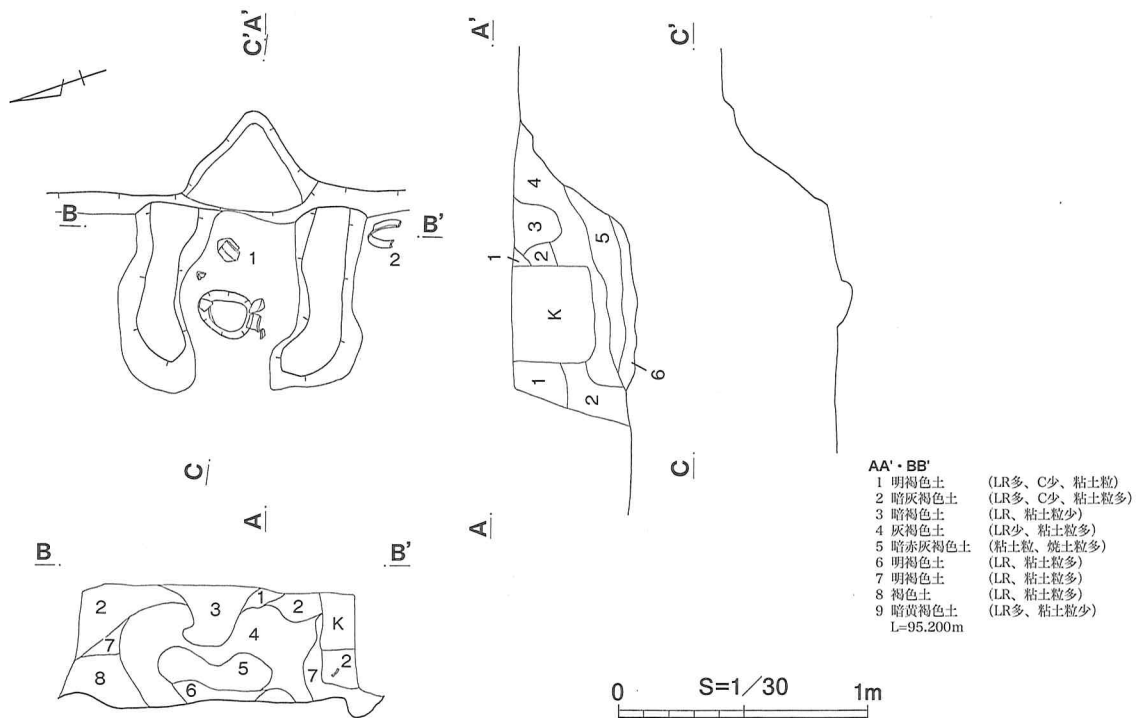
第5图 SI01



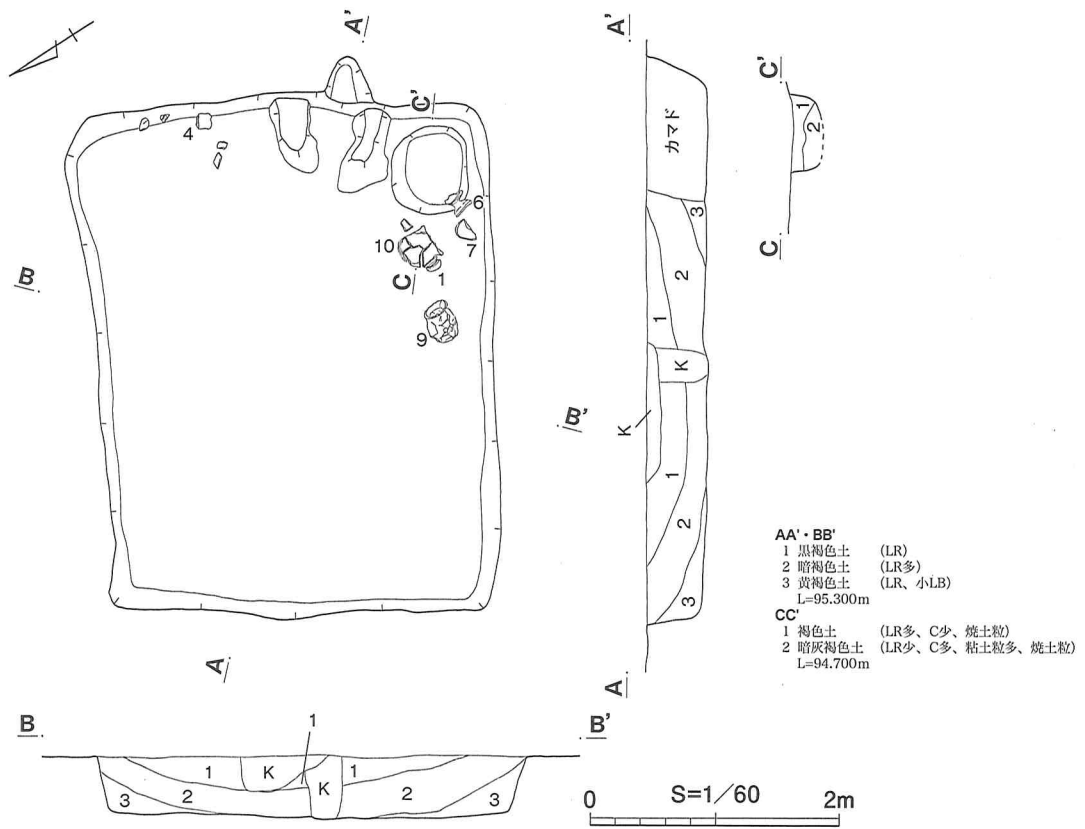
第10图 SI04



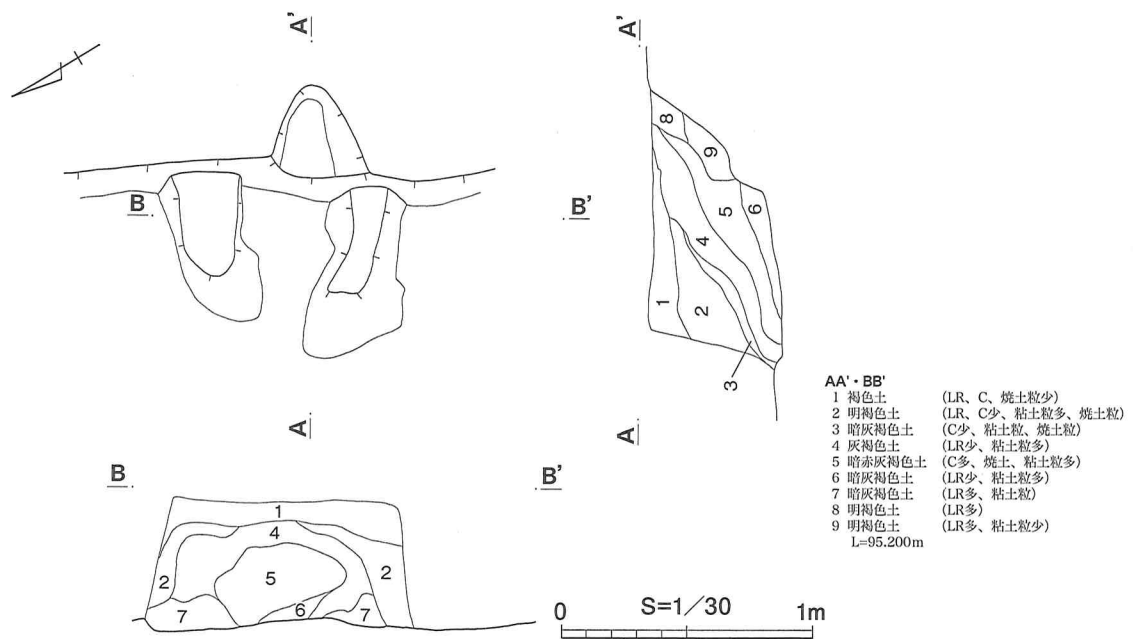
第6図 SI02



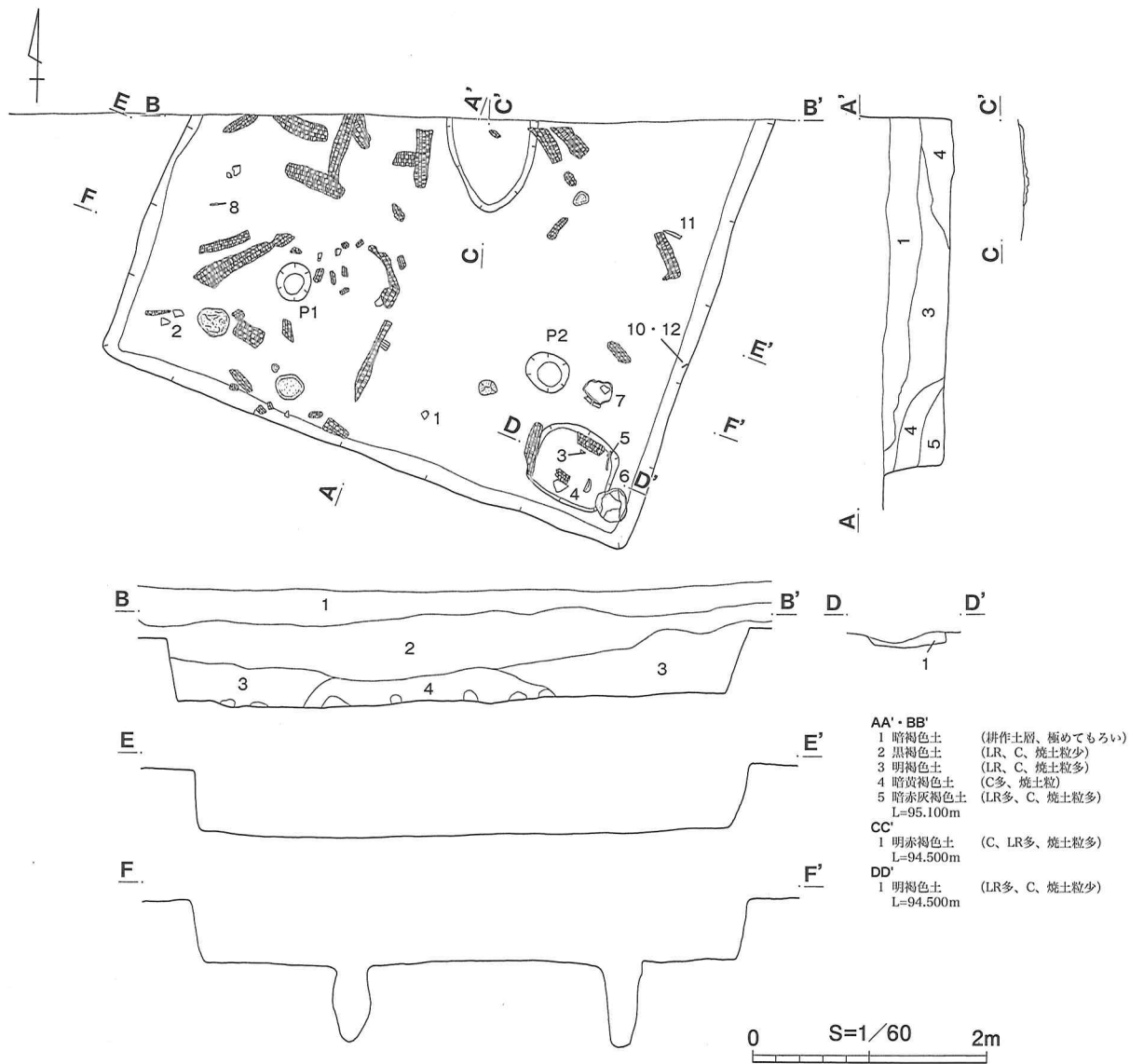
第7図 SI02カマド



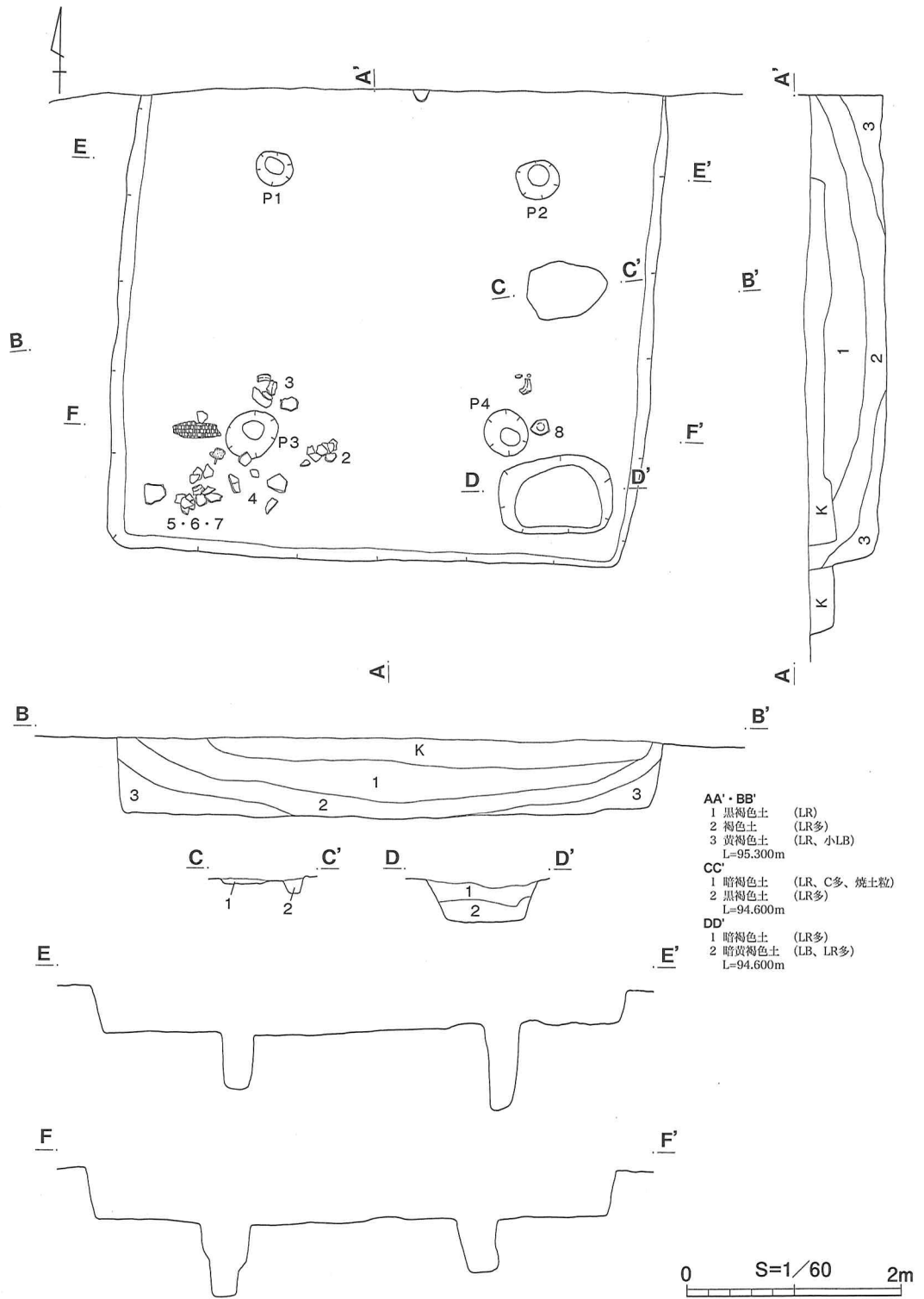
第8図 SI03



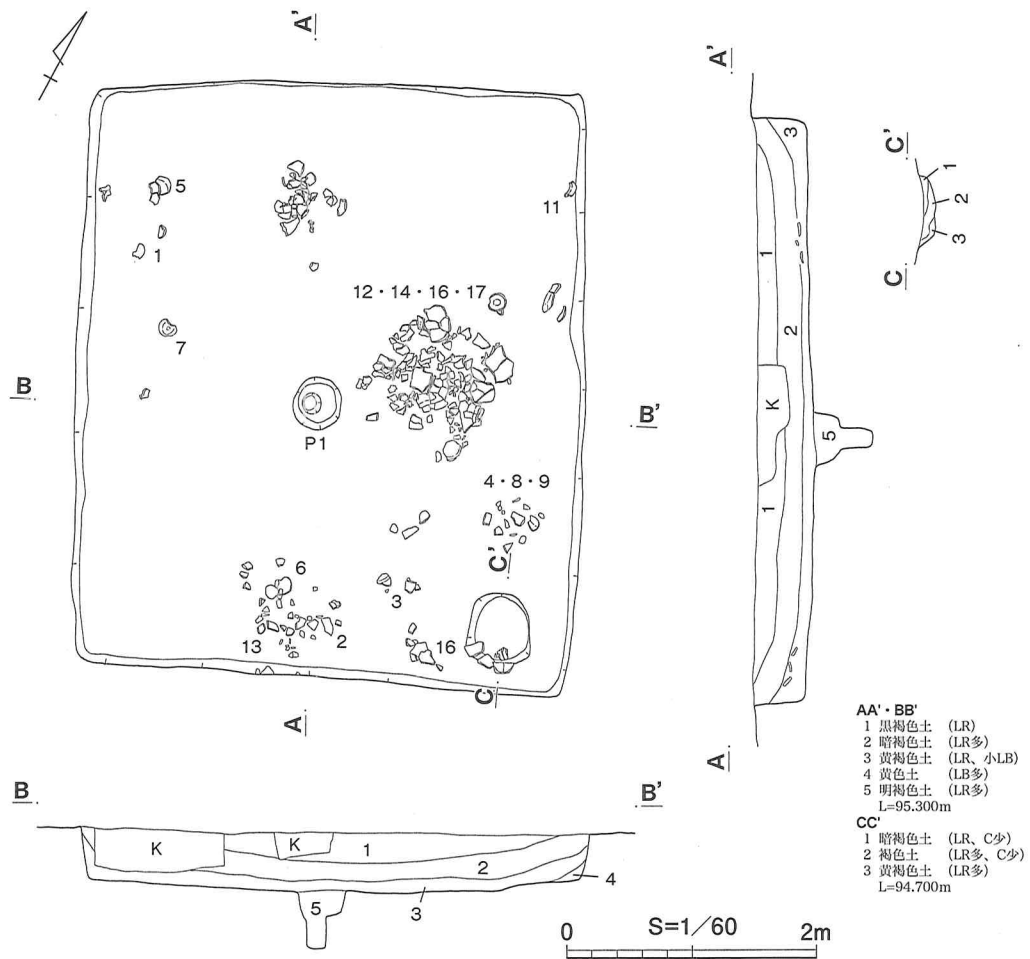
第9図 SI03カマド



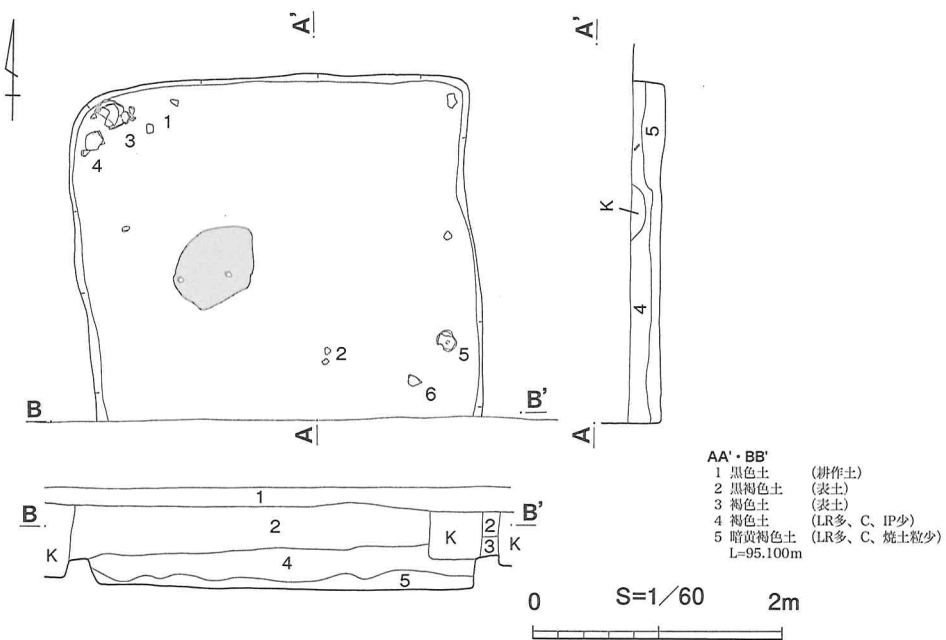
第11図 SI05



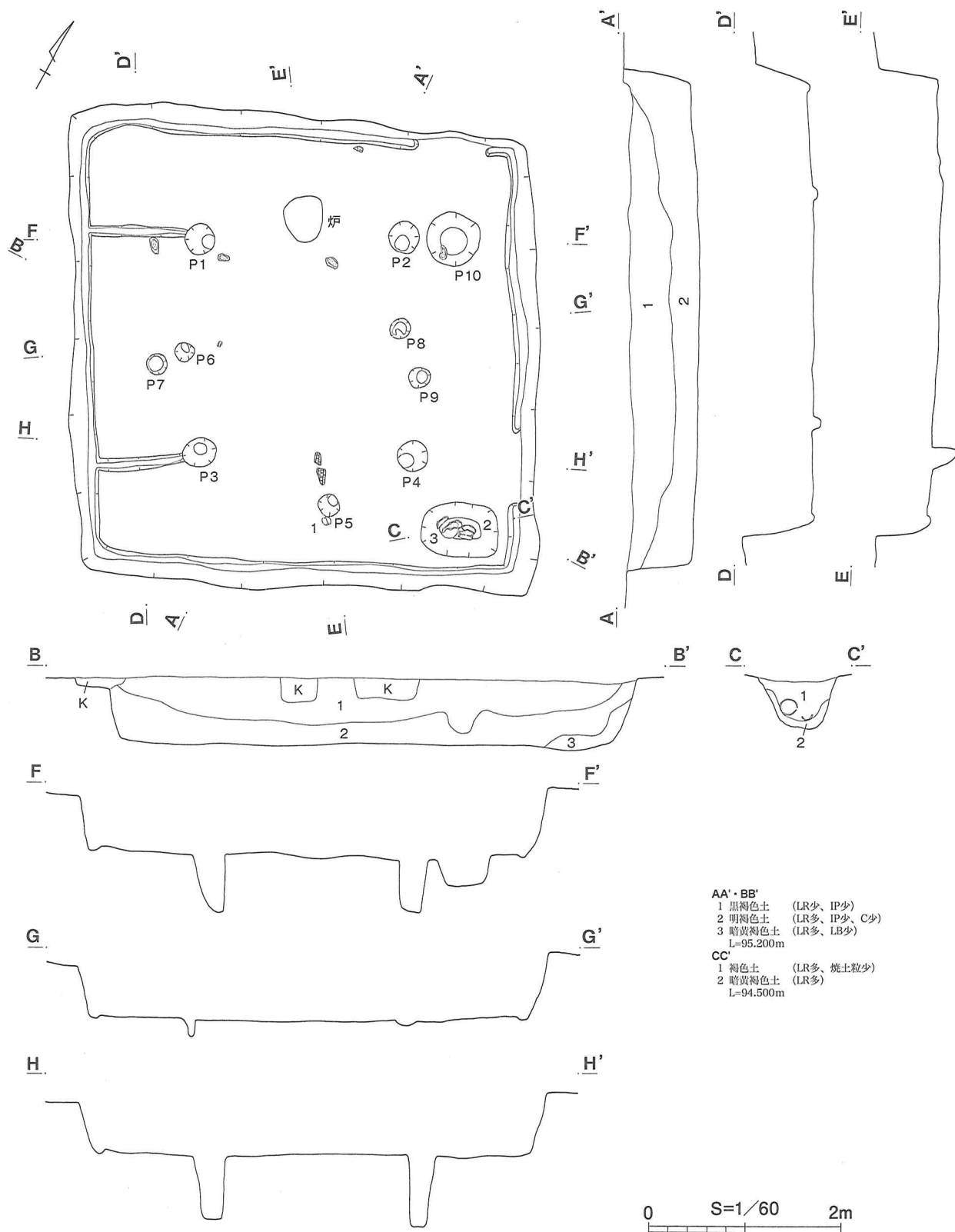
第12图 SI06



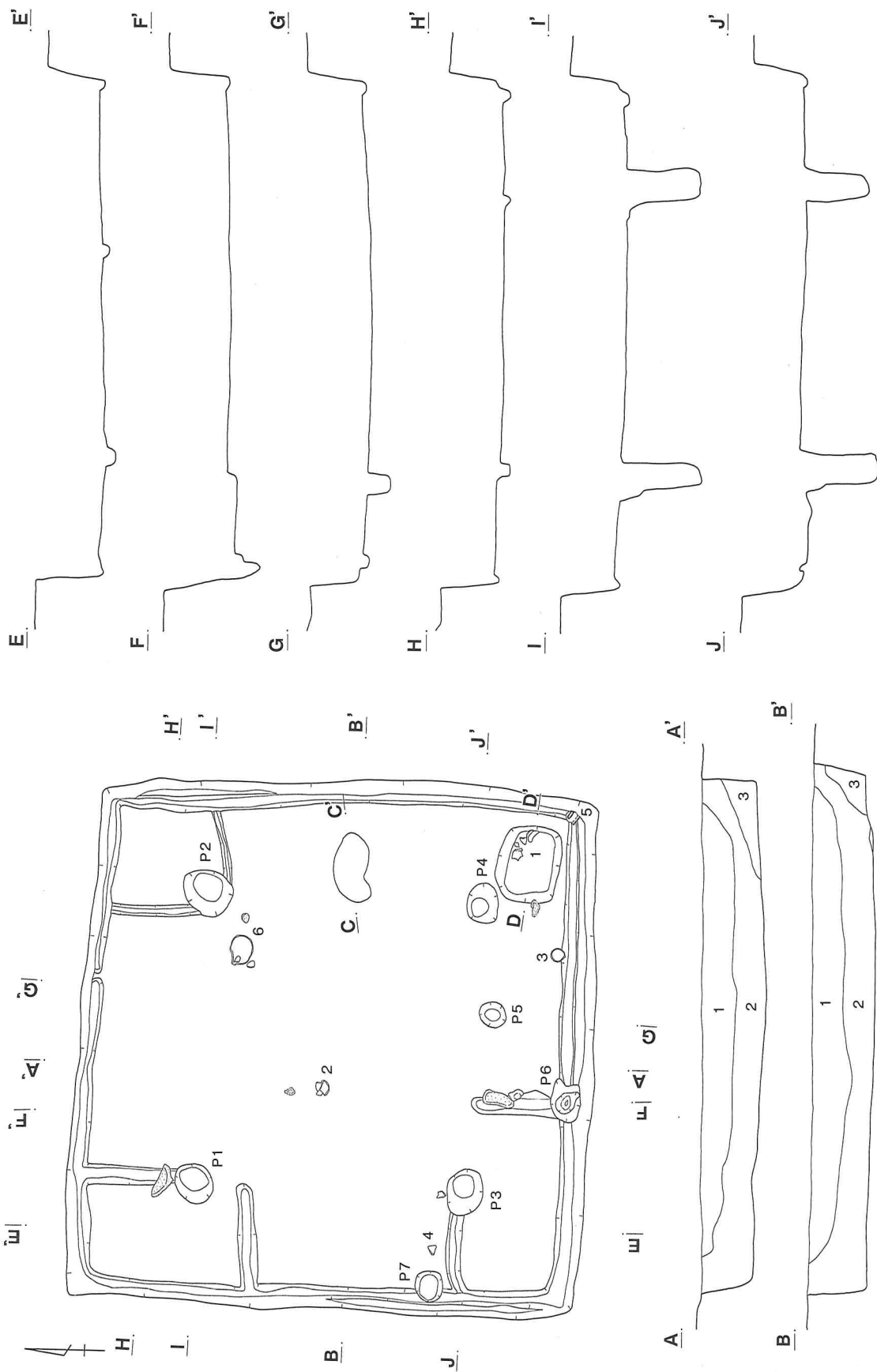
第13图 SI07



第17图 SI11



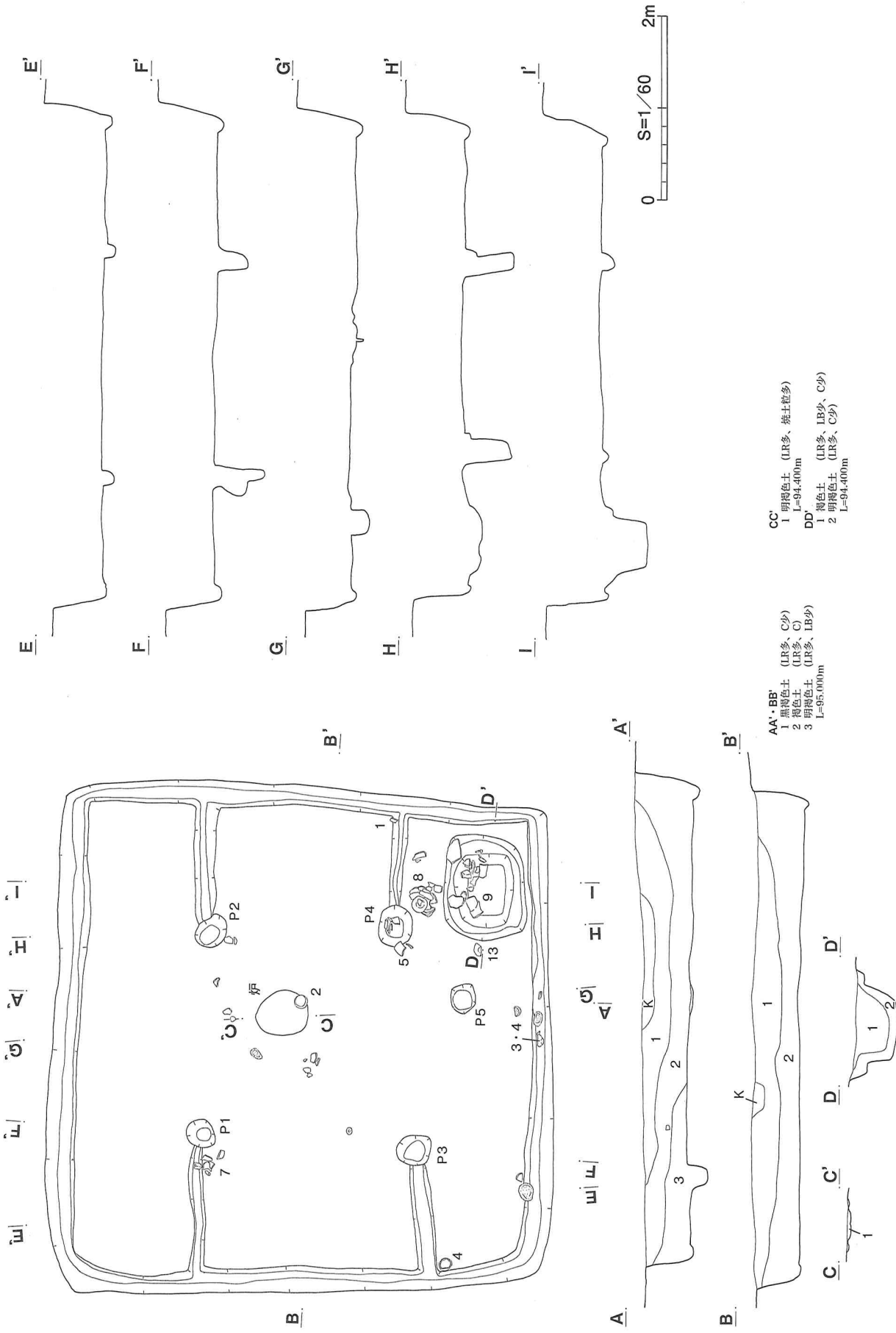
第14图 SI08



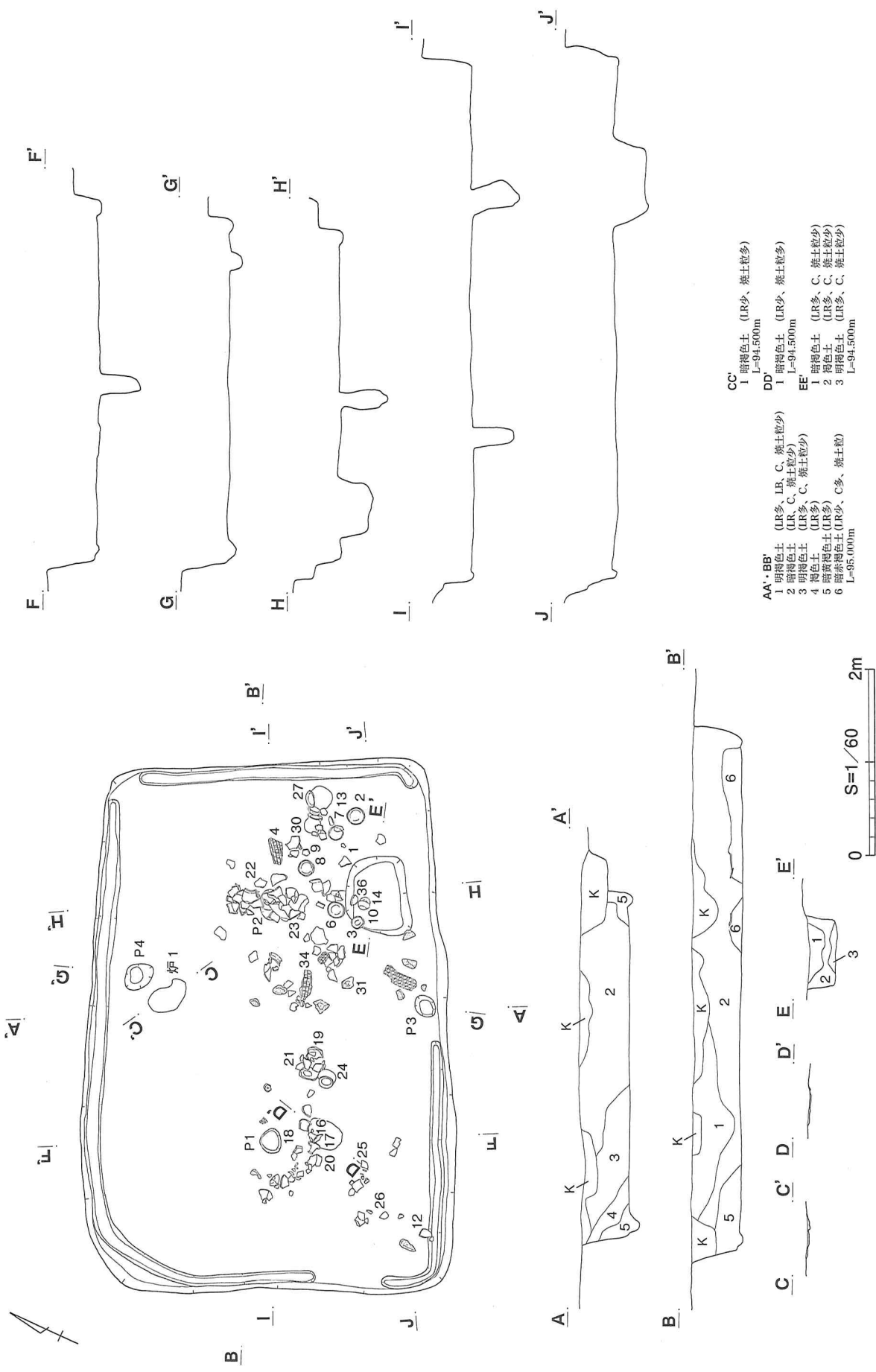
CC' 1 褐色土 (LR多、C多、烧土粒)
L=94.400m
DD' 1 褐色土 (LR多、C、烧土粒少)
2 明褐色土 (LR多、LB、C、烧土粒少)
L=94.400m

AA', BB' 1 黑褐色土 (LR少、IP少)
2 褐色土 (LR多、P、C、烧土粒少)
3 暗黄褐色土 (LR多)
L=95.100m

第15图 S109

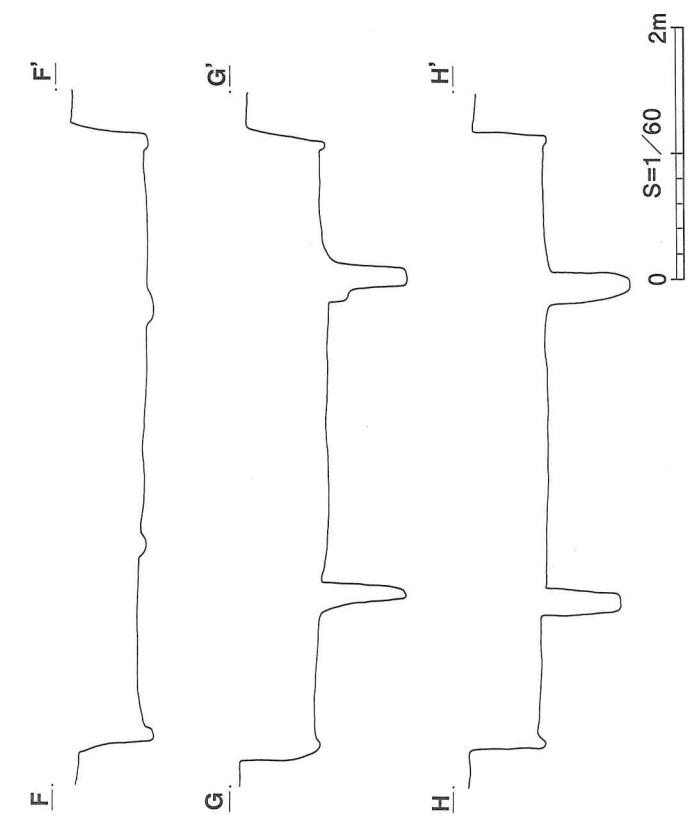


第16図 S110

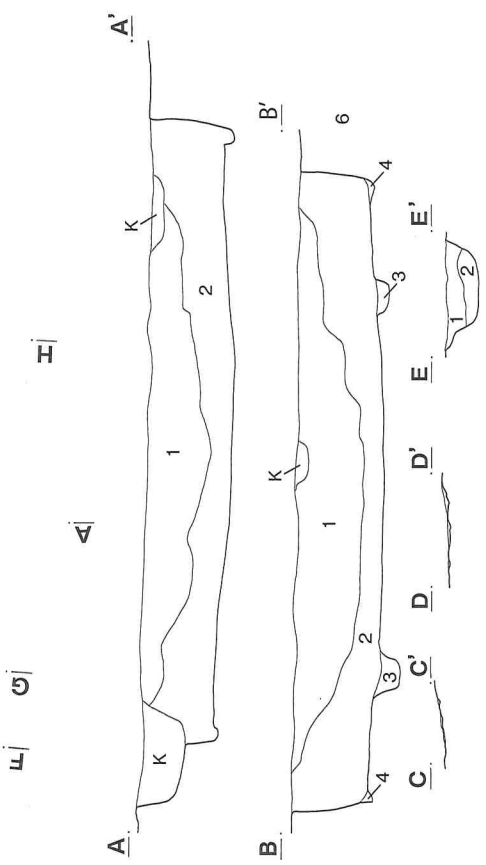
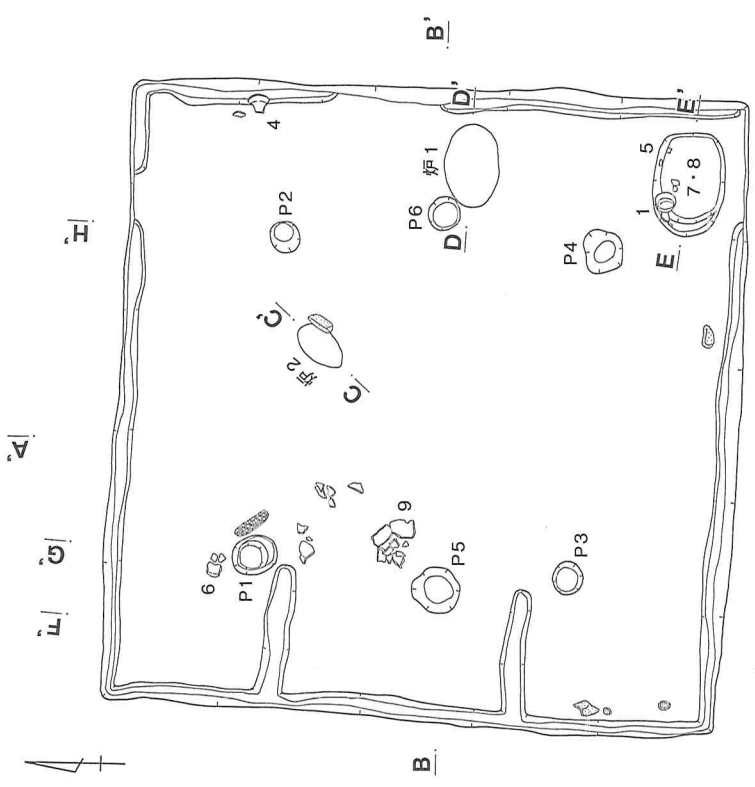


- AA'·BB'
- 1 明褐色土 (LR多、IR、C、燒土粒少)
 - 2 暗褐色土 (LR、C、燒土粒少)
 - 3 明褐色土 (LR多、C、燒土粒少)
 - 4 褐色土 (LR多)
 - 5 暗褐色土 (LR多)
 - 6 暗赤褐色土 (LR少、C多、燒土粒)
 - L=95.000m
- CC'
- 1 暗褐色土 (LR少、燒土粒多)
 - L=94.500m
- DD'
- 1 暗褐色土 (LR少、燒土粒多)
 - L=94.500m
- EE'
- 1 暗褐色土 (LR多、C、燒土粒少)
 - 2 褐色土 (LR多、C、燒土粒少)
 - 3 明褐色土 (LR多、C、燒土粒少)
 - L=94.500m

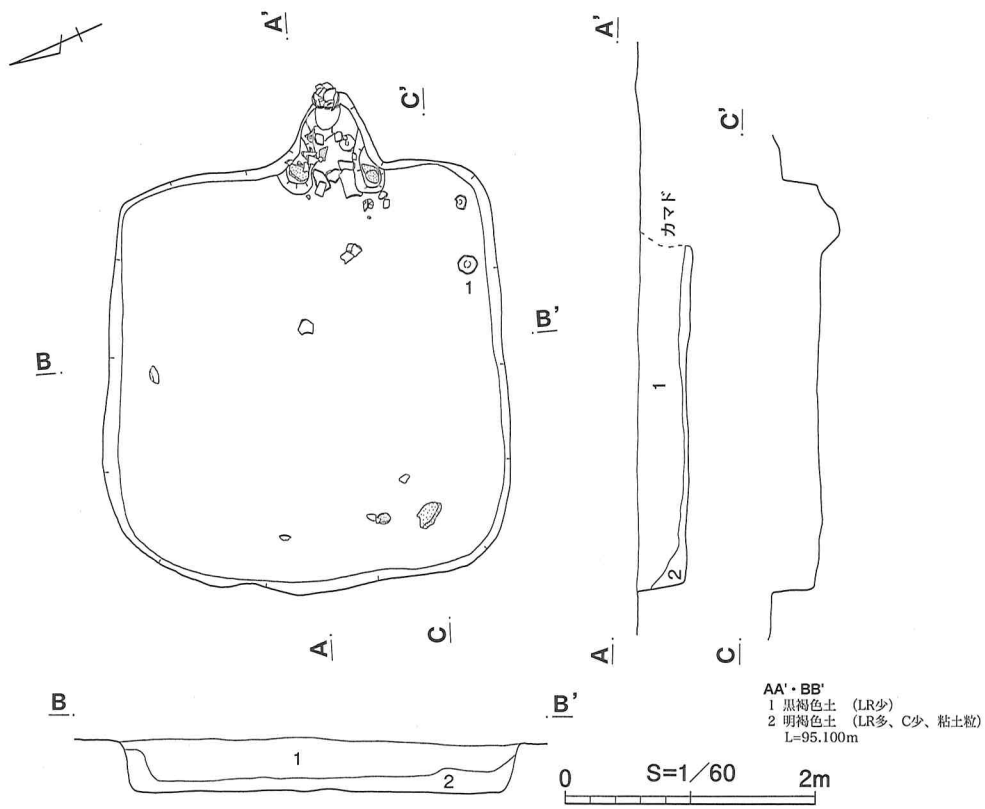
第18図 S112



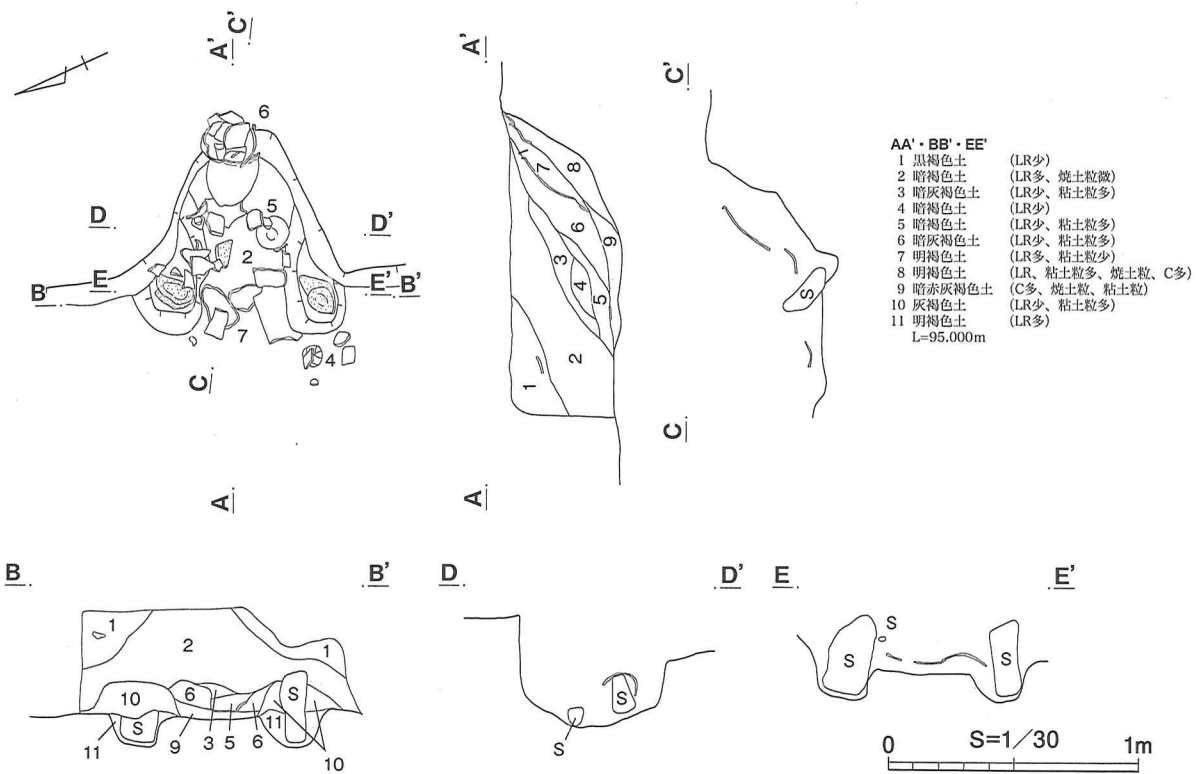
AA'·BB'·EE'
 1 黑褐色土 (C廠、燒土粒)
 2 明褐色土 (C廠、LN多、燒土粒)
 3 茶褐色土
 4 黃褐色土
 (AA'·BB') L=95,000m
 (EE') L=94,400m



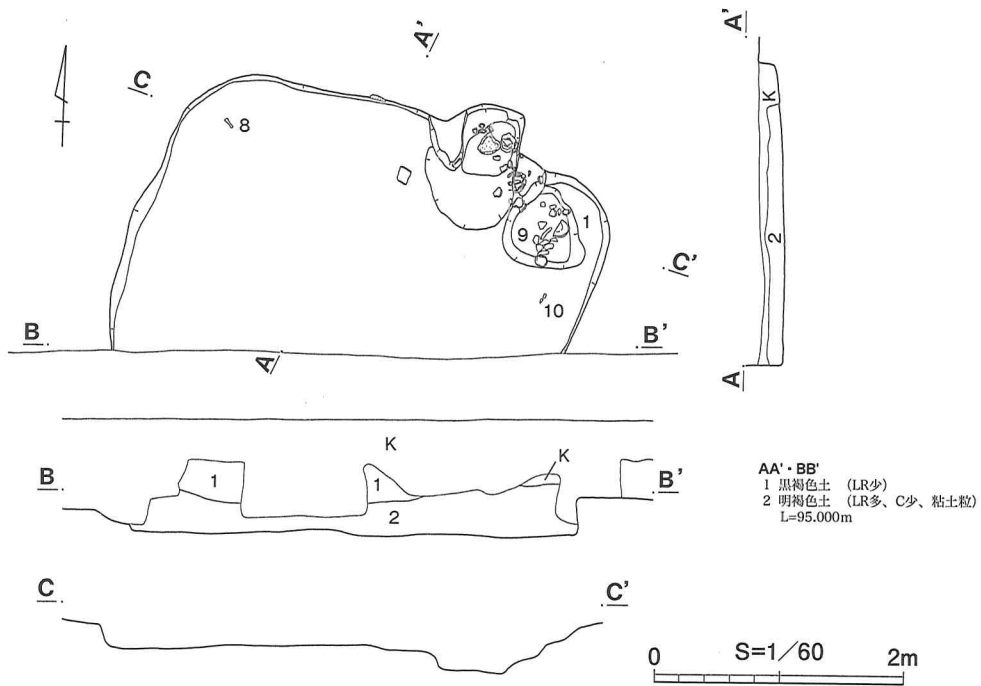
第19圖 S113



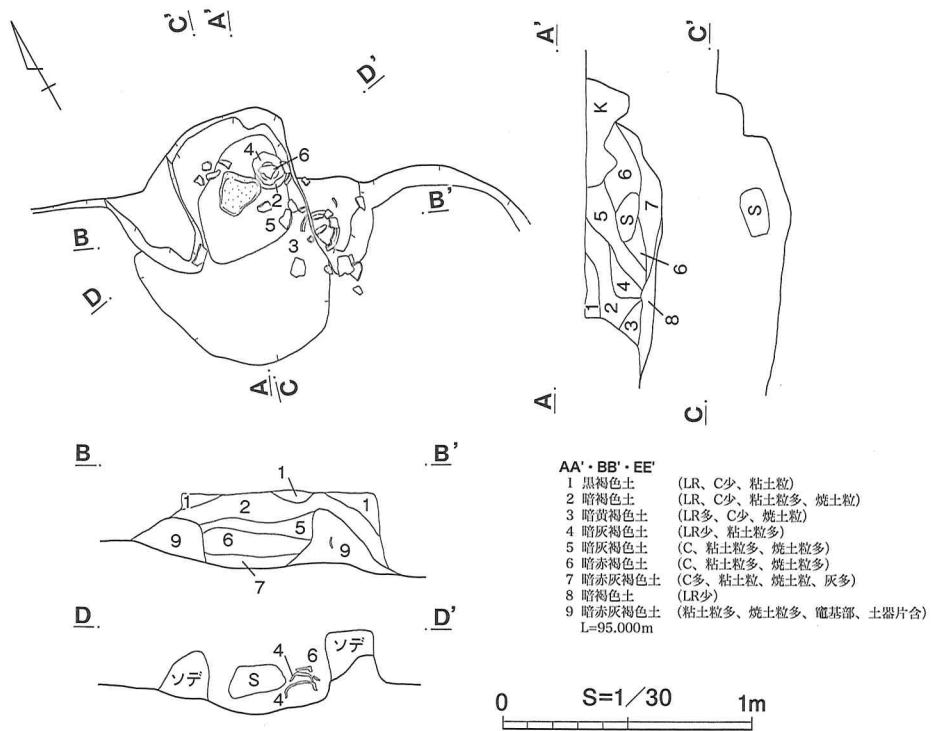
第20図 SI14



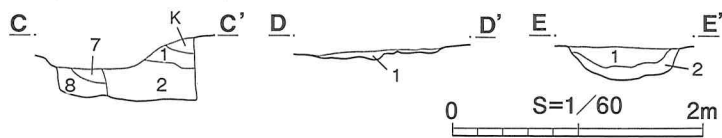
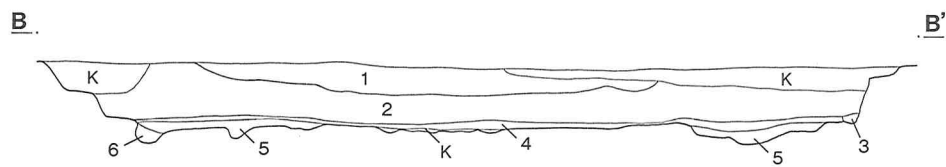
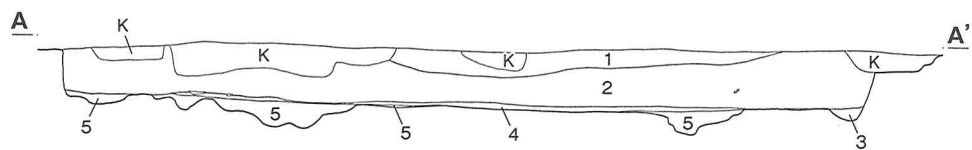
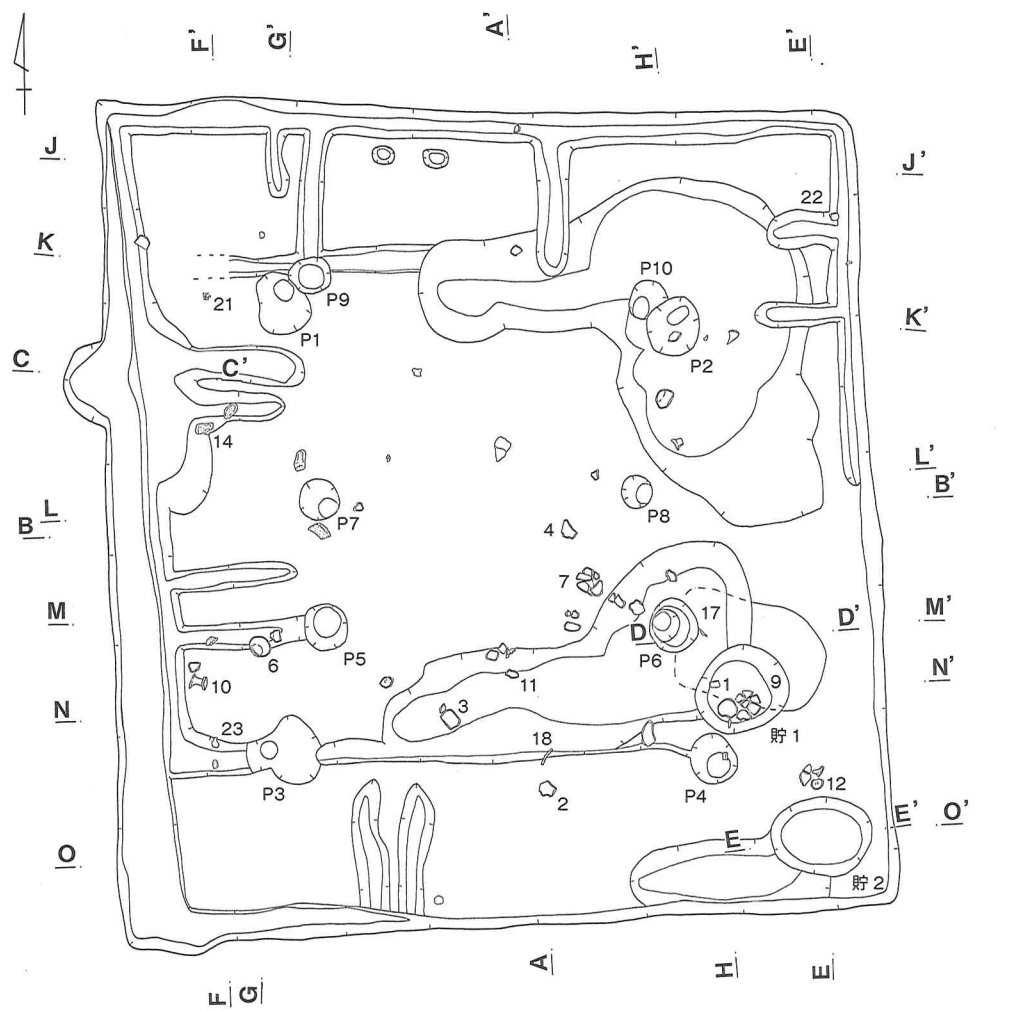
第21図 SI14カマド



第22図 SI15

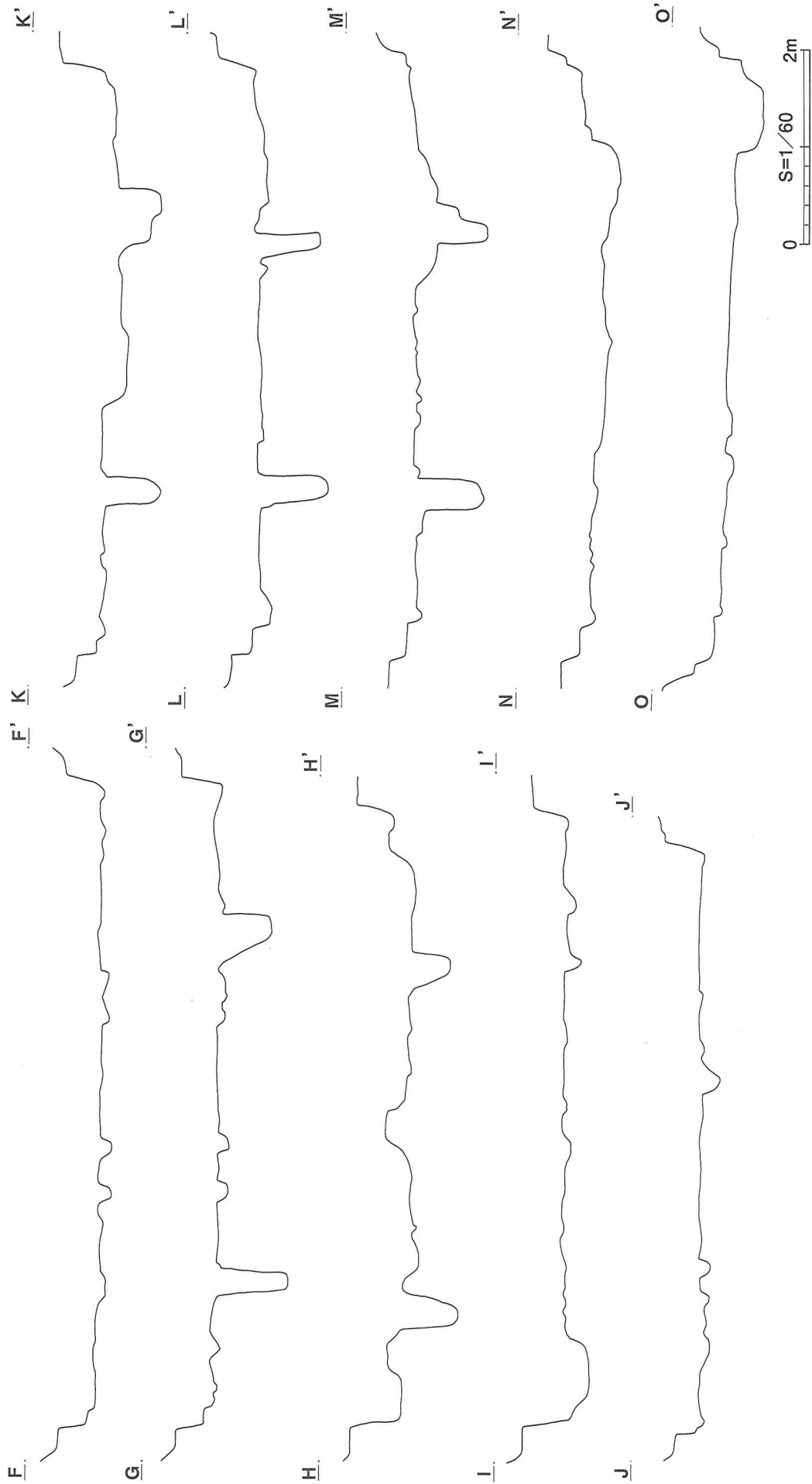


第23図 SI15カマド

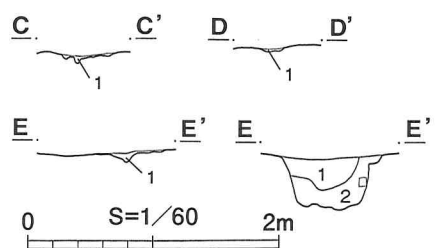
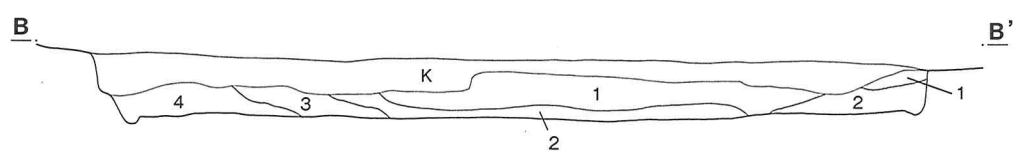
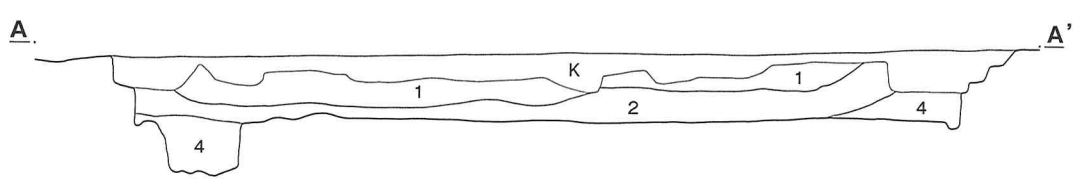
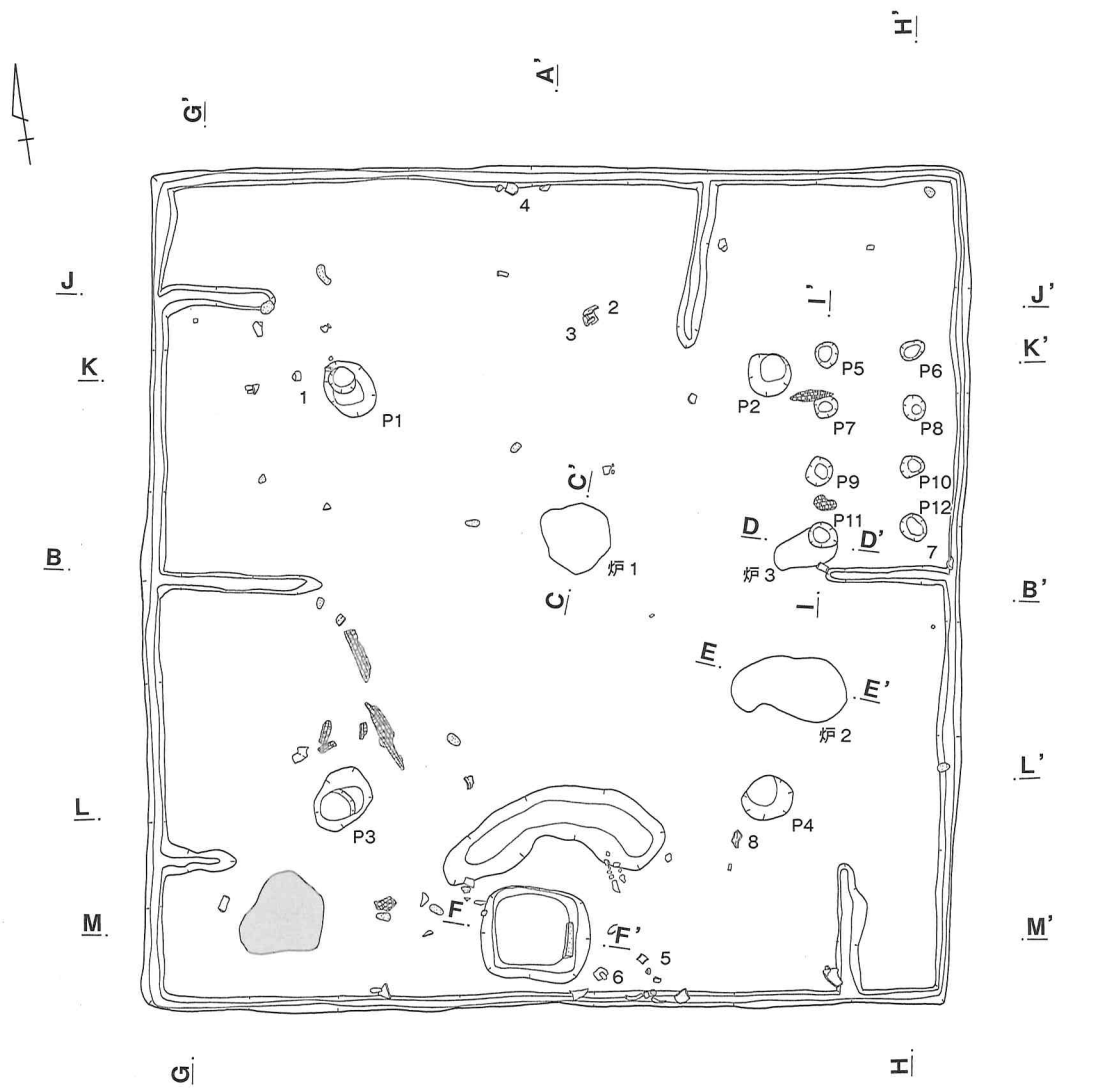


- AA' · BB' · CC'
- 1 黑褐色土 (LR、C、烧土粒少)
 - 2 褐色土 (LR多、C、烧土粒少、LB、土器片含)
 - 3 暗褐色土
 - 4 暗褐色土
 - 5 暗褐色土
 - 6 明褐色土 (LR多)
 - 7 明黄褐色土 (LR多)
 - L=95.000m
- DD'
- 1 暗褐色土 (LR少、C多、烧土粒)
 - L=94.600m
- EE'
- 1 褐色土 (LR多)
 - 2 明褐色土 (LR多)
 - L=94.600m

第24图 SI16 (1)

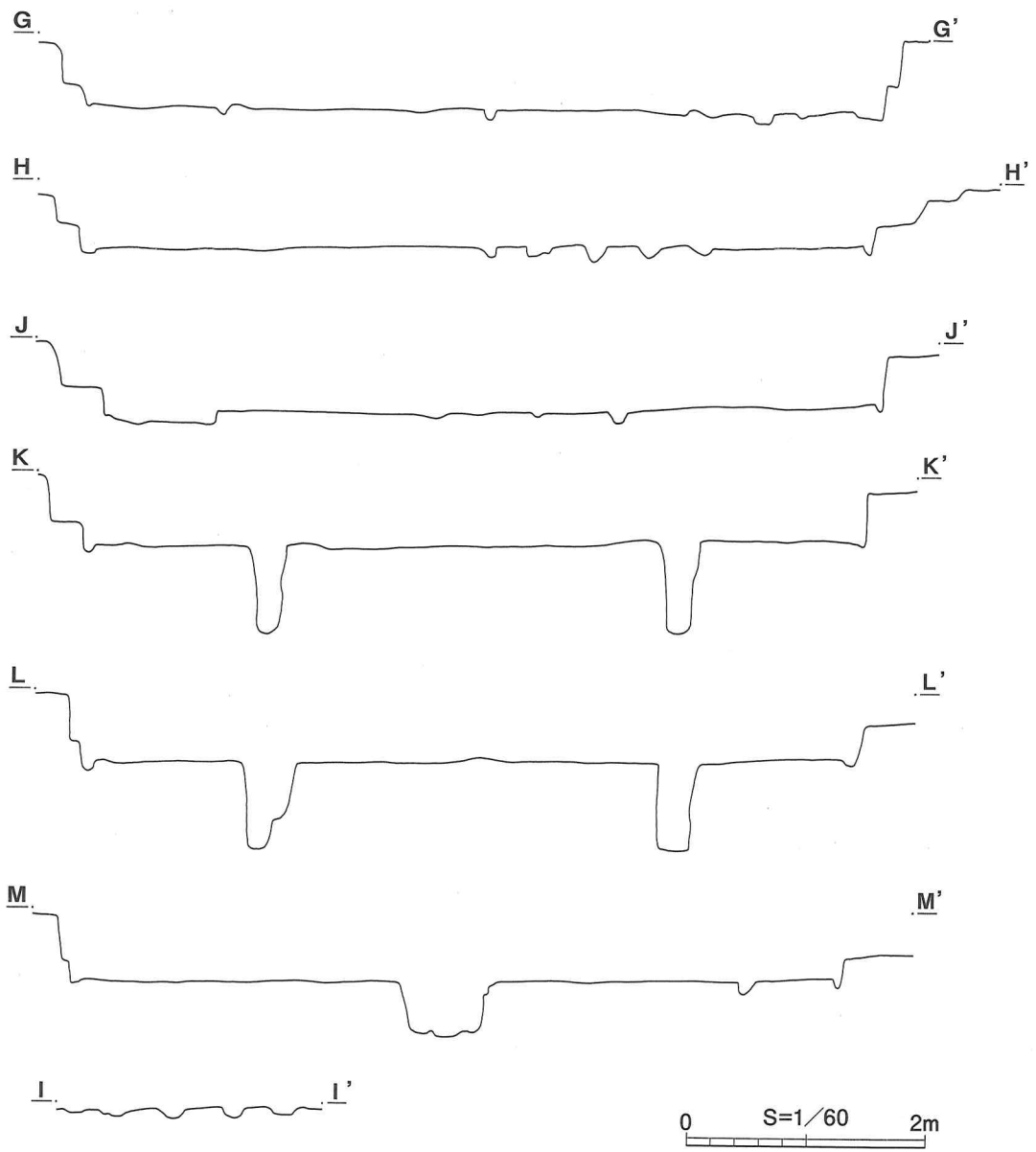


第25图 S116 (2)

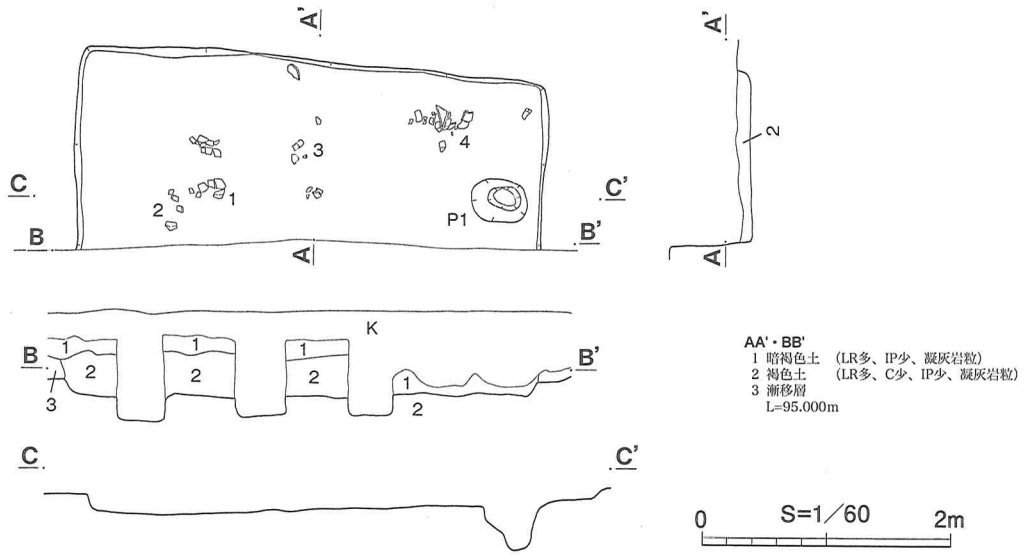


- | | |
|------------------------|--------------------|
| AA' - BB' | DD' |
| 1 褐色土 (LR多、LB少、IP微) | 1 暗褐色土 (LR多、C、烧土粒) |
| 2 暗褐色土 (LR多、C微、烧土粒) | L=94.600m |
| 3 褐色土 (LR多、LB少、C微、烧土粒) | EE' |
| 4 明褐色土 (LR多、LB微) | 1 暗褐色土 (LR多、C、烧土粒) |
| L=95.100m | L=94.600m |
| CC' | FF' |
| 1 暗褐色土 (LR多、C、烧土粒) | 1 褐色土 (LR多) |
| L=94.600m | 2 明褐色土 (LR多、LB少) |
| | L=94.600m |

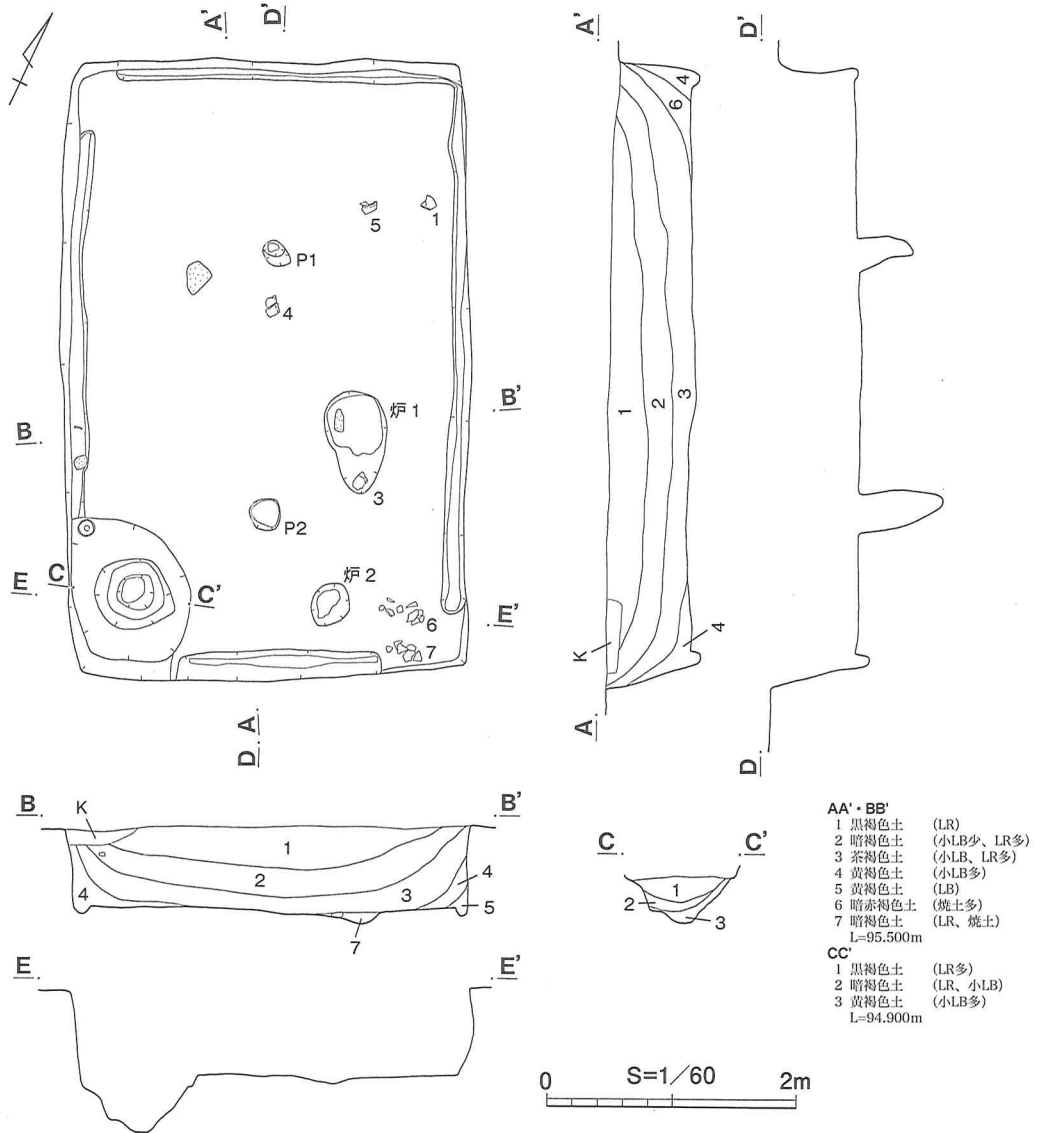
第26图 SI17 (1)



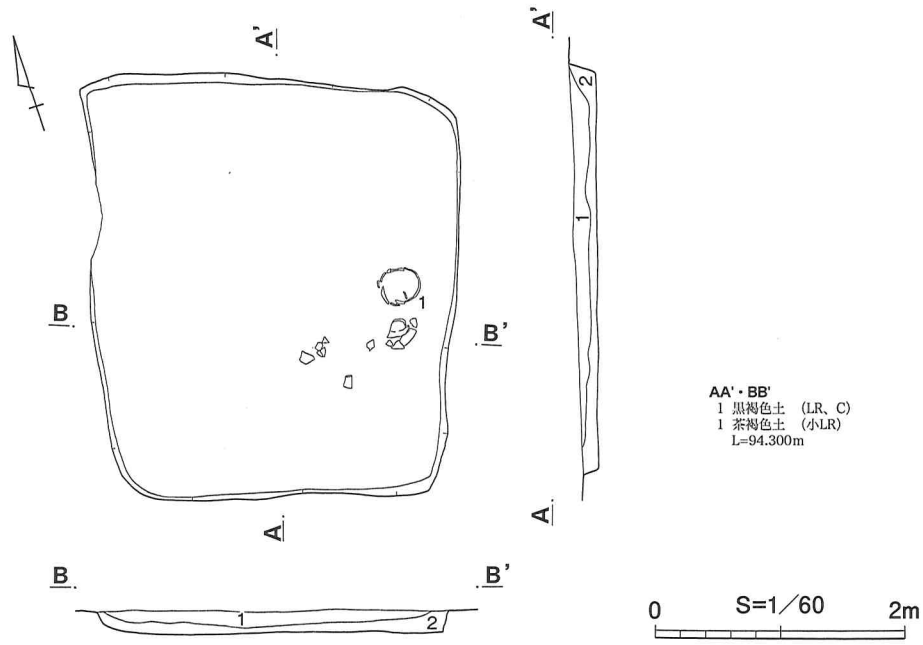
第27图 SI17 (2)



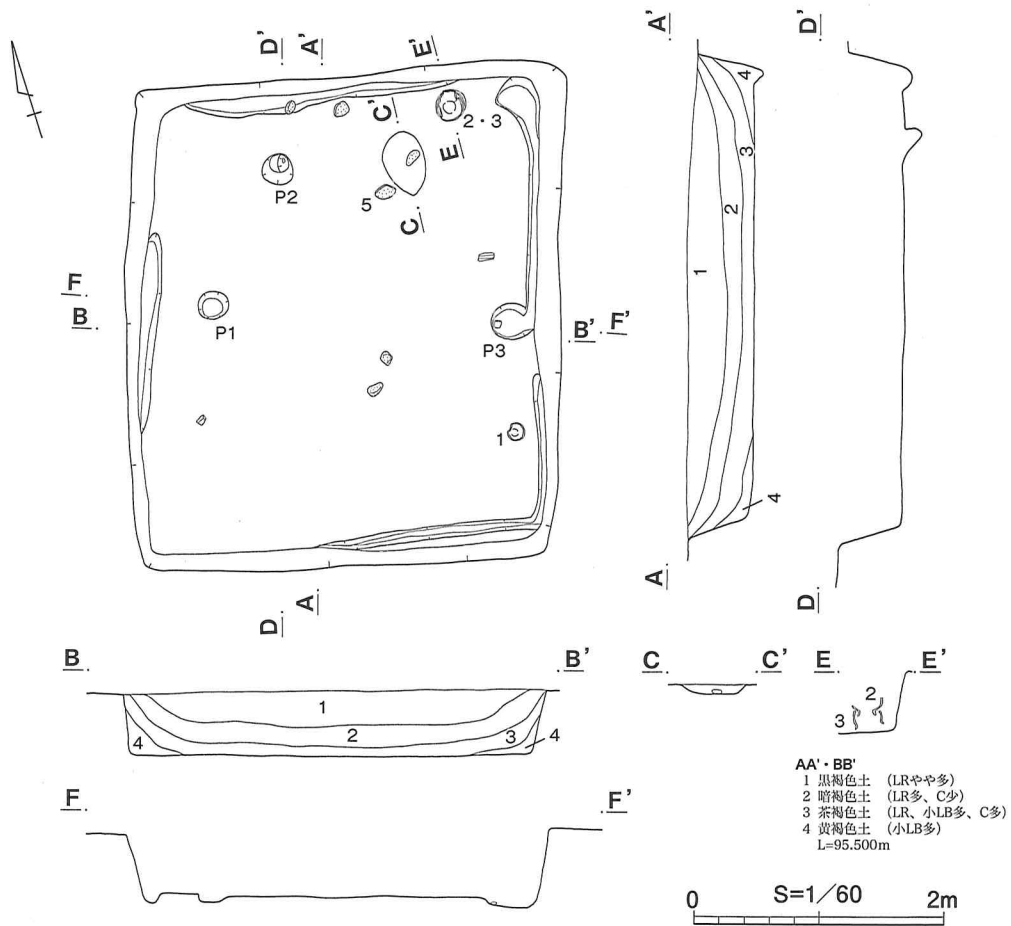
第28图 SI18



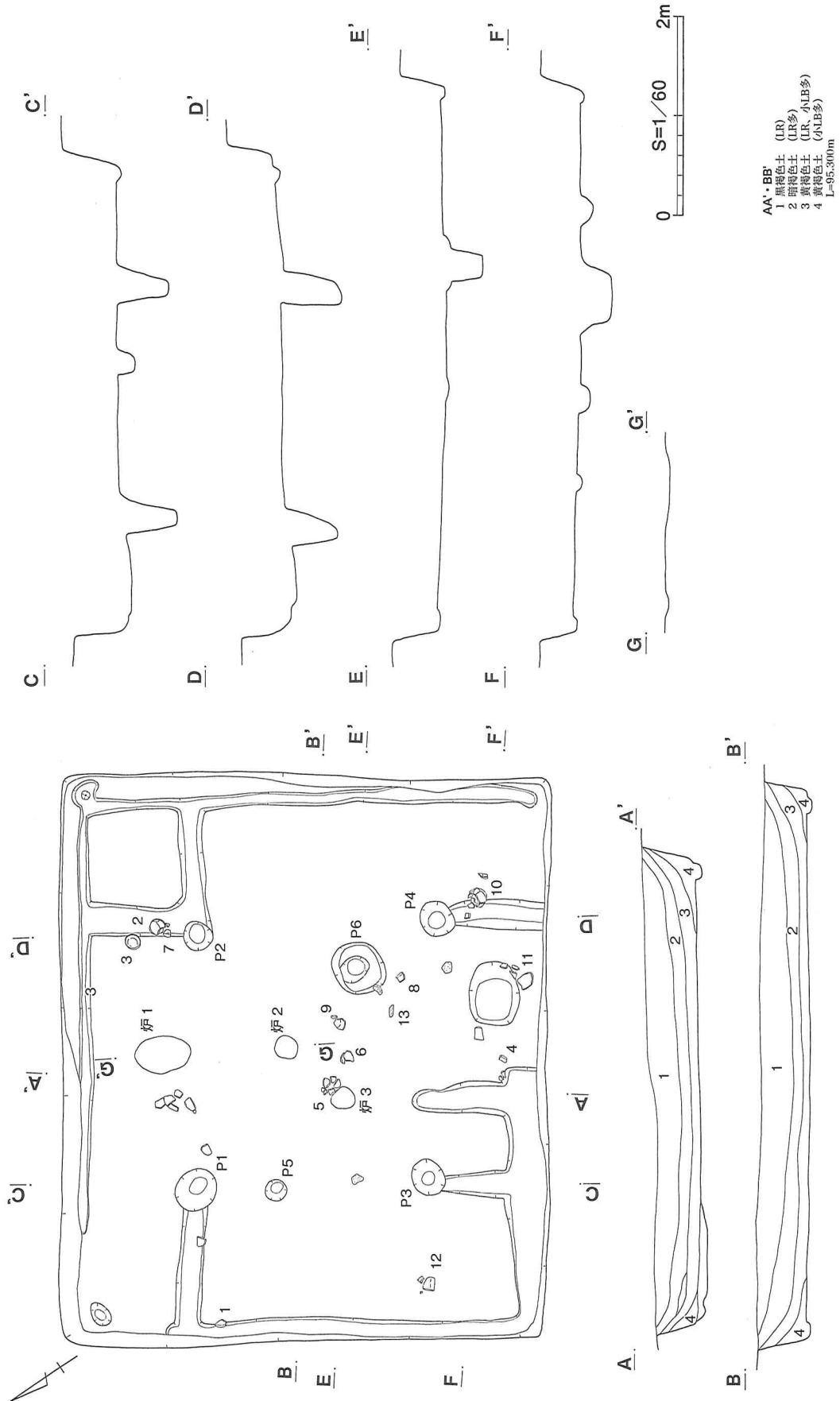
第33图 SI22



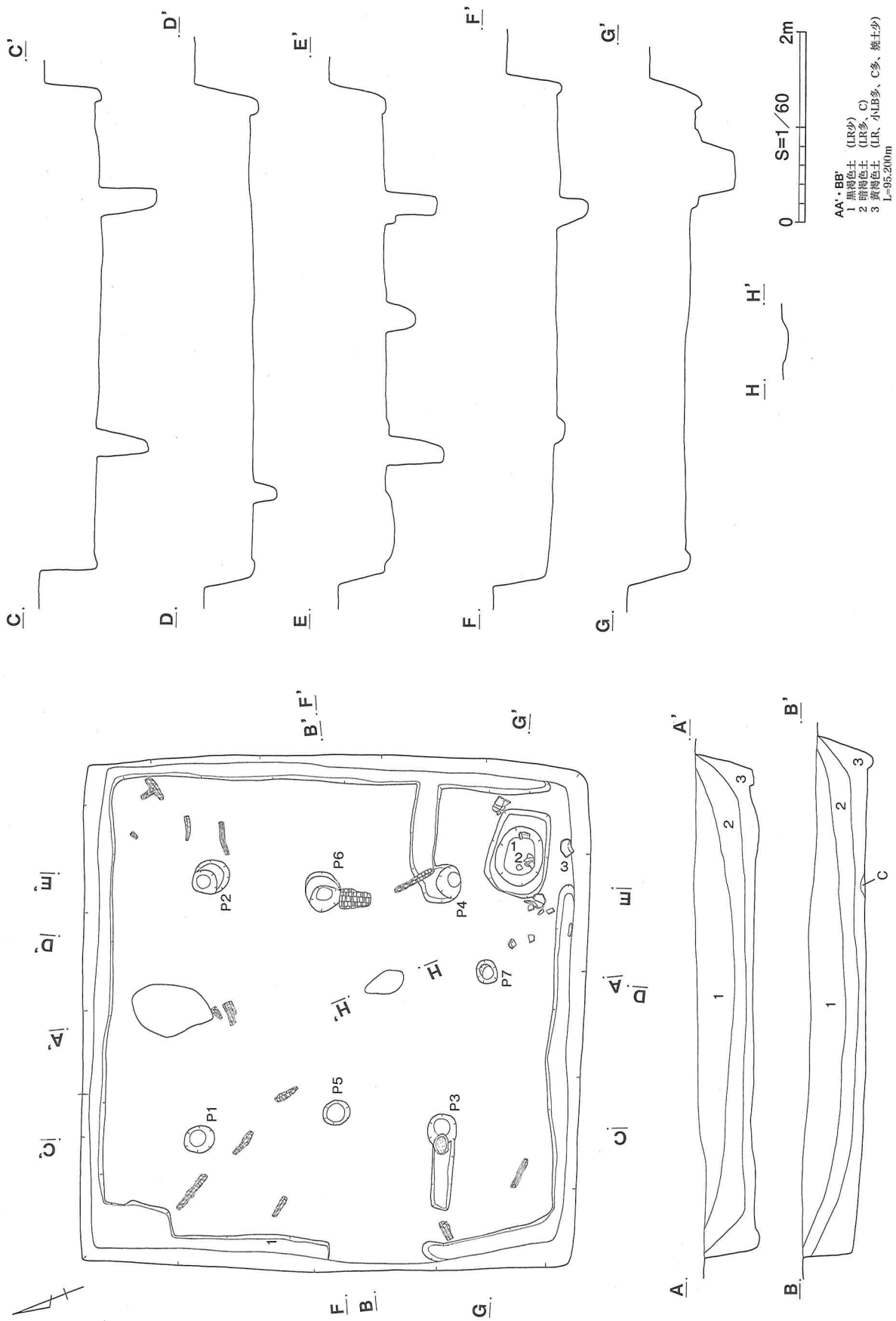
第31图 SI20



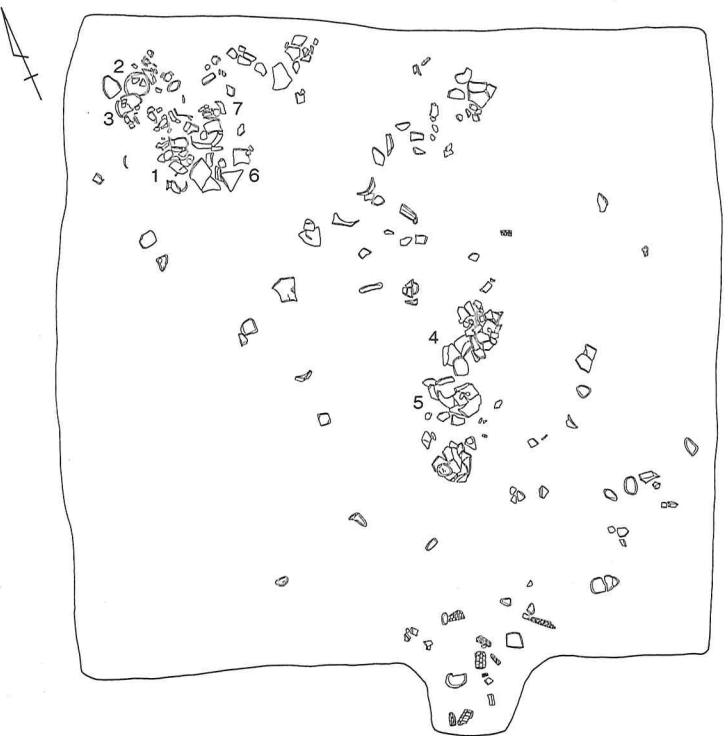
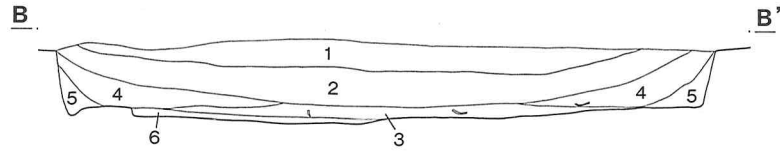
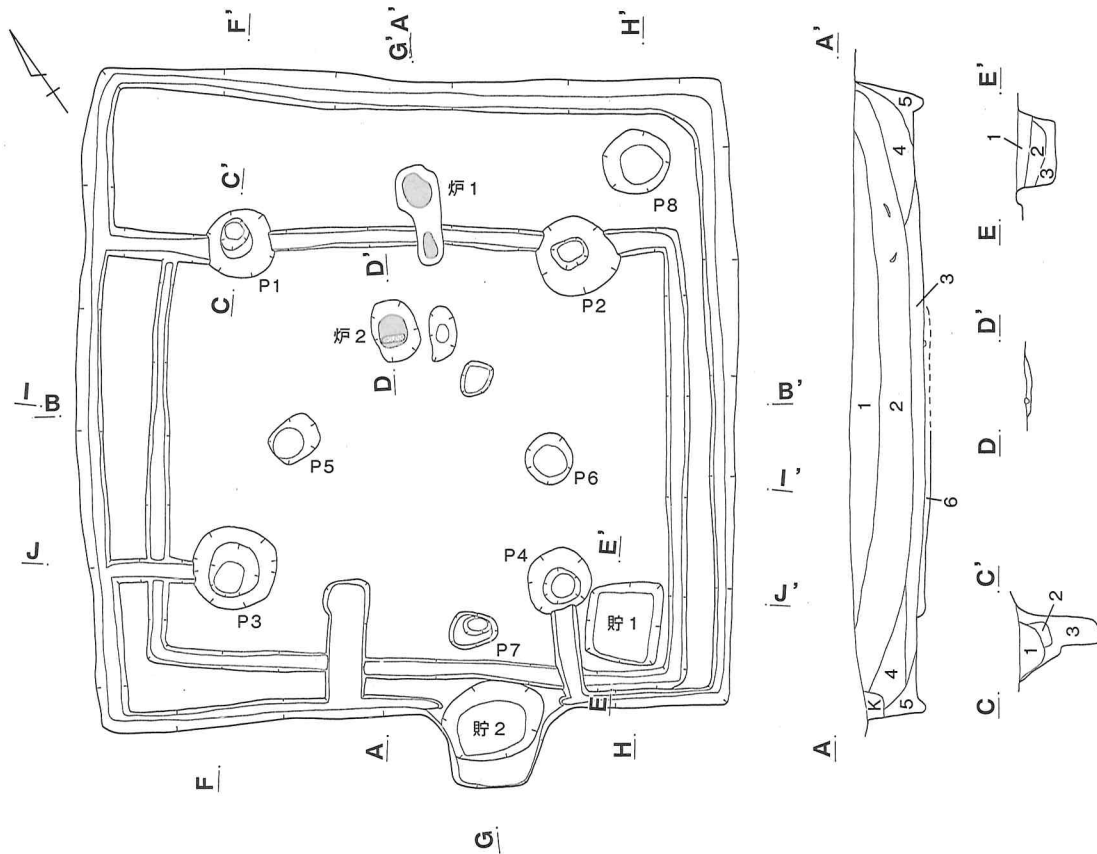
第32图 SI21



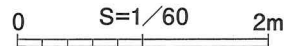
第34图 SI23



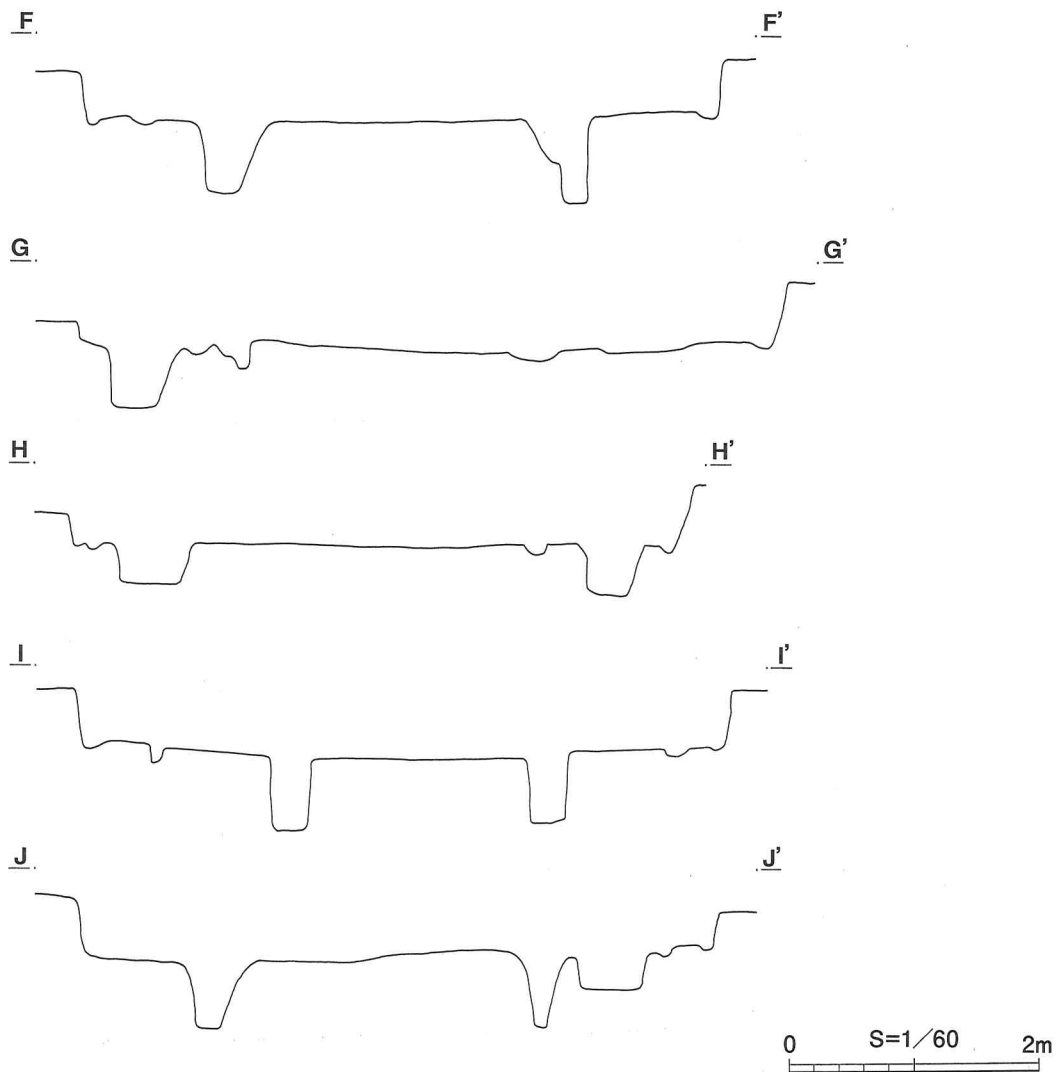
第35図 SI24



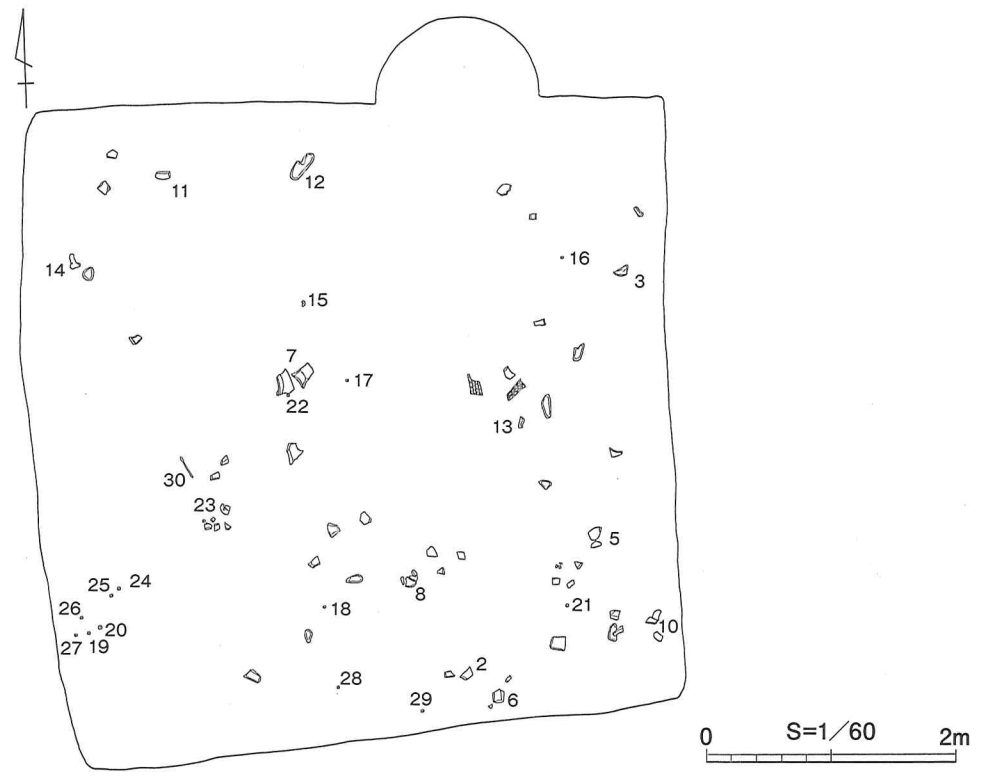
- AA' - BB'**
- 1 黒褐色土 (LR)
 - 2 褐色土 (LR、LB、C)
 - 3 明褐色土 (LR多、LB少、C)
 - 4 暗褐色土 (LR少、C)
 - 5 明褐色土 (LR多、小LB)
 - 6 黄褐色土 (LR多、大LB、やや硬い、貼床)
- L=94.900m
- CC'**
- 1 黒褐色土 (LR、小LB、C)
 - 2 赤褐色土 (LR多、焼土)
 - 3 黄褐色土 (LR多、LB多)
- L=94.500m
- EE'**
- 1 明褐色土 (LR、LB、硬い)
 - 2 褐色土 (LR)
 - 3 黄褐色土 (LR多、大LB)
- L=94.500m



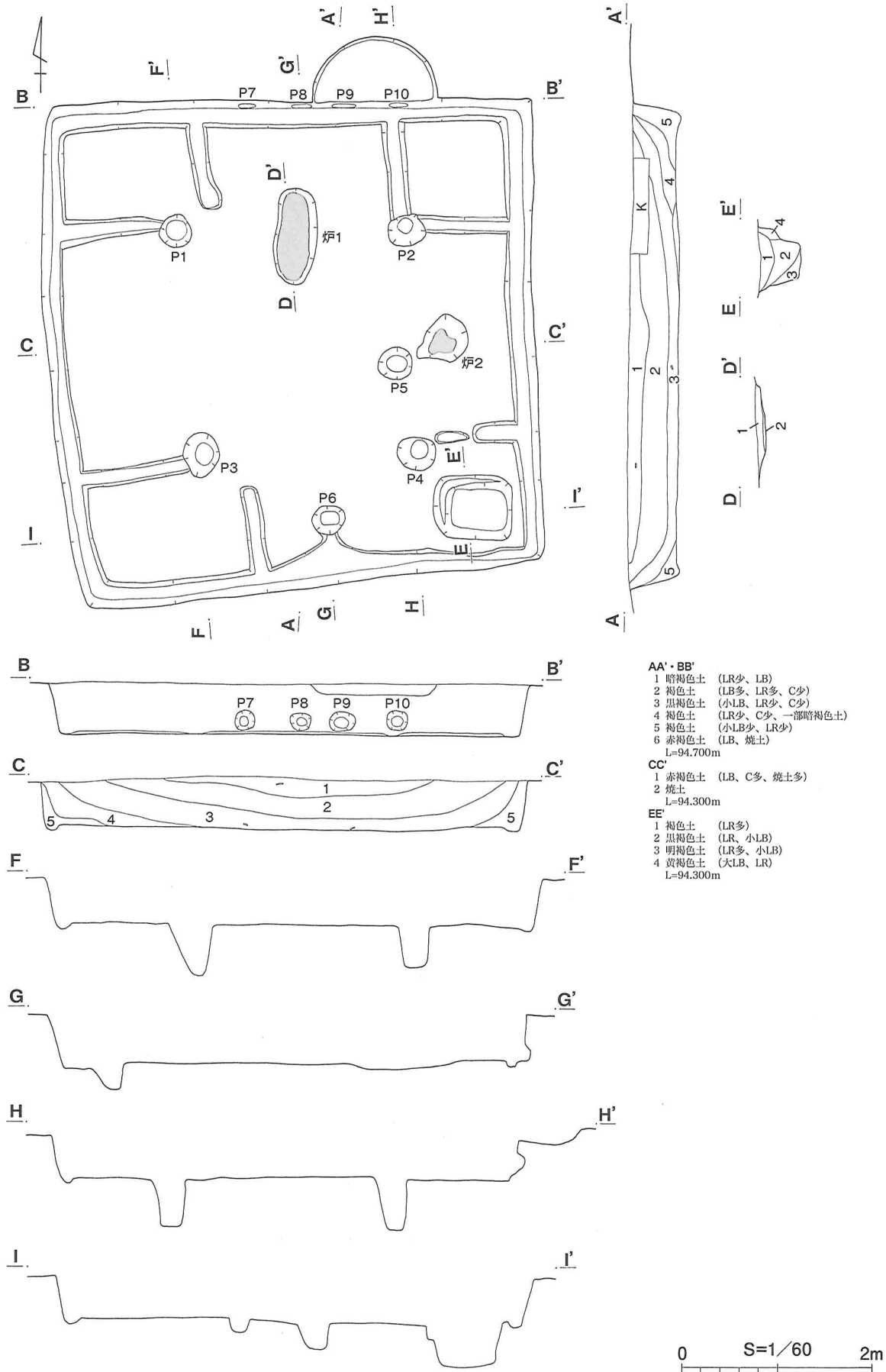
第36図 SI25 (1)



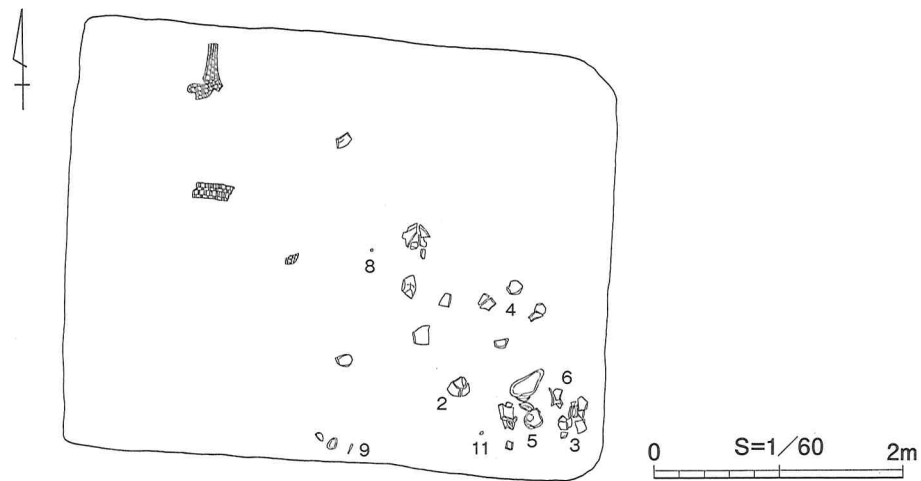
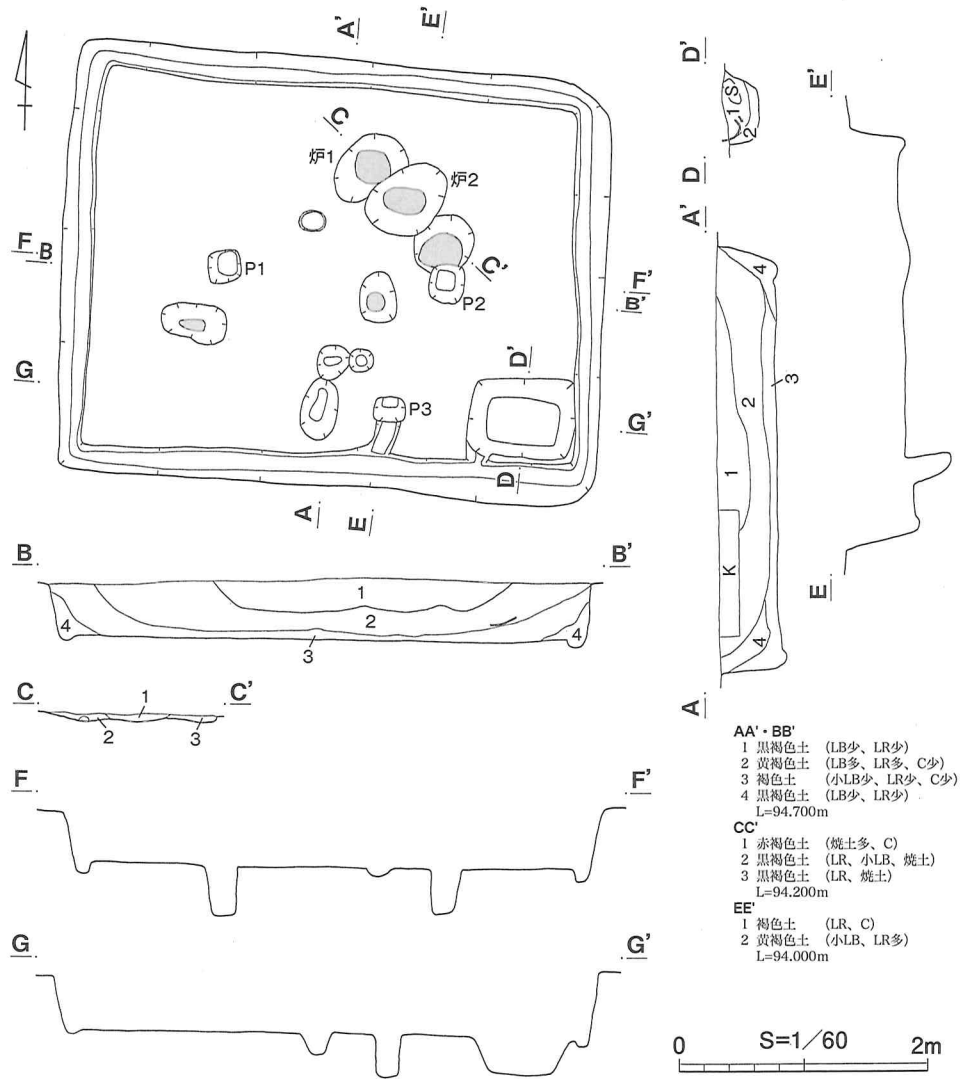
第37图 SI25 (2)



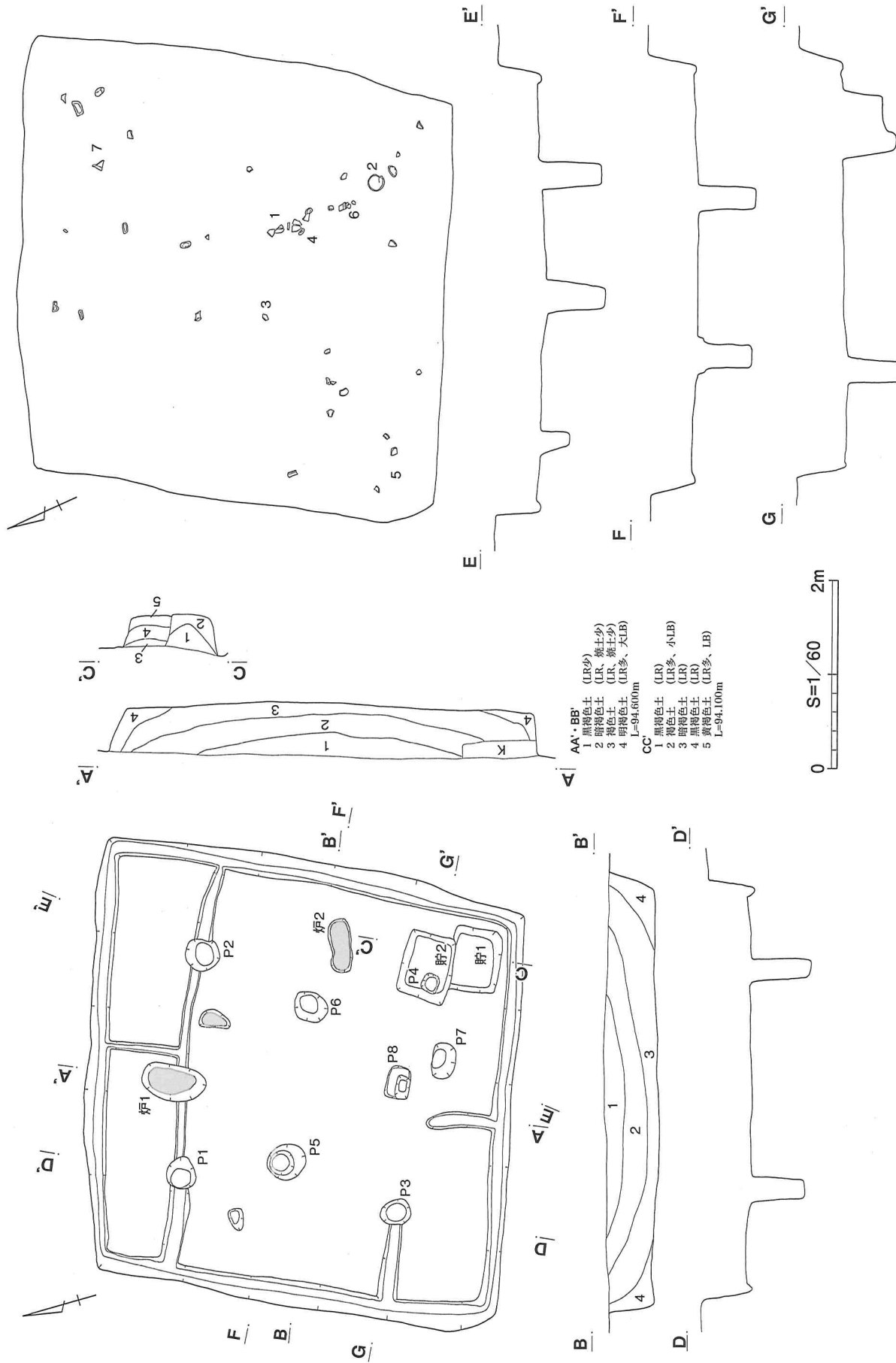
第39图 SI26 (2)



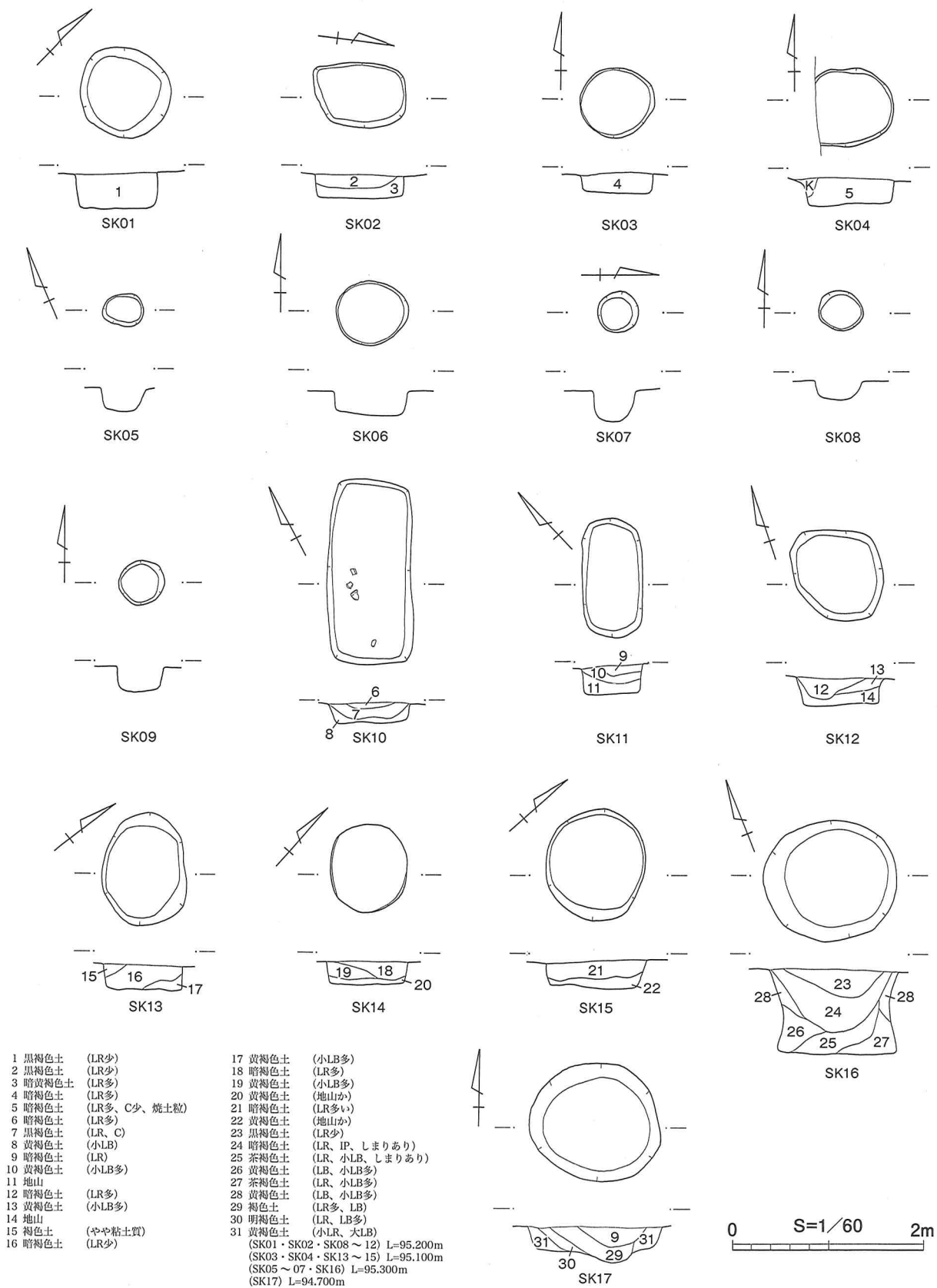
第38图 SI26 (1)



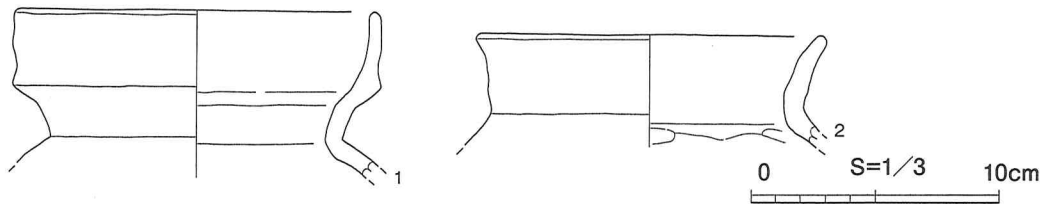
第40图 SI27



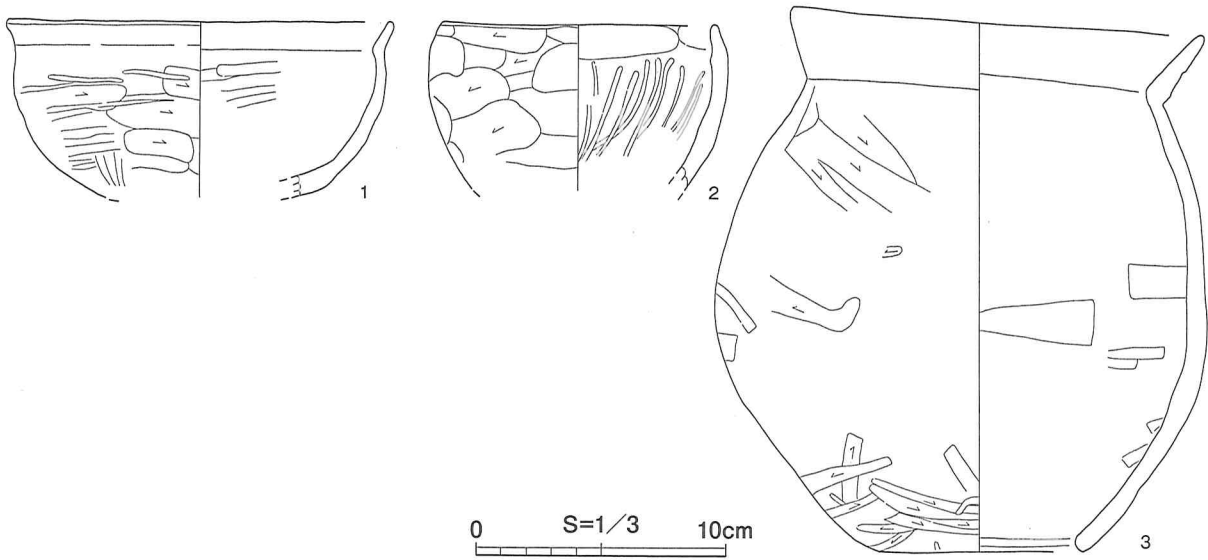
第41图 S128



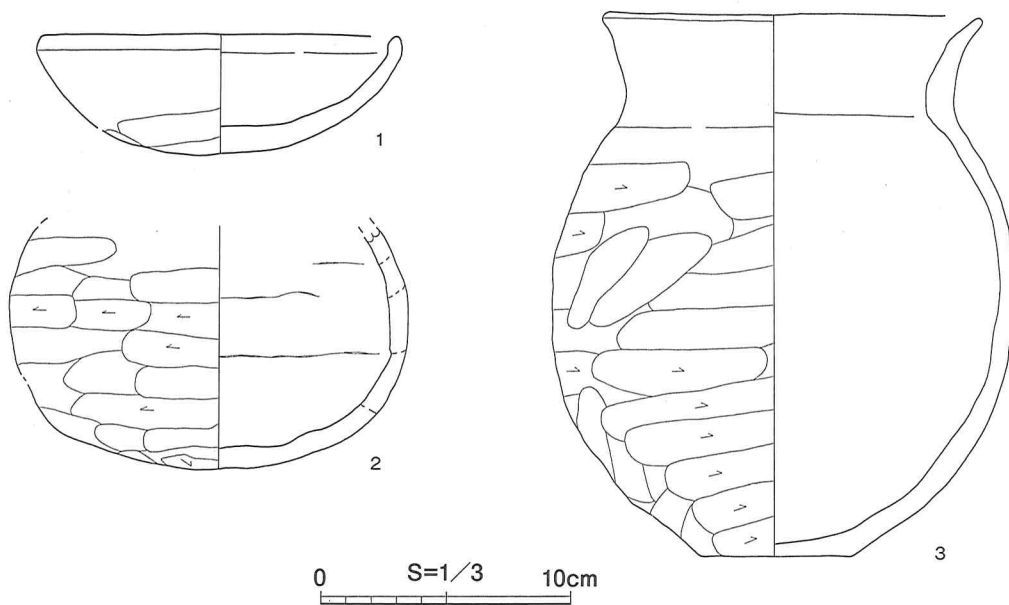
第42図 土坑集成図



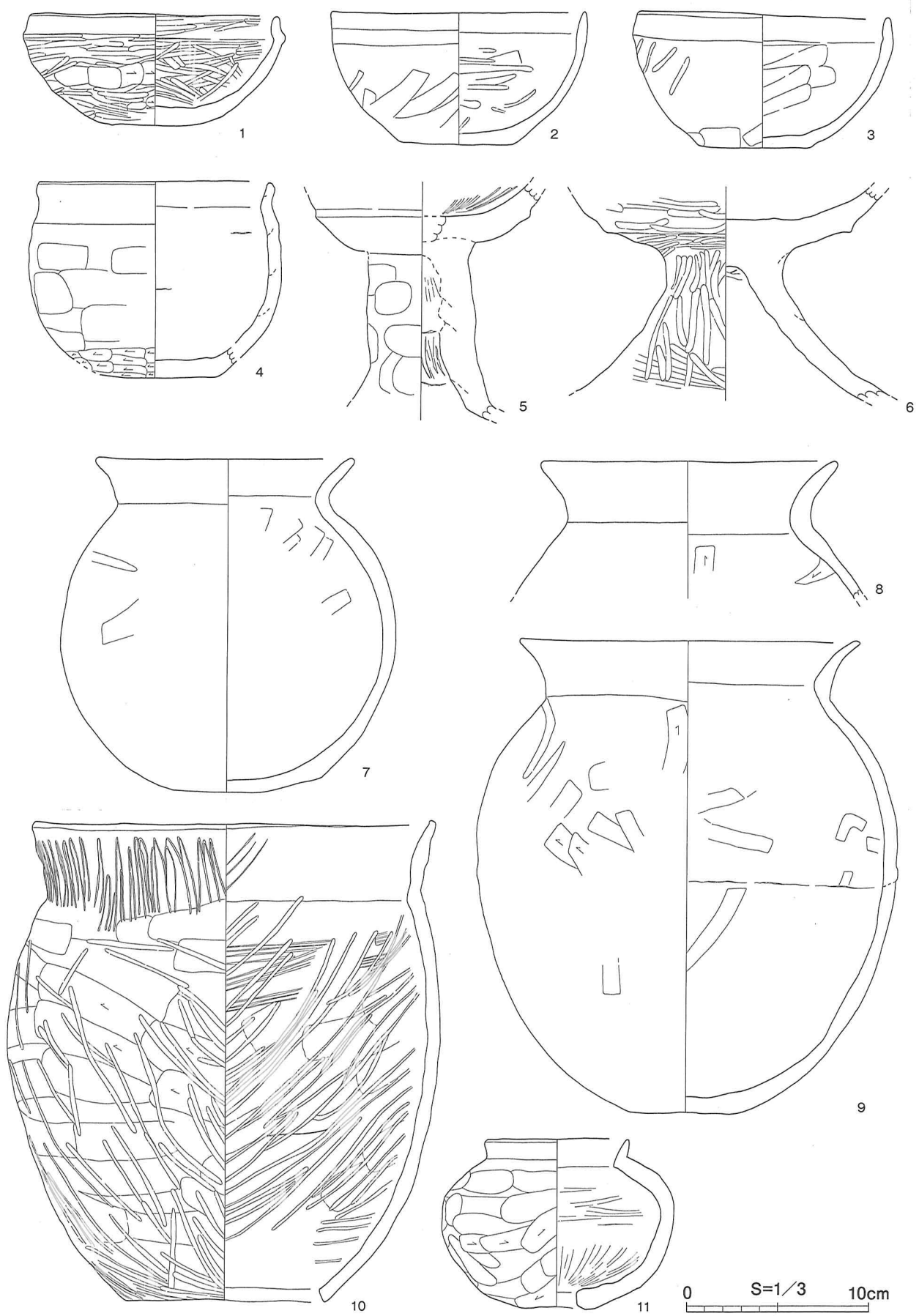
第43図 SI02出土遺物



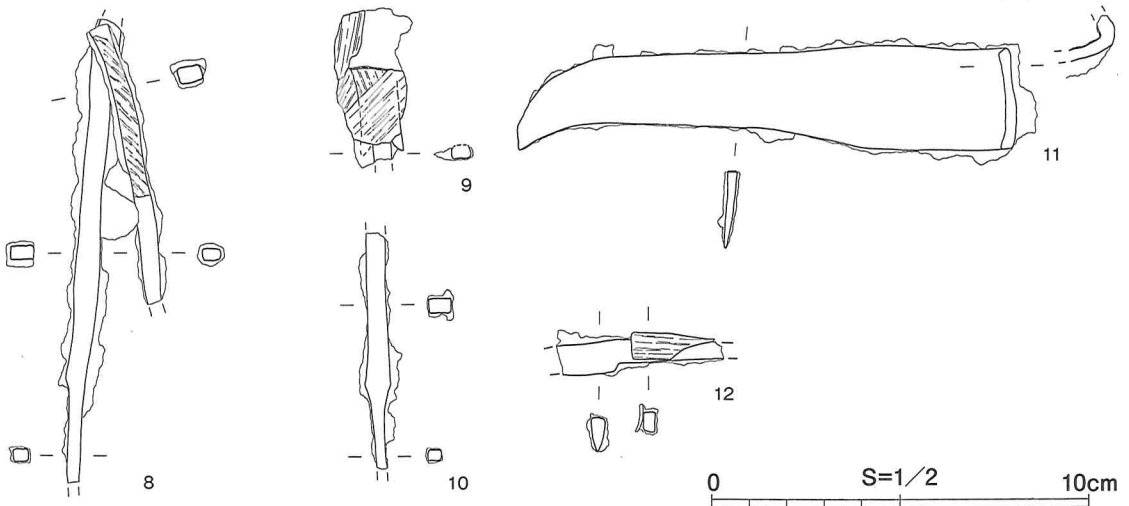
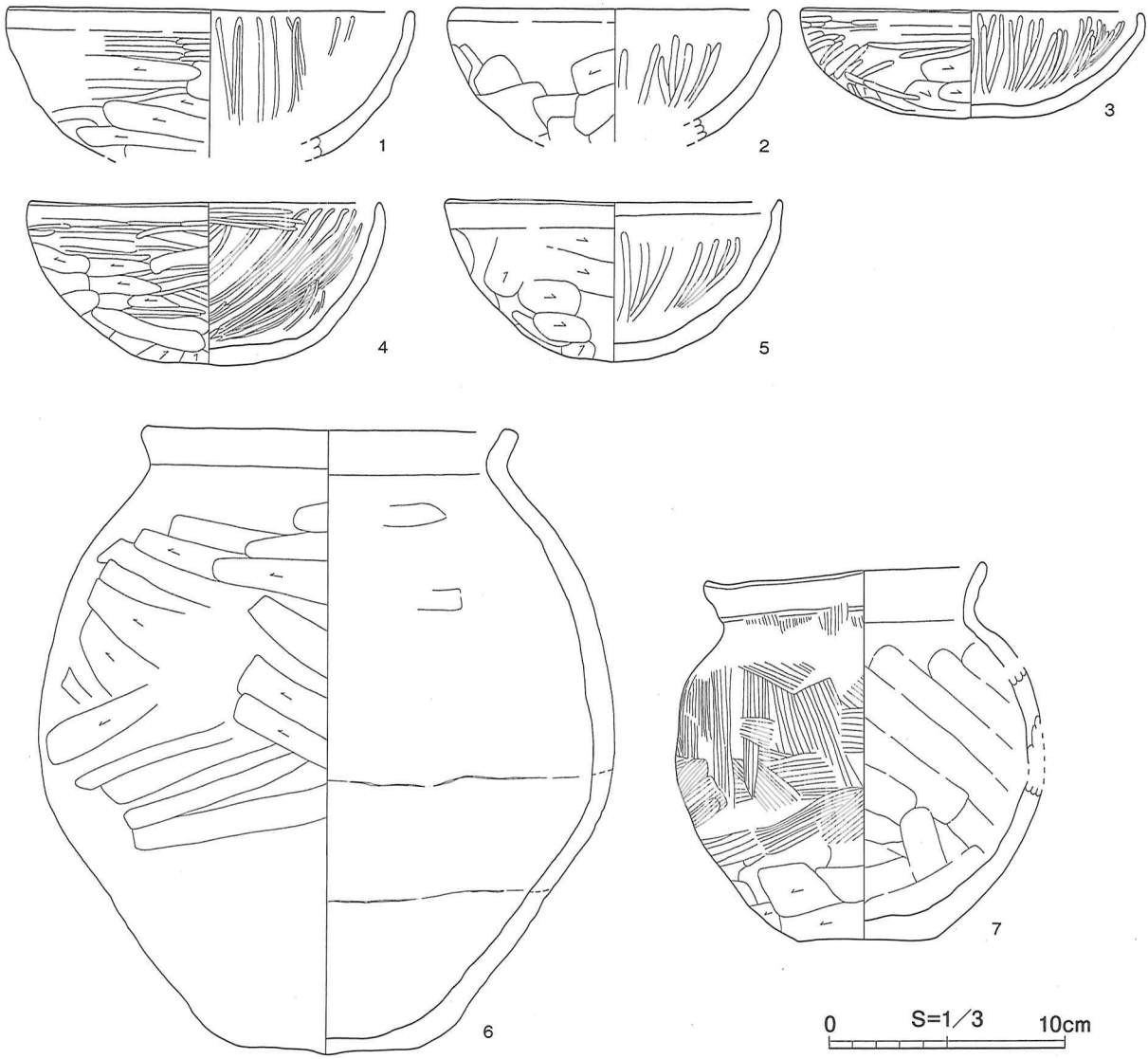
第45図 SI04出土遺物



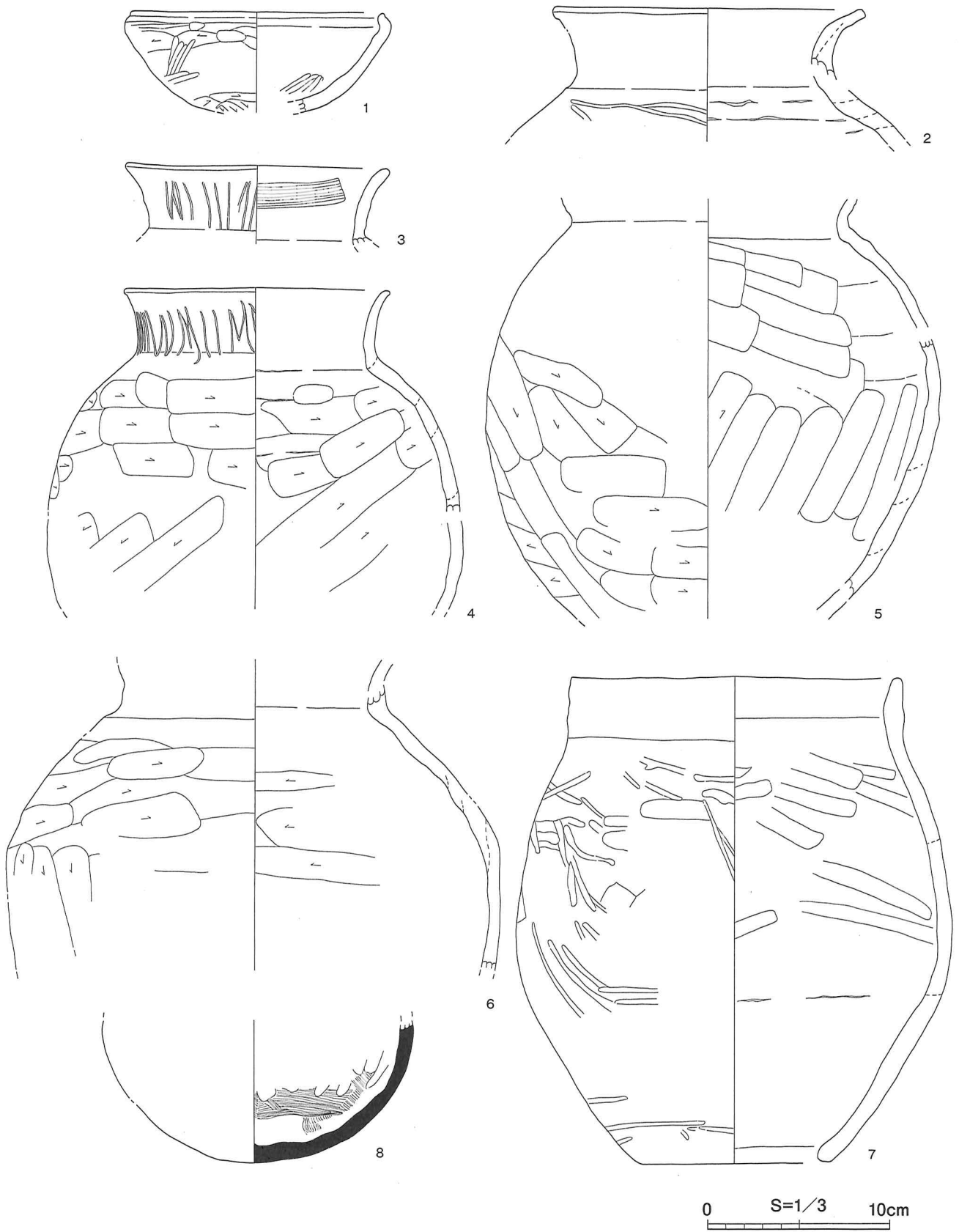
第50図 SI08出土遺物



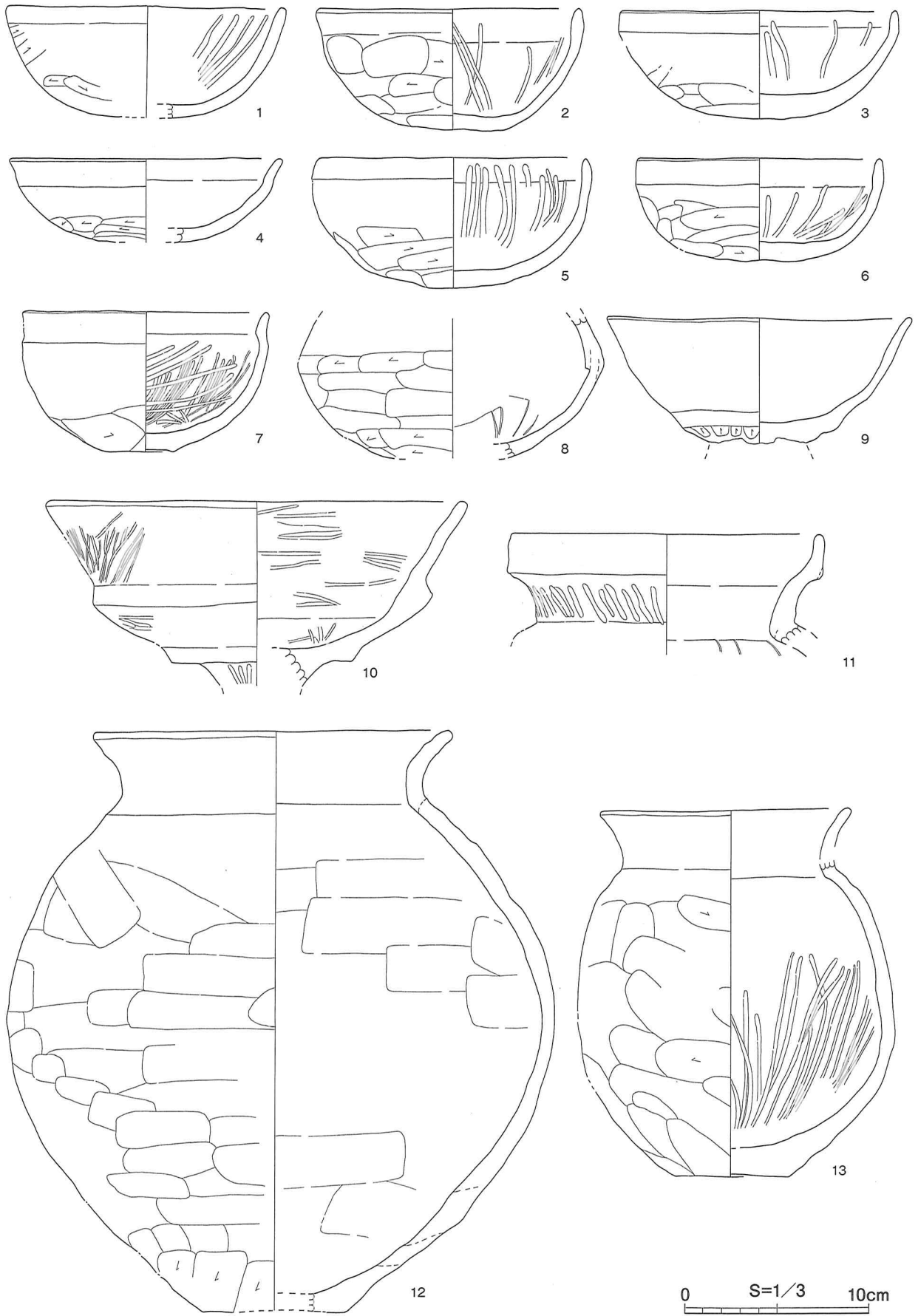
第44图 SI03出土遺物



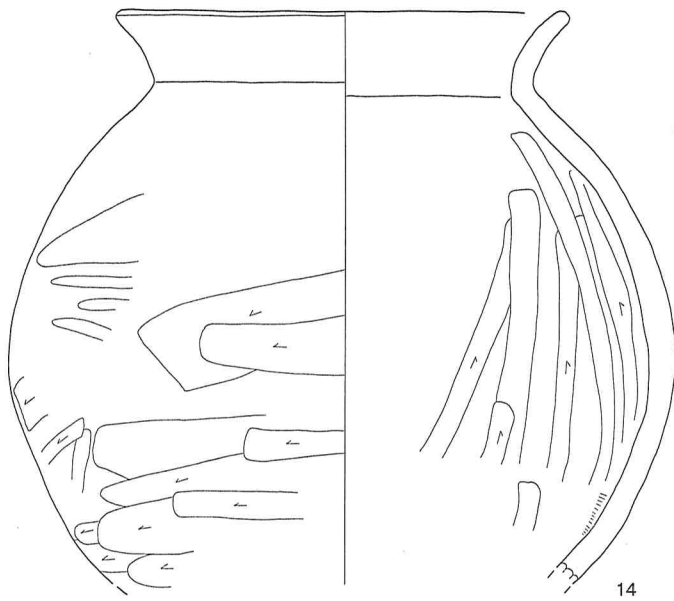
第46図 SI05出土遺物



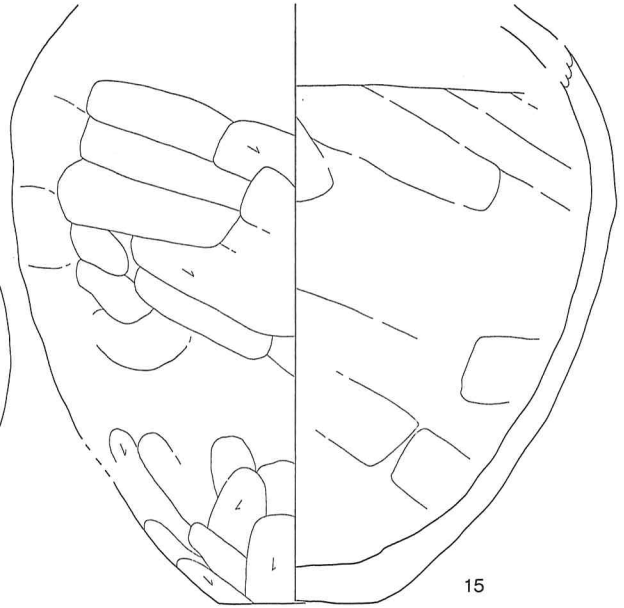
第47図 SI06出土遺物



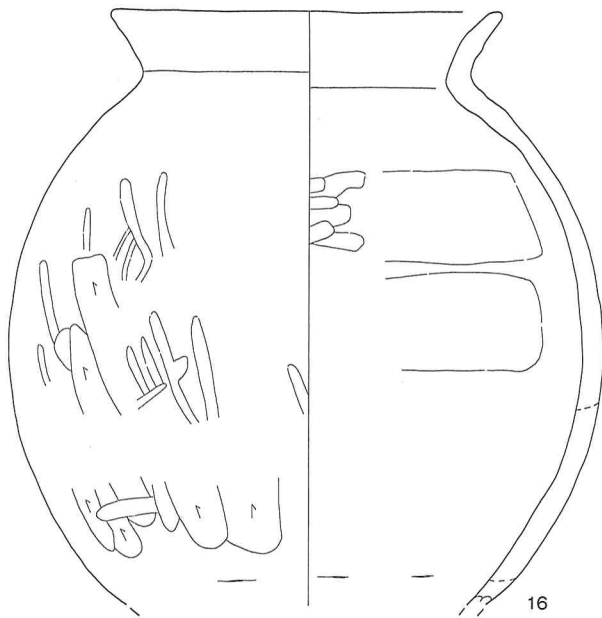
第48图 SI07出土遗物 (1)



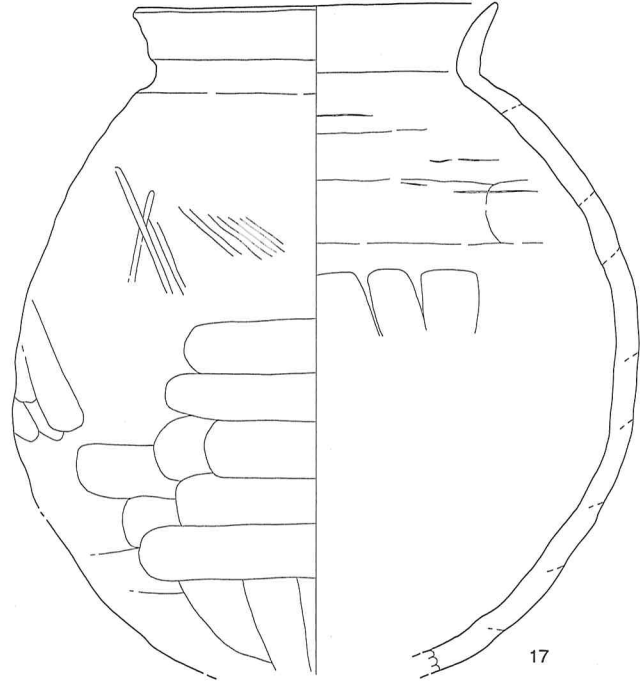
14



15

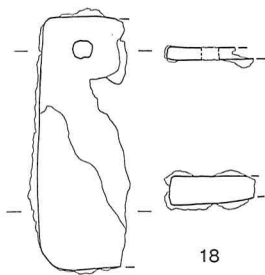


16

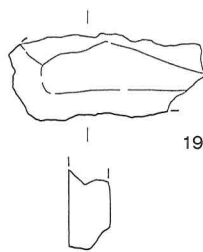


17

0 S=1/3 10cm



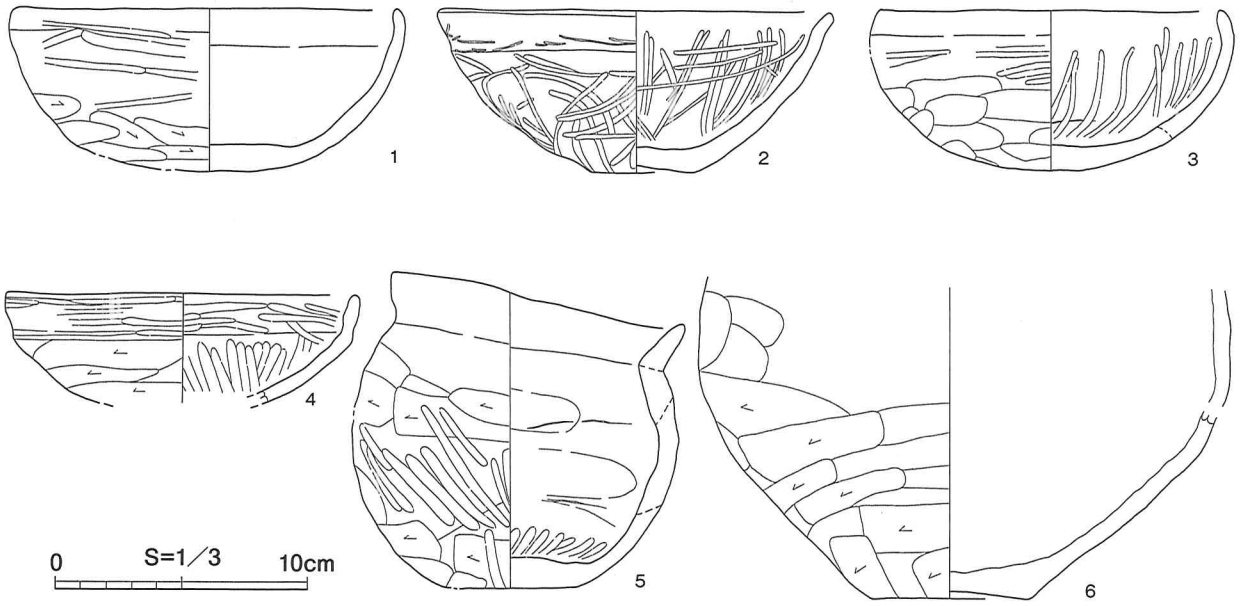
18



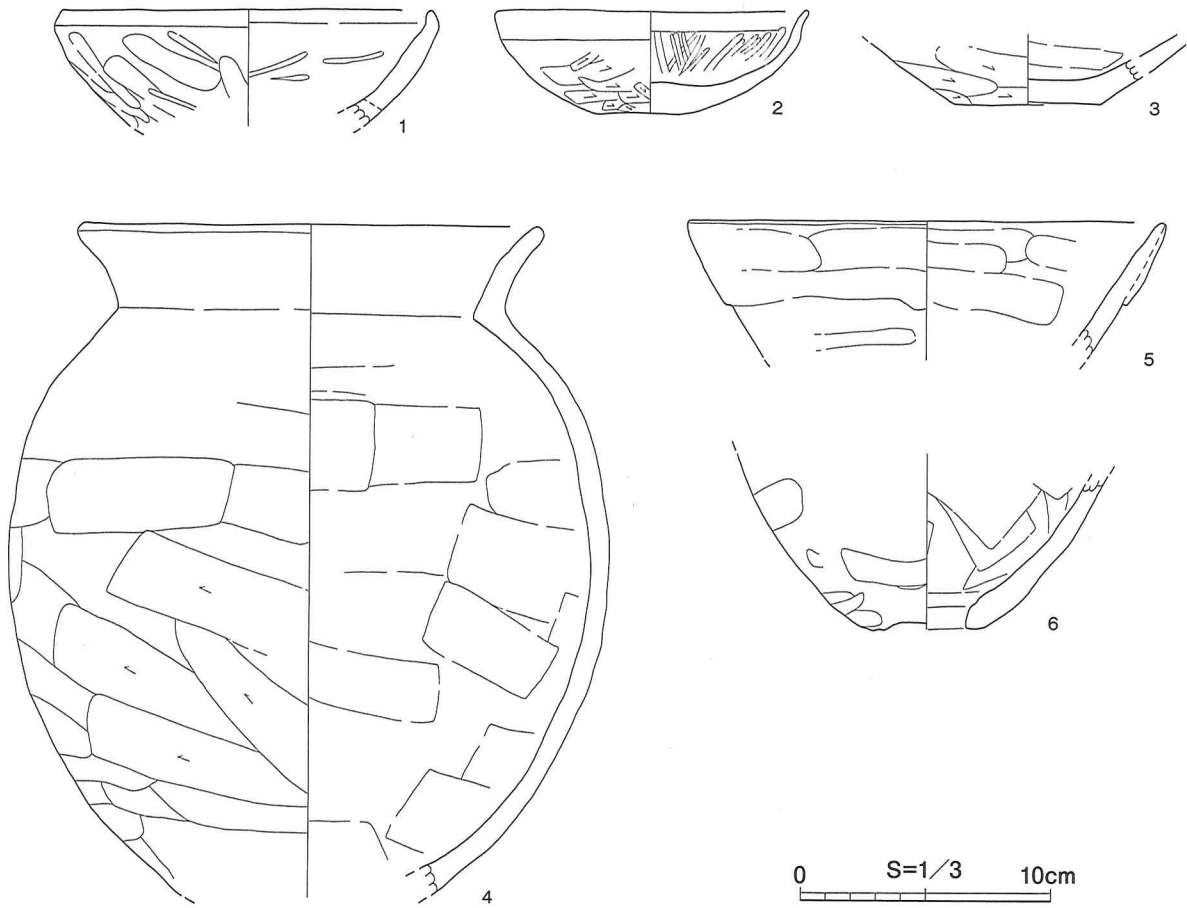
19

0 S=1/2 10cm

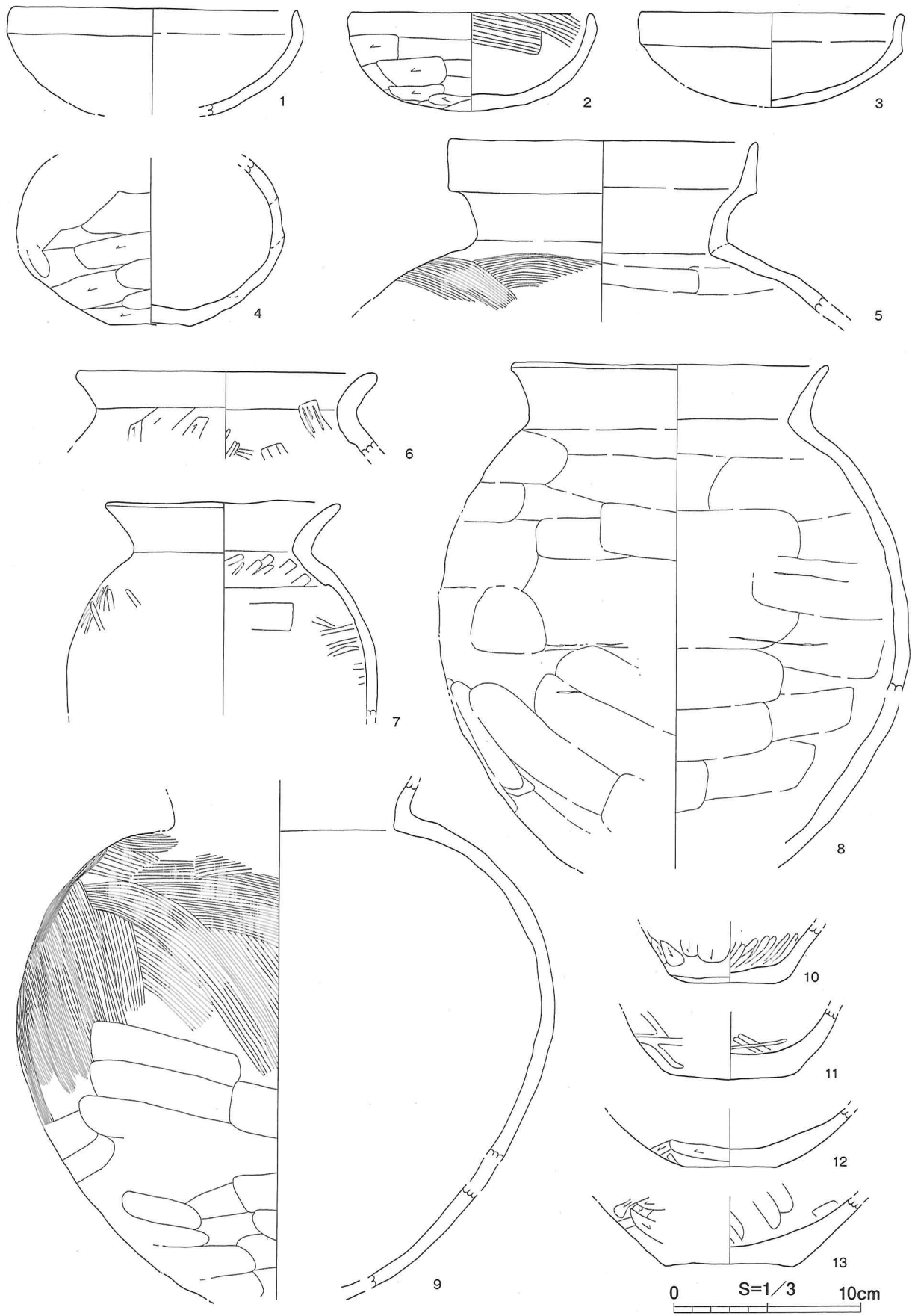
第49図 SI07出土遺物 (2)



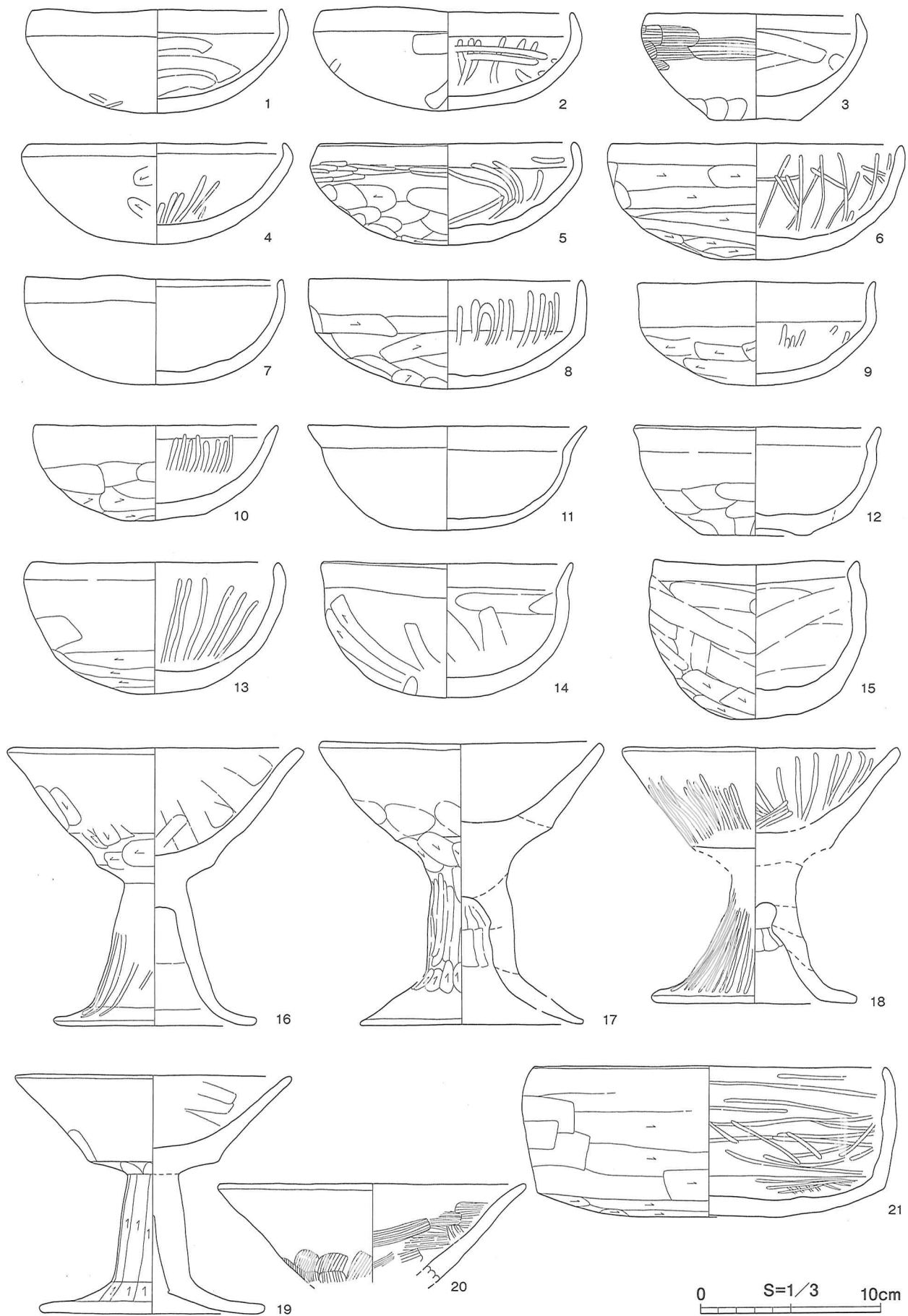
第51図 SI09出土遺物



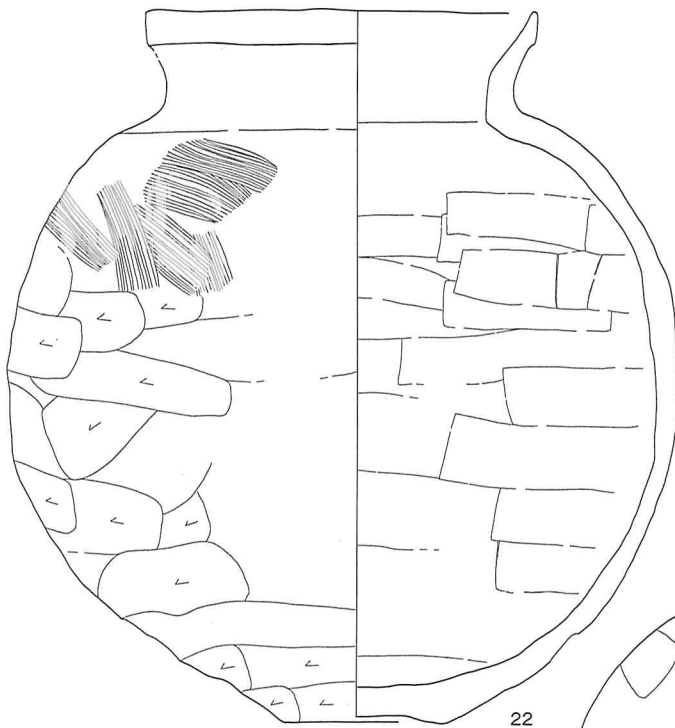
第53図 SI11出土遺物



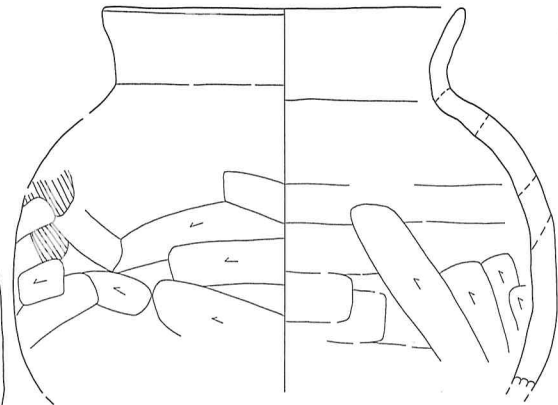
第52图 SI10出土遺物



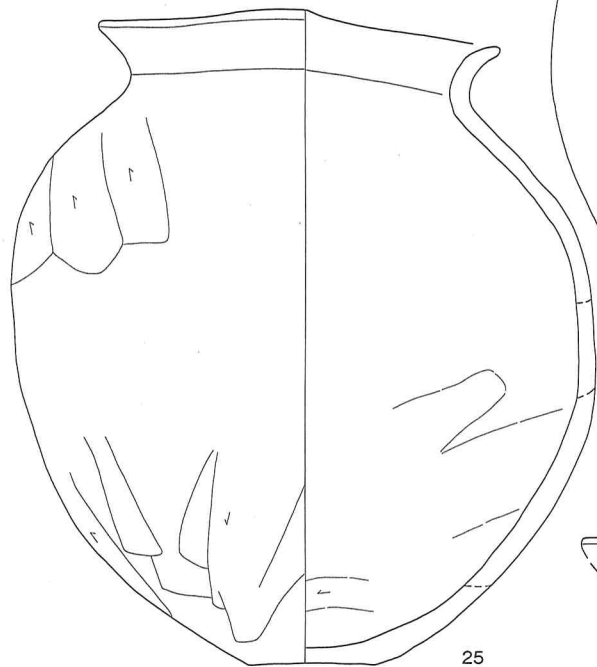
第54図 SI12出土遺物 (1)



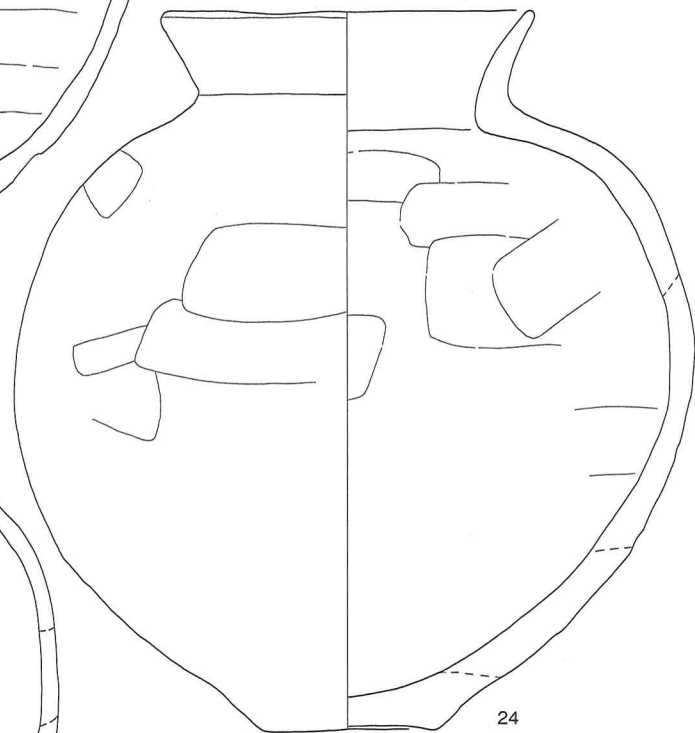
22



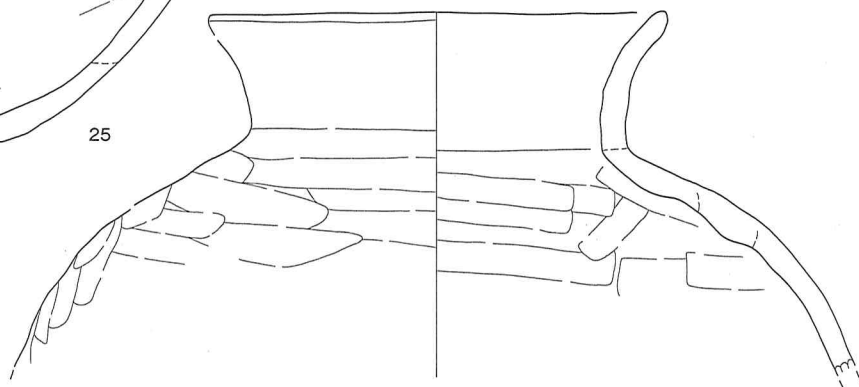
23



25



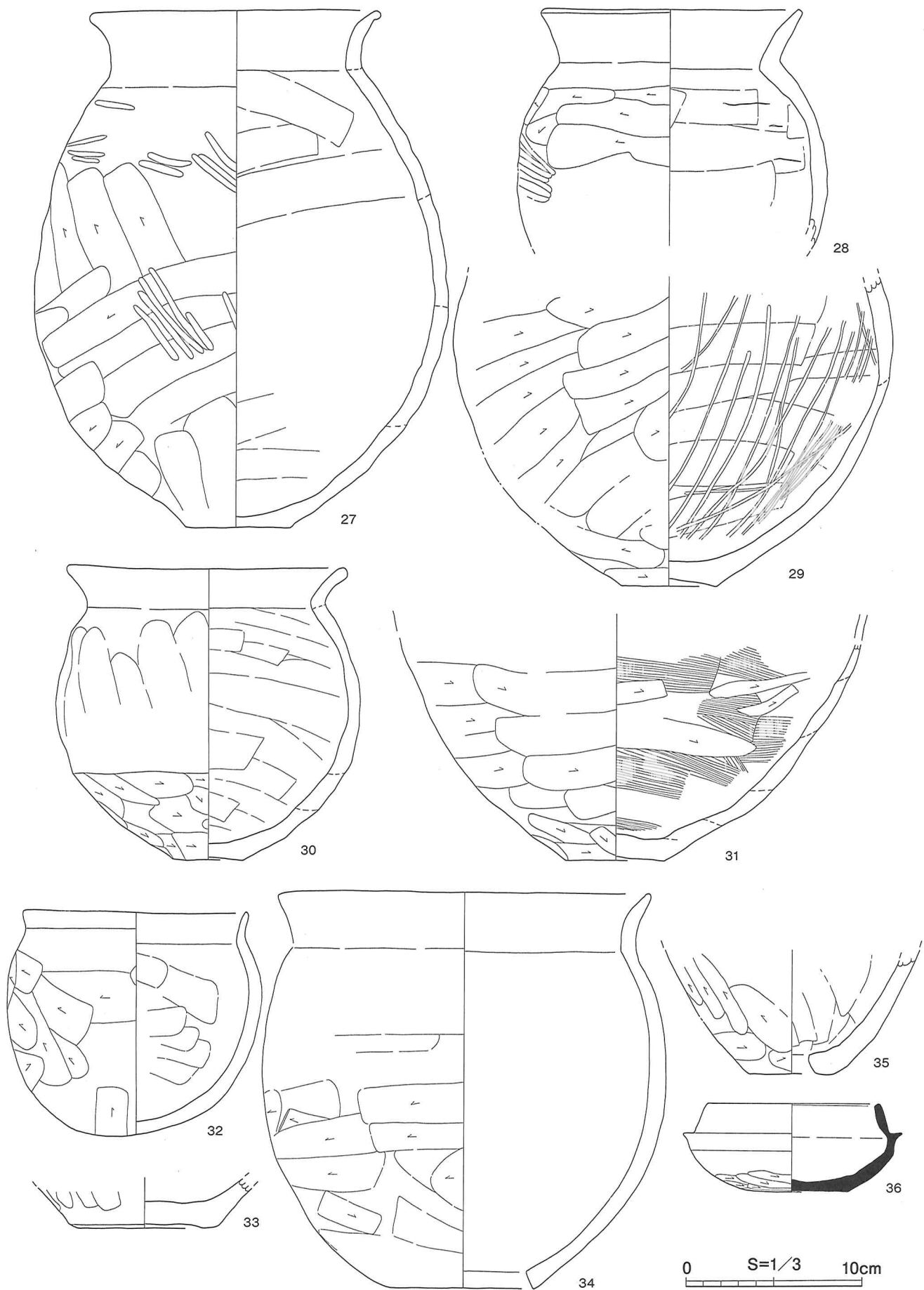
24



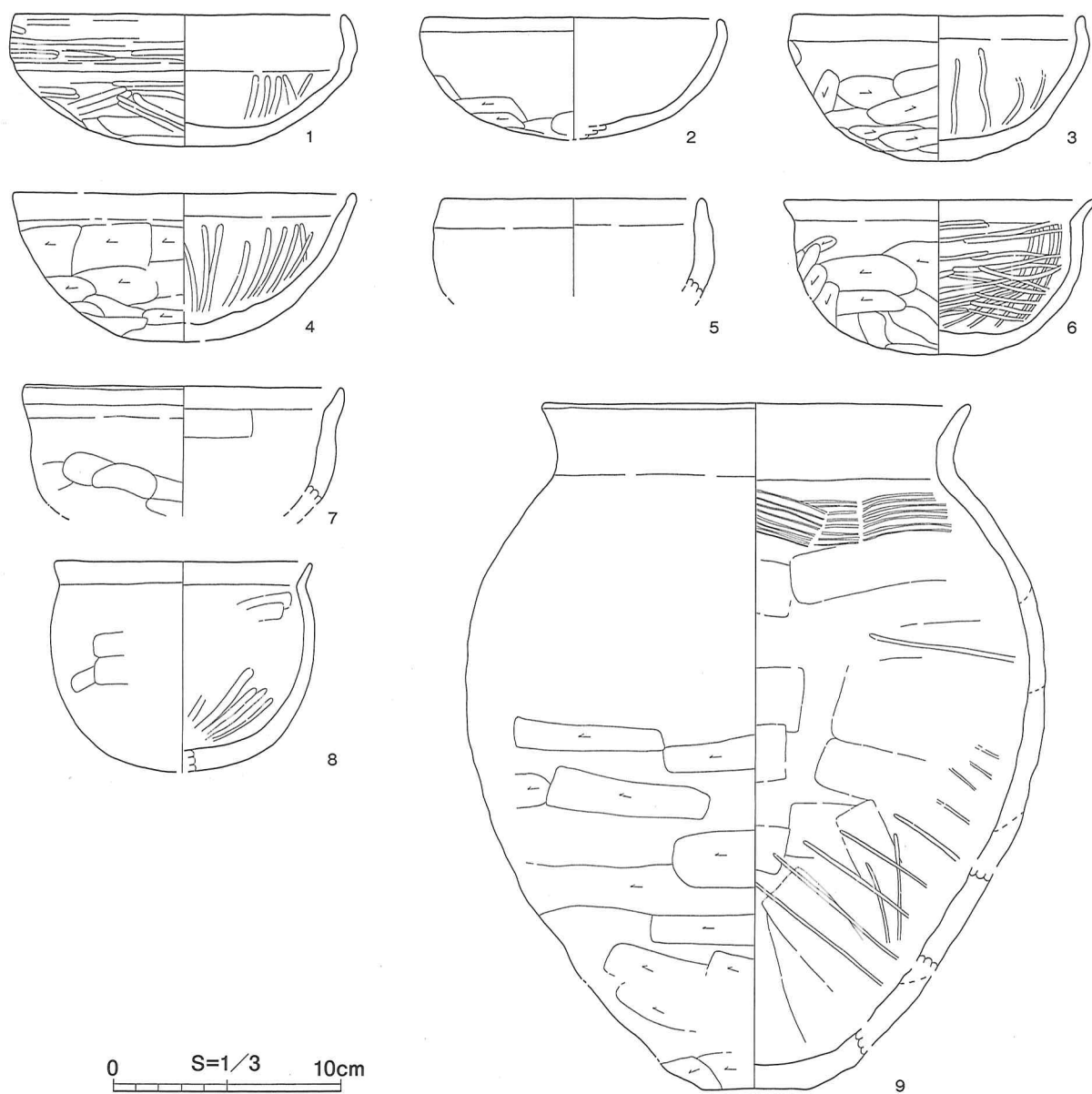
26

0 S=1/3 10cm

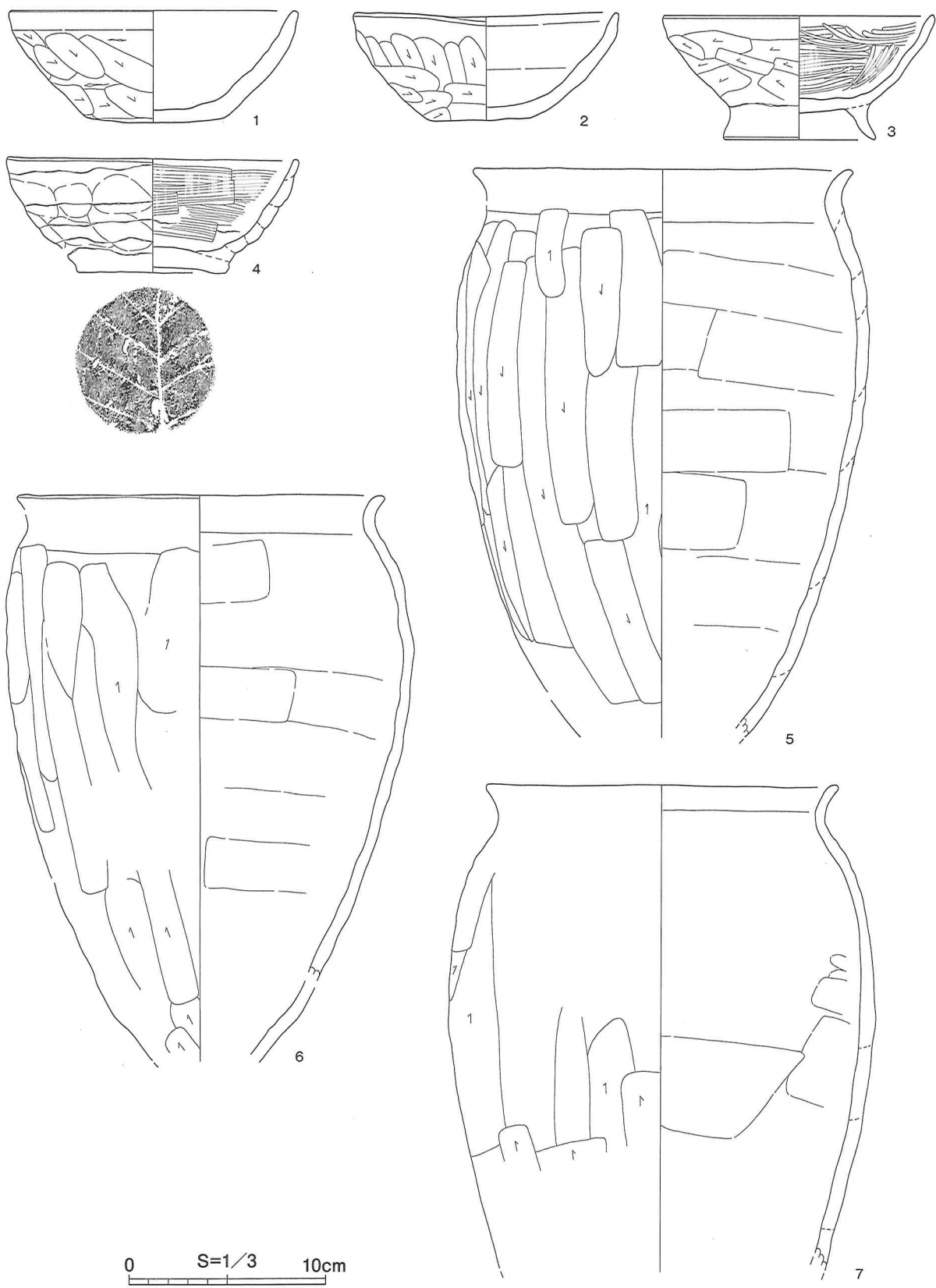
第55図 SI12出土遺物(2)



第56图 SI12出土遺物 (3)

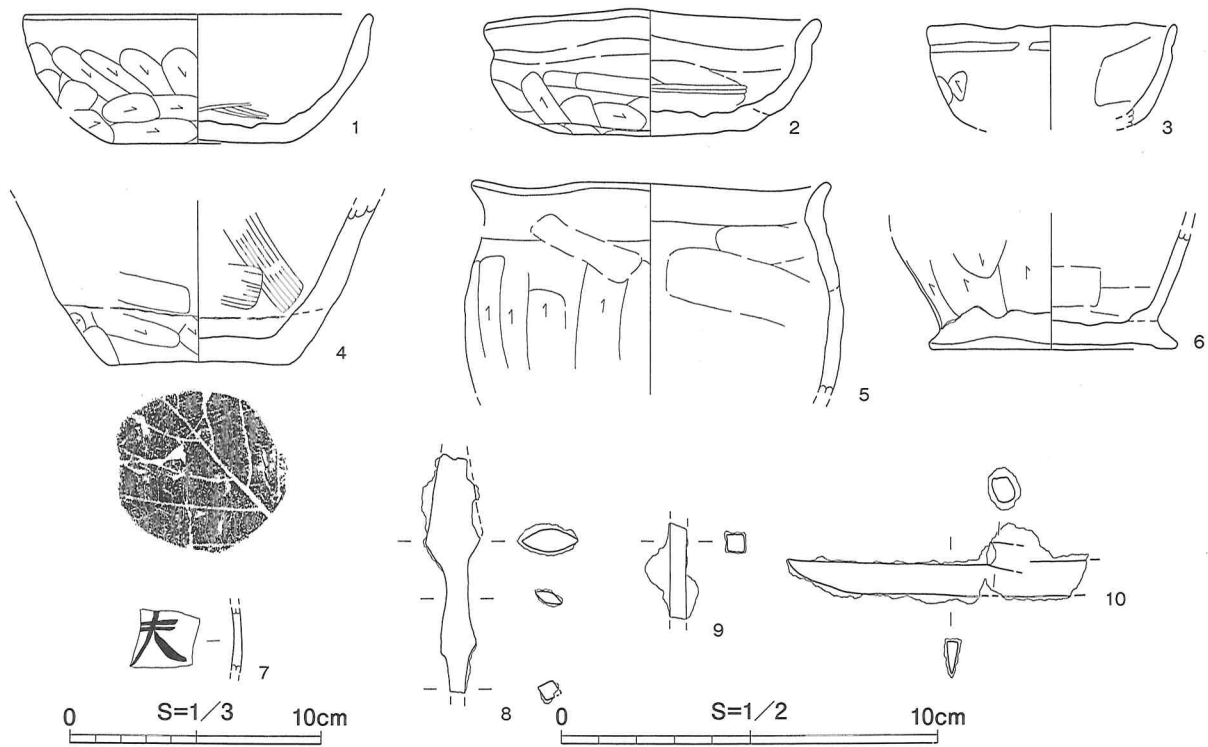


第57图 SI13出土遺物

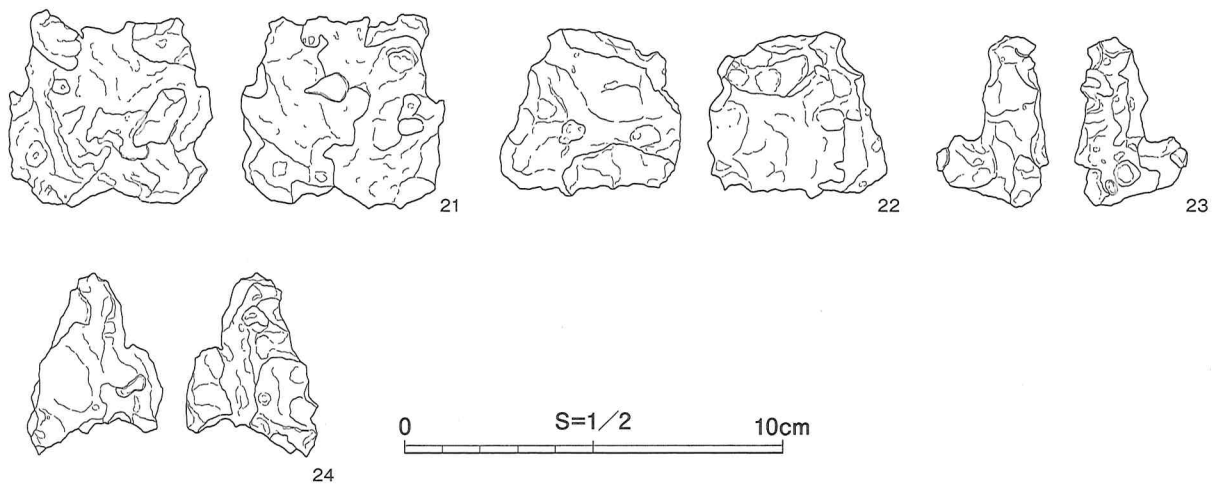


0 S=1/3 10cm

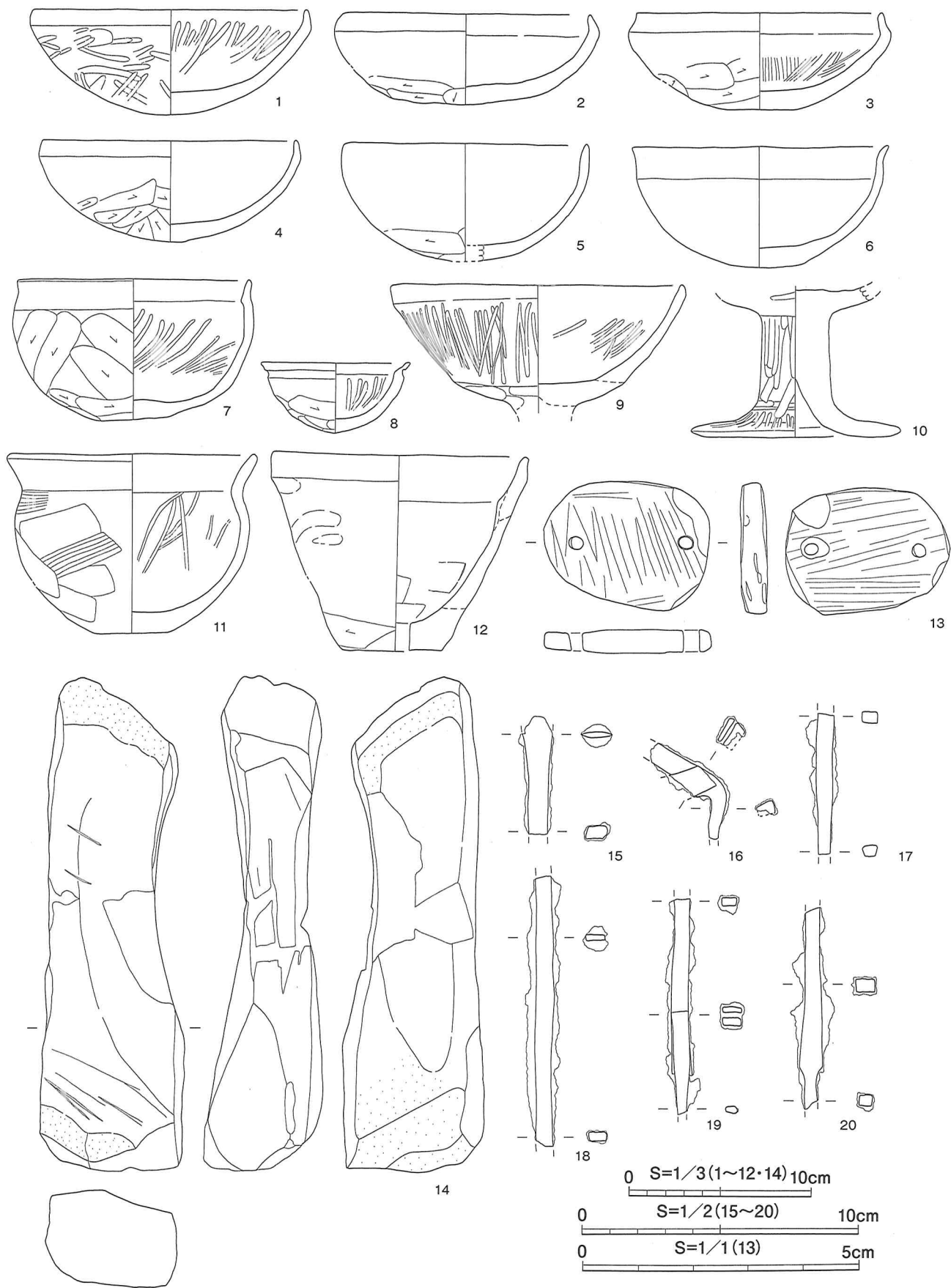
第58図 S114出土遺物



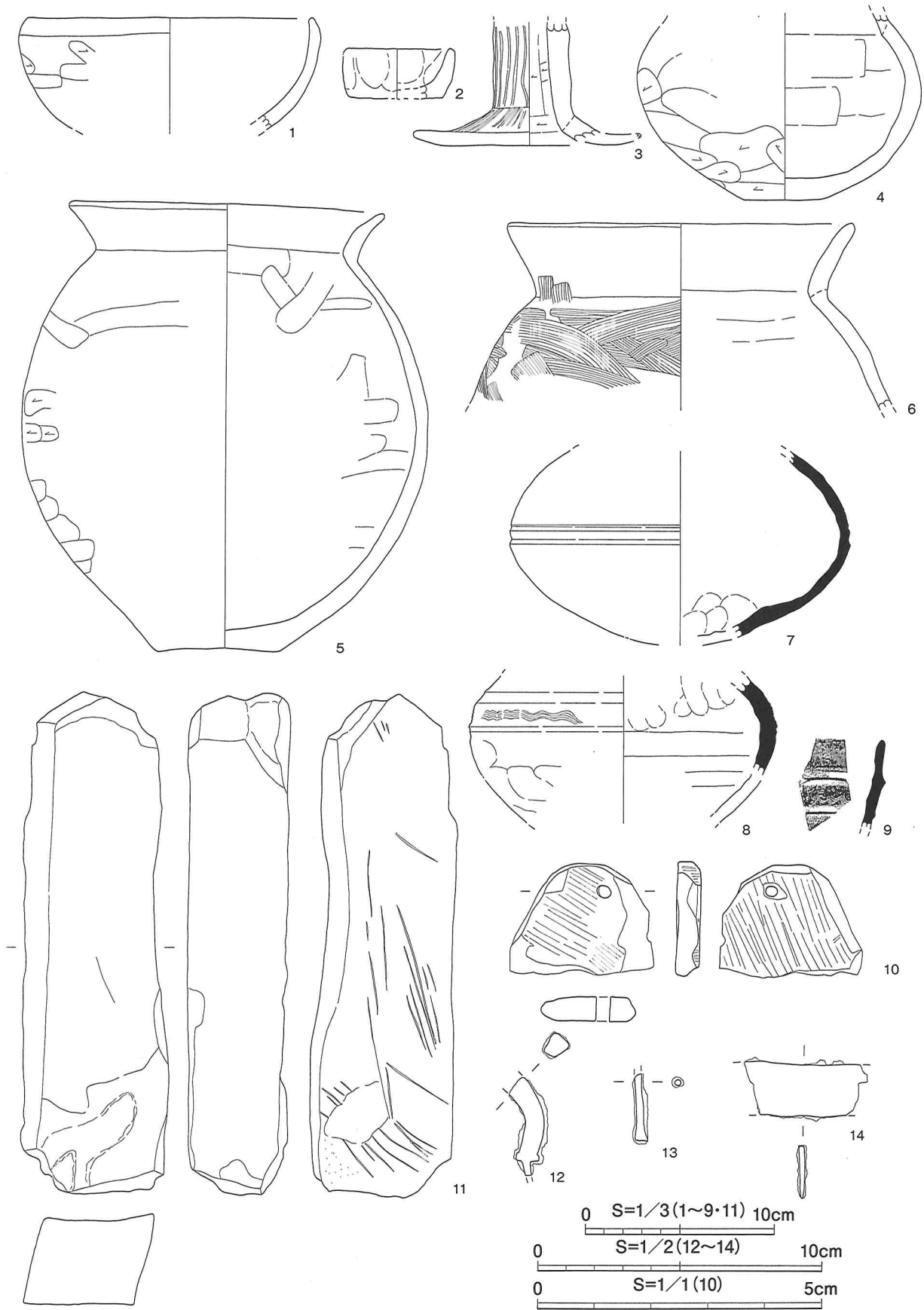
第59図 SI15出土遺物



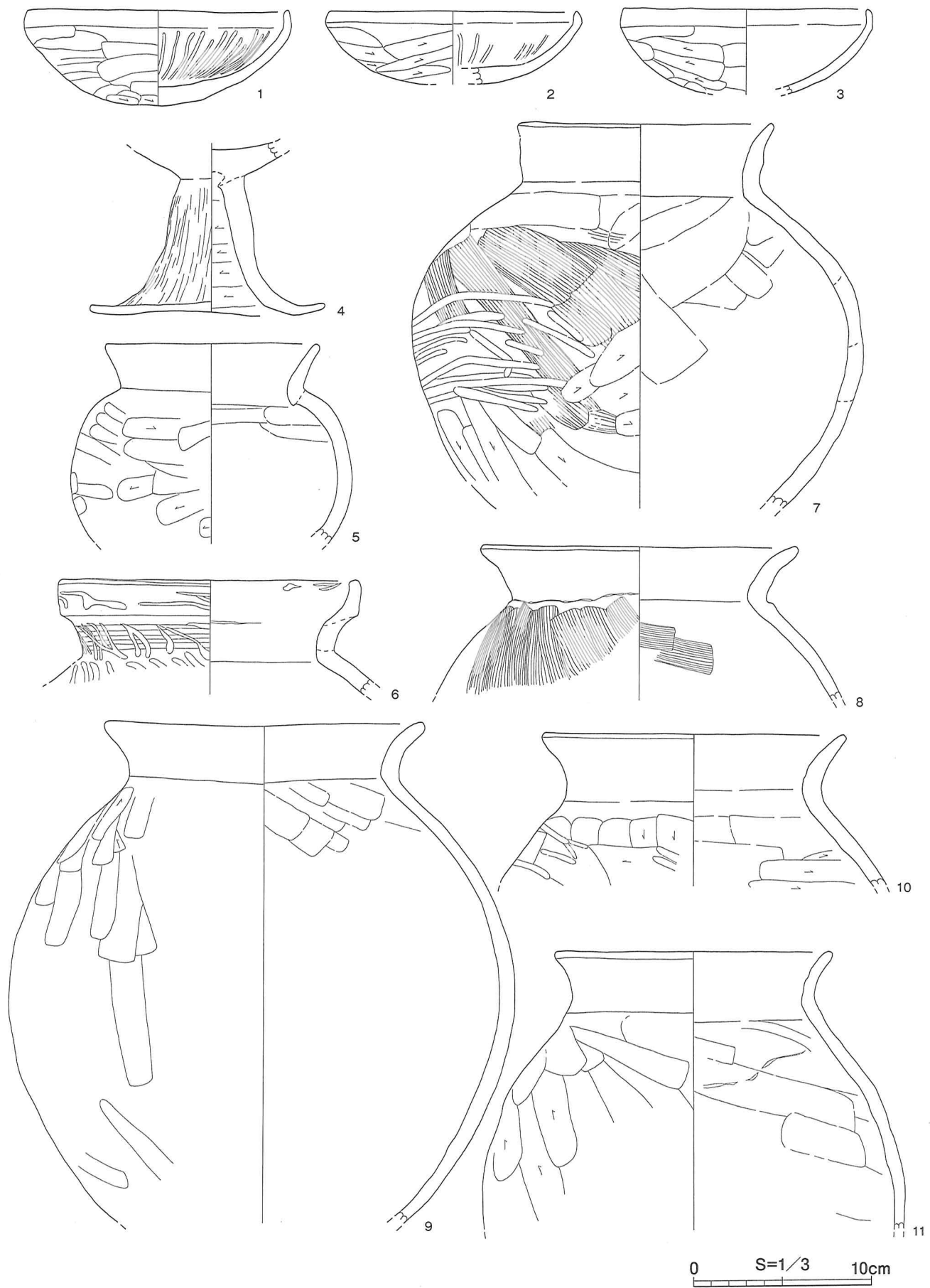
第61図 SI16出土遺物 (2)



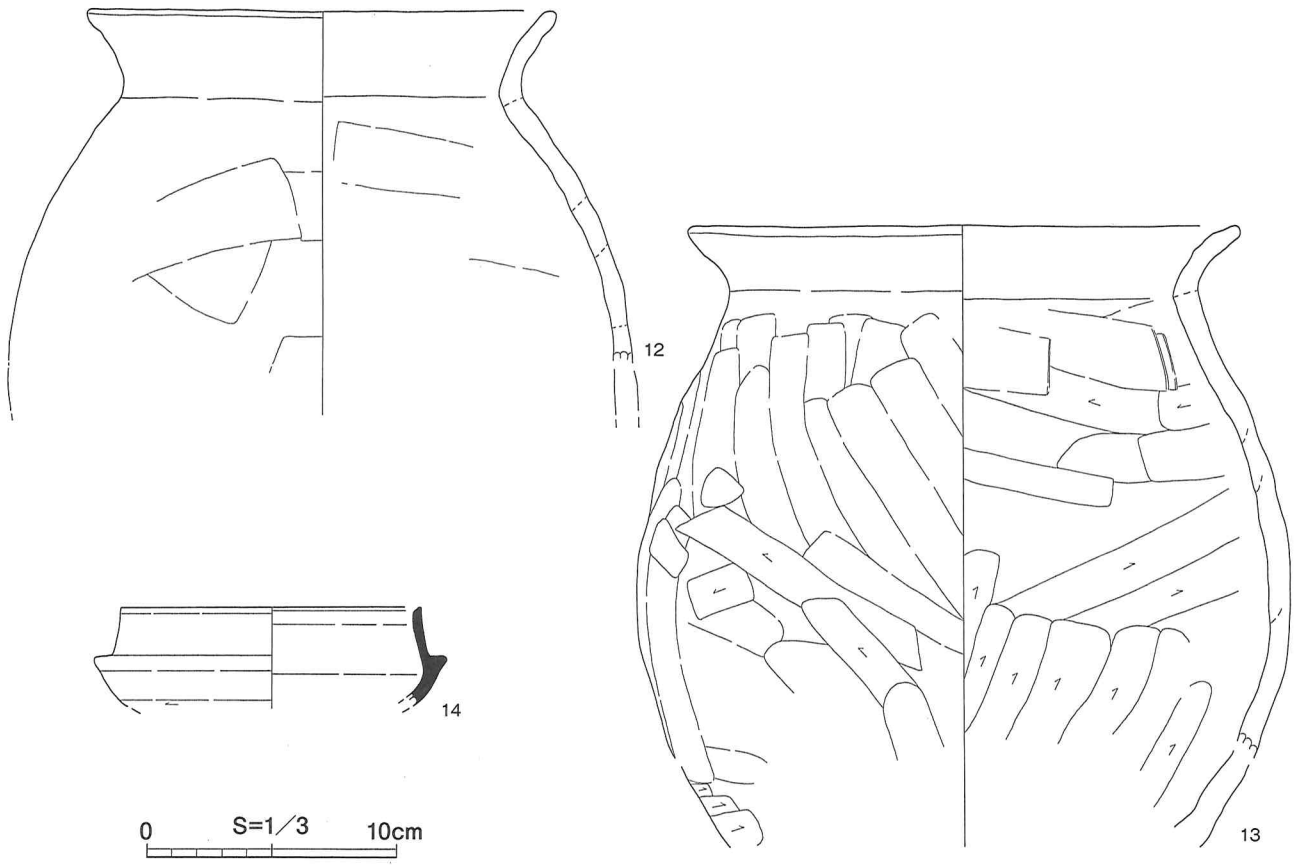
第60图 SI16出土遺物 (1)



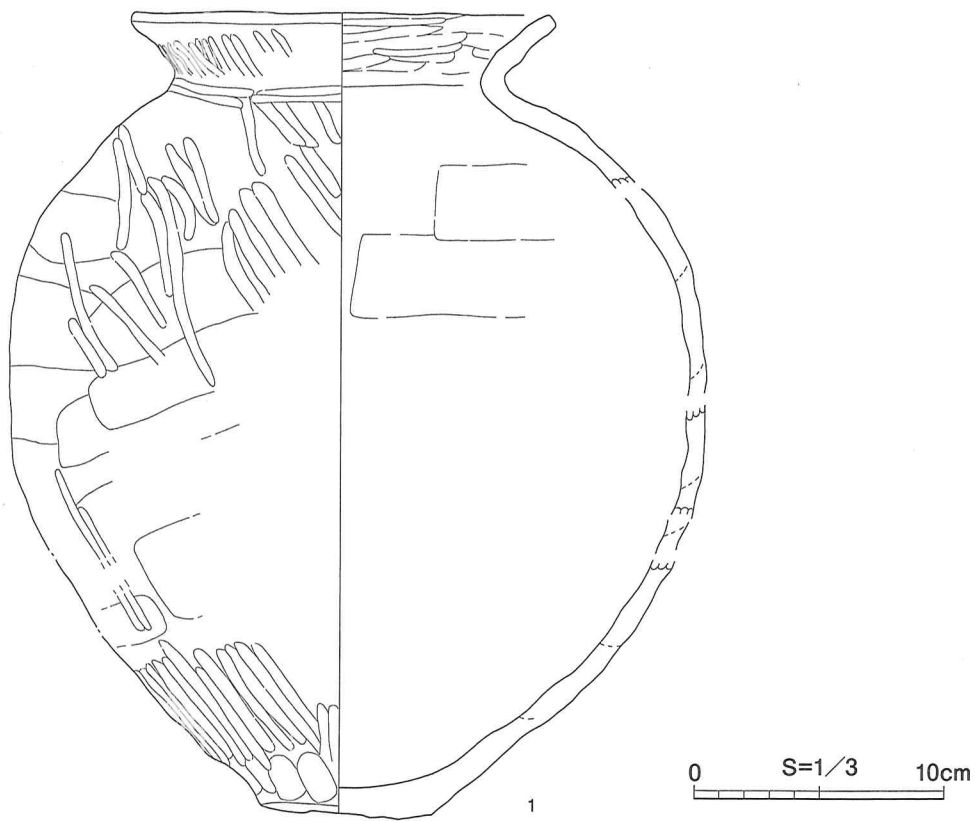
第62図 SI17出土遺物



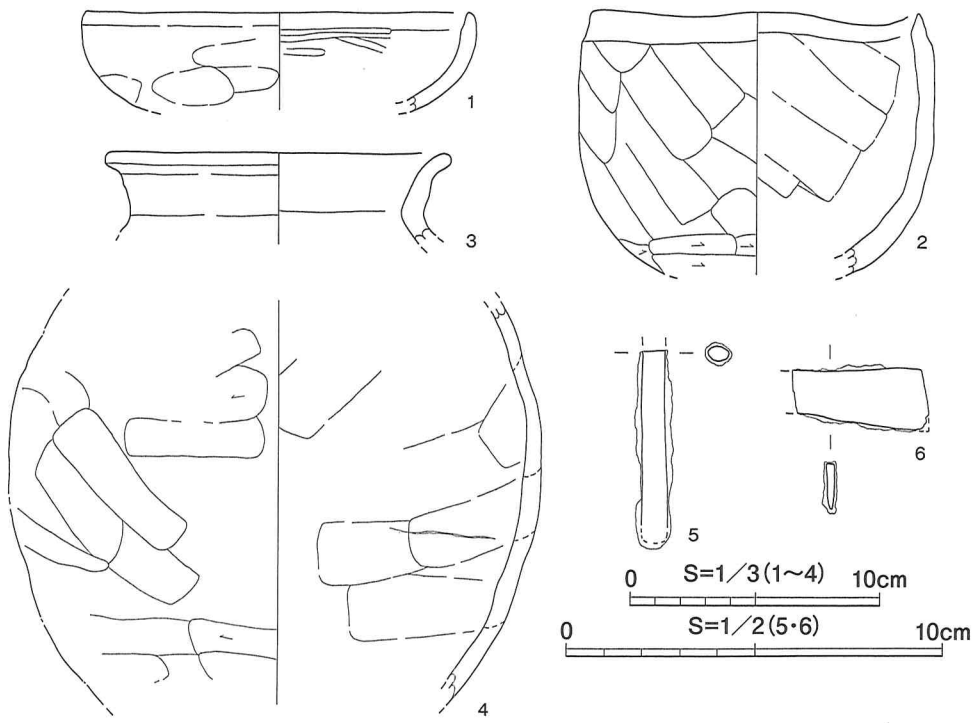
第64图 SI19出土遺物 (1)



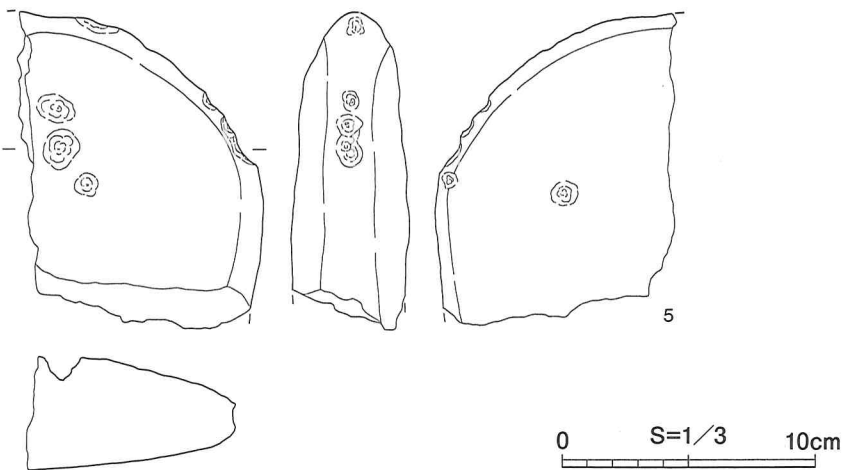
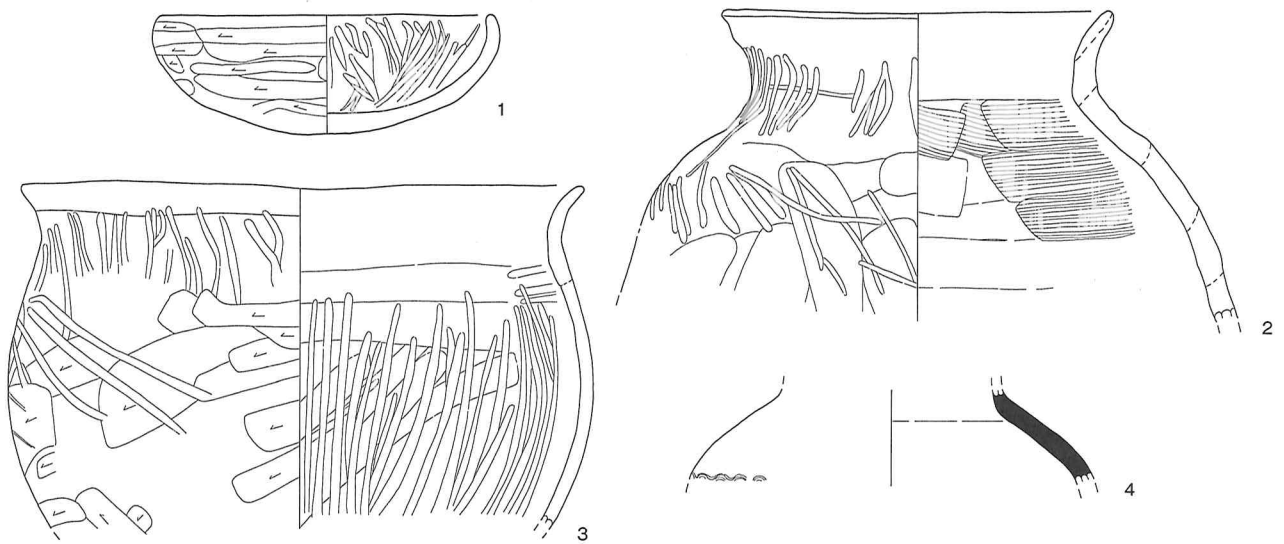
第65図 SI19出土遺物 (2)



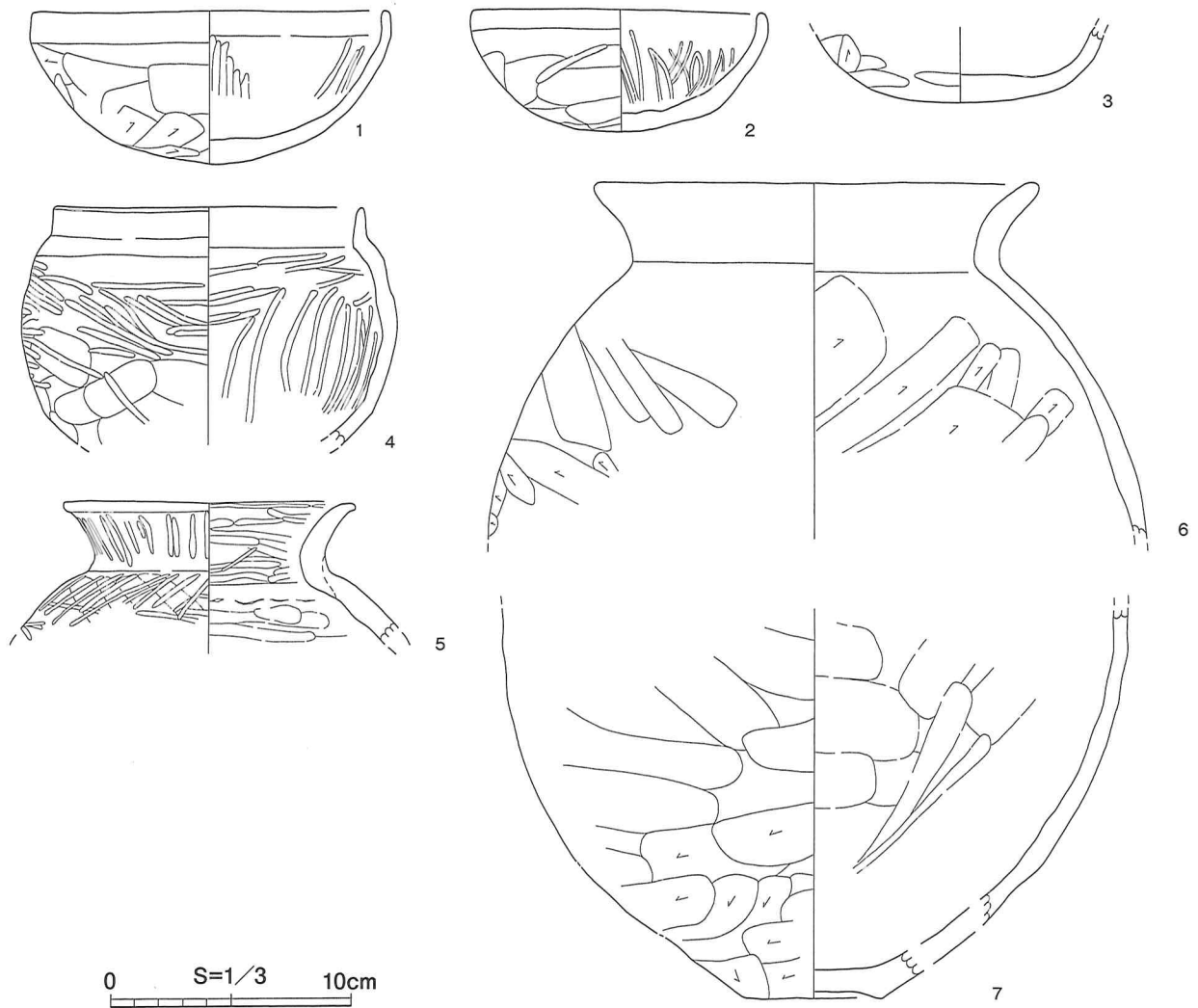
第66図 SI20出土遺物



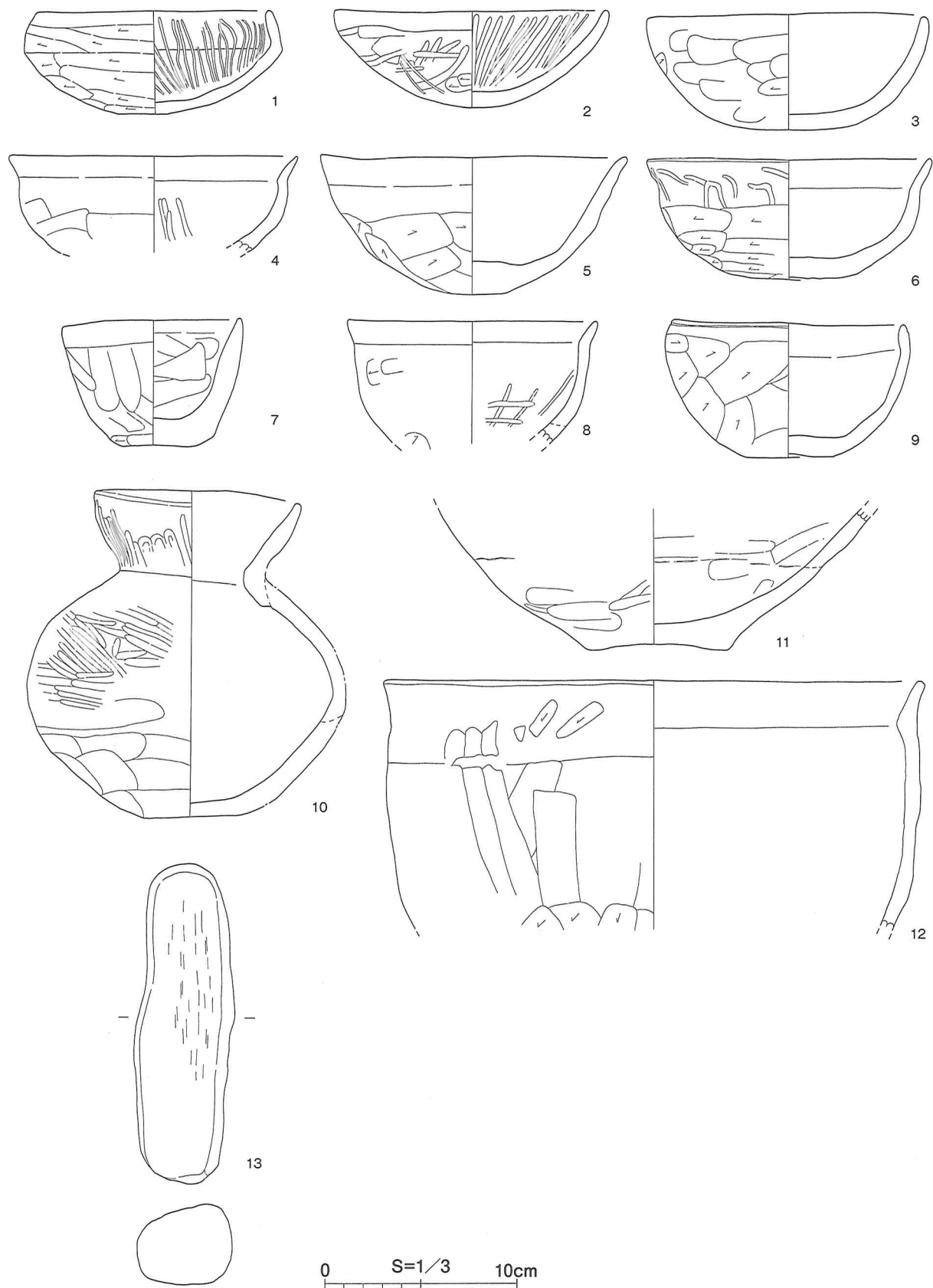
第63図 SI18出土遺物



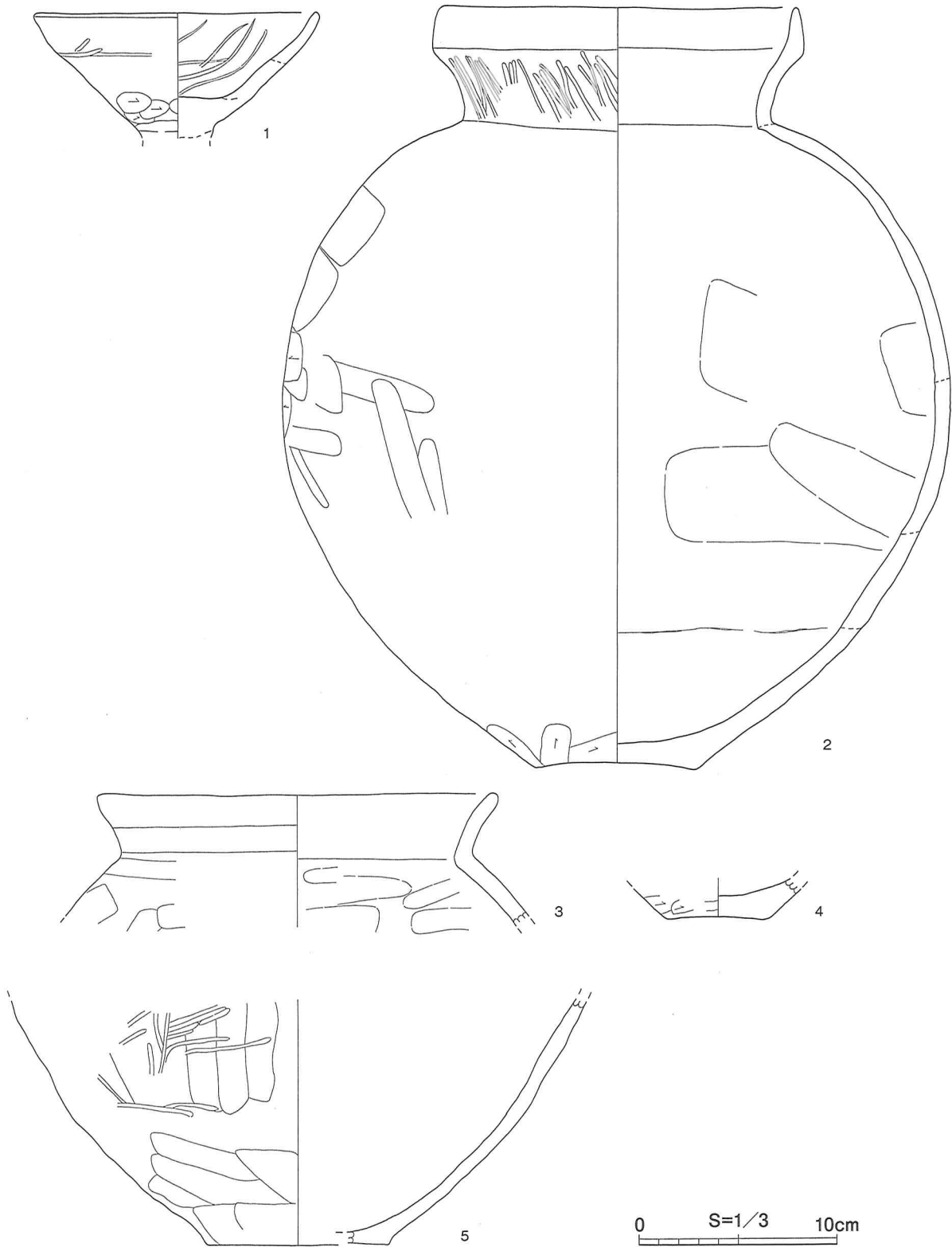
第67図 SI21出土遺物



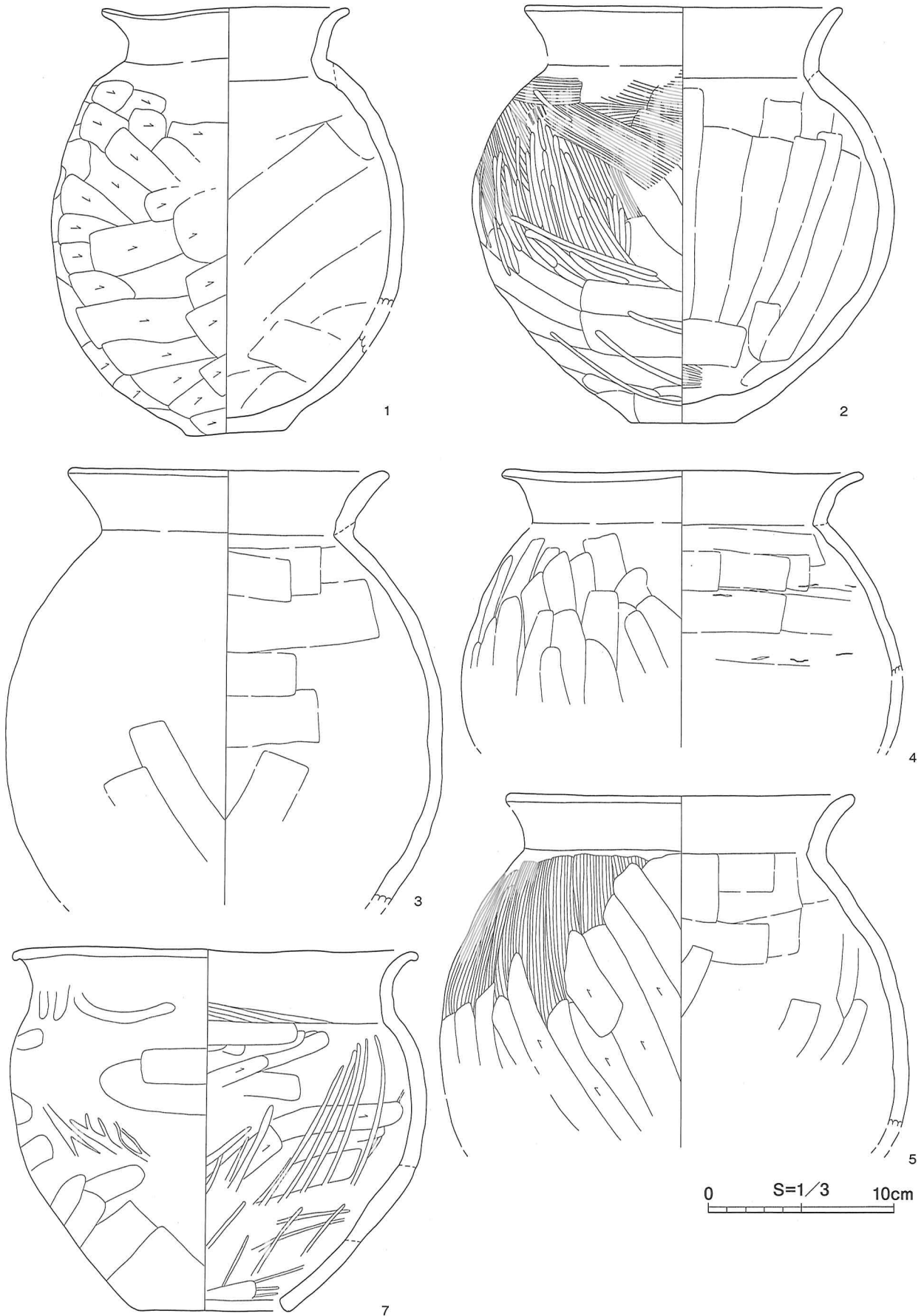
第68図 SI22出土遺物



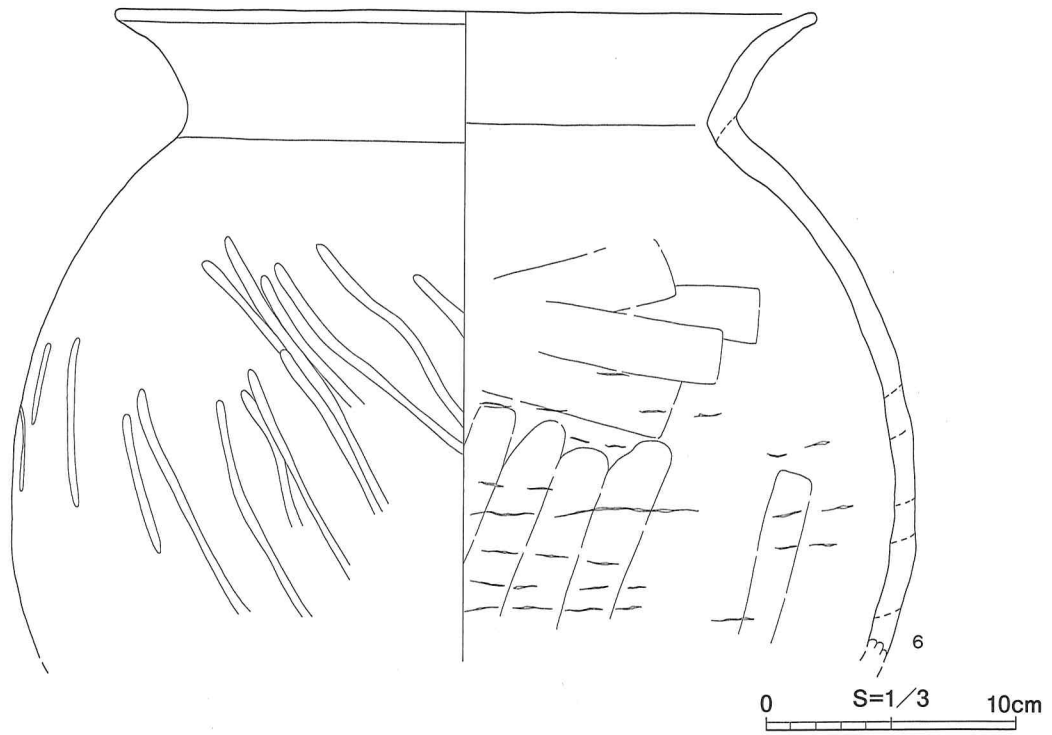
第69図 SI23出土遺物



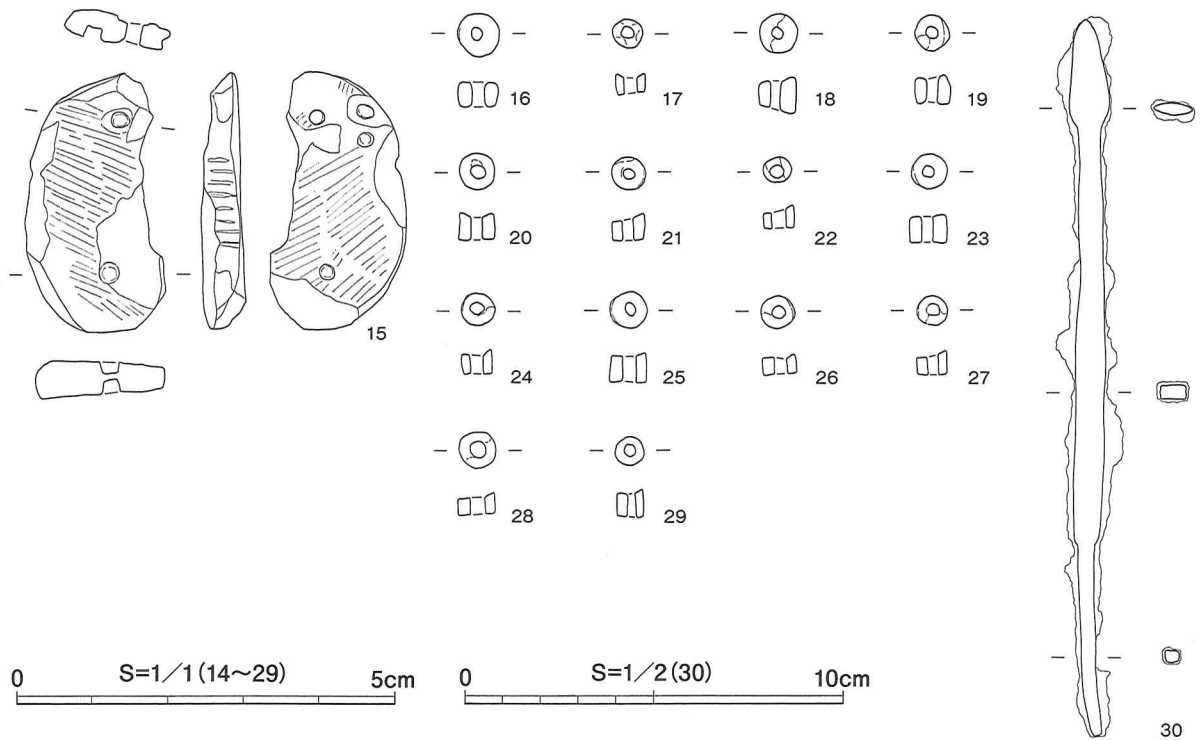
第70図 SI24出土遺物



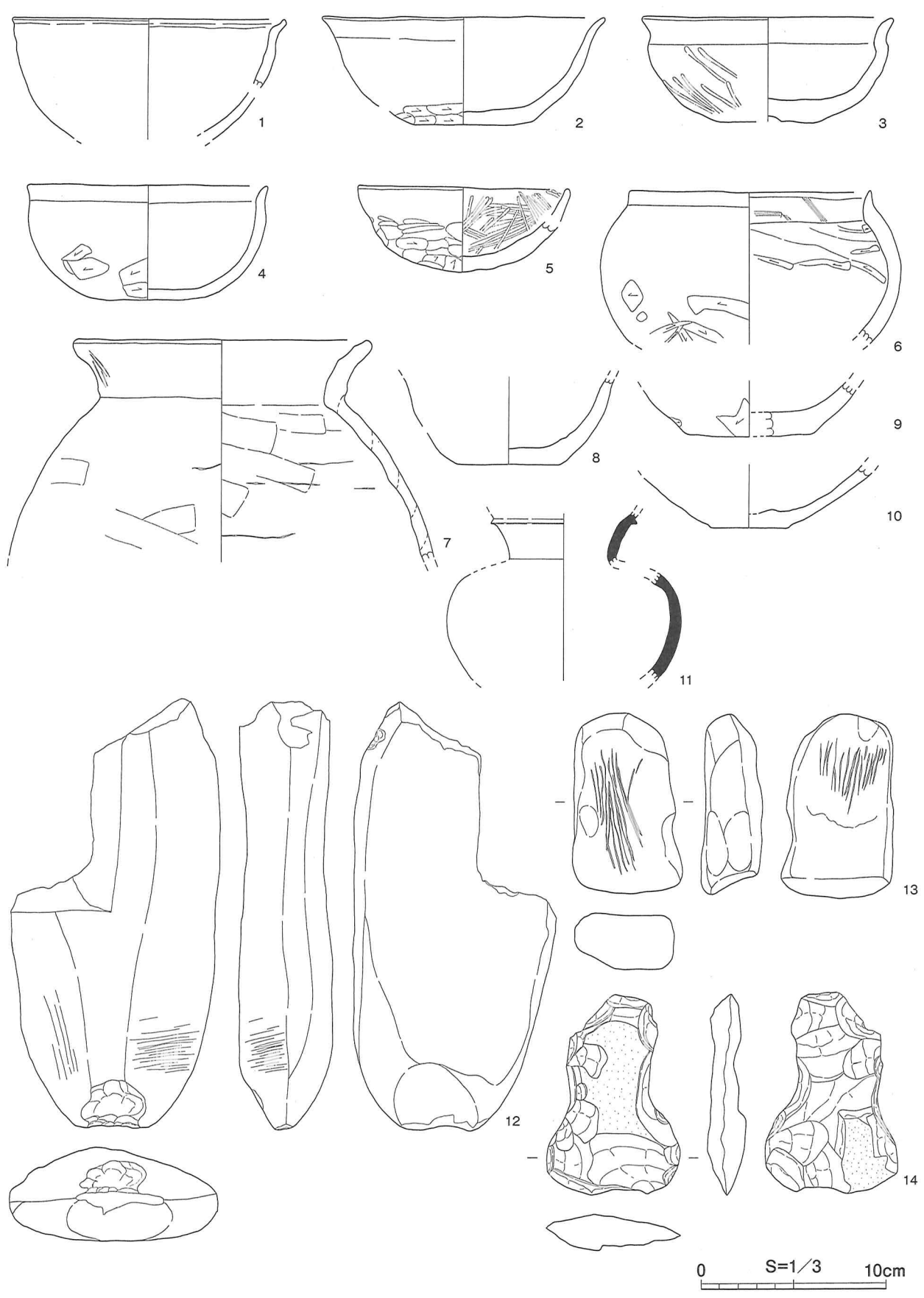
第71图 SI25出土遺物 (1)



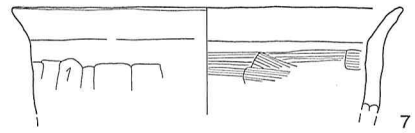
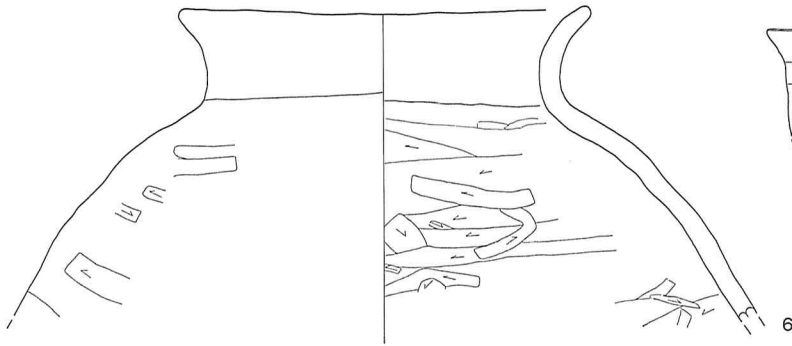
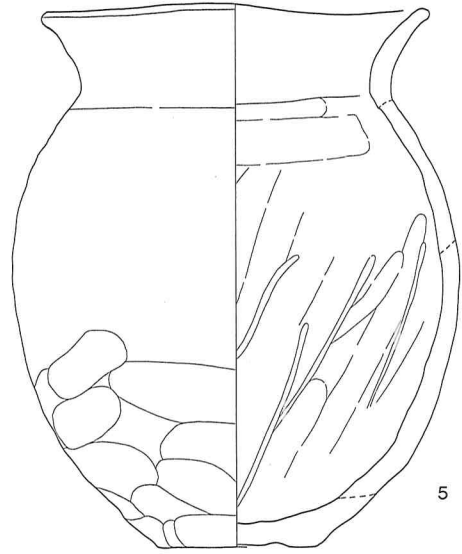
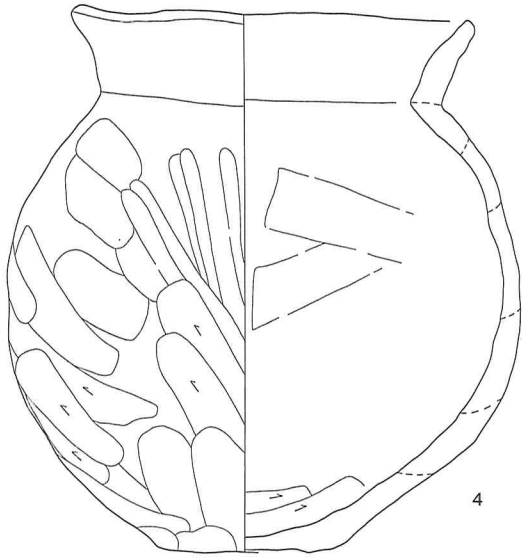
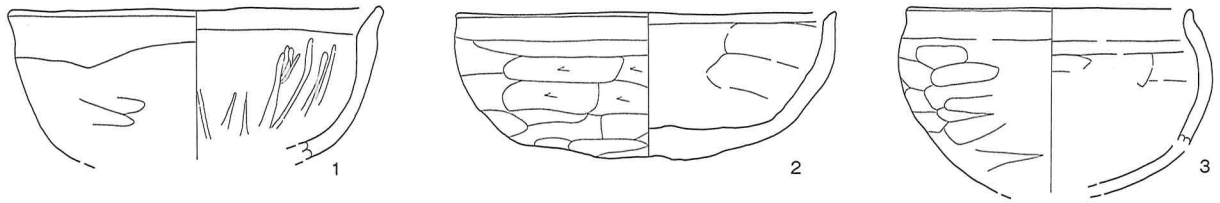
第72図 SI25出土遺物 (2)



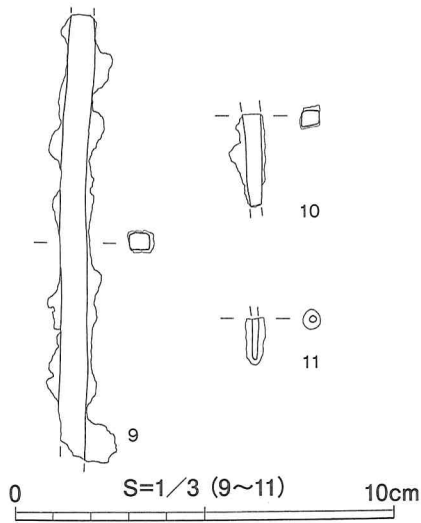
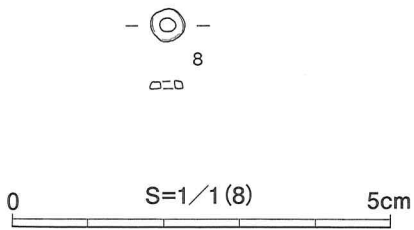
第74図 SI26出土遺物 (2)



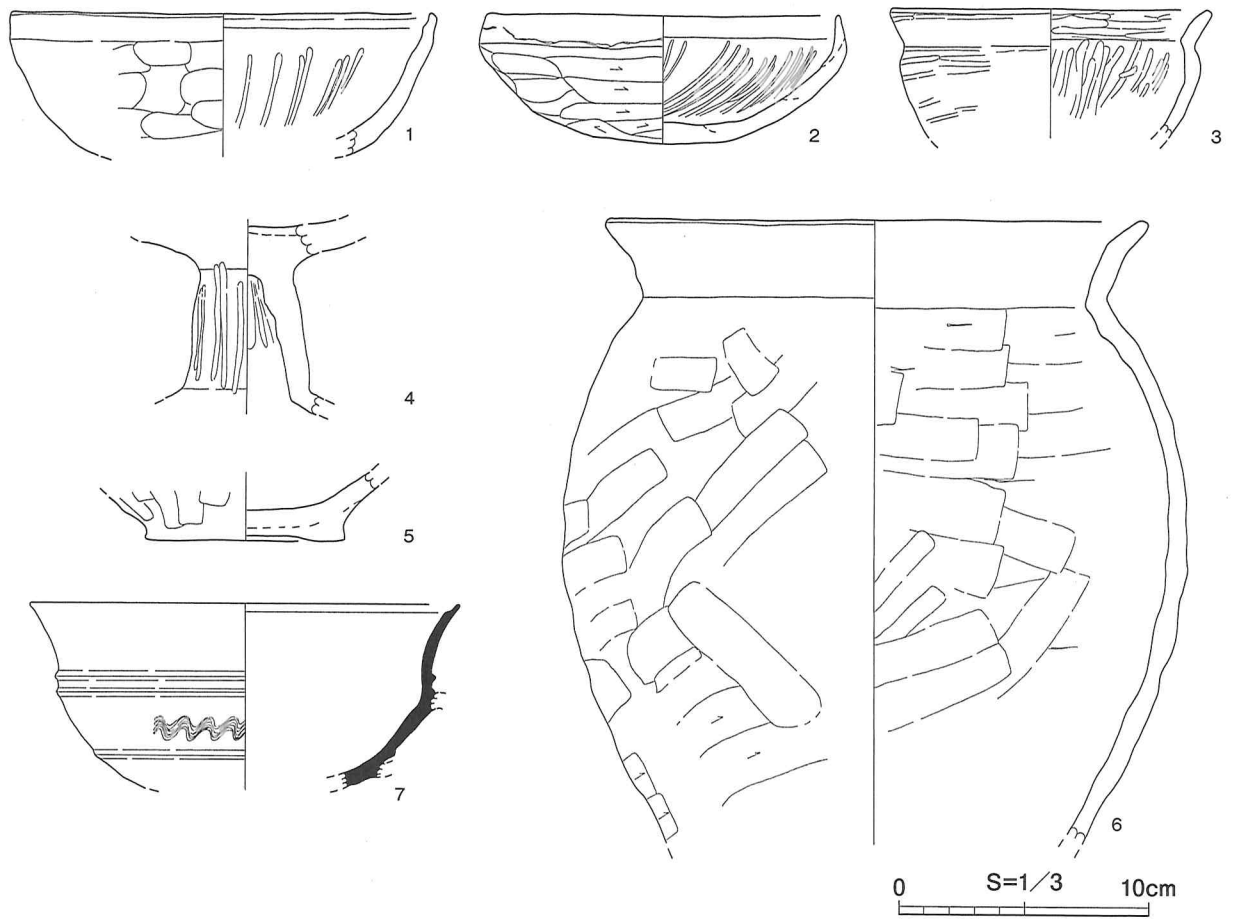
第73図 SI26出土遺物 (1)



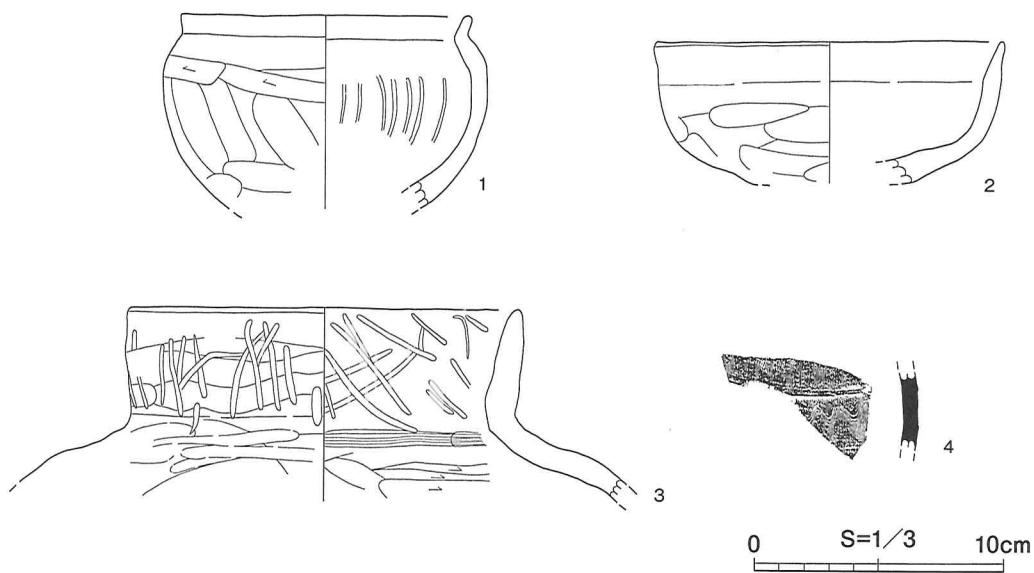
0 S=1/3 10cm



第75図 SI27出土遺物



第76図 SI28出土遺物



第77図 SK10・その他出土遺物

第3表 S102出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器壺	(14.6)	(5.6)	—	口縁部はくの字状に外反し、稜を持って立ち上がる。	口縁部横ナデ。	にぶい橙色	雲母 白色砂粒 赤色砂粒	普通	カマド内	口縁部1/4残
2	土師器甕	13.9	(4.4)	—	口縁部はくの字状に外反。	口縁部横ナデ。内面ヘラナデ。	にぶい赤褐色	白色白色微粒	良好	カマド周辺	口縁部のみ残

第4表 S103出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器杯	13.5	6.0	—	体部外面に稜を持つ。口縁部は内傾し、端部は短く立ち上がる。	底部外面ヘラ削り。口縁部横ナデ。体部内外全体にヘラ磨き。外面の一部にヘラ削り。	橙色	石英 白色微粒	良好	床面直上	完形
2	土師器杯	(14.0)	7.2	6.0	平底。口縁部はそのまま立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面にはヘラ削りとヘラ磨きか施される。	黄橙色	石英 小砂粒	良好	竈ソデ内	1/3残
3	土師器杯	13.8	7.4	6.0	平底。底部から体部にかけてやや外反。口縁部は短く立ち上がる。	外面全体にナデを施した後、一部にヘラ磨き。底部外周にはヘラ削り。体部内面ヘラナデ。外面大半及び内面一部にスス付着。	にぶい橙色	雲母 白色微粒	普通	貯蔵穴内	3/4残
4	土師器壺	(12.8)	10.7	6.3	底部にヘラ削りを施しやや平底。丸い体部を持ち、口縁部はくの字状に短く外反。	口縁部横ナデ。体部外面全体にヘラ削り。底部外周のヘラ削りは体部の削りより細かく施される。内面底部付近にスス付着。	にぶい黄橙色	石英 白色砂粒 細砂粒	普通	床面直上	4/7残
5	土師器高杯	—	(12.7)	—	脚端部と杯部上半欠損。杯体部に稜を有する。	杯部内面にヘラ削り。脚部外面指ナデ。脚部内面横ナデを施した後、棒状の工具で押さえた痕跡。	にぶい橙色	石英 微砂粒	良好	竈 覆土下層	高杯下半1/3残
6	土師器高杯	—	(11.5)	—	杯部上半欠損。杯体部に稜を有する。脚部は真っ直ぐ立ち上がることなく緩やかに大きく開く。	杯部脚部ともに外面にヘラ磨き。脚部内面は横ナデ。	橙色	石英 微砂粒	良好	貯蔵穴内	高杯下半2/3残
7	土師器甕	13.8	18.0	—	底部に削りを施しやや平底。口縁部はくの字状に外反。	口縁部横ナデ。口縁端部を再度ナデ。胴部内外面にヘラ削りとヘラナデを施す。外面にスス付着。	橙色	雲母 細砂粒	良好	床面直上	1/3残
8	土師器甕	(16.0)	(7.1)	—	口縁部がくの字状に外反。	口縁部横ナデ。内面ヘラ削り。	橙色	黒色粒	良好	覆土下層	1/15残
9	土師器甕	(18.2)	(25.6)	5.0	口縁部がくの字状に外反。底部はやや平ら。	口縁部横ナデ。口頸基部を工具を用いてさらにナデを施す。胴部内外面ともに一部ヘラ削り。胴部上半にスス付着。内面に紐痕あり。	橙色	石英 長石 小砂粒	良好	床面直上	2/3残
10	土師器甕	21.8	21.0	10.7	単孔。歪みあり。口縁部は外反する。	口縁部横ナデの後、ヘラ磨き。胴部全体にヘラ削りの後ヘラ磨き。内面はヘラ削りの後、上半一部に刷毛目調整を施し、その後全体にヘラ磨き。外面の一部にスス付着。	にぶい橙色	細砂粒	良好	床面直上	完形
11	土師器甕	7.8	9.1	—	底部の孔は径1.5cm程の不整形円で、焼成後に穿たれている。口縁部は直角に短く外反する。	口縁部横ナデ。胴部外面全体にヘラ削り。内面はヘラ磨き。外面にスス付着あり。	明赤褐色	石英・雲母 微砂粒	良好	貯蔵穴内	ほぼ完形

第5表 S104出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器杯	(15.4)	(7.0)	—	口縁部が外反。	口縁部横ナデ。体部外面は横方向のヘラ削りの後、ヘラ磨き。内面は一部にヘラ磨き。	橙色	微砂粒	良好	覆土中層	1/5残
2	土師器壺	(11.2)	(6.6)	—	口縁部がやや内傾。丸い体部を持つ。	口縁部横ナデ。外面全体にヘラ削りを施し、体部下部にスス付着。体部内面にはヘラ磨き。	明赤褐色	微砂粒	良好	覆土中層	上半1/6残
3	土師器甕	15.7	21.1	8.3	口縁部がくの字状に外反。球胴状の胴部を有する。単孔。	口縁部横ナデ。胴部内外面ともにヘラ削りを施す。外面底部外周のヘラ削りは胴部の削りより細かく施されている。	浅黄橙色	砂粒	良好	床面直上	ほぼ完形

第6表 S105出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器杯	(17.0)	(5.2)	—	口縁端部が短く立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部内外面ともにヘラ磨きを施し、外面はヘラ磨きの後に横方向のヘラ削り。	にぶい橙色	微砂粒	良好	覆土下層	1/8残
2	土師器杯	(14.0)	(5.5)	—	口縁端部がやや内傾気味に短く立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラ磨き。内外面ともにスス付着あり。	にぶい赤褐色	石英 微砂粒	良好	床面直上	1/5残

3	土師器 杯	14.5	4.5	—	口縁端部が短く立ち上がる。丸底で半球状を呈する。	口縁部横ナデ。体部外面にヘラ削りを施した後ヘラ磨き。体部内面は放射状にヘラ磨き。内外面ともにスス付着。	にぶい橙色	微砂粒	良好	貯蔵穴内	完形
4	土師器 杯	15.0	6.8	—	丸底。口縁端部がやや立ち上がる。半球形。	口縁部横ナデ。体部内外面ともに全体にヘラ磨き。体部外面はヘラ磨きの後ヘラ削りを施す。	にぶい橙色	石英 微砂粒	良好	貯蔵穴内	4/5残
5	土師器 杯	14.1	6.6	—	丸底。口縁端部がやや外反。半球状を呈する。	口縁部横ナデ。体部外面は不定方向にヘラ削り。内面は放射状にヘラ磨き。	明赤褐色	石英 微砂粒	良好	貯蔵穴内	3/4残
6	土師器 甗	(15.9)	26.2	(7.5)	平底。口縁部はくの字状に短く外反。	口縁部横ナデ。胴部外面全体にヘラ削り。胴部上半は上方方向に削り、下半は下方方向に削る。内面に紐痕。	浅黄橙色	小石	普通	床面直上	4/5残
7	土師器 小型甗	(12.0)	10.5	5.5	胴部が球胴状を呈し、平底。口縁部はくの字状に外反。	胴部外面全体に刷毛目調整を施し、底部外周にはヘラ削り。口縁部横ナデ。胴部内面は全体にヘラナデ。	にぶい橙色	細砂粒	良好	床面直上	3/4残

第7表 S105出土鉄製品観察表

No	器種	残存部位	法量 (cm)	重量 (g)	出土地点	備考
8	鉄鏃	a: 頸部・茎部 b: 頸部・茎部	a全長: (12.1) [頸部]長: (9.7)、幅: 0.7、厚: 0.4 [茎部]長: (2.4)、幅: 0.4、厚: 0.3 b長: (7.4)、幅: 0.6、厚: 0.4	18.53	床面直上	aは斜め関か。 bには木質が付着している。 a、bともに長頸鏃とみられる。
9	鉄鏃?	鏃身部?	長: 不明、幅: 不明、厚: 0.2	4.24	覆土下層	腸袂柳葉形もしくは腸袂三角形の鏃身か。 木質が全面に付着する。
10	鉄鏃	頸部・茎部	全長: (6.3) [頸部]長: (4.0)、幅: 0.5、厚: 0.4 [茎部]長: (2.3)、幅: 0.3、厚: 0.2	5.46	覆土下層	無関か。
11	鉄鏃	刃部	全長: 13.3、厚: 0.3 基部幅: 2.6	50.04	覆土下層	基部が手前に折り返されており、その断面はくの字状を呈する。
12	刀子	刃部・茎部	全長: (4.4) [刃部]長: (1.5)、幅: 0.9、厚: 0.3 [茎部]長: (2.9)、幅: 0.5、厚: 0.3	3.25	覆土下層	茎部に木質が付着。

第8表 S106出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 壺	(14.4)	(5.4)	—	口縁部をくの字状に内傾させて稜をつくり、端部を極めて短く立ち上げる。	口縁部横ナデ。体部外面はヘラ削りを施した後、一部にヘラ磨き。内面底部にヘラ磨き。	にぶい橙色	微砂粒	良好	貯蔵穴内	1/6残
2	土師器 甗	17.0	(7.2)	—	口縁部はやや大きく外反。	外面の一部にヘラ磨き。内面には紐痕。	にぶい黄橙色	雲母 細砂粒	良好	覆土下層	口縁部3/4残
3	土師器 甗	14.4	(4.7)	—	口縁部は緩やかに外反。	外面は横ナデ後に縦方向に細いヘラ磨き。内面は横ナデ後に一部に横方向の刷毛目調整。内外面ともにスス付着。	にぶい橙色	石英 微砂粒	良好	覆土下層	口縁部4/7残
4	土師器 甗	(14.5)	(17.4)	—	口縁部外反。球胴状。	口縁部横ナデ。胴部外面全体にヘラ削り。二次被熱の痕あり。口縁部外面はナデの後、縦方向に細いヘラ磨き。胴部内面全体にヘラ削り。紐痕。	にぶい橙色	細砂粒	良好	覆土下層	1/6残
5	土師器 甗	—	(22.7)	—	口縁部はくの字状に外反する。球胴状。	口縁部横ナデ。胴部外面ヘラ削り。胴部内面はヘラナデの後ヘラ削り。内面にスス付着。	にぶい橙色	石英 細砂粒	良好	覆土中層	2/5残
6	土師器 甗	—	(16.8)	—	口縁部はくの字状に外反。球胴状か。	口縁部横ナデ。胴部上半外面は横方向のヘラ削り、下半は縦方向のヘラ削り。内面横方向のヘラ削り。	にぶい橙色	石英・長石 雲母 細砂粒	良好	覆土下層	2/5残
7	土師器 甗	(17.8)	26.2	(9.5)	口縁部は緩やかに立ち上がる。単孔。	口縁部は2回に分けて横ナデ。胴部外面はヘラ削りを施した後ヘラ磨き。胴部内面ヘラ削り。紐痕。	浅黄橙色	長石 石英 細砂粒	良好	覆土下層	2/3残
8	須恵器 甗?	—	(7.7)	—	丸底。	内面に刷毛目調整を施した後ヘラナデ。	灰色 器肉はセピア色	白色細砂粒	良好	覆土下層	胴部下半1/4残

第9表 S107出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 杯	(14.8)	5.8	—	底部から口縁部にかけて緩やかに外反していく。半球状。	口縁部横ナデ。体部外面をヘラ削り、内面ヘラ磨き。スス付着。	橙色	長石・雲母	良好	床面直上	1/2残
2	土師器 杯	14.4	6.5	—	丸底。口縁部はやや外反気味に立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面全体ヘラ削り。体部内面一部にヘラ磨き。内外面ともにスス付着あり。	にぶい赤褐色	石英・雲母 微砂粒	普通	床面直上	7/8残
3	土師器 杯	(15.0)	5.8	—	丸底。口縁部は短く立ち上がる。半球形。	口縁部横ナデ。体部外周ヘラ削り。体部内面一部ヘラ磨き。	にぶい赤褐色	石英・雲母 微砂粒	良好	床面直上	3/5残

4	土師器 環	(14.6)	(4.5)	-	口縁端部が外反。丸底か。	口縁部横ナデ。底部外周へら削り。内面摩擦のため調整不明。	橙色	雲母 細砂粒	普通	床面直上	1/5残
5	土師器 環	(14.4)	7.0	-	丸底。口縁部はやや内傾気味に短く立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部下半横方向のへら削り。内面縦方向のへら磨き。体部内外面にスス付着。	にぶい橙色	石英・雲母 微砂粒	良好	床面直上	1/2残
6	土師器 環	(13.3)	5.5	-	底部はやや平ら。口縁部は立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面全体にへら削り。体部内面放射状にへら磨き。	明赤褐色	雲母 微砂粒	普通	床面直上	3/5残
7	土師器 塊	(13.2)	7.5	3.6	平底。口縁部は短く外反。	口縁部横ナデ。体部外面一部にへら削り。内面へら磨き。	橙色	細砂粒	良好	床面直上	ほぼ完形
8	土師器 小型壺	-	(7.5)	-	球胴状。	胴部外面全体に横方向のへら削り。内面底部へらナデ。	橙色	微砂粒	普通	覆土下層	3/5残
9	土師器 高環	(16.5)	(6.3)	-	脚部欠損。口縁部は緩やかに外反。	口縁部横ナデ。脚基部に縦方向のへら削り。	赤褐色	雲母・長石 黒色粒	普通	覆土下層	1/6残
10	土師器 高環	22.5	(9.9)	-	脚部欠損。口縁部は緩やかに広がっていき、稜を2段有する。	内外面横ナデの後へら磨き。脚基部にもへら磨き。	明赤褐色	雲母 白色微粒	普通	覆土下層	環部3/4残
11	土師器 壺	(16.9)	(6.5)	-	口縁部はくの字状に外反し、稜をもって端部は立ち上がる。	口縁部横ナデ。頸部に縦方向のへら磨き。体部内面の一部にへらナデ。	橙色	石英・雲母 細砂粒	良好	覆土下層	口縁部1/4残
12	土師器 甌	19.3	31.0	(7.6)	平底。口縁部はくの字状に外反。球胴状。	口縁部横ナデ。胴部外面上半にはへらナデ、下半には横方向のへら削り。底部外周は縦方向のへら削り。内面は横方向のへらナデ。内外面ともにスス付着。	にぶい橙色	石英・雲母 細砂粒	普通	床面直上	ほぼ完形
13	土師器 甌	(13.5)	19.7	6.0	口縁部はくの字状に外反。胴部は球胴状。平底。	口縁部横ナデ。胴部外面全体にへら削り。内面にへら磨き。内外面ともにスス付着あり。	にぶい赤褐色	石英・長石 細砂粒	良好	床面直上	7/9残
14	土師器 甌	(17.4)	(22.6)	-	口縁部はくの字状に外反。球胴状の胴部。	口縁部横ナデ。胴部外面横方向のへら削り。内面は縦方向のへら削り。一部に刷毛目。	浅黄褐色	長石・雲母 黒色砂粒 白色砂粒	良好	床面直上	2/3残
15	土師器 甌	-	(23.7)	6.0	厚手の平底を有する。やや長胴。	胴部外面全体にへら削り。内面上半にはへらナデ、下半にはへら削り。底部内面に薄くススが付着。	にぶい橙色	石英・長石 雲母 細砂粒	普通	覆土下層	4/5残
16	土師器 甌	(15.5)	(23.5)	-	口縁部はくの字状に外反。球胴状の胴部。	口縁部は横ナデを二回に分けて施す。胴部外面縦方向にへら削りとへら磨きを施す。内面は横方向にへらナデとへら磨き。紐痕あり。	浅黄褐色	長石・雲母 石英 白色砂粒 黒色砂粒	普通	床面直上	2/3残
17	土師器 甌	14.6	27.4	-	口縁部はほぼ直角に外反する。球胴状。	口縁部横ナデ。胴部外面上半一部にへら磨き。下半全体にへら削り。内面上半にはへらナデ、下半にはへら削り。紐痕あり。	にぶい橙色	細砂粒	良好	床面直上	7/8残

第10表 S107出土鉄製品観察表

No	器種	残存部位	法量 (cm)	重量 (g)	出土地点	備考
18	不明	-	長: (6.6)、幅: (2.4)、厚: 0.7	23.03	覆土下層	目釘孔が穿たれている。
19	不明	-	長: (5.1)、幅: (2.1)、厚: 1.1	42.79	覆土下層	

第11表 S108出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 環	(7.4)	4.2	-	丸底。口縁端部がやや内傾気味に短く立ち上がる。	体部外周にへら削り。内面は摩擦しており調整不明。	明赤褐色	石英 白色細砂粒 黒色細砂粒	普通	床面直上	3/4残
2	土師器 小型壺	-	(9.6)	-	丸底。	体部外面全体に横方向のへら削り。内面は横ナデ。紐痕あり。内外面ともにスス付着あり。	橙色	石英・長石 白色微粒	良好	貯蔵穴内	2/3残
3	土師器 甌	15.2	21.5	6.0	平底。口縁部はくの字状に外反する。	口縁部横ナデ。胴部外面全体にへら削り。内面は摩擦しているため調整不明。内外面ともにスス付着。	にぶい黄褐色	石英・長石 白色微粒	良好	貯蔵穴内	7/8残

第12表 S109出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 環	15.6	6.5	-	丸底。口縁部は内湾気味に立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面へら磨き。底部外周は横方向のへら削り。	明赤褐色	石英 微細粒	良好	貯蔵穴内	3/4残
2	土師器 環	15.7	6.4	3.5	平底。底部形は楕円。口縁端部は外反。	口縁部横ナデ。体部外面全体にへら磨き。口縁部外面には体部の磨きよりも細いへら磨き。内面へら磨き。	明赤褐色	石英・雲母 細砂粒	良好	覆土下層	7/8残

3	土師器 杯	(13.7)	6.3	-	丸底。口縁端部はやや内傾する。半球形。	口縁部横ナデ。体部外面上半にヘラ磨き。下半にヘラ削りを施す。内面は放射状にヘラ磨き。外面にスス付着。	にぶい橙色	石英・雲母 微砂粒	良好	覆土下層	12/13残
4	土師器 杯	(14.0)	(4.3)	-	口縁部は外反気味に立ち上がり、稜を有する。	口縁部横ナデ。口縁部内外面ともに横方向のヘラ磨き。体部外面ヘラ削り。内面放射状ヘラ磨き。	橙色	石英 細砂粒	良好	覆土中層	1/7残
5	土師器 小型甕	11.8	12.5	5.0	歪みあり。口縁部がくの字状に外反。平底。	口縁部横ナデ。胴部外面全体にヘラ削りを施した後、斜め方向にヘラ磨き。胴部内面横方向のヘラナデ。底部内面放射状ヘラ磨き。紐痕。	にぶい橙色	石英 微砂粒	良好	覆土下層	3/4残
6	土師器 甕	-	(12.3)	6.4	中心部分がわずかにくぼむ平底。	底部から胴部にかけて外面の全体に横方向のヘラ削り。	外:にぶい赤褐色 内:明赤褐色	石英 白色粗粒 赤色粗粒	良好	覆土下層	1/2残

第13表 S110出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 杯	15.4	(5.6)	-	丸底か。口縁端部は内傾気味に立ち上がる。	口縁部横ナデ。内外面摩擦のため調整不明。	橙色	白色微粒	普通	覆土中層	3/4残
2	土師器 杯	12.8	5.2	-	丸底。口縁端部はやや内傾気味に立ち上がる。半球形。	口縁部横ナデ。体部外面横方向のヘラ削り。内面上半刷毛目調整。	にぶい黄褐色	石英・雲母 細砂粒	良好	床面直上	完形
3	土師器 杯	14.1	5.0	-	丸底。口縁部を立ち上げ、体部に稜をもつ。	口縁部横ナデ。内外面摩擦のため調整不明。	明赤褐色	白色微粒 粗砂	普通	床面直上	2/3残
4	土師器 小型壺	-	(8.8)	4.4	平底。胴部は球胴状。	体部外面全体に横方向のヘラ削り。焼成後に直径約2cmの孔を穿孔した。内面黒色処理か。	明赤褐色	石英・雲母 細砂粒	良好	床面直上	2/3残
5	土師器 壺	(16.6)	(9.6)	-	口縁部はくの字状に外反し、口縁端部は稜をつくって真直ぐ立ち上がる。	口縁部横ナデ。外面一部に刷毛目調整。内面はヘラナデ。	にぶい黄褐色	雲母 微砂粒	良好	床面直上	口縁部のみ残
6	土師器 甕	(16.0)	(4.4)	-	口縁部はくの字状に外反。	口縁部横ナデ。外面上向きにヘラ削り。内面には木製工具を当てた痕が残る。細かいヘラ削り。	にぶい褐色	長石 黒色砂粒	普通	覆土下層	1/16残
7	土師器 甕	(12.4)	(11.3)	-	口縁部はくの字状に外反。球胴状か。	口縁部は横ナデを二回に分けて施している。胴部上半外面に縦方向にヘラ磨き。内面ヘラ削り、ヘラ磨き。後頸部内面には接合部分に粘土帯を貼り付け、補強していることがわかる。	浅黄褐色	雲母・長石 白色砂粒	良好	床面直上	1/4残
8	土師器 甕	17.0	(26.8)	-	口縁部はくの字状に外反する。球胴状。	口縁部横ナデ。胴部内外面ともに全体にヘラナデ。紐痕あり。外面にスス付着。	にぶい橙色	石英 微砂粒	良好	床面直上	13/15残
9	土師器 甕	-	(27.4)	-	球胴状。口縁部はほぼ直角に立ち上がる。	胴部外面上半全体に刷毛目調整を施した後、下半にヘラ削り。内面は摩擦しているため調整不明。	にぶい橙色	石英 微砂粒	普通	覆土中層	13/16残
10	土師器 甕	-	(3.2)	6.3	底部のヘラ削りによって稜線がつかれる。	底部外周下向きにヘラ削り。内面放射状ヘラ磨き。	にぶい橙色	細砂	良好	覆土上層	底部のみ残
11	土師器 甕	-	(3.7)	(7.0)	底部にヘラ削りを施し平底にする。	外面一部にヘラ磨き。内面一部に細かいヘラ削り。底部前面にスス付着。	浅黄褐色	雲母 黒色砂粒 白色砂粒	良好	覆土下層	底部のみ残
12	土師器 甕	-	(3.2)	(4.9)	平底。球胴状か。	外面のヘラ削りは土器を回転させながら施したか。	淡橙色	長石・雲母 白色砂粒	良好	床面直上	底部のみ残
13	土師器 甕	-	(3.5)	(6.7)	底部中央部がややくぼむ。	外面に細かいヘラ削り、内面に粗いヘラ削り。	浅黄褐色	雲母 白色砂粒	良好	覆土下層	底部のみ残

第14表 S111出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 杯	(14.6)	(4.6)	-	口縁端部は内傾して短く立ち上がる。	体部外面全体に斜め方向にヘラ削り。内面の一部に横方向にヘラ磨き。内面と口縁部外面にスス付着。	灰黄褐色	石英・雲母 微砂粒	良好	覆土下層	1/6残
2	土師器 杯	12.6	4.0	3.0	平底。口縁端部はやや外反。底部が厚いつくりになっている。	口縁部横ナデ。体部外面に横方向のヘラ削り。内面全体に細かいヘラ磨き。	赤褐色	長石 白色砂粒 黒色砂粒	良好	覆土下層	1/2残
3	土師器 甕	-	(2.8)	5.8	平底。	外面全体に横方向にヘラ削り。内面に横方向にヘラナデ。	にぶい黄褐色	石英・雲母 微砂粒	良好	覆土上層	底部のみ残
4	土師器 甕	(18.5)	(25.5)	-	口縁部はくの字状に外反する。球胴状。	口縁部横ナデ。胴部外面全体に横方向のヘラ削り。内面はヘラナデ。内外面ともにスス付着。	にぶい黄褐色	石英 白色微粒	良好	覆土上層	2/5残

5	土師器 甌	(19.0)	(6.4)	—	口縁部は広く広がる。口縁端部に粘土を貼り付け、稜を作り出す。	内外面ともに横方向のヘラナデ。	にぶい黄橙色	石英 微砂粒	良好	覆土下層	口縁部のみ残
6	土師器 甌	—	(7.0)	4.4	単孔。	胴部外面に横方向のヘラ削り。内面に斜め方向のヘラナデ。	浅黄橙色	長石・雲母 白色砂粒	良好	覆土下層	1/2残

第15表 S112出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 杯	13.7	5.7	—	丸底。口縁部は内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面の一部にヘラ磨き。内面に横方向のヘラナデ。	黒褐色	石英	良好	覆土下層	完形
2	土師器 杯	13.7	5.4	—	丸底。口縁部は内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面縦方向のヘラ磨きの後横方向のヘラ磨き。	橙色	長石 白色砂粒	良好	覆土下層	完形
3	土師器 杯	11.5	5.8	4.8	平底。口縁部は内傾する。	口縁部横ナデ。体部上半に横方向に刷毛目調整。底部外周ヘラ削り。内面に横方向のヘラナデ。	浅黄橙色	石英・長石 白色砂粒 黒色砂粒	良好	覆土下層	完形
4	土師器 杯	14.2	5.6	—	丸底。口縁部は短く内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面の一部にヘラ削り。内面に縦方向のヘラ磨き。	明赤褐色	石英 白色砂粒 黒色砂粒	普通	覆土中層	2/3残
5	土師器 杯	14.3	5.6	—	丸底。口縁部は内傾する。	口縁部横ナデ。外面はヘラ削り、一部ヘラ磨き。内面は横ナデの後ヘラ磨き。内外面ともにスス付着。	橙色	石英 白色砂粒	良好	覆土下層	完形
6	土師器 杯	16.2	6.3	—	丸底。体部中央に稜をもつ。	口縁部横ナデ。体部外面全体に横方向のヘラ削り。内面ヘラ磨き。	橙色	石英・長石 雲母 細砂粒	良好	覆土下層	ほぼ完形
7	土師器 杯	14.1	5.8	—	丸底。口縁部は真直ぐ立ち上がる。	口縁部横ナデ。内外面ともに摩擦しており調整不明。	浅黄橙色	石英	普通	覆土中層	2/3残
8	土師器 杯	15.1	5.6	—	丸底。口縁部は真直ぐ立ち上がる。外面に稜を持つ。	口縁部横ナデ。外面はヘラ削り、内面は横ナデの後ヘラ磨き。外面にスス付着。	橙色	石英・長石 雲母 白色細砂粒	良好	覆土下層	完形
9	土師器 杯	13.2	5.8	—	丸底。口縁部は真直ぐ立ち上がり、口縁端部がやや外反する。	口縁部横ナデ。体部下半外面は横方向のヘラ削り。内面は縦方向のヘラ磨き。底部外面ヘラ削り。	明赤褐色	石英 白色砂粒	良好	覆土中層	2/3残
10	土師器 杯	13.4	5.2	—	丸底。口縁部は真直ぐ立ち上がり、口縁端部がやや外に開く。半球状。	口縁部横ナデ。体部外面下半にヘラ削り、内面上半に縦方向のヘラ磨きを施す。	橙色	石英 細砂粒	良好	床面直上	ほぼ完形
11	土師器 杯	15.3	5.6	—	丸底。口縁部は大きく外反する。	口縁部横ナデ。内外面ともに摩擦しており調整不明。	橙色	石英 白色砂粒	普通	覆土下層	2/3残
12	土師器 杯	(13.6)	5.9	6.0	平底。底部中央部はややくぼむ。口縁端部は外反する。	口縁部横ナデ。底部外周にヘラ削り。内面は摩擦しているため調整不明。	にぶい黄橙色	雲母 微砂粒	普通	覆土下層	2/3残
13	土師器 碗	13.8	7.2	—	丸底。口縁端部がやや内傾する。	口縁部横ナデ。底部外周に横方向のヘラ削り。内面は縦方向のヘラ磨き。	にぶい橙色	雲母 微砂粒	良好	覆土中層	4/5残
14	土師器 碗	13.9	7.4	—	丸底。口縁部は真直ぐ立ち上がり、口縁端部は外反する。	体部外面はヘラ削り。内面はヘラナデ。底部外面にヘラ削り。	浅黄橙色	石英・長石 黒色砂粒 白色砂粒	良好	覆土下層	5/6残
15	土師器 碗	11.4	8.7	—	丸底。口縁端部が短く外反する。	口縁部横ナデ。外面ヘラナデの後ヘラ削り、内面ヘラナデ。	明赤褐色	石英・雲母 砂粒	良好	覆土下層	完形
16	土師器 高杯	(16.2)	15.2	(11.1)	坏部外面にわずかに稜を持つ。	口縁部横ナデ。坏部外面にヘラ削り、内面にヘラナデ。脚部外面は縦方向の磨き。脚部は横ナデ。	明赤褐色	石英・雲母 長石 小砂粒	良好	覆土下層	1/2残
17	土師器 高杯	(15.7)	15.5	(12.3)	坏部外面に稜を持つ。	坏部外面ヘラナデ。基部にヘラ削り。脚部外面にヘラナデとヘラ削り、内面ヘラナデ。	明赤褐色	石英・長石 細砂粒	良好	覆土下層	5/7残
18	土師器 高杯	15.3	14.0	11.3	短脚。坏部外面に稜を持つ。	坏部外面と脚部外面に縦方向のヘラ磨き。坏内面にもヘラ磨き。脚部内面には細い板状の工具を押し付けた痕。脚部横ナデ。	明赤褐色	石英・雲母 白色微粒	良好	覆土下層	7/8残
19	土師器 高杯	(15.1)	13.1	(12.3)	坏部外面に稜を持つ。	口縁部、脚部横ナデ。坏部外面一部にヘラ削り。坏部内面工具によるナデ。脚部外面は縦方向にヘラ削り。	浅黄橙色	長石・石英 白色砂粒	良好	覆土下層	2/3残
20	土師器 高杯	16.9	(5.4)	—	脚部欠損。	口縁部横ナデ。坏部下半外面に縦方向の刷毛目調整。内面にも刷毛目調整。	にぶい橙色	石英 微砂粒	良好	覆土下層	坏部1/2残
21	土師器 鉢	19.6	8.2	19.0	平底。体部がやや内湾しながら立ち上がり、口縁端部が短く内側に入る。	口縁部横ナデ。体部外面横方向のヘラ削り。内面ヘラ磨き。一部にスス付着。	にぶい橙色	石英 細砂粒	良好	覆土下層	7/8残
22	土師器 甌	(15.7)	28.2	6.5	平底。底部中央部分がややくぼむ。口縁部は直角に外反し、口縁端部は短く立ち上がる。球胴状。	口縁部横ナデ。胴部外面上半一部に刷毛目調整。外面全体にヘラ削り。内面全体にヘラナデ。外面にスス付着。	にぶい橙色	石英 細砂粒	良好	床面直上	11/12残
23	土師器 甌	14.5	(15.2)	—	口縁部がくの字状に外反しながら立ち上がる。球胴状の胴部か。	口縁部横ナデ。胴部外面は一部に刷毛目を施した後にヘラ削り。内面は横方向のヘラナデの後にヘラ削り。	にぶい橙色	石英・雲母 細砂粒	良好	覆土下層	3/7残

24	土師器 甕	15.0	28.5	6.7	平底。底部中央部がややくぼむ。口縁部はくの字状に外反する。球胴状。	口縁部横ナデ。胴部外面は横方向のヘラ削り。内面は横方向のヘラナデ。	浅黄橙色	長石・石英 白色砂粒 黒色砂粒	良好	覆土下層	4/5残
25	土師器 甕	16.0	26.0	5.0	平底。口縁部はくの字状に短く外反。	口縁部は工具を用いてヨコナデ。胴部外面は全体に縦方向のヘラ削り。内面は横方向のヘラナデ。	浅黄橙色	雲母・長石 石英 小砂粒	良好	覆土中	3/4残
26	土師器 甕	18.2	(14.4)	—	口縁部はくの字状に立ち上がり、緩やかに外反する。	口縁部横ナデ。胴部外面はナデに近いヘラ削り、内面ヘラナデ。	にぶい橙色	石英・長石 細砂粒	良好	覆土下層	1/4残
27	土師器 甕	16.4	29.1	5.8	平底。口縁部がくの字状に外反し、口縁端部はさらに短く外反する。	口縁部横ナデ。胴部外面は全体にヘラ削りの後部分的にヘラ磨き、内面はヘラナデ。	にぶい黄橙色	石英・雲母 細砂粒	良好	覆土下層	19/20残
28	土師器 甕	14.9	(13.4)	—	口縁部がくの字状に外反する。球胴状。	口縁部横ナデ。胴部上半に横方向のヘラ削りの後一部に粗いヘラ磨き。胴部内面横方向のヘラナデ。	にぶい橙色	石英・雲母 微砂粒	良好	覆土下層	1/2残
29	土師器 甕	—	(17.4)	5.4	平底。底部が中心部分でくぼむ。球胴状の胴部を持つ。	胴部全体に斜め方向のヘラ削り。底部外周のヘラ削りは不定方向。胴部内面ヘラナデの後ヘラ磨き。その後黒色処理を施す。	にぶい橙色	石英 白色微砂粒	良好	覆土中層	5/8残
30	土師器 小型甕	15.8	16.6	4.0	口縁部がくの字状に外反する。平底。	口縁部横ナデ。胴部外面上半にヘラナデ、下半にヘラ削り。内面ヘラナデ。	にぶい橙色	石英・長石 雲母 細砂粒	良好	覆土下層	完形
31	土師器 甕	—	(13.9)	5.5	平底。胴部は薄手。	胴部外面に横方向のヘラ削り、内面は刷毛目調整の後部分的にヘラ削り。内外面ともにススが付着。	にぶい橙色	石英・長石 細砂粒	良好	覆土下層	3/8残
32	土師器 小型甕	12.6	12.7	—	丸底。口縁部は外反する。球胴状。	口縁部横ナデ。胴部外面全体に斜め方向のヘラ削り。底部外面にもヘラ削り。内面ヘラナデ。	橙色	長石 白色砂粒 黒色砂粒	良好	覆土下層	4/5残
33	土師器 甕	—	(2.8)	(8.3)	平底で中心部分がややくぼむ。	底部外周縦方向のヘラ削り。内面にスス付着。	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄橙色	石英 微砂粒	良好	覆土中層	底部1/2残
34	土師器 甕	21.0	22.3	8.3	単孔。口縁部はくの字状になだらかに外反。	口縁部横ナデ。胴部外面はナデに近いヘラ削り。	にぶい橙色	石英・長石 白色細砂粒	良好	床面直上	2/3残
35	土師器 甕	—	(7.0)	4.8	単孔。	外面はヘラ削り、内面はヘラナデ。外面にスス付着。	にぶい橙色	石英 細砂粒	良好	覆土下層	底部のみ残
36	須恵器 杯	9.7	5.0	—	左回転のロクロ成形。口縁部は内傾し、受部をもつ。	底部外周は手持ちヘラ削り。	灰色	白色微砂粒	良好	床面直上	完形

第16表 S113出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 杯	14.7	5.7	—	丸底。口縁端部はやや内湾する。	口縁部横ナデ。体部外面はヘラ削りを施した後ヘラ磨き。内面はヘラ磨き。	橙色	石英・長石 白色細砂粒	普通	床面直上	11/12残
2	土師器 杯	(13.5)	(5.3)	—	丸底。口縁端部はやや短く内傾する。半球状。	口縁部横ナデ。底部外周ヘラ削り。内面は摩耗しており調整不明。	明赤褐色	石英 微砂粒	普通	覆土下層	3/7残
3	土師器 杯	(12.9)	6.3	—	丸底。口縁端部はやや内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面全体にヘラ削り。内面ヘラ磨き。	にぶい橙色	石英 細砂粒	普通	覆土下層	2/5残
4	土師器 杯	15.0	6.5	—	丸底。口縁端部はやや外反する。	口縁部横ナデ。体部外面は横方向のヘラ削り。内面は放射状ヘラ磨き。内面の一部が黒色化。	明赤褐色	石英 白色砂粒 黒色砂粒	普通	覆土下層	11/12残
5	土師器 壺	(11.6)	(4.3)	—	口縁部はやや内傾気味に立ち上がる。	口縁部横ナデ。内外面ともに摩耗しており調整不明。	橙色	石英・雲母 微砂粒	良好	覆土下層	1/8残
6	土師器 壺	(13.7)	6.8	—	丸底。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面は縦方向のヘラ磨きの後、横方向のヘラ磨き。内外面共に一部にスス付着。	にぶい赤褐色	石英 微砂粒	良好	覆土中層	3/4残
7	土師器 壺	(14.0)	(5.6)	—	口縁部外反。	口縁部横ナデ。体部外面にヘラ削りがみられるが、内外面ともに摩耗しており調整不明。	にぶい黄褐色	石英 微砂粒	普通	貯蔵穴内	1/7残
8	土師器 甕	(11.0)	9.2	—	丸底。口縁部は短く外反。球胴状。	口縁部横ナデ。胴部外面ヘラ削り。胴部内面上半ヘラナデ、下半縦方向のヘラ磨き。	橙色	長石・石英 砂粒	良好	貯蔵穴内	1/3残
9	土師器 甕	(18.8)	29.8	4.6	平底。口縁部はくの字状に外反する。やや長胴。	口縁部横ナデ。胴部外面下半横方向のヘラ削り。内面は上半の一部に横方向の刷毛目調整が施される。内面全体にヘラナデを施した後、ヘラ磨き。	にぶい褐色	石英・雲母 粗砂粒 細砂粒	良好	覆土下層	3/4残

第17表 S114出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 杯	14.7	5.7	6.9	ロクロ成形。平底。口縁端部は外反しながらやや立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面と底部外面にヘラ削り。内面は黒色処理を施す。	にぶい褐色	石英・長石 白色細砂粒	普通	床面直上	完形

2	土師器 杯	13.5	5.5	5.1	ロクロ成形。平底。口縁端部がやや外反しながら立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面縦方向のヘラ削りの後、横方向のヘラ削り。底部外面にもヘラ削り。内面にスス付着。	にぶい黄橙色	石英・雲母 細砂粒	普通	甕	完形
3	土師器 高台杯	13.9	6.3	7.8	ロクロ成形。杯部は半球状。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ヘラ磨き。内面にヘラ磨きを施した後、黒色処理。	にぶい黄橙色	石英 細砂粒	良好	覆土上層	6/7残
4	土師器 杯	(14.9)	5.8	7.5	平底。	外面全体に縦横痕が明瞭に残る。体部外面は指ナデ。内面には刷毛目調整を施す。底部外面には木葉痕。	にぶい橙色	石英 細砂粒	良好	甕	2/3残
5	土師器 甕	19.3	(28.8)	-	口縁部はくの字状に短く外反する。	口縁部横ナデ。胴部外面は縦方向のヘラ削り。内面は横方向のヘラナデ。胴部外面にスス付着。	にぶい黄橙色	石英・長石 雲母 細砂粒	良好	甕	7/8残
6	土師器 甕	18.6	(28.7)	-	口縁部はくの字状に短く外反する。長胴型。口縁部歪みあり。底部欠損。	口縁部横ナデ。胴部外面は縦方向のヘラ削り。内面は横方向のヘラナデ。	にぶい黄橙色	石英・長石 細砂粒	普通	甕煙道	1/2残
7	土師器 甕	(18.0)	(24.0)	-	口縁部はくの字状に短く外反する。長胴型。	口縁部横ナデ。胴部外面は縦方向のヘラ削り。内面は横方向のヘラナデ。胴部下半は縦横痕が明瞭。	浅黄橙色	石英・長石 小砂粒	良好	甕	1/5残

第18表 S115出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 杯	13.8	5.1	7.0	平底。	口縁部横ナデ。体部外面、底部外面はヘラ削り。内面底部付近にヘラ磨き。	にぶい黄橙色	石英 粗砂粒 細砂粒	普通	貯蔵穴内	3/4残
2	土師器 杯	13.5	4.6	-	口縁端部が外反する。底部はヘラ削りによって平底気味。	口縁部横ナデ。体部外面、底部外面はヘラ削り。内面底部付近がヘラナデの後、ヘラ磨き。	橙色	石英・長石 雲母 細砂粒	普通	甕	11/12残
3	土師器 杯	(10.0)	(4.1)	-	口縁部に幅の広い沈線が入る。半球状。	体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。	黄橙色	石英 小砂粒	良好	甕	1/5残
4	土師器 甕	-	(6.5)	(7.0)	平底。	外面はヘラ削り、内面は刷毛目調整。底部には木葉痕あり。	明赤褐色	石英・長石 小砂粒	良好	甕	1/5残
5	土師器 甕	14.3	(8.4)	-	口縁部は短く外反。球胴状か。	口縁部横ナデ。口頸基部外面に部分的に指ナデ。胴部外面は縦方向のヘラ削り。内面はヘラナデ。内外面ともにスス付着。	にぶい黄橙色	石英 細砂粒	普通	甕	1/4残
6	土師器 甕	-	(5.4)	9.9	中央がややくぼんだ平底。	外面は縦方向のヘラ削り、内面は横方向のヘラナデ。底部はヘラ削りとヘラナデを施して成形。	にぶい黄橙色	石英 細砂粒	良好	甕	底部のみ残
7	土師器 甕?	-	(2.3)	-	薄手。	墨書あり。「夫」か。	にぶい橙色	石英 微砂粒	良好	覆土下層	

第19表 S115出土鉄製品観察表

No	器種	残存部位	法量 (cm)	重量 (g)	出土地点	備考
8	鉄鏃	鏃身部・茎部	全長: (6.3) [鏃身部]長: (5.3)、幅: 1.4、厚: 0.7 [茎部]長: (1.0)、幅: 0.4、厚: 0.4	11.02	覆土下層	無頸有茎の長三角形鏃か。
9	鉄鏃	茎部	長: (2.5)、幅: 0.4、厚: 0.4	2.29	覆土下層	
10	刀子	刃部	長: (8.0)、幅: 0.8、厚: 0.2	12.44	覆土下層	鉄鏃の頸部のような鉄製品が付着している。

第20表 S116出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 杯	14.9	5.7	-	丸底。口縁端部はやや内傾気味に短く立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ磨き。内面は縦方向のヘラ磨き。	橙色	長石・石英 白色砂粒	良好	覆土下層	完形
2	土師器 杯	(13.6)	4.9	-	丸底。口縁端部が内傾する。	口縁部横ナデ。底部外周はヘラ削りを施すが、内外面ともに摩擦しており、調整不明。	外: にぶい橙色 内: 橙色	石英 細砂粒	普通	覆土下層	5/8残
3	土師器 杯	(13.5)	5.2	-	丸底。口縁部は内傾し、口縁端部は極めて短くやや外反する。	口縁部横ナデ。体部下半外面ヘラ削り。内面ヘラ磨き。内外方ともにスス付着。	にぶい橙色	石英・雲母 微砂粒	普通	覆土下層	1/2残
4	土師器 杯	(13.8)	5.5	-	丸底。口縁端部はやや内傾気味に立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部下半ヘラ削り。内面は摩擦しているため調整不明。	浅黄橙色	石英 砂粒	不良	覆土下層	1/2残
5	土師器 杯	(13.3)	(6.4)	-	丸底。半球形。	底部外周にヘラ削りを施すが、内外面ともに摩擦しており、調整不明。外面の一部にスス付着。	明赤褐色	微砂粒	普通	覆土下層	2/5残
6	土師器 杯	14.0	6.6	-	丸底。口縁部外反。	口縁部横ナデ。内外面ともに摩擦しており調整不明。	浅黄橙色	長石・石英	不良	覆土下層	4/5残

7	土師器 埴	12.6	7.6	—	丸底。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、内面へラ磨き。外面の大半部分にスス付着。	明赤褐色	粗砂粒 細砂粒	良好	床面直上	11/12残
8	土師器 埴	(8.1)	3.8	—	丸底。口縁部にやや幅の広い沈線が入る。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り。内面へラ磨き。内外面ともにスス付着あり。	明赤褐色	微砂粒	良好	覆土下層	1/2残
9	土師器 高坏	16.0	(7.0)	—	脚部欠損。口縁部は短く立ち上がる。	口縁部横ナデ。坏体部全体に縦方向のへラ磨き。脚基部にはへラ削り。坏内部へラ磨き。	明赤褐色	石英 白色微粒	普通	床面直上	坏部のみ残
10	土師器 高坏	—	(8.4)	(11.8)	坏部欠損。短脚。	脚部下半は2回に分けて横ナデを施す。脚部上半は縦方向のへラ削り、下半は縦方向のへラ磨き。	橙色	石英 砂粒	良好	覆土下層	1/2残
11	土師器 小型甕	(13.5)	9.7	4.0	平底。口縁部はくの字状に外反する。	口縁部横ナデ。外面はへラ削り、部分的に刷毛目調整。内面へラ磨き。内外面ともにスス付着。	にぶい橙色	石英・雲母 白色細砂粒	良好	覆土下層	1/2残
12	土師器 甕	(14.0)	10.6	5.4	口縁部を立ち上げ、稜を作る。単孔。	口縁部横ナデ。体部外面の一部に指ナデ。底部外周にへラ削り。体部内面下半へラナデ。	赤褐色	石英 微砂粒	良好	覆土下層	1/2残

第21表 S116出土石製品観察表

No	器種	法量 (cm)	石質	重量 (g)	出土地点	備考
13	有孔円板	長:2.9、幅:2.2、孔径:0.2、厚:0.4	滑石	4.63	覆土下層	両面に擦痕。二箇所に穿孔。
14	砥石	長:26.8、幅:7.7、厚:3.4~6.0	凝灰岩	1517.6	覆土下層	

第22表 S116出土鉄製品観察表

No	器種	残存部位	法量 (cm)	重量 (g)	出土地点	備考
15	鉄鏃	鏃身部・頸部	全長:(4.3) [鏃身部]長:(2.4)、幅:1.2、厚:0.2 [頸部]長:(1.9)、幅:0.7、厚:0.5	5.6	覆土下層	無閃の柳葉形鏃か。
16	鉄鏃	不明	全長:(3.8)、幅:0.8、厚:0.5	3.96	覆土下層	鉄鏃の頸部と茎部付近が屈曲したもののか。1.1×0.9の鉄片が癒着している。
17	鉄鏃	頸部	長:(5.1)、幅:0.6、厚:0.4	8.08	床面直上	
18	鉄鏃	頸部	長:(9.8)、幅:0.7、厚:0.3	12.63	覆土下層	長頸鏃。
19	鉄鏃	a:頸部 b:頸部茎部	a長:(6.3)、幅:0.7、厚:0.3 b全長:(3.7) [頸部]長:(2.2)、幅:0.6、厚:0.2 [茎部]長:(1.5)、幅:0.4、厚:0.2	7.95	覆土下層	2本の鉄鏃が錯によって癒着している。
20	鉄鏃	頸部・茎部	全長:(7.3) [頸部]長:(5.8)、幅:0.7、厚:0.5 [茎部]長:(1.5)、幅:0.4、厚:0.4	11.86	覆土下層	斜め閃を有する長頸鏃とみられる。
21	鉄滓	—	長:5.2、幅:5.3、厚:2.9	51.06	覆土下層	
22	鉄滓	—	長:4.4、幅:4.8、厚:2.1	35.58	覆土下層	
23	鉄滓	—	長:4.5、幅:3.0、厚:2.1	19.91	覆土下層	
24	鉄滓	—	長:4.9、幅:3.5、厚:1.9	20.32	覆土下層	

第23表 S117出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 坏	(15.0)	(5.9)	—	口縁端部は内傾する。	口縁部横ナデ。外面はへラ削り。内面は摩耗しているため調整不明。	明赤褐色	砂粒	良好	覆土下層	1/4残
2	手捏ね 土器	(5.4)	2.6	4.9	平底。底部から口縁部までそのまま立ち上がり、寸胴型を呈する。	内外面ともに指ナデ。底面にスス付着。	橙色	石英 微砂粒	普通	覆土下層	3/4残
3	土師器 高坏	—	(6.5)	12.0	坏部欠損。脚端部はやや反り上がる。	脚部外面全体に縦方向のへラ磨き。内面にはへラナデが施される。	橙色	石英 細砂粒	良好	覆土下層	脚部3/4残
4	土師器 小型壺	—	(9.8)	4.2	平底。胴部は球胴状に膨らむ。	胴部外面へラ削り。内面へラナデ。外面全体にスス付着。	褐色	石英 微砂粒	良好	覆土下層	3/5残
5	土師器 甕	(16.7)	23.3	(6.6)	平底。口縁部はくの字状に外反。	口縁部は2回に分けて横ナデを施す。胴部外面は横方向のへラ削り。内面はへラナデ。底部へラ削り。	黒褐色	石英 砂粒	良好	床面直上	1/2残

6	土師器 甕	(18.4)	(9.8)	-	口縁部はくの字状に外反する。	口縁部横ナデ。胴部外面は刷毛目調整。内面は横方向のヘラナデ。	にぶい橙色	石英 微砂粒 赤色粗砂	良好	床面直上	1/9残
7	須恵器 甕?	-	(10.2)	-	球胴状。	胴部中央に2本の沈線を持つ。底部内面には指の押圧痕あり。外面に自然釉。	外:暗灰色 内:灰色	黒色微砂粒 白色微砂粒	良好	覆土下層	胴部1/9残
8	須恵器 甕?	-	(7.7)	-		胴部上半に波状文あり。波状文の下に沈線が入る。	灰色 器肉は一部 セピア色	白色微砂粒	良好	床面直上	
9	須恵器 甕?	-	(4.8)	-	口縁下部に稜あり。	波状に刷毛目を施す。	黒色	白色微砂粒	良好	覆土上層	

第24表 S117出土石製品観察表

No	器種	法量 (cm)	石質	重量 (g)	出土地点	備考
10	剣形?	長: (2.0)、幅:2.5、孔径:0.2、厚:0.4	滑石	3.96	覆土下層	両面に擦痕。
11	砥石	長:26.4、幅:7.7、厚:4.6~5.3	凝灰岩	1311.89	貯蔵穴内	

第25表 S117出土鉄製品観察表

No	器種	残存部位	法量 (cm)	重量 (g)	出土地点	備考
12	鉄鏃	頸部・茎部	全長: (3.4) [頸部]長: (2.9)、幅:0.9、厚:0.8 [茎部]長: (0.5)、幅:0.2、厚0.2	2.59	覆土中	棘状閃を有する鉄鏃か。全体的に屈曲している。
14	刀子	刃部	長: (4.4)、幅:1.8、厚:0.2	4.17	覆土中	
13	鉄鏃	茎部	長: (2.4)、幅:0.2、厚:0.2	0.61	覆土中	

第26表 S118出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 杯	(15.6)	(3.9)	-	浅い半球状。口縁端部がやや内傾する。	体部外面ヘラナデ。内面一部ヘラ磨き。	橙色	石英 白色微砂粒	良好	覆土下層	1/4残
2	土師器 碗	(13.2)	(10.4)	-	口縁部は短く立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面に斜め方向のヘラ削りを施した後、底部外周に横方向のヘラ削り。内面は斜め方向のヘラナデ。	にぶい褐色	石英 微砂粒	普通	覆土下層	3/7残
3	土師器 甕	(13.7)	(3.6)	-	口縁部はくの字状に外反し、口縁端部はさらに短く外反する。	口縁部横ナデ。	橙色	石英 白色微砂粒 黒色微砂粒	良好	覆土下層	口縁部のみ残
4	土師器 甕	-	(16.0)	-	球胴状。	胴部外面はヘラ削り、内面はヘラナデ。外面の大部分にスス付着。	にぶい黄橙色	石英 白色微砂粒	良好	覆土下層	4/7残

第27表 S118出土鉄製品観察表

No	器種	残存部位	法量 (cm)	重量 (g)	出土地点	備考
5	鉄鏃?	茎部?	長: (5.1)、幅:0.6、厚:0.4	6.58	覆土下層	
6	刀子	刃部	長: (3.5)、幅:1.4、厚:0.2	3.68	覆土下層	

第28表 S119出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 杯	14.7	5.4	-	丸底。口縁端部はやや内傾気味に立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面横方向のヘラ削り。内面は放射状にヘラ磨き。底部外面にスス付着。	明赤褐色	石英 白色微砂粒	良好	覆土下層	3/4残
2	土師器 杯	(14.1)	(4.1)	-	丸底か。口縁端部が極めて短く立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面は横方向のヘラ削り。内面は放射状ヘラ磨き。	明赤褐色	石英・雲母 微砂粒	良好	覆土下層	4/9残
3	土師器 杯	(14.0)	(4.7)	-	丸底か。口縁端部が短く立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面は横方向のヘラ削り。	外:にぶい橙色 内:明赤褐色	石英 細砂粒	良好	覆土下層	1/5残
4	土師器 高杯	-	(9.7)	13.1	杯部欠損。脚端部はやや反り上がる。	脚端部横ナデ。脚部外面全体にヘラ磨き。内面には横方向のヘラ削り。	にぶい黄褐色	石英・雲母 微砂粒	普通	竈内	脚部3/5残
5	土師器 甕	(12.0)	(11.1)	-	口縁部はくの字状に外反。球胴状。	口縁部横ナデ。胴部外面は横方向のヘラ削り。内面は横方向のヘラナデ。	浅黄褐色	石英・長石 砂粒	良好	覆土下層	1/2残
6	土師器 壺	17.0	(6.4)	-	口縁部はくの字状に外反し、端部は真直ぐ立ち上がる。	口縁部横ナデの後、口縁外部の一部に横方向のヘラ磨き。口縁基部には横方向の刷毛目調整を施した後、縦方向のヘラ磨き。胴部上半にもヘラ磨きか。内面に縦横痕あり。	明赤褐色	石英 粗砂粒 細砂粒	良好	覆土下層	口縁部のみ残

7	土師器 甕	(14.4)	(21.5)	-	口縁部はくの字状に外反。球胴状。	口縁部横ナデ。胴部外面は刷毛目調整を施した後、上半にヘラナデ、下半にヘラ削り、中央部にヘラ磨きを施している。内面はヘラナデ。	にぶい橙色	石英・雲母 白色砂粒 粗砂粒	良好	覆土下層	4/5残
8	土師器 甕	(17.8)	(8.6)	-	口縁部はくの字状に外反。	口縁部横ナデ。胴部外面は縦方向の刷毛目調整。内面は横方向の刷毛目調整。外面にスス付着。	橙色	石英・雲母 粗砂粒	普通	覆土中層	1/12残
9	土師器 甕	(18.0)	(28.5)	-	口縁部はくの字状に外反。球胴状。	口縁部横ナデ。胴部外面は縦方向のヘラ削り。内面上部には斜め方向のヘラナデ。	明赤褐色	長石・石英 砂粒	良好	覆土中層	1/3残
10	土師器 甕	(17.0)	(8.5)	-	口縁部はくの字状に外反。	胴部外反にはヘラ削りを施した後、部分的にヘラ磨き。内面はヘラナデの後にヘラ削り。	橙色	石英 白色細砂粒	良好	覆土下層	口縁部のみ残
11	土師器 甕	(15.5)	(15.5)	-	口縁部がくの字状に外反。	口縁部横ナデ。胴部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ、紐痕あり。	にぶい橙色	石英・雲母 細砂粒	良好	覆土下層	1/9残
12	土師器 甕	(18.7)	(16.0)	-	口縁部がくの字状に外反。	口縁部横ナデ。胴部内外面ともにヘラナデ。	にぶい赤褐色	石英 粗砂粒 細砂粒	良好	覆土下層	1/10残
13	土師器 甕	(22.0)	(24.5)	-	口縁部がくの字状に外反。球胴状。	口縁部横ナデ。胴部上半にヘラナデの後、下半にヘラ削り。内面はヘラ削りの後上半にヘラナデ。	にぶい橙色	石英 粗砂粒 細砂粒	良好	覆土下層	1/3残
14	須恵器 環	(12.0)	(3.9)	-	左回転のロクロ成形。口縁部は内傾して立ち上がる。体部に受け部を持つ。	口縁部横ナデ。体部外面は回転ヘラ削り。	青灰色	白色砂粒	良好	覆土下層	1/5残

第29表 S120出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 甕	16.9	31.9	6.8	平底。口縁部はくの字状に外反。	口縁部横ナデの後外面は縦方向のヘラ磨き、内面は横方向のヘラナデ。胴部外面全体にヘラ削りを施した後にヘラ磨き。内外面ともにスス付着。	にぶい橙色	石英 細砂粒 微砂粒	良好	覆土下層	4/5残

第30表 S121出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 環	(13.2)	4.7	-	丸底。口縁部はやや内傾する。	口縁部横ナデの後、体部外面は横方向のヘラ削り。内面は縦方向のヘラ磨き。	浅黄橙色	石英・長石 雲母 白色砂粒	良好	覆土下層	2/3残
2	土師器 甕	15.6	(12.3)	-	口縁部がくの字状に外反。	口縁部横ナデの後、縦方向のヘラ磨き。胴部はヘラ削りの後、ヘラ磨き。胴部内面は横方向のヘラナデの後、横方向の刷毛目調整。内外面ともにスス付着あり。	にぶい黄橙色	石英 細砂粒 微砂粒	良好	床面直上	3/8残
3	土師器 甕	(22.4)	(13.8)	-	口縁部はなだらかに外反する。球胴状か。	口縁部横ナデの後、縦方向のヘラ磨き。胴部外面はヘラ削りを施した後、一部にヘラ磨き。胴部内面は一部にヘラナデを施した後に縦方向のヘラ磨き。	浅黄橙色	石英・砂粒	良好	床面直上	1/2残
4	須恵器 甕?	-	(3.8)	-	胴部上半から口頸基部にかけての破片。	外面に降灰による自然釉がみられる。波状文が施されている。	灰色	白色砂粒	良好	覆土下層	

第31表 S121出土石製品観察表

No	器種	法量 (cm)	石質	重量 (g)	出土地点	備考
13	磨石	長: (11.5)、幅: (9.2)、厚: 4.7	安山岩	663.99	覆土上層	

第32表 S122出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 環	14.9	6.4	-	丸底。口縁部が短く立ち上がる。半球状。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラ磨き。外面全体にスス付着。	明赤褐色	石英・長石 雲母 細砂粒	良好	覆土下層	5/8残
2	土師器 環	12.2	5.0	-	丸底。口縁部がやや立ち上がる。半球状。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラ磨き。底部内面にスス付着。	橙色	石英・長石 白色微砂粒	良好	床面直上	完形
3	土師器 環	-	(3.1)	-	丸底。	体部外面ヘラ削り。内面は摩擦しているため調整不明。	明赤褐色	石英・長石 小砂粒	良好	覆土上層	1/3残
4	土師器 壺	(12.8)	(9.8)	-	口縁部がやや外反して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面は下半にヘラ削りを施した後、全体にヘラ磨き。内面は全体にヘラ磨き。	橙色	石英 微砂粒	良好	床面直上	1/4残

5	土師器 甕	(12.0)	(6.2)	—	口縁部はくの字状に外反する。	口縁部外面は横ナデの後、縦方向のへら磨き。内面は横ナデの後、横方向のへら磨き。胴部上半外面がへらナデの後へら磨き、内面はへらナデ。	にぶい橙色	石英 微砂粒	良好	覆土下層	1/10残
6	土師器 甕	(18.4)	(14.1)	—	口縁部がくの字状に外反する。	口縁部横ナデ。胴部外面へら削り。内面は斜め方向のへらナデ。	浅黄橙色	石英 小砂粒	良好	覆土下層	1/3残
7	土師器 甕	—	(16.0)	5.7	平底。	底部へら削り。胴部外面もへら削り。内面はへらナデ。外面にスス付着。	にぶい橙色	赤色細砂粒 白色細砂粒	良好	覆土下層	1/4残

第33表 S123出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 杯	(12.2)	5.3	—	丸底。口縁部は内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面横方向のへら削り。内面縦方向のへら磨き。	外:明赤褐色 内:橙色	石英 粗砂粒	普通	覆土下層	7/8残
2	土師器 杯	14.4	5.1	—	丸底。口縁端部はやや立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面は横方向のへら削りの後、不定方向のへら磨き。底部外面にもへら磨き。内面は縦方向のへら磨き。外面にスス付着。	赤橙色	石英・砂粒	良好	覆土下層	完形
3	土師器 杯	14.2	6.1	—	丸底。半球状。	口縁部横ナデ。体部外面は横方向のへら削り。底部外面にもへら削り。	黄橙色	石英・長石 砂粒	良好	覆土中層	完形
4	土師器 杯	(15.0)	5.0	—	口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面は横方向のへら削り。内面はへら磨きの後、黒色処理をしている。外面にスス付着あり。	明赤褐色	石英 微砂粒	良好	床面直上	1/6残
5	土師器 杯	16.0	7.2	—	丸底。底部から口縁部にかけてなだらかに広がっている。	口縁部横ナデ。体部外面にへら削り。底部内面の一部にへら磨きが確認できるが、全体的に摩耗しているため調整不明。底部外面にスス付着。	"明赤褐色 橙色	石英 細砂粒	良好	床面直上	9/10残
6	土師器 杯	(14.8)	5.2	4.0	やや平底。口縁部は外反する。	口縁部横ナデの後、外面は一部にへら磨き。体部から底部にかけての外面は横方向のへら削り。内面は摩耗しているため調整不明。外面の一部にスス付着。	明赤褐色	石英 細砂粒	良好	覆土下層	3/4残
7	土師器 杯	9.4	6.5	3.5	手捏ね風。全体に厚手。平底。	口縁部横ナデ。体部外面は縦方向のへら削り。底部外周は横方向のへら削り。内面は横方向のへら削り。	赤橙色	石英 砂粒	良好	覆土下層	ほぼ完形
8	土師器 碗	(13.0)	(6.8)	—	口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面は横方向のへら削り。内面は一部に縦方向のへら磨きの後に横方向のへら磨き。	にぶい橙色	石英 微砂粒	良好	覆土下層	1/6残
9	土師器 碗	12.3	7.1	4.5	平底。歪みあり。口縁端部がやや内傾する。	口縁部横ナデの後、端部に沈線を入れる。体部外面へら削り。外面にスス付着。	明赤褐色	石英・粗砂粒 細砂粒	良好	覆土下層	3/4残
10	土師器 罎	10.7	17.0	4.9	平底。歪みあり。口縁部はくの字状に外反。	口縁部横ナデの後、縦方向のへら磨きを施す。外面胴部上半にはへら磨き、下半にはへら削り。外面にスス付着。	橙色	石英・長石 白色細砂粒 赤色細砂粒	良好	覆土下層	9/10残
11	土師器 甕	—	(7.3)	7.5	平底。底部中央部がややくぼむ。	胴部外面へら削り。内面は横方向のへらナデ。	黄灰色	石英・長石 砂粒	良好	床面直上	1/4残
12	土師器 鉢	(28.1)	(12.9)	—	口縁端部がやや外反する。	胴部外面上半に縦方向のへら削りを施した後、口縁部横ナデ。内面は摩耗しており調整不明。	にぶい橙色	石英・雲母 細砂粒	普通	覆土下層	1/10残

第34表 S123出土石製品観察表

No	器種	法量 (cm)	石質	重量 (g)	出土地点	備考
13	砥石	長:16.6、幅:5.0、厚:4.2	流紋岩	602.93	覆土下層	一部に擦痕あり。

第35表 S124出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 高杯	14.3	(6.2)	—	脚部欠損。	杯部外面一部にへら磨き。脚基部周辺にはへら削り。杯部内面にはへら磨き。	明赤褐色	石英 赤色粗砂粒 細砂粒	良好	貯蔵穴内	杯部7/8残
2	土師器 壺	(18.0)	37.8	(8.6)	口縁部はくの字状に外反し、稜を持って立ち上がる。球胴状。底部は中心部がややくぼむ。平底。	口縁部横ナデ。胴部、底部の外面はへら削り。内面はへらナデ。紐痕あり。外面全体にスス付着。	橙色	長石 小砂粒	良好	貯蔵穴内	1/2残
3	土師器 甕	(20.0)	(6.7)	—	口縁部はくの字状に外反。	口縁部横ナデ。外面へら削り、内面は横方向のへらナデ。	橙色	石英・長石 黒色砂粒 白色砂粒	良好	覆土下層	1/8残
4	土師器 甕	—	(2.0)	(5.0)	平底。	底部外周に横方向のへら削り。内面は摩耗しており調整不明。	にぶい橙色	石英・長石 小砂粒	良好	覆土下層	1/10残

5	土師器 甕	-	(12.2)	(9.0)	平底。	胴部外面は縦方向のヘラ削りの後、一部にヘラ磨き。底部外周は横方向のヘラ削り。内面は摩耗しており、調整不明。	外：にぶい褐色 内：黒色	石英 細砂粒	普通	覆土下層	1/7残
---	----------	---	--------	-------	-----	---	-----------------	-----------	----	------	------

第36表 S125出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 甕	13.3	23.0	5.5	口縁部がくの字状に外反し、口縁端部はさらに外に広がる。平底。	口縁部横ナデ。胴部外面は一定方向にヘラ削り、内面はヘラナデを施す。外面にスス付着。	にぶい黄褐色	雲母 赤色細砂粒 白色細砂粒	良好	覆土中層	7/8残
2	土師器 甕	(17.2)	22.3	5.6	口縁部はくの字状に外反。球胴状。平底。	口縁部横ナデ。胴部外面は全体にヘラ削りの後、上半に刷毛目調整を施し、その後部分的にヘラ磨き。内面は全体にヘラナデ。一部に刷毛目調整。外面全体にスス付着。	にぶい黄褐色	石英 白色細砂粒 赤色粗粒	良好	覆土下層	9/10残
3	土師器 甕	(17.3)	(23.3)	-	口縁部はくの字状に外反。	口縁部横ナデ。胴部外面は摩耗しているがわずかにヘラ削りが確認できる。内面はヘラナデ。外面為スス付着。	橙色	粗粒 細砂粒	普通	覆土下層	2/5残
4	土師器 甕	19.5	(14.8)	-	口縁部はくの字状に外反。球胴状。	口縁部横ナデ。胴部外面には縦方向のヘラ削り。内面には横方向のヘラナデ。	にぶい赤褐色	石英・雲母 白色細砂粒	良好	覆土下層	1/3残
5	土師器 甕	(18.8)	(18.8)	-	口縁部はくの字状に外反。球胴状。	口縁部横ナデ。胴部外面刷毛目調整の後、ヘラ削り。内面は上半にヘラナデ、下半にヘラ削り。	にぶい橙色	石英 細砂粒	良好	覆土下層	2/5残
6	土師器 甕	(28.0)	(25.7)	-	大型。口縁部はくの字状に外反。球胴状。	口縁部横ナデ。胴部外面にヘラ磨き。内面は上半に横方向のヘラナデ、下半に縦方向のヘラナデを施す。組積痕あり。内外面ともにスス付着。	にぶい黄褐色	石英 細砂粒	普通	覆土中層	1/4残
7	土師器 甕	21.8	19.4	8.0	単孔。口縁部が外反しながら立ち上がり、口縁端部はきつく外反する。	口縁部横ナデ、内面の一部に刷毛目調整。口頸基部外面に指圧痕あり。胴部外面にヘラ削り、一部にヘラ磨き。胴部内面は横方向のヘラナデの後、縦方向のヘラ磨き。内面底部付近は横方向のヘラ磨き。	浅黄褐色	石英・長石 砂粒	良好	覆土下層	3/4残

第37表 S126出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 杯	14.9	(6.5)	-	口縁部が外反してから短く立ち上がる。	口縁部横ナデ。	にぶい橙色	赤色砂粒 白色微粒	普通	覆土中層	1/2残
2	土師器 杯	(17.4)	5.7	5.4	平底で口縁部がゆるやかに外反する。	口縁部横ナデ。底部外周ヘラ削り。	にぶい橙色	白色砂粒	普通	覆土中層	2/3残
3	土師器 杯	(13.4)	5.6	5.2	口縁部が短く外反する。底部中心部がくぼむ。	口縁部横ナデ。外面にヘラ磨き。	にぶい橙色	白色砂粒	普通	覆土下層	1/2残
4	土師器 杯	(13.0)	6.2	(5.0)	底部にヘラ削りを施し底をやや平らにする。口縁部は短く外反。	口縁部横ナデ。体部外面の一部にヘラ削り。一部スス付着。	橙色	小石含む	普通	覆土下層	1/3残
5	土師器 杯	11.5	4.6	-	丸底で半球形状。	口縁部横ナデ。外面底部はヘラ削り、体部ヘラ磨き。内面は全体にヘラ磨き。	明赤褐色	白色砂粒 黒色微粒	良好	覆土中層	5/6残
6	土師器 碗	(13.0)	(8.3)	-	丸い体部から口縁部が短く立ち上がる。	口縁部横ナデ。内外面ともに一部ヘラ削り。	外：明黄褐色 内：黒褐色	小石含む	普通	覆土中層	上半1/3残
7	土師器 甕	(16.1)	(11.6)	-	口縁部はくの字状に外反し、端部は短く立ち上がる。	体部内外にヘラナデ。胴部内面に組積痕を残す。	外：にぶい橙色 内：灰黄色	白色微粒	普通	覆土下層	上半1/3残
8	土師器 甕	-	(4.7)	5.4	平底。	内外ともに摩耗しており調整不明。	外：にぶい橙色 内：褐灰色	白色微粒	普通	覆土下層	底部のみ残
9	土師器 甕	-	(2.9)	(7.0)	平底。	底部外面ヘラ削り。	浅黄橙	赤色砂粒	良好	覆土中層	底部のみ残
10	土師器 甕	-	(3.4)	4.0	平底。	内面全体にスス付着。	にぶい黄褐色	微砂粒	普通	覆土下層	底部のみ残
11	須恵器 甕	-	(9.1)	-	口頸部に稜を有する。					覆土中層	

第38表 S126出土石製品観察表

No	器種	法量 (cm)	石質	重量 (g)	出土地点	備考
12	砥石?磨石?	長：(23.1)、幅：(11.2)、厚：5.0	流紋岩	1703.36	覆土下層	表面の一部に擦痕。
13	砥石	長：10.8、幅：6.0、厚：3.0	流紋岩	304.53	覆土下層	一部被熱。擦痕あり。

14	打製石斧	長:(10,8)、幅:7.2、厚:2.0	安山岩	148.1	覆土中層	一部欠損。
15	勾玉	長:3.4、幅:1.8、孔径:0.2、厚:0.5	滑石	4.84	覆土下層	両面に擦痕。完全穿孔は一箇所のみ。
16	白玉	直径:5.5、孔径:1.5、厚:3.1	滑石	0.17	覆土下層	
17	白玉	直径:4.0、孔径:1.5、厚:2.5~3.0	滑石	0.06	床面直上	
18	白玉	直径:5.0、孔径:1.2、厚:0.3~0.5	滑石	0.18	覆土下層	
19	白玉	直径:5.0、孔径:1.5、厚:5.0	滑石	0.14	覆土下層	
20	白玉	直径5.0、孔径:1.8、厚:3.0~3.5	滑石	0.13	覆土下層	
21	白玉	直径4.5、孔径:1.5、厚:2.5~4.0	滑石	0.13	床面直上	
22	白玉	直径4.0、孔径:2.0、厚:2.0~3.0	滑石	0.06	床面直上	
23	白玉	直径:5.0、孔径:1.2、厚:3.5~4.0	滑石	0.18	覆土下層	
24	白玉	直径:4.2、孔径:2.0、厚:2.2~3.0	滑石	0.10	覆土下層	
25	白玉	直径:5.0、孔径:1.5、厚:3.5~4.0	滑石	0.20	覆土下層	
26	白玉	直径:4.2、孔径:1.5、厚2.2~2.8	滑石	0.10	覆土下層	
27	白玉	直径:4.0、孔径:1.5、厚:2.2~3.2	滑石	0.09	覆土下層	
28	白玉	直径:5.0、孔径:2.2、厚:2.0~3.0	滑石	0.12	覆土下層	
29	白玉	直径:4.0、孔径:1.5、厚:3.5~4.0	滑石	0.10	覆土下層	

第39表 S126出土鉄製品観察表

No	器種	残存部位	法量 (cm)	重量 (g)	出土地点	備考
30	鉄鏃	鏃身部・頸部・茎部	全長:19.0 [鏃身部]長:2.4、幅:1.0、厚:0.3 [頸部]長:11.4、幅:0.7、厚:0.4 [茎部]長:5.2、幅:0.3、厚:0.3	21.72	覆土下層	鏃身部はナデ関を有する長三角形の長頸鏃。棒状の頸部で関は直関もしくは斜め関を有する。

第40表 S127出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 坏	(15.0)	(6.0)	—	口縁部やや外反。	口縁部横ナデ。端部のみ再度ナデ。体部外面一部にヘラ削り。体部内面ヘラ磨き。	橙色	白色砂粒 黒色砂粒	良好	覆土下層	1/3残
2	土師器 坏	15.1	5.8	—	口縁端部がやや外反する。	口縁部横ナデ。体部外面は横方向のヘラ削り。内面は横方向のヘラナデ。内外面ともに一部にスス付着。	橙色	石英粗砂粒 砂粒	普通	床面直上	11/12残
3	土師器 塊	11.4	(7.3)	—	丸底か。口縁部は短く外反する丸い体部から口縁部が短く外反。	口縁部横ナデ。体部外面は横方向にヘラ削り。体部内面ヘラナデ。	外:にぶい橙色 内:にぶい赤褐色	微砂粒	良好	貯蔵穴内	2/3残
4	土師器 甗	16.1	21.2	7.0	口縁部はくの字状に外反。	口縁部横ナデ。胴部外面と底部外面にヘラ削り。胴部内面ヘラナデ。内面底部付近はヘラ削り。内外面ともにスス付着。内面は特に多く付着している。	灰黄褐色	石英白色細砂粒 赤色細砂粒 粗砂粒	普通	床面直上	15/16残
5	土師器 甗	15.5	20.8	6.2	平底。口縁部がくの字状に外反。	口縁部横ナデ。胴部外面下半にヘラ削り。口頸基部内面には横方向のヘラナデ。胴部内面は縦方向のヘラナデを施した後、部分的にヘラ磨き。底部付近の胴部下半内面の一部が赤褐色に変色。	にぶい黄橙色	石英白色細砂粒 赤色細砂粒 粗砂粒	普通	貯蔵穴内	完形
6	土師器 甗	(16.0)	(12.7)	—	球胴状か。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。胴部内外面ともにヘラ削り。胴部外面の一部にスス付着。口縁部と胴部の接合痕あり。	浅黄褐色	白色砂粒 黒色砂粒	良好	貯蔵穴内	1/4残
7	土師器 甗	(15.6)	(4.2)	—	口縁部は外反。	口縁部横ナデ。胴部外面は縦方向にヘラ削り。胴部内面は横方向に刷毛目調整。	にぶい橙色	細砂粒	普通	貯蔵穴内	口縁部2/5残

第41表 S127出土石製品観察表

No	器種	法量 (cm)	石質	重量 (g)	出土地点	備考
8	白玉	直径:4.5、孔径:2.0、厚:1.0	滑石	0.04	覆土下層	

第42表 S127出土鉄製品観察表

No	器種	残存部位	法量 (cm)	重量 (g)	出土地点	備考
9	鉄鏃	頸部	長: (11.4)、幅: 0.5、厚: 0.5	15.04	覆土上層	長頸鏃。
10	鉄鏃	茎部	長: (2.4)、幅: 0.5、厚: 0.4	1.48	床面直上	
11	鉄鏃	茎部	長: (1.1)、幅: 0.2、厚: 0.2	0.31	床面直上	

第43表 S128出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 杯	(16.9)	(5.6)	—	口縁部はやや立ち上がる。 半球状。	口縁部横ナデ。体部外面はヘラ削り、体部内面は縦方向にヘラ磨き。	橙色	緻密	良好	覆土下層	1/8残
2	土師器 杯	13.9	5.1	—	口縁部が内傾する。丸底。	口縁部横ナデ。外面は体部に横方向のヘラ削りを施した後、底部のヘラ削り。内面は放射状のヘラ磨き。内外面ともに黒斑あり。口縁部に紐痕あり。	橙色	石英・雲母粗砂粒 細砂粒	良好	貯蔵穴内	完形
3	土師器 杯	(12.8)	(5.1)	—	口縁部がくの字状に外反。	口縁部横ナデの後、横方向のヘラ磨き。体部外面は横方向のヘラ磨き、体部内面は放射状にヘラ磨き。	明赤褐色	緻密	良好	覆土下層	1/8残
4	土師器 高杯	—	(7.8)	—	杯部、底部欠損。短脚。	外面に縦方向のヘラ磨き。内面上半は棒状のもので撫でた痕あり。内面下半は横ナデ。	にぶい黄橙色	石英 白色微粒	良好	覆土下層	脚部1/3残
5	土師器 壺	—	(2.7)	7.9	底部中心部が若干くぼむ。	底部外周ヘラ削り。	にぶい黄橙色	石英 白色微粒	良好	覆土上層	1/24残
6	土師器 壺	(21.7)	(24.7)	—	口縁部はくの字状に外反し、端部はさらに少し外反する。	口縁部横ナデ。胴部外面ヘラナデ、ヘラ削り。ススが付着。胴部内面ヘラナデ。紐痕あり。	にぶい黄橙	石英・雲母 粗砂粒 細砂粒	良好	覆土下層	1/4残
7	須恵器 高杯	(17.0)	(7.3)	—	杯部に3つの稜を有する。輪状の把手が付随していたか。	波状文が施される。				覆土上層	

第44表 SK10・その他出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 碗	(11.6)	(7.7)	—	口縁部はくの字状に短く外反する。	口縁部横ナデ。体部外面はヘラ削り、内面は縦方向のヘラ磨き。外面にスス付着。	赤褐色	石英・雲母 微砂粒	普通	SK10	1/6残
2	土師器 杯	(14.0)	(5.6)	—	口縁部はやや外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面は摩耗しているため調整不明。	橙色	石英・雲母 白色細砂粒 赤色細砂粒	良好	表土中	1/4残
3	土師器 壺	(15.7)	(7.6)	—	口縁部がやや外反しながら立ち上がる。	口縁部外面は横ナデの後、横方向のヘラ削りを施してから縦方向のヘラ磨き。口縁部内面は横ナデの後ヘラ磨き。口頸基部外面はヘラ削りの後ヘラナデ。内面は刷毛目調整とヘラ削りが施される。	にぶい橙色	石英 細砂粒	良好	表探	口縁部のみ残
4	須恵器	—	—	—		波状文あり。	明灰黄色	石英 白色砂粒	良好	表探	

Ⅲ おわりに

今回の北若松原遺跡発掘調査では、第1次・2次合わせて竪穴住居跡28軒と土坑17基が確認された。各遺構及び出土遺物等の状況は前章で記したとおりであり、特に本地域の古墳時代中期から後期にかけての集落構造を考える上で貴重な資料が得られたものとする。ここでは、これらの出土土器及び竪穴住居跡について若干の考察を加え、報告のまとめとしたい。

1 出土土器について

今回確認された竪穴住居跡28軒のうち明らかに時期が異なるのはSI14・15の2軒のみであり、平安時代中頃のものと思われるものである。他はすべて古墳時代中期後葉から後期初頭の比較的短期間に営まれたものであり、住居の建て替えや拡張等の例はあるものの重複関係はみられないという状況である。

さて宇都宮市内におけるこの時期の集落出土土器については、北関東自動車道路建設及び東谷・中島地区土地区画整理事業等に伴う一連の発掘調査があり、杉村遺跡、権現山遺跡・百目鬼遺跡、立野遺跡等で詳細な編年作業が試みられている。また、近隣では本遺跡北方2.5kmの雷電山遺跡においてもこの時期の集落が発掘され、編年案が提示されている。これらの土器編年案を参考に本集落出土土器群の変遷を考えると概ね次の2時期に分けられる。

I期 SI04・06・11・12・13・20・24・25・26・27出土の土器群。

土師器には坏・埴・高坏・壺・甕・甑等の器種がみられる。坏・埴類は半球形のもの(SI12-1~7, SI13-1~4等)といわゆる内斜口縁のもの(SI12-10~12, SI26-1~4等)があり、全体に深めで平底のものもみられる。高坏は小型のものが一定量みられる。壺・甕類は大小2種類みられるが、大型品は全体に胴部の丸味が強い。甑も大小があり、甑の底部を抜いたような大型単孔のもの(SI04-3, SI06-7等)や折り返し口縁を持つ小型単孔のもの(SI11-5・6)がみられる。

須恵器の伴出は、SI12(坏身)・SI26(甕)及びSI06(大型甕?)の3住居跡で確認されている。このうちSI12の坏身は、土釜形の名残とみられる器形や底部の手持ちへう削り等古式の様相がみられ、TK208形式以前のものと考えられる。また、SI26の甕も体部径よりも口径が小さくなるものであり、やはり同時期頃のものと思われる。本期の年代としては、5世紀後葉頃と考える。

II期 SI02・03・05・07・08・09・10・16・17・18・19・21・22・23・28出土の土器群。

土師器の器種構成はI期とほぼ同じである。坏・埴類は全体に浅めのものが増えるとともに、新たに須恵器の模倣坏(SI10-3, SI16-3, SI23-1等)が加わり、本期の大きな指標となっている。甕は胴部の丸味が徐々に弱まり、長胴化傾向を示すもの(SI19-9~13, SI28-6等)がみられるようになる。また大型単孔の甑は、いわゆる砲弾形(SI03-10)となる。

須恵器の伴出は、SI17(大型甕?)・SI19(坏身)・SI21(直口壺?)・SI28(高坏)の4住居跡で確認されている。このうちSI19の坏身は、立ち上がりの高さや端部の仕上げ方等からTK23もしくはTK47形式のものと考えられる。また、SI28の高坏は無蓋坏部の破片資料であるが、坏部の深さや取っ手の位置等から同時期頃のものと思われる。本期の年代としては、5世紀末から6世紀初頭と考える。

2 竪穴住居跡について

下表は今回確認された古墳時代の竪穴住居跡26軒の一覧表である。調査区の関係で全体像が確認できなかったものも若干あるが、本遺跡のおおよその様相は把握できるものと思われる。ここではいくつかの視点から、本遺跡竪穴住居跡の形態的・構造的特徴を整理してみることにしたい。

規模と平面形 規模については床面積を取り上げ、便宜的に大型（25㎡以上）、中型（15～25㎡）、小型（15㎡以下）の3段階に分けたところ、大型9軒・中型8軒・小型9軒と非常にバランスのとれた配分を示している。これは時期毎にみてもI期が大型3軒・中型4軒・小型3軒、II期が大型6軒・中型4軒・小型6軒で、大中小のバランスは概ね保たれていると言える。ただしII期の大型の半数は床面積が30㎡後半から40㎡を超えるものであり、大型化が進んでいるとも言える。一方平面形については、厳密には正方形は無くすべて長方形（又は正方形指向）であるが、ここでは便宜上長短比が1：1.5未満のものを正方形、それ以上のものを長方形と分類した。これを規模別にみると、大型は正方形8軒・長方形1軒、中型は正方形4軒・長方形3軒、小型は正方形2軒・長方形5軒となり、小型になるにつれて長方形が多くなっていることが指摘できる。なお主柱は4本が基本で、中小型で長方形のものには2本主柱もみられる。

間仕切り溝 間仕切り溝は壁と主柱穴間又は主柱穴を結ぶ線上間に掘られた小溝で、その本数は住居跡によって様々である。今回の調査では、全竪穴住居跡の半数に近い12軒で間仕切り溝が確

遺構名	規模			平面形	主柱	火処	間仕切り溝	時期	備考
	長辺×短辺m	面積㎡	分類						
SI01	2.95×2.52	7.43	最小	不整形		無			
SI02	4.03×3.30	13.29	小	長方形		カマド		II期	
SI03	4.12×3.13	12.89	小	長方形		カマド		II期	
SI04	3.09×2.86	8.83	小	正方形		無		I期	
SI05	4.73×3.90	18.44	中	正方形		地床炉		II期	
SI06	4.95× ?		中	正方形	4本	地床炉		I期	
SI07	4.73×4.07	19.25	中	長方形		無		II期	
SI08	4.85×4.82	23.37	中	正方形	4本	地床炉	有	II期	主柱間に小柱
SI09	5.27×5.16	27.09	大	正方形	4本	地床炉	有	II期	
SI10	5.47×5.42	29.64	大	正方形	4本	地床炉	有	II期	
SI11	3.18× ?		小	正方形		地床炉		I期	
SI12	5.59×3.90	21.80	中	長方形	2本	地床炉		I期	
SI13	5.02×4.93	24.74	中	正方形	4本	地床炉	有	I期	炉は壁の直下
SI16	6.45×6.17	39.79	大	正方形	4本	地床炉	有	II期	拡張2回
SI17	6.63×6.52	43.22	最大	正方形	4本	地床炉	有	II期	床に小柱穴列
SI18	3.74× ?		小					II期	
SI19	6.07×6.05	36.72	大	正方形	4本	カマド	有	II期	拡張
SI20	3.36×2.92	9.81	小	長方形		無		I期	
SI21	3.88×3.46	13.42	小	長方形		地床炉		II期	
SI22	4.12×3.25	13.39	小	長方形	2本	地床炉		II期	
SI23	5.67×4.85	27.49	大	長方形	4本	地床炉	有	II期	
SI24	5.43×5.28	28.67	大	正方形	4本	地床炉	有	I期	
SI25	5.25×5.10	26.77	大	正方形	4本	地床炉	有	I期	張出貯蔵穴
SI26	5.12×5.08	26.01	大	正方形	4本	地床炉	有	I期	壁に小柱穴列
SI27	4.32×3.37	14.55	中	長方形	2本	地床炉		I期	
SI28	4.67×4.48	20.92	中	正方形	4本	地床炉	有	II期	拡張

第45表 古墳時代竪穴住居跡の様相

認されている。その内訳を規模別にみると大型9軒・中型3軒で、大型はすべて確認されている。また時期別ではI期4軒・II期8軒となり、増加傾向にあると言える。なお、SI17の床やSI26の壁にみられる小柱穴列はかなり希少な確認例であるが、間仕切り空間に置かれた構造物に伴うものと思われる。

炉とカマド 竪穴住居跡内の火処の内訳は、地床炉18軒・カマド3軒と炉が圧倒的に多い。これを時期別にみると、I期がすべて地床炉で8軒、II期が地床炉10軒・カマド3軒であり、本集落ではII期にカマドが導入されたことが指摘できる。確認された3軒のカマドはいずれも煙道部が僅かに壁を切り込むもので、壁を切り込んで燃焼部を造るタイプのもの（本遺跡古代のSI14・15等）より初期的であると思われる。また炉は、その位置が一方（北又は東）の壁に近づいているものがほとんどで、特にSI13などは東壁の直下にほぼ接している。炉からカマドに変化する時の状況が、よく反映されているものと思われる。

3 集落について

以上のように本遺跡の古墳時代集落は、中期後葉から後期初頭（暦年代では5世紀後葉から6世紀初頭）にかけて概ね2時期にわたって営まれたものである。集落の構成は、弧状に配された数軒から5～6軒の竪穴住居跡が1単位とみられ、時期とともに範囲を拡大しながら変遷したものとみられる。また集落規模は、I期10軒からII期15軒に増加するとともに、竪穴住居面積も大型化傾向にあり、人口は着実に増加していたものとみられる。さらにはこの時期、竪穴住居へのカマドの導入や須恵器・鉄器等の普及など、集落における生活様式が飛躍的に発展する様子が窺える。

さて本集落跡の立地的環境で最も注目しなければならないのは、浅い谷部を挟んで僅か0.5km西に展開する塚山古墳群の存在である。主墳である塚山古墳は、東谷町の笹塚古墳とともに栃木県の中期古墳を代表する大型前方後円墳であり、当時における宇都宮市南部地域の重要性を示すものである。この塚山古墳群の位置付けについては、宇都宮大学をはじめとする一連の発掘調査等から、塚山古墳→塚山西古墳→塚山南古墳という順で前方後円墳（西・南古墳は帆立貝型）が3代にわたって築かれたことが確認され、出土した円筒埴輪や土器の分析等から5世紀中葉から6世紀初頭にかけての造営年代が示されている。

本集落はまさにこの塚山古墳群の造営期間中に営まれたものであり、その膝元の集落として大きな役割を担っていたことは想像に難くないところである。そして塚山古墳群の造営終了とともに、本集落もその終焉を迎えたものと思われる。

(参考文献)

- 藤田典夫・安藤美保 2000『杉村・磯岡・磯岡北』栃木県教育委員会・(財)栃木県文化振興事業団
藤田典夫・谷中 隆 2001『権現山遺跡・百目鬼遺跡』栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団
内山敏行 2005『東谷・中島地区遺跡群5 立野遺跡』栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団
今平利幸 1994『雷電山遺跡』宇都宮市教育委員会
常川秀夫・大金宣亮・石川均 1979『塚山古墳群』栃木県教育委員会
石部正志・阿部知己・齋藤恒夫 1995「塚山古墳外形確認調査報告」『峰考古』第9号 宇都宮大学考古学研究会
石部正志・阿部智之他 2003『塚山西古墳・塚山南古墳』宇都宮市教育委員会

第2章

若松原南遺跡

I はじめに

1 調査の経過

若松原南遺跡は、宇都宮市街地の南方約6km、宇都宮市若松原3丁目21番他に所在する遺跡で、古墳時代の集落跡として登録（県番号4195）された周知の埋蔵文化財包蔵地である。この包蔵地の南端を東西に横切るのが市道749号線であるが、近隣の宅地開発等に伴って交通量が増大したことから、平成16年に道路拡幅の工事計画が浮上した。宇都宮市教育委員会と市道路建設課は、協議の結果、平成18年度以降に記録保存のための発掘調査を実施することとした。

確認調査 調査期間は平成18年11月21日～平成19年1月16日。現道及び拡幅部分を合わせた約2,000㎡（総延長約250m）を対象に表土を除去し、遺構等の確認にあたった。この結果、現道部分は削平や攪乱が激しく遺構等の確認はできなかったが、拡幅部分（現道北側の水田面）においては竪穴住居跡、土坑、溝跡等を確認することができた。なお当該年度はおおよそその遺構数と分布範囲をおさえるに止め、本調査は次年度予算で実施することとした。

本調査 調査期間は平成19年10月16日～平成20年2月12日。調査対象としたのは、前年度の調査で遺構が確認できた約1,000㎡（総延長約220m）の範囲である。発掘調査は竪穴住居跡や土坑が密集する西側から着手し、順次東方へと進んだ。竪穴住居跡は7軒確認されたが、調査区が幅4～5mと細長いため、いずれも部分的で全容を把握できるものはなかった。ただしやや大型のSI04は複数のカマドを有し、遺物も多かったため調査にも時間を要した。調査区の中央付近、竪穴住居跡群のすぐ東側では3棟の掘立柱建物跡と柵状の柱穴列1本が確認された。こちらも調査区の関係で、柱間数や全体規模はいずれも不明であった。東側に進むと住居跡・建物跡等は見られず、土坑の分布が中心であった。ある程度の遺構の広がりや認められたものの、全体的に遺物量は少なかったこともあり、調査は順調に進み、ほぼ予定の期日で終了することができた。

2 遺跡の環境

本遺跡は北若松原遺跡の南南西約1kmに位置し、地理的・地形的環境はこれ（第1章I-2参照）とほぼ同じで、やはり南流する田川と姿川に挟まれた宝木台地上に立地する。微地形的には、姿川の支流である兵庫川の左岸台地上で、標高は90m前後である。遺跡地付近はほぼ平坦であるが、兵庫川沿いの西から東にかけて僅かに上る緩斜面となっており、その高低差は2m程である。また、兵庫川沿岸の低地面との比高差は3～4mを測る。なお遺跡地の現況は水田・畑地・道路等として利用されているが、周辺はほぼ宅地化されている。

周辺の遺跡についても北若松原遺跡とほぼ同様（第2図）であり、古墳時代をはじめとする集落遺跡の密集度が高い。なお、本遺跡の北方約1kmには、本県の中期古墳を代表する塚山古墳群が存在している。

（参考文献）

宇都宮市教育委員会 2017 『宇都宮市遺跡分布地図』

II 遺構と遺物

今回の若松原南遺跡においては、約1,000㎡が発掘調査の対象となり、竪穴住居跡7軒・掘立柱建物跡3棟・柱穴列2本・土坑48基及び堀等が確認された。ここでは遺構毎に、調査成果をまとめたい。

1 竪穴住居跡

S101 (第80・81・97図)

概要：北壁にカマドを有する中規模の竪穴住居跡で、南半分以上が調査区外である。平面形は方形とみられ、主軸の方位はN-13°-Eである。**位置：**調査区の中央やや西寄りに位置し、兵庫川低地までは約100mの距離にある。**規模：**東西4.75m×南北1.20m以上の方形で、確認面から床面までの深さは0.60m前後とやや深めである。**覆土：**自然堆積であるが、下層床面中央部にはカマドから流れ出た灰褐色粘土や焼土を多く含む層がみられた。**床面：**ほぼ平坦で、カマド周辺はよく踏み固められていた。**柱穴：**調査区内では確認されていない。**貯蔵穴：**南北46cm×東西67cm×深さ68cmの隅丸長方形で、カマド右脇の北東コーナー寄りに位置する。**カマド：**東壁のほぼ中央に位置し、煙道は壁を45cm程掘り込んで造られている。袖部は灰褐色粘土を主体として造られたもので、幅120cm・奥行き90cm程の大きさである。燃焼部は南北88cm×東西78cm×深さ10cmの不整円形の凹みで、火処は赤く焼け焦がされていた。**出土遺物：**図示しえたのは土師器甕1点のみで、カマド周辺から出土したものである。

S102 (第82図)

概要：南壁中央に小さい張出を有するやや小規模な竪穴住居跡で、主軸の方位はN-18°-Eである。なお、北西コーナー付近は調査区外である。**位置：**調査区の中央やや西寄り、S101のすぐ東側に位置する。**規模：**東西3.68m×南北3.10m以上の隅丸方形で、確認面から床面までの深さは0.1m前後である。**覆土：**自然堆積で、下層には小さいロームブロックが含まれていた。**床面：**ほぼ平坦で、主柱穴に囲まれた中央部はある程度踏み固められていた。**柱穴：**主柱穴はP1～P4(直径32cm～37cm×深さ22cm～29cm)の4本で、柱間距離は南北1.35m×東西1.85mと長方形の配置である。**張出：**南壁中央部が幅約1m・奥行き30cmほどの大きさに半月状に張り出している。ただしこの部分に貯蔵穴等の施設は見られない。**火処：**床面から地床炉等は確認されていない。また、調査区外の北壁東寄りにおいても、その残り具合からカマドを有する可能性は低いものとみられる。**出土遺物：**覆土下層から破片資料が数点出土したが、図示し得るものは無かった。

S103 (第83図)

概要：北東コーナー部のみが確認された竪穴住居跡で、想定される主軸方位はN-18°-Eである。**位置：**調査区のほぼ中央部で、S104と主軸を揃えて隣接している。**規模：**平面規模は不明であるが、確認面から床面までの深さは0.58mとしっかりした深みを有している。**覆土：**全体にローム粒・小ロームブロックを多く含んでおり、人為的に埋め戻された可能性が高い。**床面：**確認された範囲ではほぼ平坦である。**出土遺物：**覆土下層から破片資料が数点出土したが、図示し得るものは無かった。

S104 (第84・85・98・99図)

概要: 確認された中では最も規模の大きい竪穴住居跡で、北東コーナーと南東部が調査区外となっている。主軸方位はN-13°-Eである。 **位置:** 調査区の中央部で確認された竪穴住居跡群の最も東寄りに位置する。 **規模:** 東西6.20m×南北5.30m以上の整った方形と思われ、確認面から床面までの深さは0.45～0.50mである。 **覆土:** 自然堆積で、下層には小ロームブロック・ローム粒等が含まれていた。 **床面:** ほぼ平坦で、中央部及びカマド周辺は良く踏み固められていた。 **柱穴:** 確認された支柱穴はP1～P3(直径38cm～68cm×深さ48cm～72cm)の3本で、柱間距離は東西3.45m×南北3.20mと、やや東西が長い。なお床面中央部のP4は、直径75cm×深さ28cmの土坑状の穴で、柱穴とは考えにくい。 **カマド:** 本住居跡では北壁で1つ、東壁で2つ、合わせて3つのカマドが確認されている。このうち東壁やや北寄りに設けられたカマド1は、周辺から複数の甕や坏が出土しており、最終的に使用されていたものとみられる。煙道部の壁への切り込みは約20cmと浅く、壁の立ち上がり部も残したままである。本体は灰褐色粘土で構築されたものとみられ、大きさは袖部の残存状況から幅約100cm×奥行き約80cm程であったものとみられる。また焚き口部には凝灰岩が補強材としてコの字状にかけ渡されていたが、これから間口の大きさを推定すると幅約30cm×高さ約20cm程であったとみられる。次にやはり東壁のやや南寄りで確認されたカマド2であるが、煙道部の壁への切り込みは約50cmとカマド1より深く、東西断面の観察の結果、カマド廃絶後に約10cmの厚さで土を貼り、壁を復原している様子が明らかになった。このことからカマド2からカマド1への付け替えが窺われる。なお、北壁のカマド3は燃焼部の掘り込みだけが確認されたものであるが、本体部の粘土等が残されていない状況から、カマド1以前に廃絶されたものと思われる。**出土遺物:** 図示し得たのは、土師器の坏2点・甕3点・壘1点・須恵器の坏1点であり、1の坏と3～5の甕はカマドからの出土である。また7の須恵器坏は、柱穴P2の根本からの出土である。

S105 (第86図)

概要: 不整楕円形の小型な竪穴住居跡で、主軸の方位はN-13°-Eである。 **位置:** 調査区の西端近くで、兵庫川低地を臨む台地縁辺部である。 **規模:** 南側がSD02に切られ、調査区外に延びていることから全容は不明であるが、短軸2.40×長軸1.90m以上の不整楕円形で、確認面から床面までの深さは5～8cmとかなり浅めである。 **覆土:** 自然堆積で、ローム粒を主体とした土層である。 **床面:** ほぼ平坦であるが、あまり踏み固められた様子は認められない。 **柱穴:** 支柱穴とみられるのはP1～3で、直径30cm前後の円形の穴であるが、深さが8～14cmと浅く、配置も不整である。また周囲には壁柱穴とみられる直径20～25cmの小穴がいくつか並ぶが、いずれも浅め(深さ7～10cm)である。 **火処:** 残存する床面からは、炉の痕跡等は確認されていない。 **出土遺物:** なし

S106 (第87図)

概要: 調査区内で南東コーナーのみが確認された竪穴住居跡で、推定される主軸の方位はN-16°-Eである。 **位置:** 調査区の西端で、兵庫川低地を臨む台地縁辺部である。 **規模:** 平面形は隅丸方形と思われるが、規模は不明である。また確認面からの深さは6～7cmと非常に浅い。 **覆土:** 自然堆積である。 **床面:** ほぼ平坦であるが、あまり踏み固められた様子は認められない。 **柱穴:** 直径25cmほどの穴が一個(P1)確認されたが、深さは10cmと浅い。 **出土遺物:** なし

S107 (第88図)

概要: 調査区内で南東コーナーのみが確認された竪穴住居跡で、推定される主軸の方位はN-28°-E

である。 **位置**：SB05のすぐ西脇で、調査区の最西端である。 **規模**：平面形は隅丸方形と思われるが、規模は不明である。また確認面からの深さは10cm前後と非常に浅い。 **覆土**：自然堆積である。 **床面**：ほぼ平坦であるが、踏み固められた様子は認められない。 **柱穴**：コーナー付近から直径25cmほどの穴が一個（P1）確認されたが、深さは10cmと浅い。 **出土遺物**：なし

2 掘立柱建物跡

SB01 (第89図)

概要：桁行2間以上×梁行2間の側柱式の建物とみられ、主軸の方位はN-48°-Wと大きく西へ傾いている。 **位置**：竪穴住居跡群のすぐ東側に位置し、SI04とは僅か5m程の距離にある。 **規模・柱間寸法**：桁行は南側柱列で、柱間寸法は西から3.32+Xm。梁行は西妻柱列で、総長が4.36m、柱間寸法が北から2.20+2.16mである。 **掘方**：平面形は直径57～65cmの不整形円で、確認面からの深さは56～65cmである。大部分が柱痕跡を残しており、推定される柱の太さは15cm前後である。 **出土遺物**：なし。

SB02 (第90図)

概要：柱穴1個の確認であるが、掘方等の状況から掘立柱建物跡の隅柱と判断したものである。 **位置**：SB01のすぐ西側に位置し、本体部は北側調査区外へ展開しているものと思われる。 **掘方**：平面形は一辺80～90cmの方形とみられ、深さは25cm前後。底面のほぼ中央には、柱を据えたと思われる直径25cm・深さ15cmの小穴が確認できる。 **出土遺物**：なし

SB03 (第91図)

概要：桁行2間以上×梁行1間以上の側柱式の建物とみられ、主軸の方位はN-26°-Wと西へ傾いている。 **位置**：SB01から15mほど西に位置し、本体部は南側調査区外へ展開しているものとみられる。 **規模・柱間寸法**：桁行は北側柱列で、柱間寸法は東から2.45+2.35+Xm。梁行は東妻柱列で、柱間寸法は北から2.24+Xmである。 **掘方**：平面形は長軸80～90cm×短軸70～80cmの長方形（もしくは隅丸長方形）で、確認面からの深さは33～65cmである。 **出土遺物**：なし

3 柱穴列

SX01 (第92図)

概要：5間もしくはそれ以上の柵状の柱穴列で、主軸方位はN-63°-Wである。 **位置**：SB01とSB03の間。 **規模・柱間寸法**：確認された柱穴列は一列6本・5間分で、総長6.82m、柱間寸法は西から1.41+1.44+1.30+1.46+1.21mである。 **掘方**：平面形は直径28～40cmの円形で、確認面からの深さは17～45cmである。 **出土遺物**：なし

SX02 (第93図)

概要：5間の柵状の柱穴列で、主軸方位はN-85°-Eである。 **位置**：SI05のすぐ東側。 **規模・柱間寸法**：確認された柱穴列は一列6本・5間分で、総長6.67m、柱間寸法は西から1.33+1.20+1.21+1.35+1.58mである。 **掘方**：平面形は直径30～55cmのほぼ円形で、確認面からの深さは5～12cmとかなり浅めである。 **出土遺物**：なし

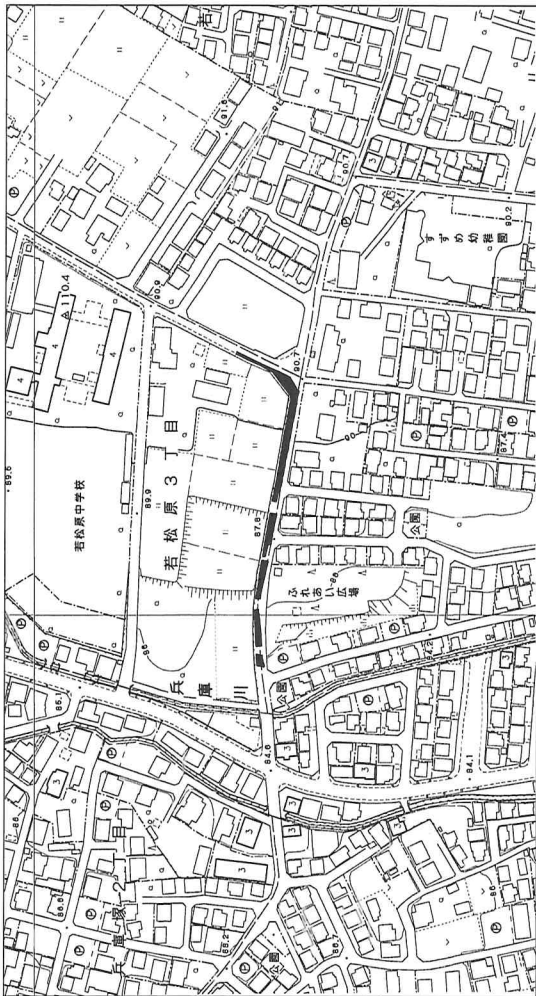
4 土坑

今回の発掘調査では48基の土坑が確認されている。分布は調査区のほぼ全域に及んでいるが、住居・建物跡周辺には集中する傾向がみられる。平面形は楕円形のもの最も多く半数近くを占め、円形や隅丸方形のものも一定量認められる。

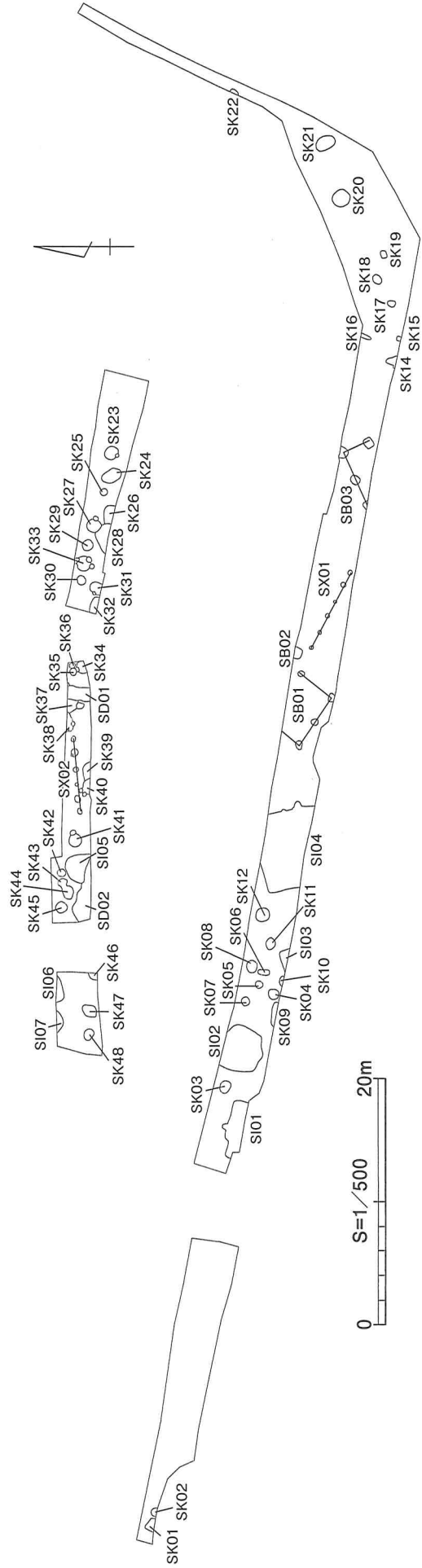
規模は長軸54～193cm×短軸36～137cmとかなりばらつきが見られるが、深さは5～38cmと全体に浅めである。なお、出土遺物は認められない。

第46表 土坑一覧

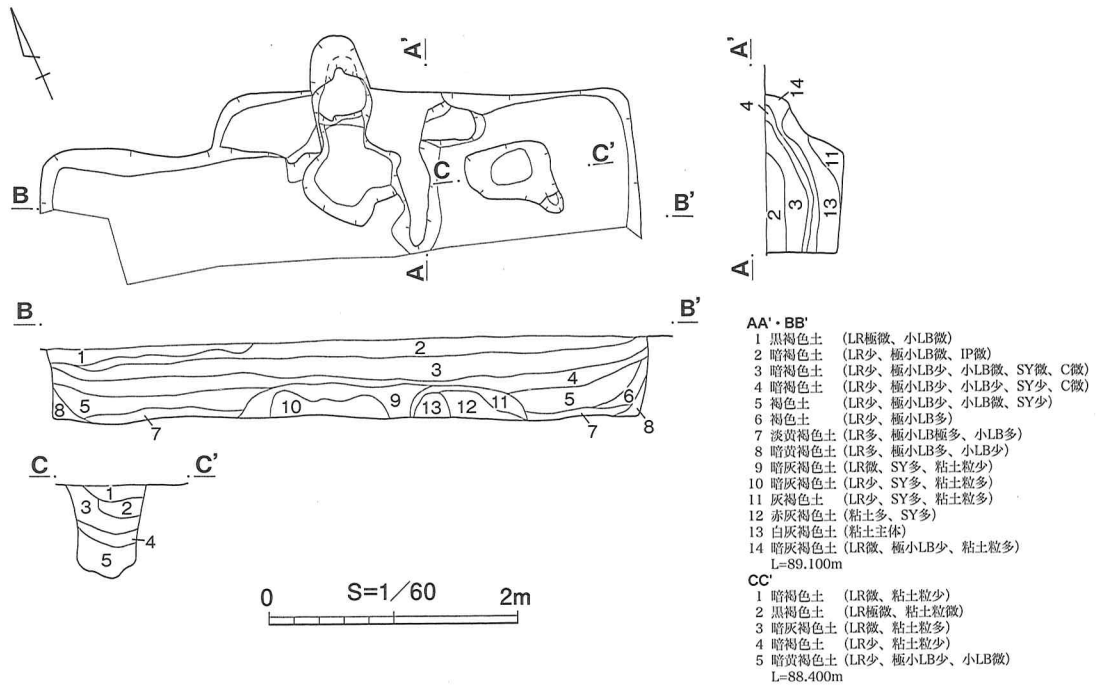
遺構名	平面形	大きさcm	深さcm	遺構名	平面形	大きさcm	深さcm
SK01	隅丸方形	100×(74)	16	SK25	隅丸方形	58×55	5
SK02	楕円形	64×(45)	23	SK26	隅丸方形?	(140×95)	4
SK03	不整円形	98×94	27	SK27	楕円形	122×114	9
SK04	円形	85×81	18	SK28	隅丸方形?	(225×155)	6
SK05	円形	62×60	18	SK29	隅丸方形	91×85	7
SK06	長方形	93×47	15	SK30	楕円形	77×68	11
SK07	円形	70×67	28	SK31	隅丸方形?	(94)×96	18
SK08	円形	101×93	27	SK32	楕円形?	(130×60)	10
SK09	長方形?	193×(35)	7	SK33	不整円形	119×114	5
SK10	不整円形	82×(33)	15	SK34	楕円形?	(67)×103	12
SK11	楕円形	98×77	23	SK35	円形	56×53	21
SK12	円形	116×110	21	SK36	楕円形	54×44	11
SK13	長楕円形	94×36	38	SK37	不整方形?	(105×85)	6
SK14	不整円形	99×82以上	12	SK38	不整円形?	157×(55)	5
SK15	長方形?	36×(35)	22	SK39	隅丸方形?	(120×90)	9
SK16	長楕円形	(87)×35	29	SK40	不整円形?	(130×60)	10
SK17	楕円形	74×48	23	SK41	楕円形	(106)×103	11
SK18	楕円形	87×66	22	SK42	楕円形	72×62	11
SK19	隅丸方形	60×57	21	SK43	楕円形	76×(55)	12
SK20	楕円形	152×137	21	SK44	楕円形	103×(85)	14
SK21	楕円形	163×115	11	SK45	楕円形	98×91	10
SK22	楕円形?	77×(33)	29	SK46	楕円形?	(73×57)	16
SK23	楕円形	119×103	12	SK47	隅丸方形	118×94	7
SK24	楕円形	163×104	10	SK48	楕円形	94×75	11



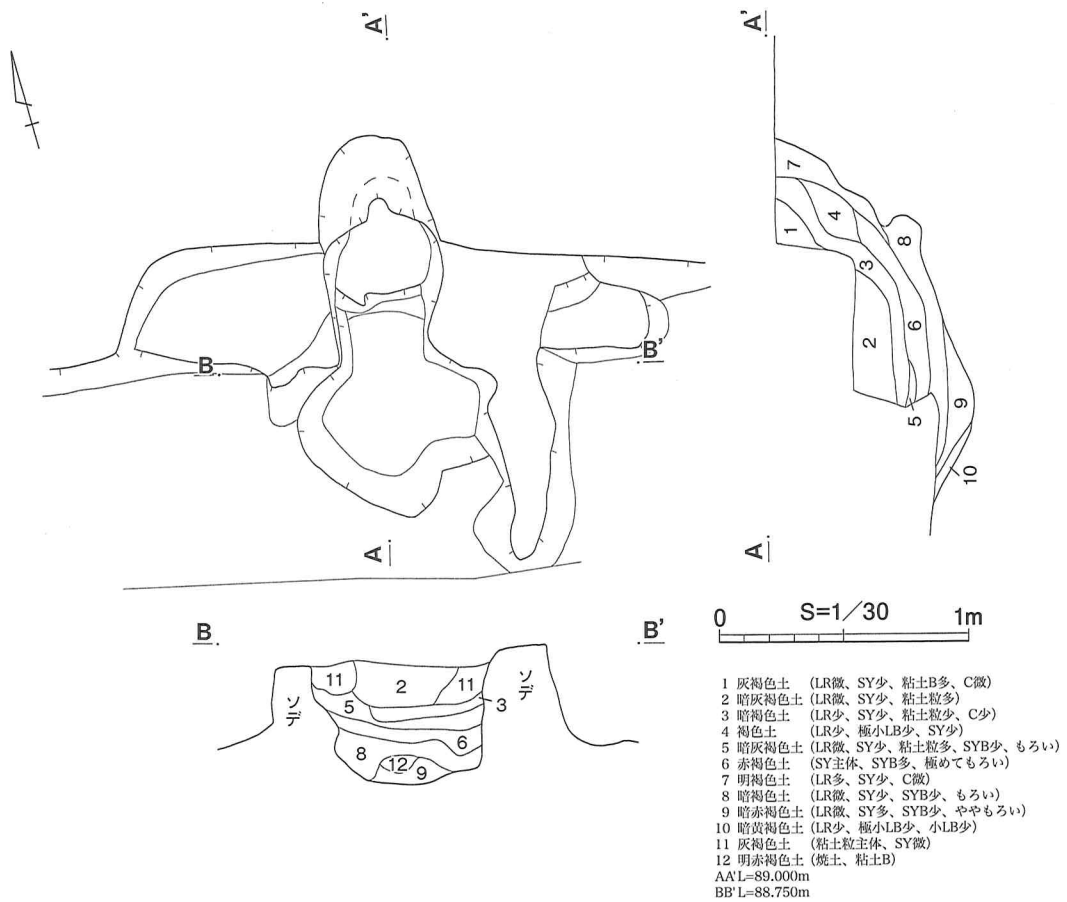
第78図 調査地区図 (1:5,000)



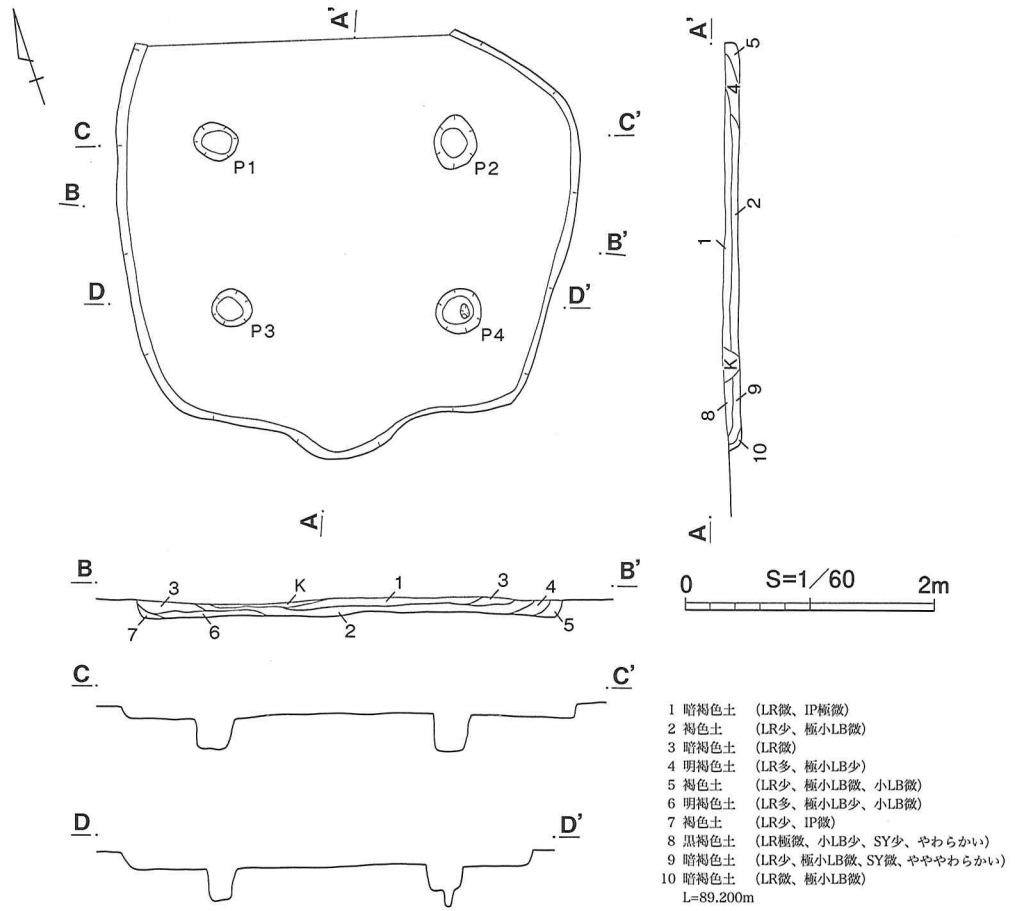
第79図 遺構配置図



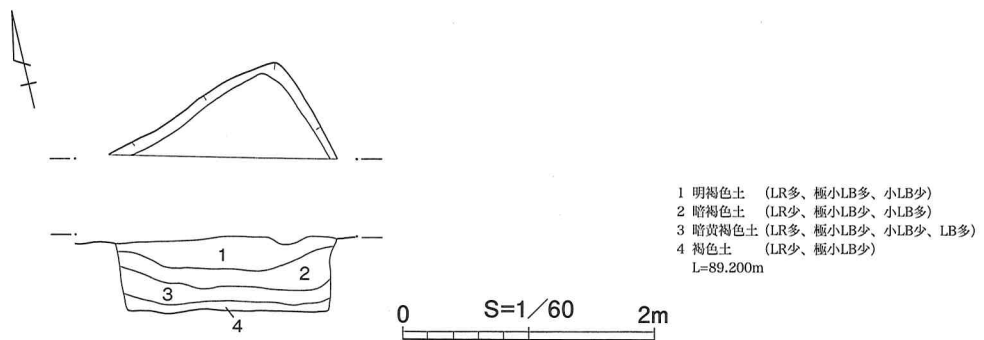
第80図 SI01



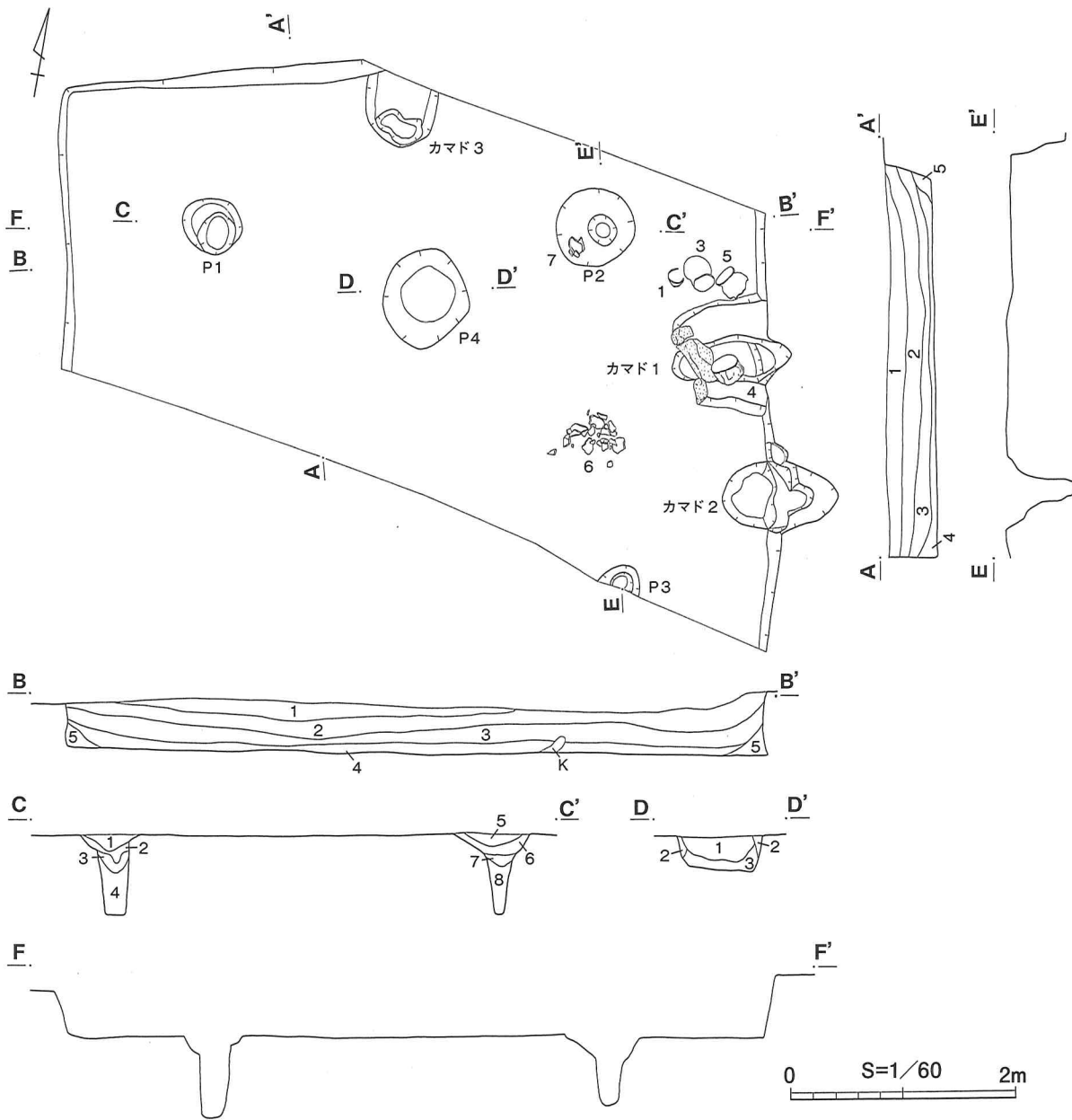
第81図 SI01カマド



第82図 SI02



第83図 SI03



AA'・BB'

- 1 黒褐色土 (LR極微、IP微)
 - 2 黒褐色土 (LR微、IP微、ややしまりあり)
 - 3 暗褐色土 (LR少、しまりあり)
 - 4 褐色土 (LR少、極小LB微、ややしまりあり)
 - 5 明褐色土 (LR多、極小LB少、小LB微)
- L=89.300m

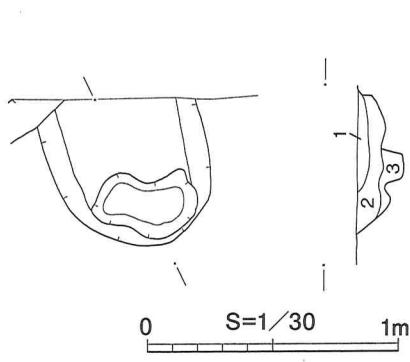
CC'

- 1 褐色土 (LR少、極小LB微)
 - 2 明褐色土 (LR多、極小LB多)
 - 3 黄褐色土 (LR主体、LB少、もろい)
 - 4 明黄褐色土 (LR主体、ややもろい)
 - 5 褐色土 (LR少、極小LB微、C微)
 - 6 明褐色土 (LR多、極小LB少、C微)
 - 7 暗黄褐色土 (LR多、極小LB多、小LB少、ややもろい)
 - 8 黄褐色土 (LR主体、LB多、もろい)
- L=88.900m

DD'

- 1 褐色土 (LR少、極小LB少、小LB少、SY微)
 - 2 明褐色土 (LR多、極小LB少、小LB少)
 - 3 暗黄褐色土 (LR主体、極小LB多、小LB少、やや粘性あり)
- L=88.900m

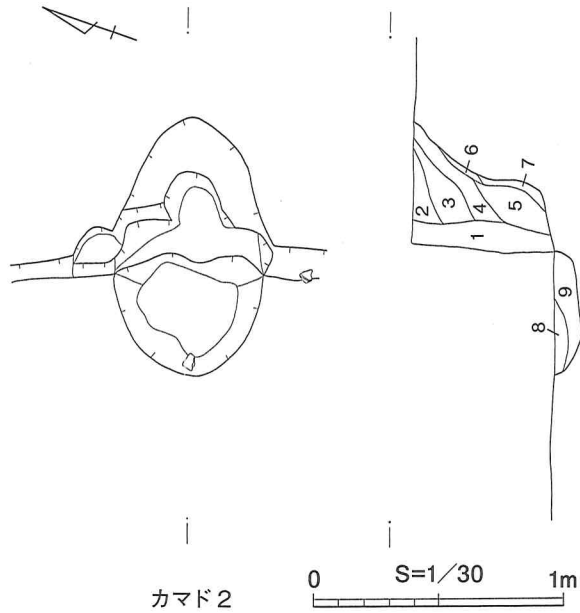
第84図 SI04



- 1 暗赤褐色土 (LR多、小LB少、SY少)
- 2 暗赤褐色土 (LR多、極小LB少、小LB微、SY微)
- 3 暗黄褐色土 (LR多、極小LB多、小LB少、もろい)

L=88.900m

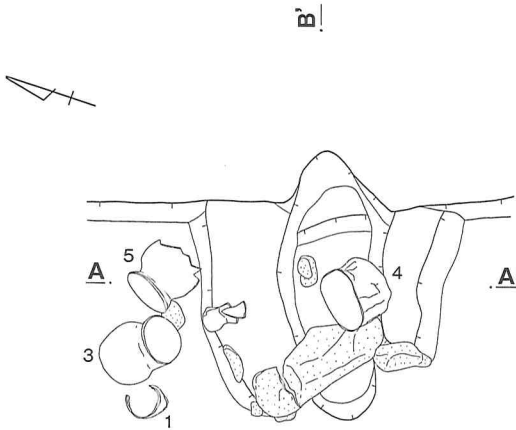
カマド3



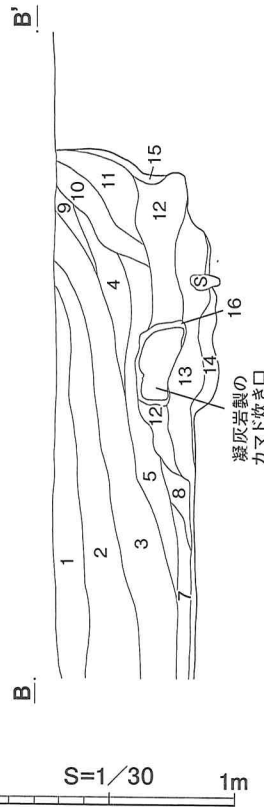
カマド2

- 1 暗褐色土 (LR微、小LB微、ややしまりあり)
- 2 暗褐色土 (LR微、SY微)
- 3 褐色土 (LR少、SY微)
- 4 明褐色土 (LR多、SY少、粘土粒多)
- 5 暗赤褐色土 (LR多、SY多、もろい)
- 6 暗灰褐色土 (LR少、粘土粒多)
- 7 灰褐色土 (LR多、粘土主体)
- 8 暗黄褐色土 (LR多、小LB多、SY少)
- 9 暗赤褐色土 (LR多、小LB少、SY多、もろい)

L=89.400m



カマド1

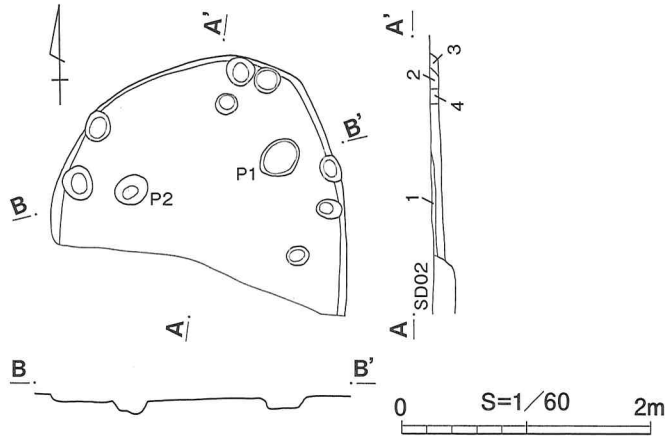


凝灰岩製の
カマド吹き口

- 1 黒褐色土 (LR微、SY極微)
- 2 暗褐色土 (LR微、極小LB微、SY微)
- 3 暗褐色土 (LR微、極小LB微、SY微、粘土粒微)
- 4 暗灰褐色土 (LR微、SY少、粘土粒少)
- 5 灰褐色土 (LR少、粘土粒多、SY少)
- 6 暗黄褐色土 (LR多、SY少、粘土粒微)
- 7 明褐色土 (LR多、SY微)
- 8 淡灰褐色土 (LR少、粘土粒主体、SY少)
- 9 暗灰褐色土 (LR微、粘土粒少、粘土B微)
- 10 暗黄褐色土 (LR少、小LB少、粘土粒微、SY微)
- 11 褐色土 (LR少、SY少、粘土粒少、C微)
- 12 暗赤褐色土 (LR微、SY多、SYB少、粘土粒微、C微)
- 13 赤褐色土 (LR少、SY少、小LB多、C少)
- 14 赤黄褐色土 (LR少、SY多、LB多、C少)
- 15 明褐色土 (LR多、粘土B少)
- 16 黄灰褐色土 (粘土主体)

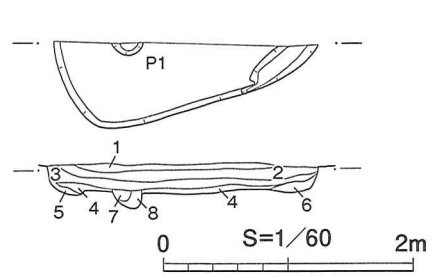
L=89.400m

第85図 SI04カマド



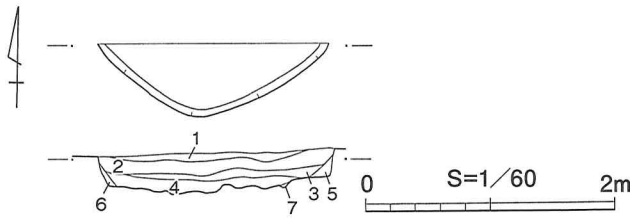
第86図 SI05

- 1 暗褐色土 (LR少)
 - 2 褐色土 (LR少、極小LB少、SP極微)
 - 3 明褐色土 (LR多、極小LB少)
 - 4 黒褐色土 (LR微)
- AA'L=84.840m
BB'L=94.740m



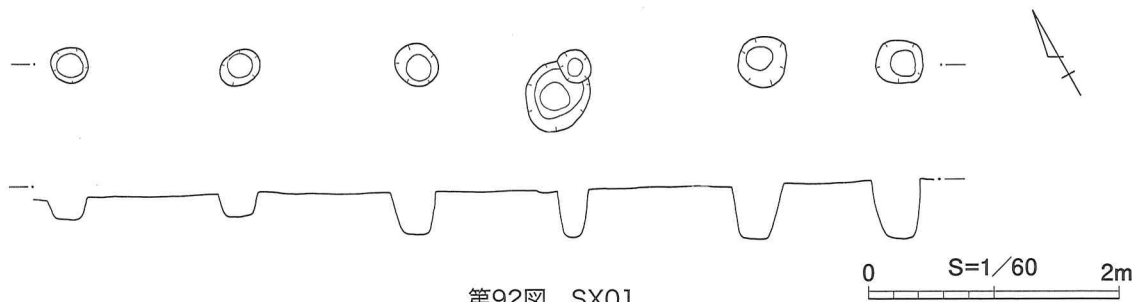
第87図 SI06

- 1 黒褐色土 (LR極微、SP極微)
 - 2 暗褐色土 (LR微、SP微)
 - 3 褐色土 (LR少、極小LB微、IP微)
 - 4 明褐色土 (LR多、極小LB少)
 - 5 暗黄褐色土 (LR多、小LB微、SP微)
 - 6 暗黄褐色土 (LR多、小LB多、もろい)
 - 7 暗褐色土 (LR微、極小LB微、やややわらかい)
 - 8 褐色土 (LR少、極小LB少、小LB微、やわらかい)
- L=94.740m

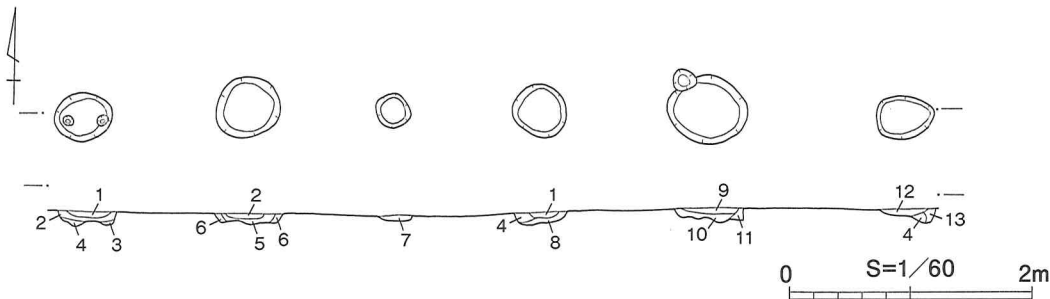


第88図 SI07

- 1 黒褐色土 (LR極微、SP極微)
 - 2 暗褐色土 (LR微、IP微)
 - 3 褐色土 (LR少、極小LB微)
 - 4 暗黄褐色土 (LR多、小LB少、SP微)
 - 5 褐色土 (LR少、やわらかい)
 - 6 明褐色土 (LR多、極小LB微)
 - 7 黄褐色土 (LB多、もろい)
- L=94.660m

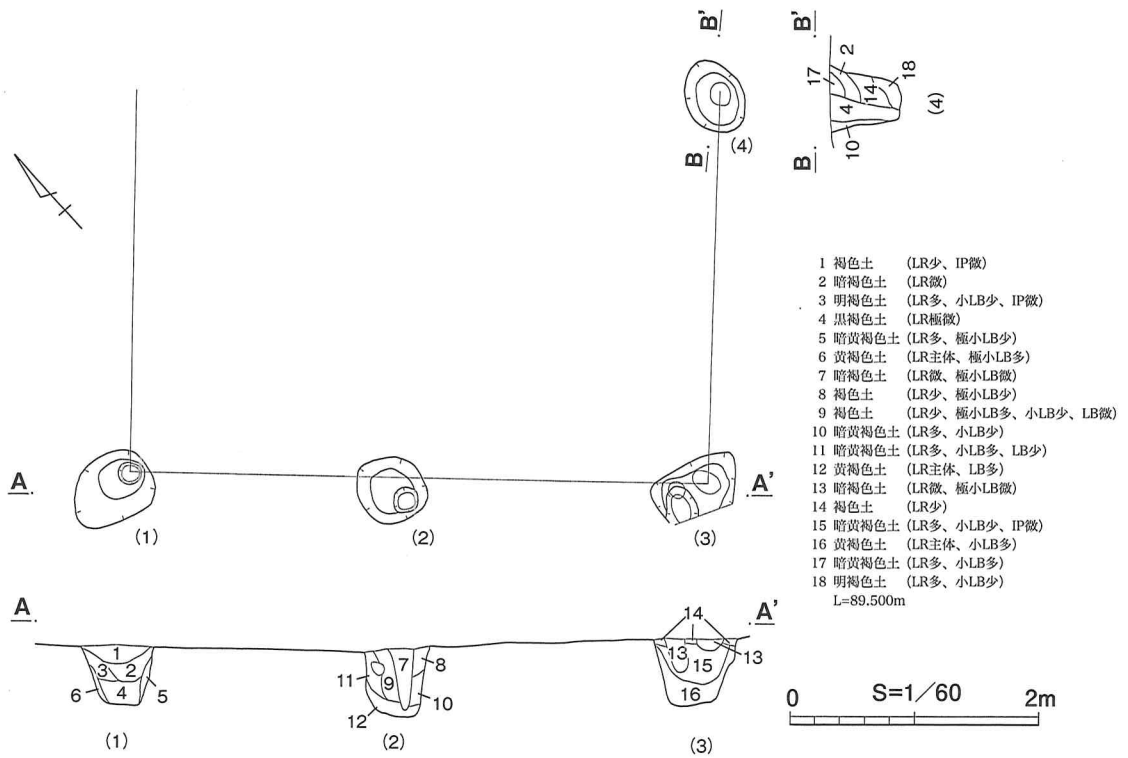


第92図 SX01

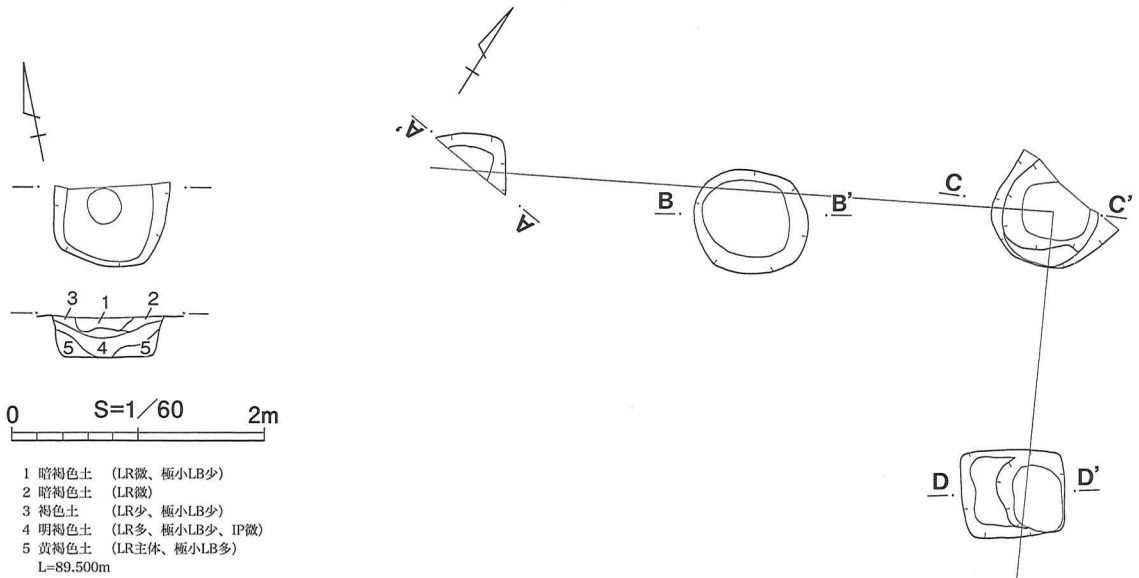


- 1 暗褐色土 (LR少)
 - 2 褐色土 (LR少、極小LB少)
 - 3 暗黄褐色土 (LR多、やややわらかい)
 - 4 黄褐色土 (LR主体)
 - 5 暗黄褐色土 (LR多)
 - 6 淡褐色土 (LR少)
 - 7 暗黄褐色土 (LR多、IP極微)
 - 8 暗黄褐色土 (LR多、IP微、SP微)
 - 9 暗褐色土 (LR少、SP微)
 - 10 淡褐色土 (LR多、極小LB微)
 - 11 暗黄褐色土 (LR多、SP微)
 - 12 暗黄褐色土 (LR多、小LB少)
 - 13 暗黄褐色土 (LR多、軟弱)
- L=84.840m

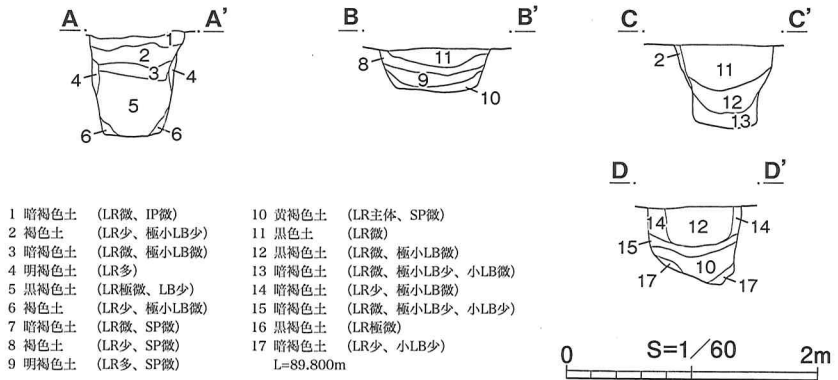
第93図 SX02



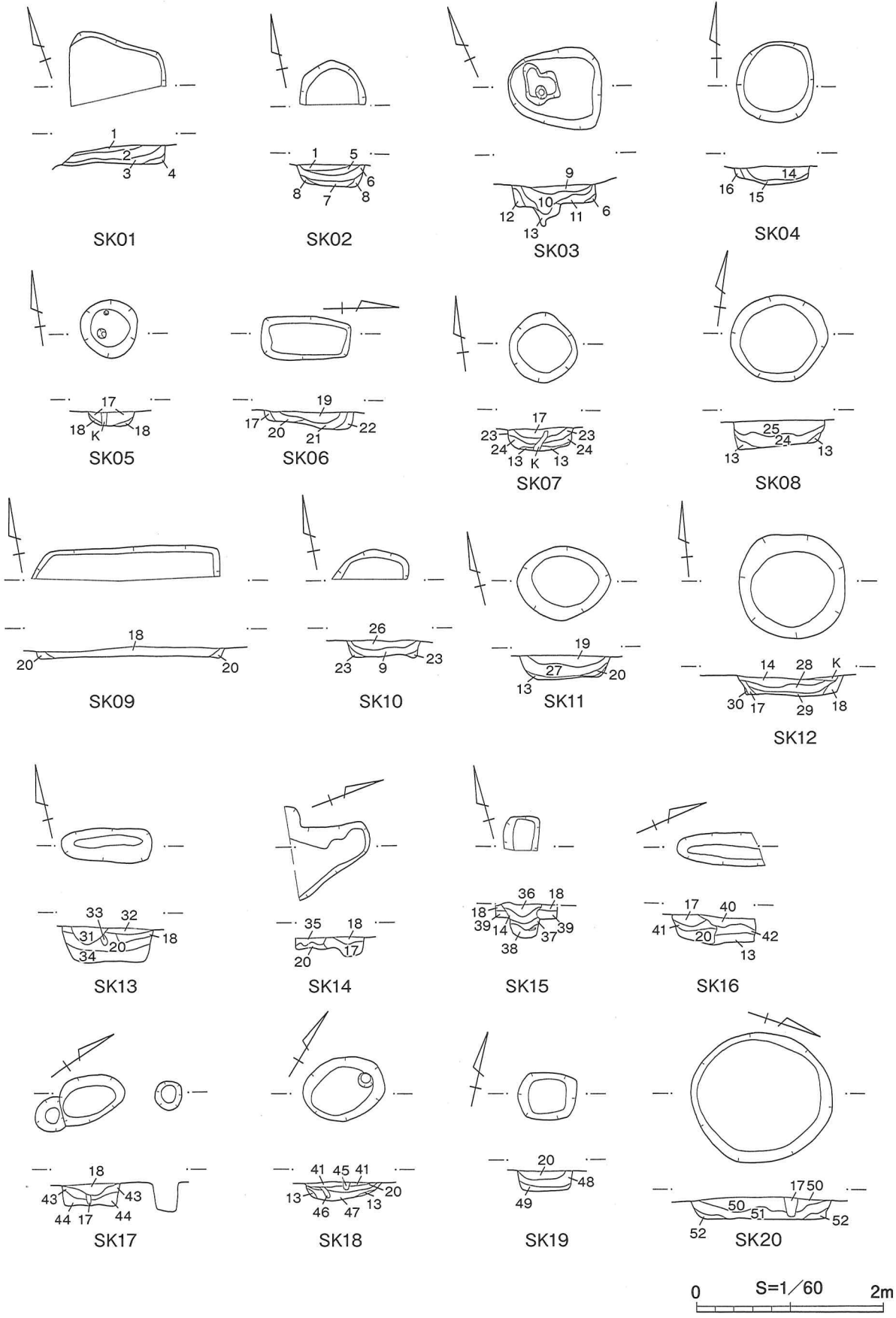
第89图 SB01



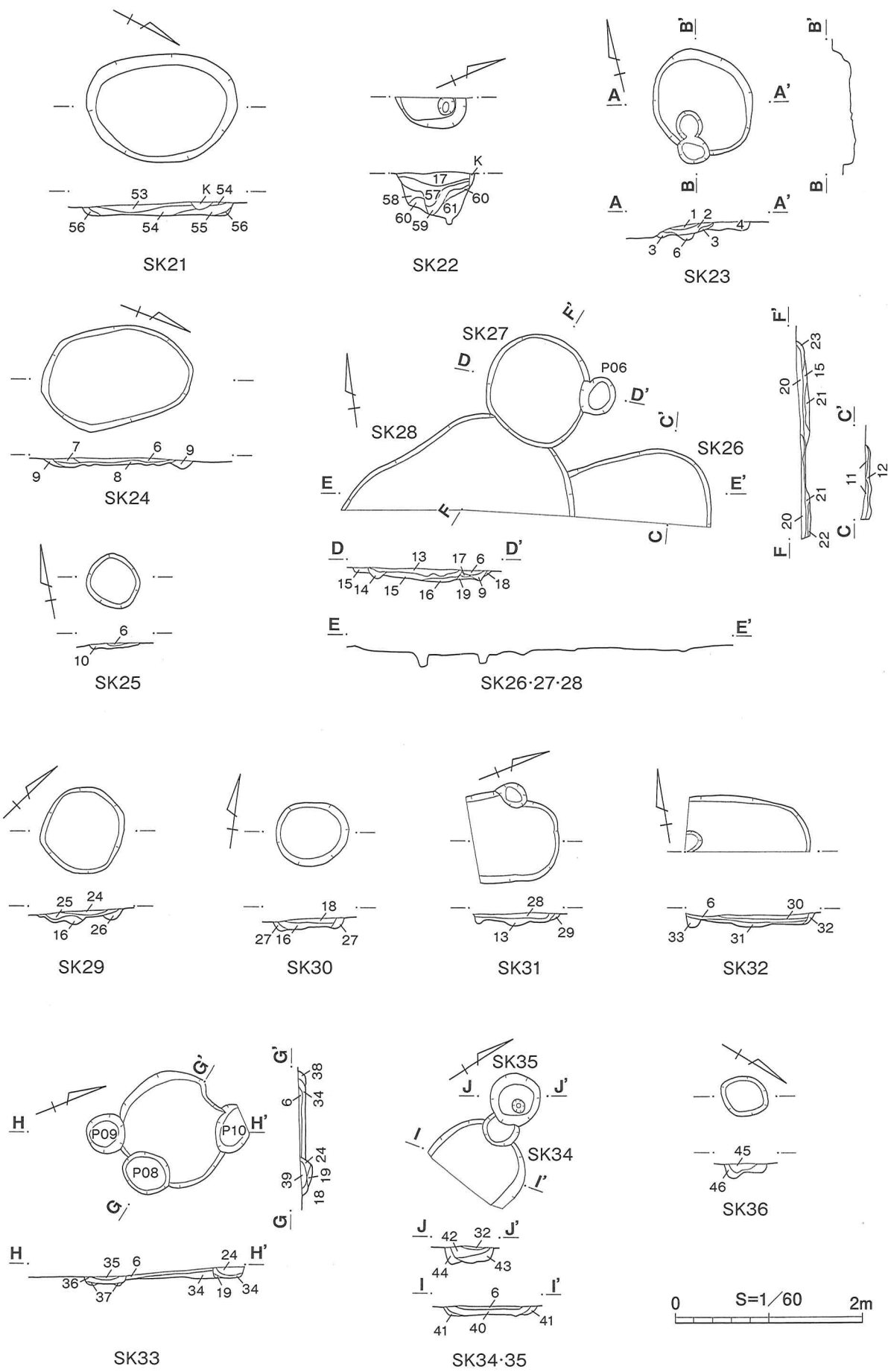
第90图 SB02



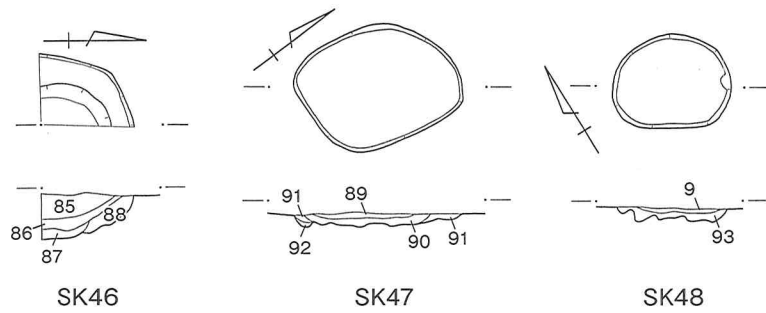
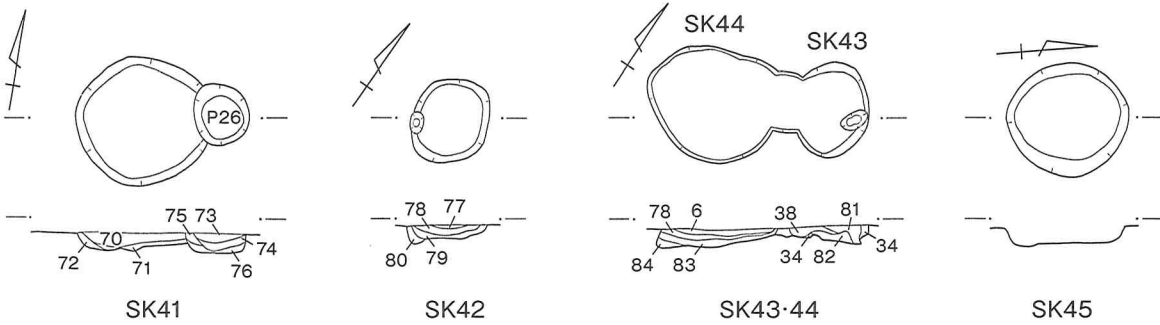
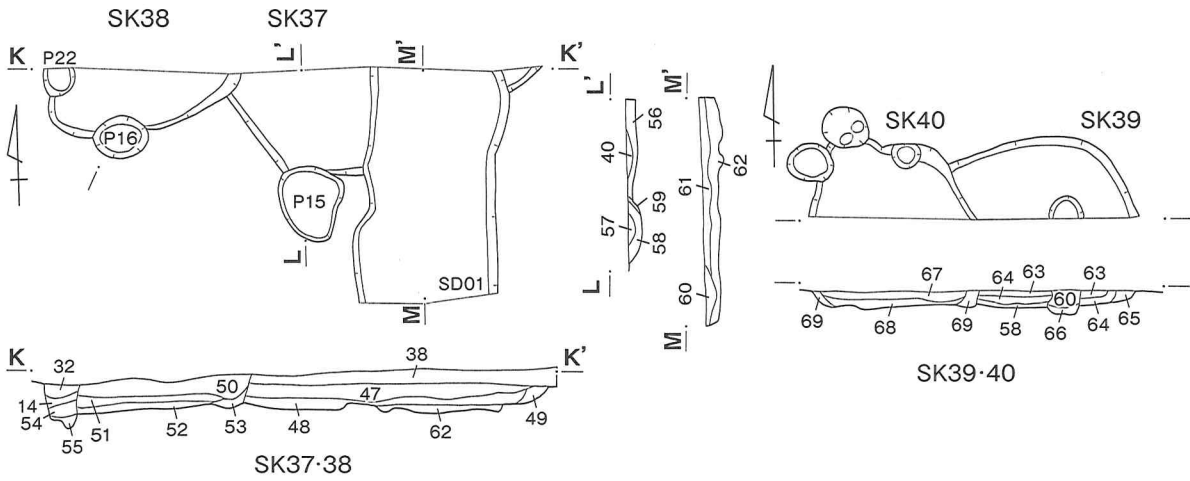
第91图 SB03



第94图 土坑集成 (1)



第95图 土坑集成 (2)



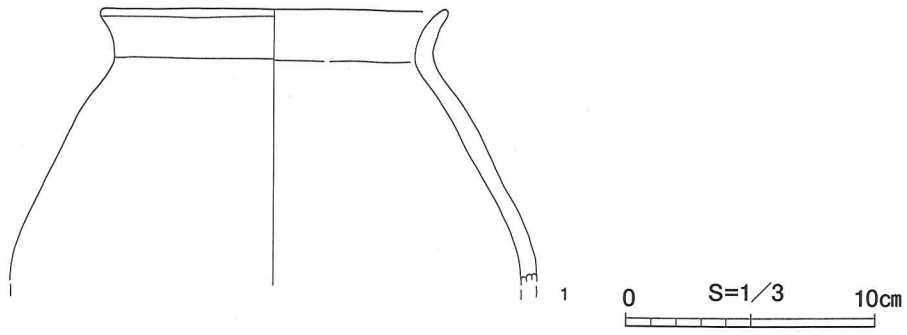
- 1 暗褐色土 (LR少, 極小LB微)
- 2 暗褐色土 (LR少, 極小LB微, 小LB微)
- 3 褐色土 (LR多, 小LB微)
- 4 明褐色土 (LR主体, 小LB少)
- 5 褐色土 (LR多, 極小LB微)
- 6 明褐色土 (LR多, 極小LB少)
- 7 黄褐色土 (LR多, 小LB少)
- 8 暗黄褐色土 (LR主体)
- 9 暗褐色土 (LR少)
- 10 暗褐色土 (LR少, 小LB微)
- 11 褐色土 (LR少, 小LB少)
- 12 黄褐色土 (LR主体)
- 13 暗褐色土 (LR微, 極小LB微)
- 14 褐色土 (LR少)
- 15 明褐色土 (LR多, 小LB少)
- 16 暗褐色土 (LR微)
- 17 暗褐色土 (LR少, IP微)
- 18 明褐色土 (LR多)
- 85 暗黄褐色土 (LR多, 極小LB微)
- 86 暗黄褐色土 (LR主体, やややわらかい, しまりあり)
- 87 黄褐色土 (LR多, やややわらかい)
- 88 暗褐色土 (LR少, 極小LB微, SP極微)
- 89 明褐色土 (LR多, 極小LB少, IP極微, SP極微)
- 90 暗黄褐色土 (LR多, 極小LB少, 小LB微)
- 91 暗褐色土 (LR多, SP微)
- 92 淡褐色土 (LR多, 小LB少)
- 93 黄褐色土 (LR主体, やや粘性あり)

- 19 褐色土 (LR少, 極小LB微)
- 20 明褐色土 (LR多, 小LB少)
- 21 褐色土 (LR少, 極小LB少)
- 22 明褐色土 (LR多, 小LB少)
- 23 暗褐色土 (LR少, 極小LB少)
- 24 黒褐色土 (LR微, IP極微)
- 25 褐色土 (LR少, 極小LB少, IP微)
- 26 褐色土 (LR少, 極小LB微, IP極微)
- 27 黒褐色土 (LR極微)
- 28 黒褐色土 (LR微, やややわらかい)
- 29 暗褐色土 (LR微, ややしまりあり)
- 30 褐色土 (LR極微, やわらかい)
- 31 暗黄褐色土 (LR多, 極小LB少, IP微, SP微)
- 32 暗黄褐色土 (小LB主体)
- 33 明褐色土 (LR多, ややしまりあり)
- 34 明褐色土 (LR多, 漸移層)
- 35 黒褐色土 (LB少)
- 36 褐色土 (LR少, IP微)
- 37 暗黄褐色土 (LR多, 極小LB少)
- 38 明褐色土 (LR多, SP微)
- 39 暗黄褐色土 (LR多, SP少, しまりあり)
- 40 暗黄褐色土 (LR多, もろい)
- 41 黒褐色土 (LR極微, もろい)
- 42 暗黄褐色土 (LR多, 極小LB少)
- 43 暗黄褐色土 (LR多, 極小LB多)
- 44 黄褐色土 (LR主体, しまりあり)
- 45 褐色土 (LR少, SP微)
- 46 明褐色土 (LR多, IP微, SP微)
- 47 暗黄褐色土 (LR多, 極小LB少, SP微)
- 48 褐色土 (LR少, 極小LB微, SP微)
- 49 明褐色土 (LR多, 極小LB微, SP微)
- 50 褐色土 (LR少, IP微, SP微)
- 51 暗黄褐色土 (LR多, 極小LB少)
- 52 明褐色土 (LR多, 極小LB少, SP微)
- 53 明褐色土 (LR多, 極小LB微)
- 54 黄褐色土 (LR多, IP微)
- 55 明黄褐色土 (LR主体)
- 56 褐色土 (LR多, IP少)
- 57 明褐色土 (LR多, IP少, SP少)
- 58 暗黄褐色土 (LR多, LB少, SP少)
- 59 黄褐色土 (LR主体, IP多, SP少)
- 60 明黄褐色土 (LR主体, LB少, SP少)
- 61 暗黄褐色土 (LR多, 小LB少, IP微, SP微)
- 62 暗黄褐色土 (LR多, IP微, SP微)
- 63 暗褐色土 (LR少, SP微)
- 64 灰褐色土 (LR主体, SP微)
- 65 暗褐色土 (LR少, IP微, SP微)
- 66 明褐色土 (LR多, IP微)
- 67 明黄褐色土 (LR主体, SP多, IP少)
- 68 黄褐色土 (LR主体, SP微)
- 69 明黄褐色土 (LR主体, SP多)
- 70 暗黄褐色土 (LR多, SP微)
- 71 黄褐色土 (LR主体)
- 72 暗褐色土 (LR少, SP少)
- 73 黄褐色土 (LR主体, SP少)
- 74 暗黄褐色土 (LR多, IP少, SP少)
- 75 黄褐色土 (LR主体, SP少, 黒色粒少)
- 76 褐色土 (LR多)
- 77 暗黄褐色土 (LR多, やややわらかい)
- 78 黒褐色土 (LR微)
- 79 暗黄褐色土 (LR多, やわらかい)
- 80 黒褐色土 (LR微, SP極微)
- 81 暗黄褐色土 (LB多, 極小LB微, やややわらかい)
- 82 暗黄褐色土 (LR多)
- 83 暗黄褐色土 (LR多, 小LB少, IP微)
- 84 暗褐色土 (LR少, 極小LB少, SP少)

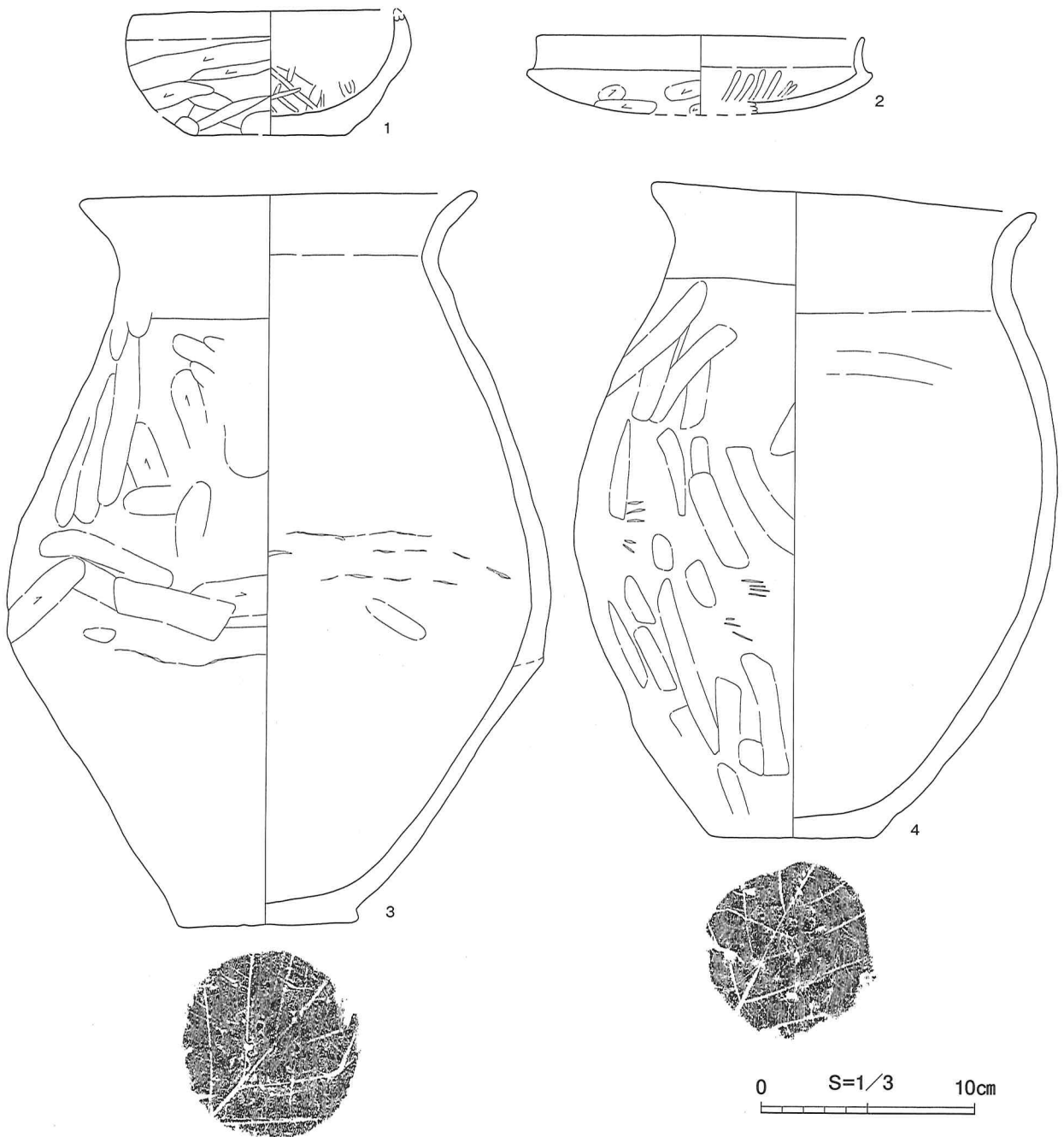
(SK01-02)L=87.300m
 (SK03~12)L=89.300m
 (SK13~19)L=89.800m
 (SK20~22)L=89.900m
 (AA)L=85.500m
 (BB)L=86.500m
 (SK24-25)L=85.200m
 (CC'~FF'·SK29·GG'~HH')L=85.100m
 (SK30)L=86.900m
 (SK31-32-34)L=85.000m
 (SK35-36-LL~MM')L=85.040m
 (KK)L=85.140m
 (SK39-40-41)L=84.760m
 (SK42-43-44)L=84.740m
 (SK46)L=94.560m
 (SK47)L=94.540m
 (SK48)L=94.460m

0 S=1/60 2m

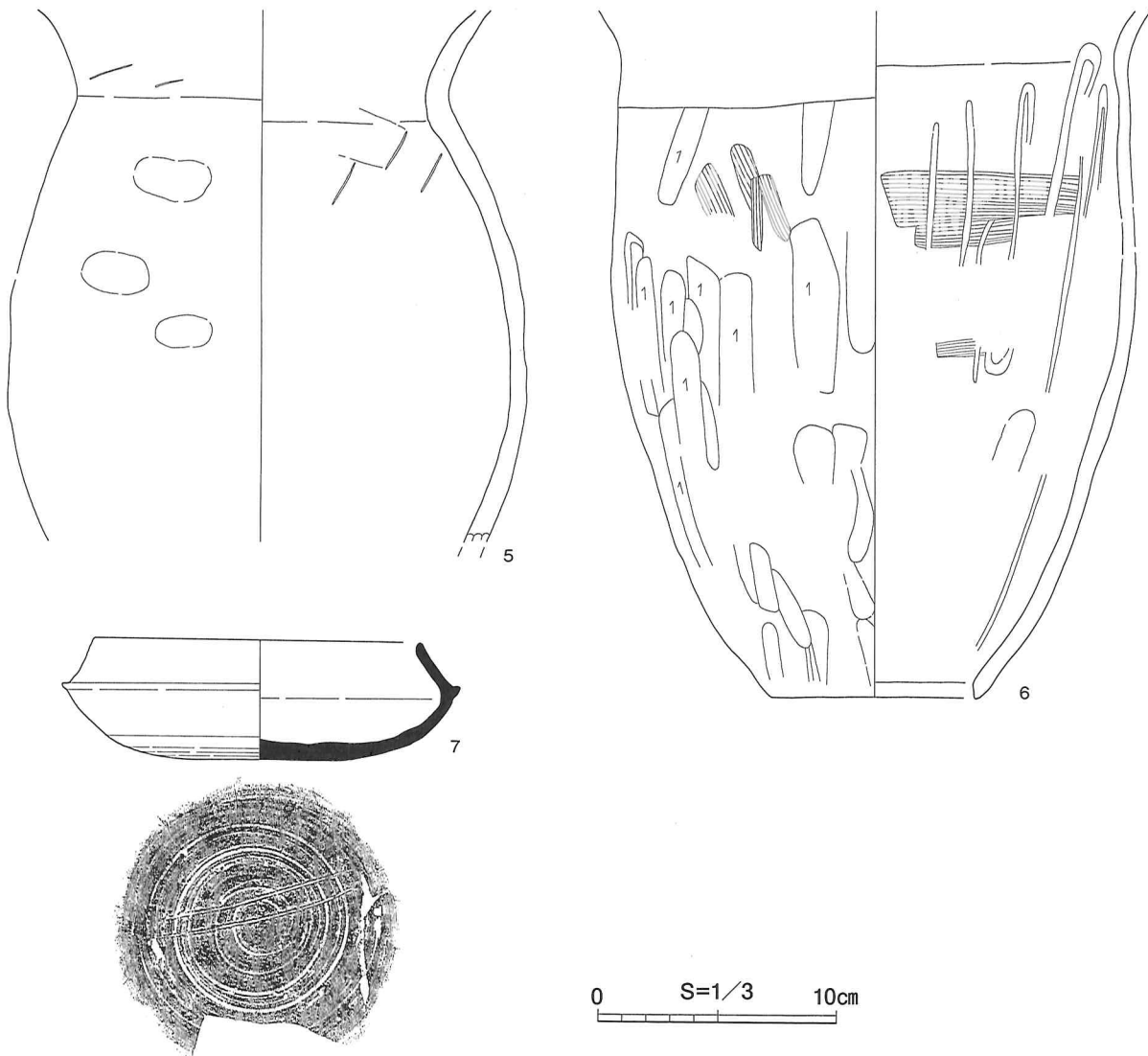
第96図 土坑集成 (3)



第97図 SI01出土遺物



第98図 SI04出土遺物 (1)



第99図 SI04出土遺物 (2)

第47表 SI01出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 甕	(10.9)	(13.6)	-	口縁部はくの字状に外反。	口縁部横ナデ。胴部は摩耗しており調整不明。	明赤褐色土	白色細砂粒 雲母	普通	竈周辺	1/9残

第48表 SI04出土土器観察表

No	器種	法量 (cm)			器形の特徴	調整の特徴	色調	胎土	焼成	出土地点	備考
		口径	器高	底径							
1	土師器 杯	12.6	5.6	7.0	平底。口縁部は内傾して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面にはヘラ削りが施される。内面にはヘラ磨き。	灰白色	雲母 白色細砂粒	良好	竈1左袖	完形
2	土師器 杯	(3.5)	(15.0)	-	丸底。受け部を有する。	口縁部横ナデ。体部外面はヘラ削り、内面には放射状にヘラ磨きが施されている。	にぶい黄橙色	細砂粒 雲母	良好	覆土下層	1/7残
3	土師器 甕	18.4	34.0	8.3	平底。口縁部はくの字状に外反する。胴部上半と下半は別々に作られたようで、その接合部が明瞭に確認できる。	口縁部横ナデ。胴部外面全体にヘラナデ。内面は横ナデ。底部に木葉痕あり。	橙色	長石 黒色砂粒	良好	竈1左袖	完形
4	土師器 甕	17.0	30.3	7.8	平底。口縁部は真っすぐ立ち上がった後、先端が外反する。	口縁部横ナデ。胴部外面全体にヘラナデ。内面は摩耗しており確認しにくい。ナデが施される。底部に木葉痕あり。	橙色	白色細砂粒 砂粒・長石	良好	竈1天井部	完形
5	土師器 甕	19.5	(22.6)	-	口縁部はくの字状に外反する。	口縁部横ナデ。口縁基部にはヘラを当てた痕が残る。胴部外面は指ナデ。内面は一部にヘラナデ。ススの付着有り。	にぶい橙色	白色砂粒	良好	竈1左袖	2/5残
6	土師器 甕	29.0	23.4	8.5	口縁部はややくの字状に外反する。単孔。	口縁部横ナデ。胴部外面はヘラ削り、一部ハケ目。内面は横ハケのちヘラ磨きが施され、一部にナデ。	にぶい黄橙色	白色細砂粒 一部黒色化	良好	覆土下層	1/2残
7	須恵器 杯	13.5	5.0	-	右回転のロクロ成形。口縁部は内傾して立ち上がる。体部に受け部を有する。	底部は回転ヘラ削りを施し、中央に2本の直線が刻まれている。	黄灰色	白色細砂粒	良好	P2埋土中	3/4残

Ⅲ おわりに

今回の若松原南遺跡の発掘調査は、道路改良工事に伴う限られた面積を対象としたものであったが、遺跡をほぼ東西に横断した形となり、竪穴住居跡7軒・掘立柱建物跡3棟・柱穴列2基・土坑48基・その他溝等、比較的多数の遺構を確認することができた。この結果、本遺跡は兵庫川東岸の台地上にかなり広範囲に展開したものであることが明らかとなった。

今回の調査では遺構が比較的多く確認されたわりに遺物の出土は非常に少なく、伴出遺物（土器）が確実に認められたのはSI04だけであった。SI04からは土師器の甕3点・坏1点及び須恵器の坏1点がほぼ完全な形で出土したが、このうち須恵器の坏は立ち上がり内傾して端部が丸いこと、口径が大きいことなどから須恵器編年のTK10形式に相当するものと思われる。従ってSI04は古墳時代後期前半、6世紀中葉代の所産と考えられる。調査区のほぼ中央付近からは、このSI04に隣接して3軒の竪穴住居跡（SI01～03）が確認されているが、僅かながら出土した土器破片資料等から、ほぼ同時期のものと考えられる。なお、調査区西部で確認された3軒（SI05～07）については、出土遺物が全く見られないことに加え、掘方が非常に浅く炉跡や柱穴らしきものも確認されていないことから、竪穴住居跡とは認定しがたいものである。

調査区中央部の竪穴住居跡群（SI01～04）のすぐ東側では掘立柱建物跡（SB01～03及びSX01）がまとまって確認されているが、残念ながら出土遺物は皆無である。周辺には奈良・平安期の集落跡も多いことから断定はできないが、配置状況等からはこれら竪穴住居跡群と同一時期のものと考えてよいものと思われる。調査区の関係でそれぞれ建物構造の一部を確認するに止まったが、古墳時代後期の掘立柱建物跡はまだ調査例が少ないことから、今後とも貴重な資料になるものと思われる。

写 真 图 版



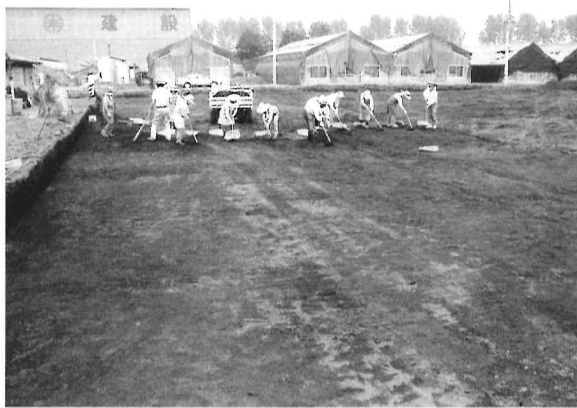
調査前の風景（西から）



トレンチ調査（西から）



トレンチ調査（東から）

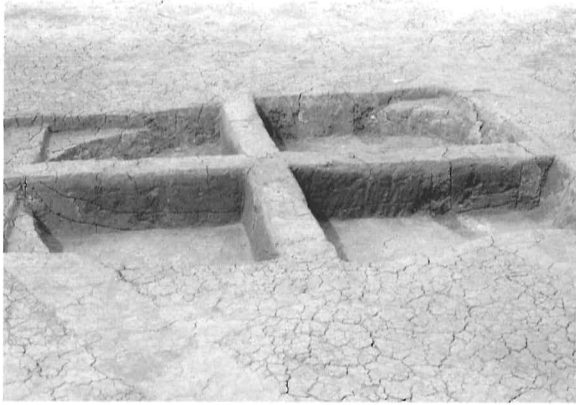


遺構確認調査（南から）

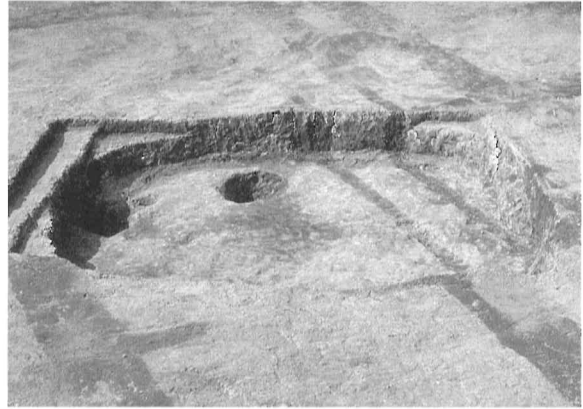


遺構の確認状況（西から）

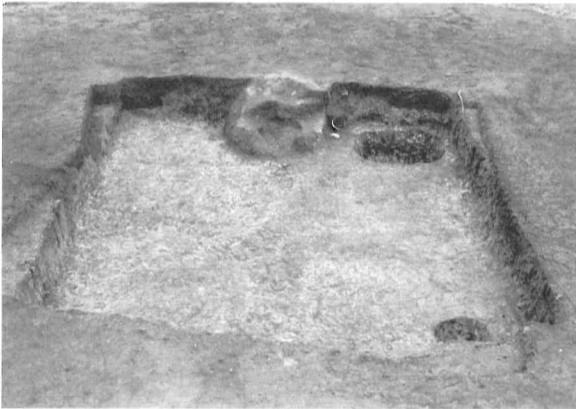
PL2 北若松原遺跡



SI01土層断面（南から）



SI01完掘状況（南から）



SI02完掘状況（西から）



SI02カマド（西から）



SI03完掘状況（西から）



SI03遺物出土状況（西から）



SI03カマド（北西から）



SI04遺物出土状況（南東から）



SI05完掘状況 (南東から)



SI06土層断面 (南から)



SI06完掘状況 (南西から)



SI06炉跡 (南から)



SI07遺物出土状況 (南西から)



SI07完掘状況 (西から)

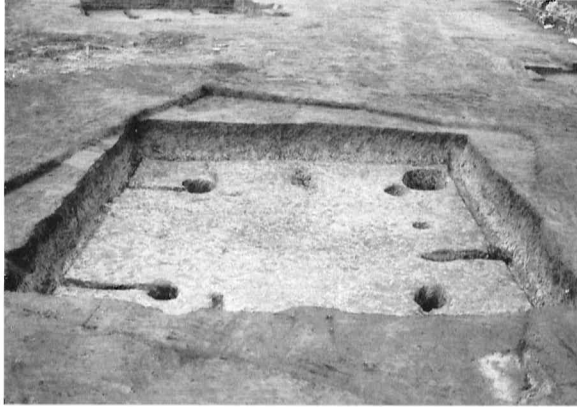


SI08完掘状況 (北西から)

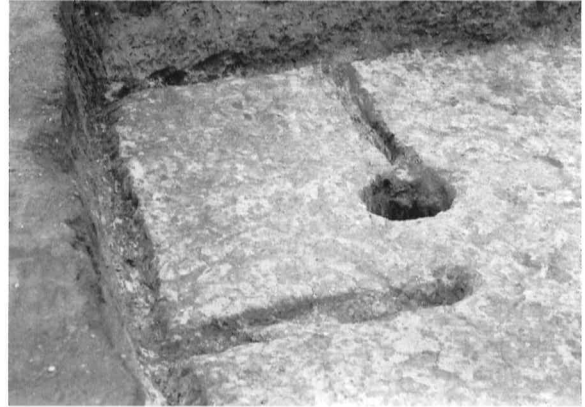


SI08貯蔵穴遺物出土状況 (南西から)

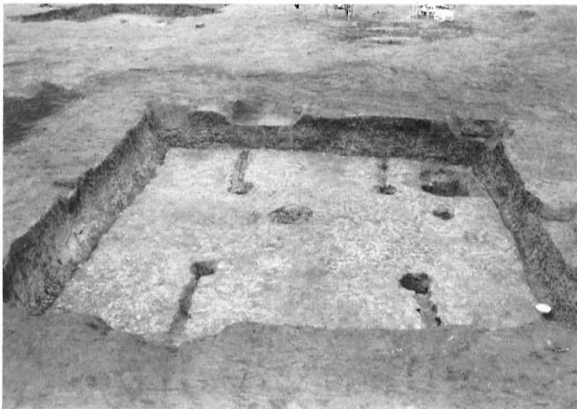
PL4 北若松原遺跡



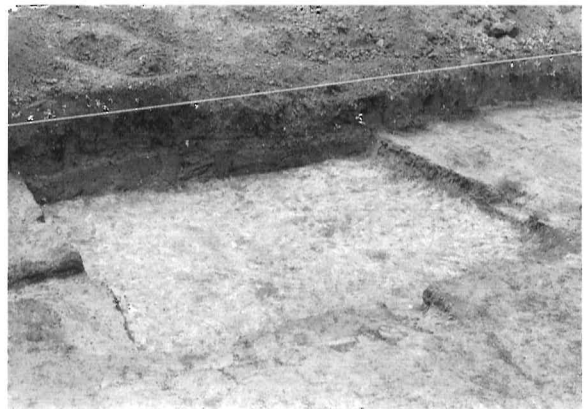
SI09完掘状況（西から）



SI09間仕切り溝と柱穴（南から）



SI10完掘状況（西から）



SI11完掘状況（東から）



SI12遺物出土状況（西から）



SI12遺物出土状況（北から）



SI12土器出土状況（北から）



SI12完掘状況（北東から）



SI13完掘状況（南から）



SI13貯蔵穴（北東から）



SI14完掘状況（西から）



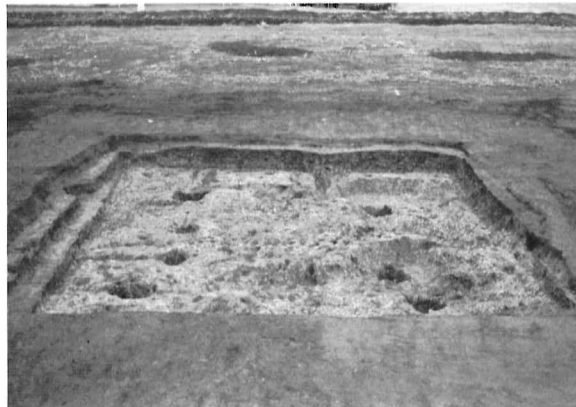
SI14カマド（西から）



SI15完掘状況（西から）



SI15カマド土層断面（南から）



SI16完掘状況（南から）

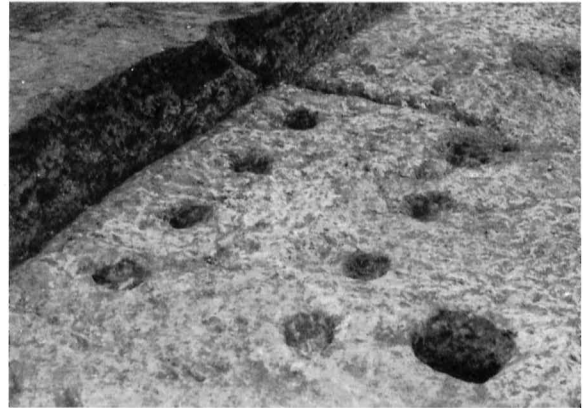


SI16炉跡（南東から）

PL6 北若松原遺跡



SI17完掘状況（西から）



SI17間仕切り溝と小柱穴列（北西から）



SI17遺物出土状況（西から）



SI17貯蔵穴（南西から）



SI18遺物出土状況（北から）



SI19完掘状況（西から）



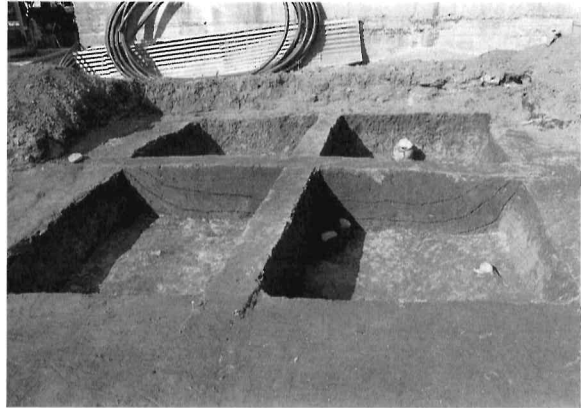
SI19遺物出土状況（西から）



SI19カマド（西から）



SI20遺物出土状況（南から）



SI21土層断面（南から）



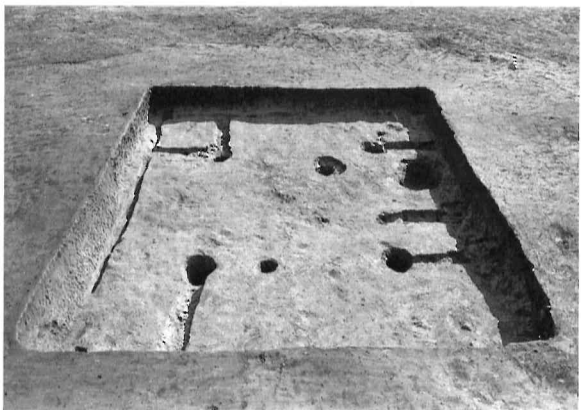
SI21遺物出土状況（南から）



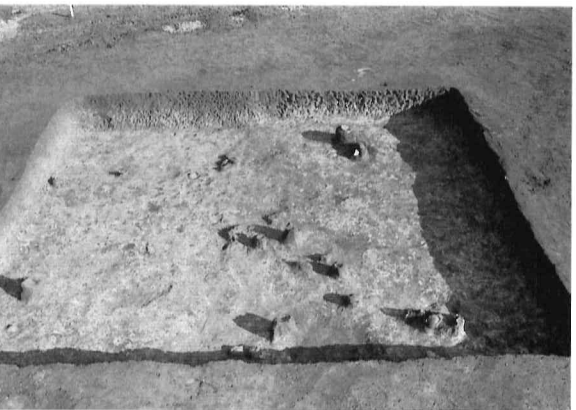
SI21完掘状況（西から）



SI22遺物出土状況（南西から）



SI23完掘状況（北西から）

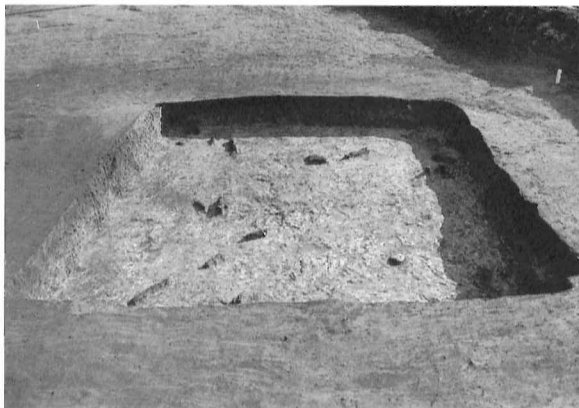


SI23遺物出土状況（南西から）

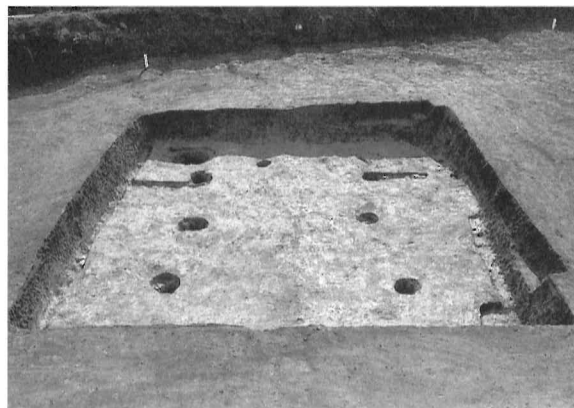


SI23土器出土状況（南西から）

PL8 北若松原遺跡



SI24遺物出土状況（北西から）



SI24完掘状況（北東から）



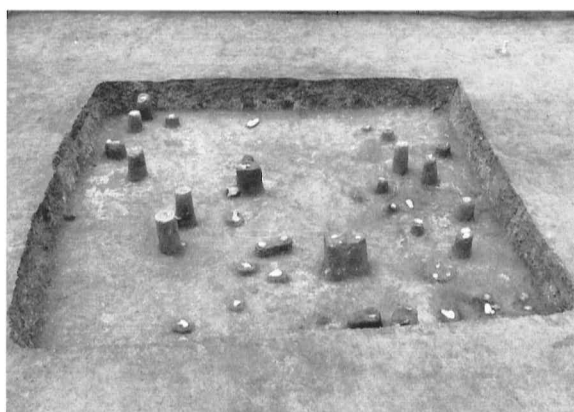
SI25遺物出土状況（南から）



SI25完掘状況（南から）



SI25貯蔵穴（西から）



SI26遺物出土状況（南から）



SI26完掘状況（西から）



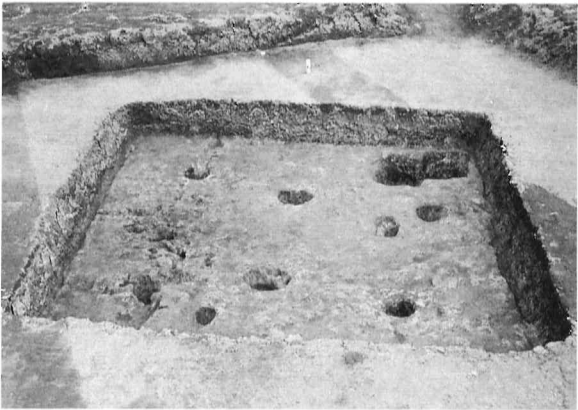
SI26北壁の小横穴列（南から）



SI27完掘状況（南から）



SI27貯蔵穴遺物出土状況



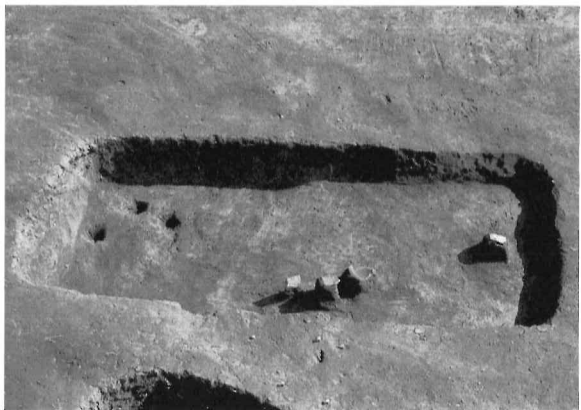
SI28完掘状況（西から）



SI28貯蔵穴遺物出土状況（南から）



SK02完掘状況（南西から）



SK10完掘状況（東から）



SK16完掘状況（南から）



SK20完掘状況（南から）

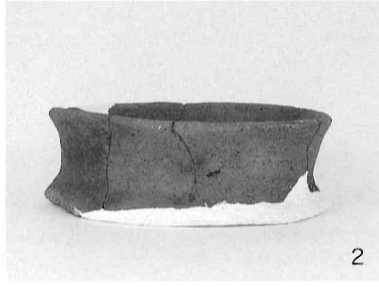
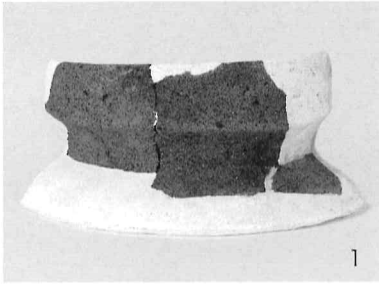
PL10 北若松原遺跡



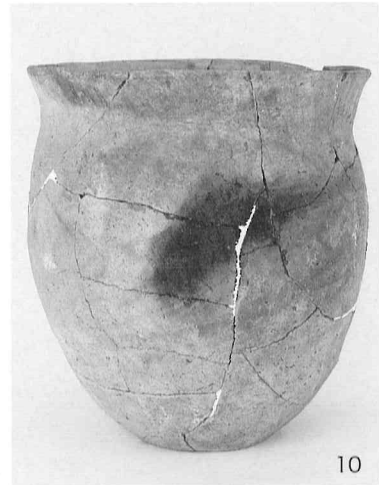
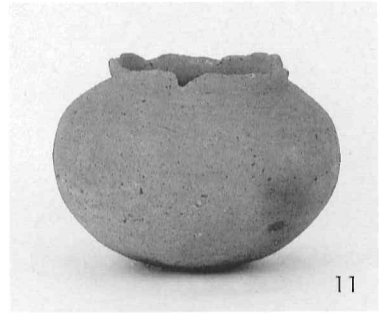
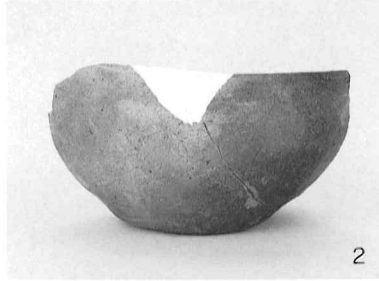
調査区全景（西から）



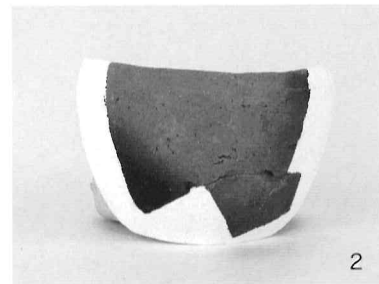
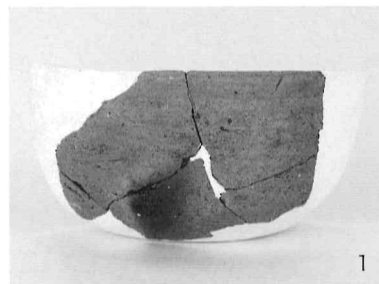
調査区全景（東から）



SI02出土遺物

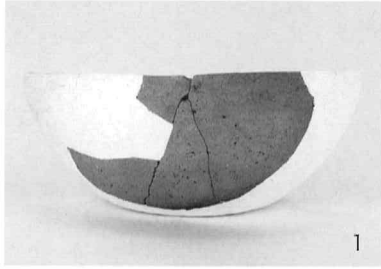


SI03出土遺物

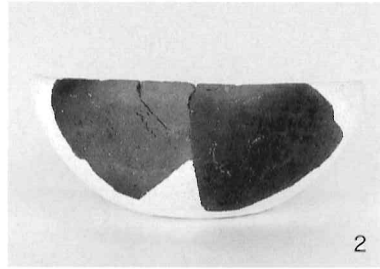


SI04出土遺物

PL 12 北若松原遺跡



1



2



3



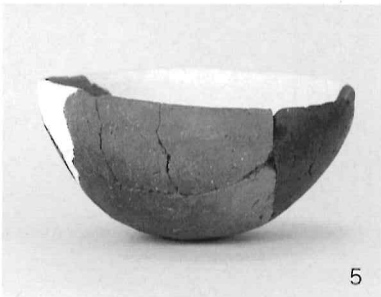
4



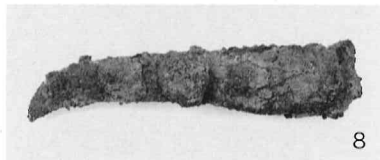
6



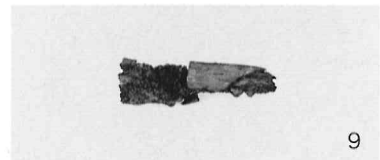
7



5

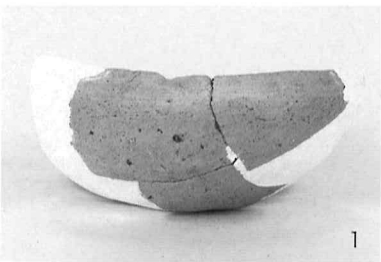


8

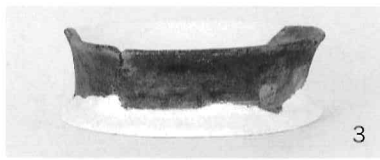


9

SI05出土遺物



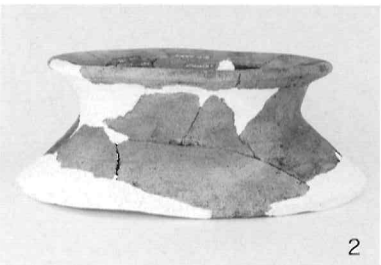
1



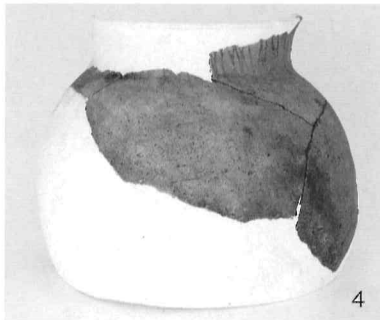
3



5



2



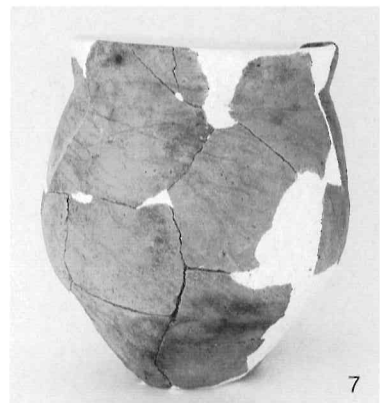
4



8

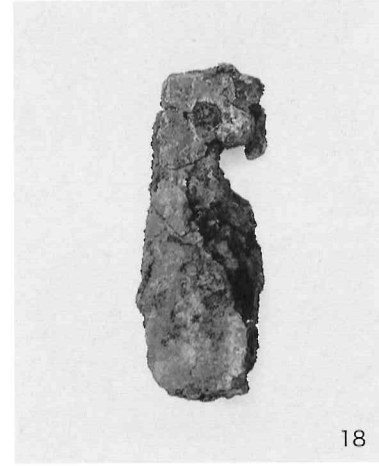
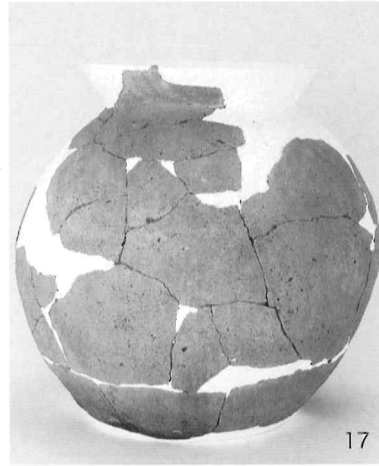
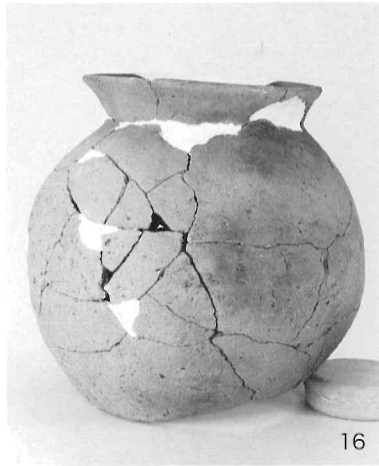
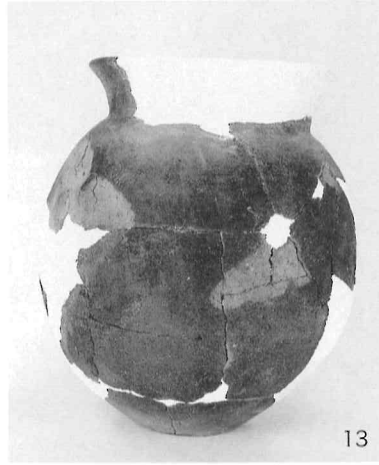
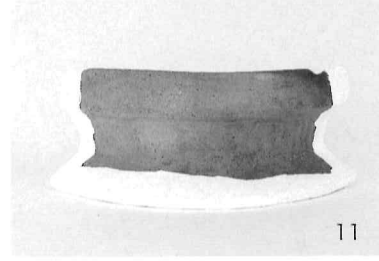
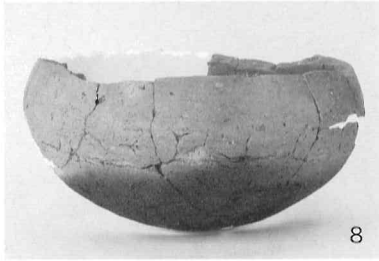
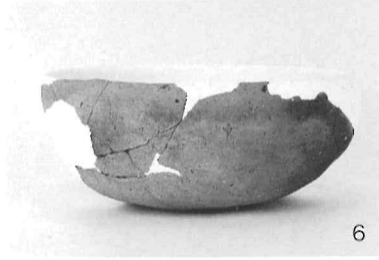
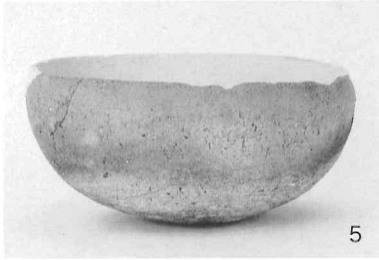
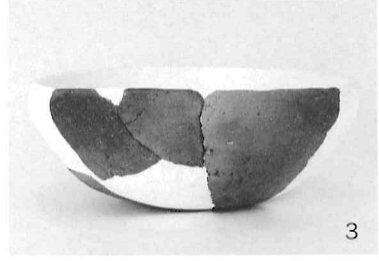
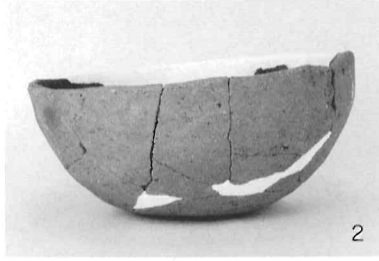
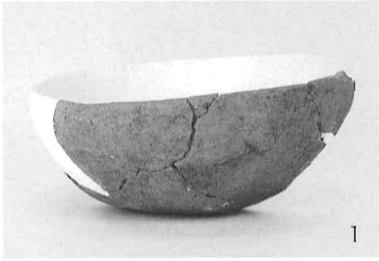


6



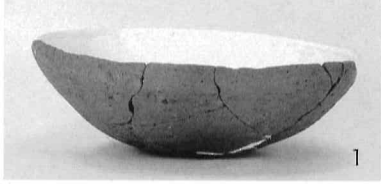
7

SI06出土遺物

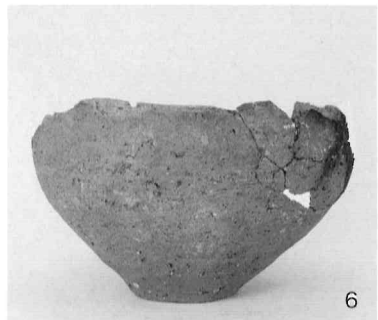
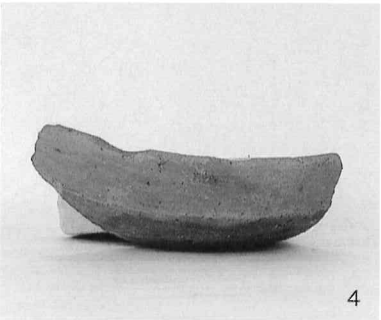
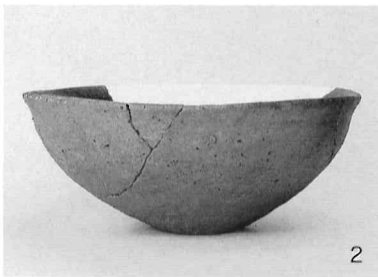


SI07出土遺物

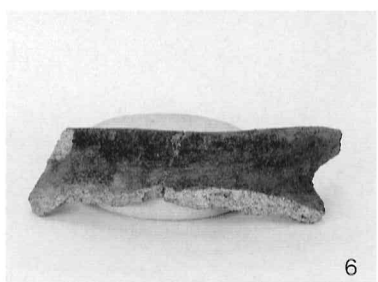
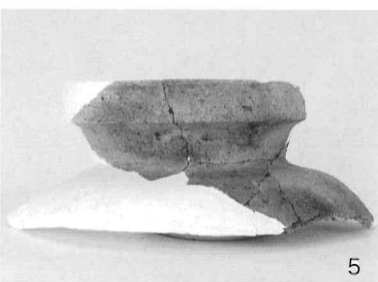
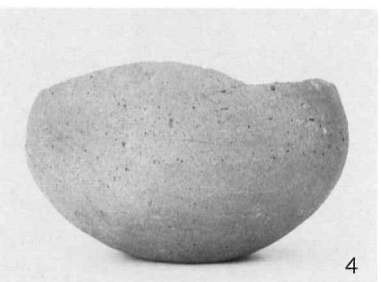
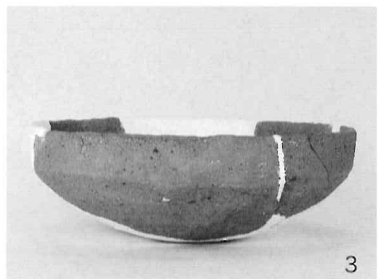
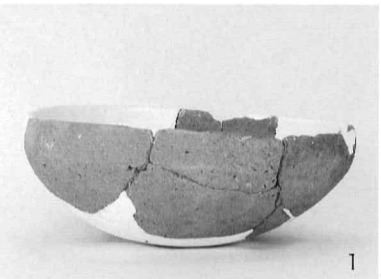
PL14 北若松原遺跡



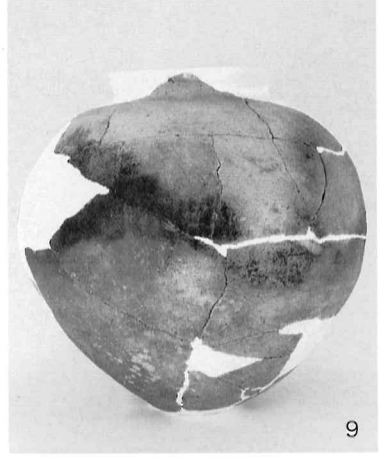
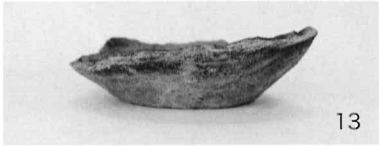
SI08出土遺物



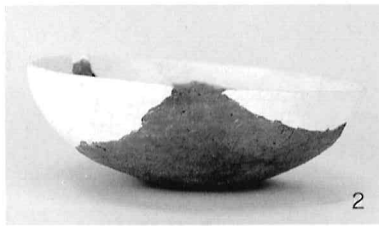
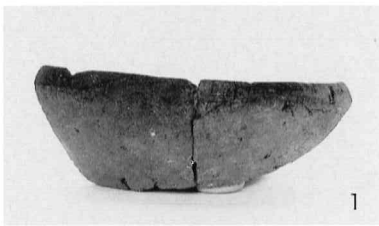
SI09出土遺物



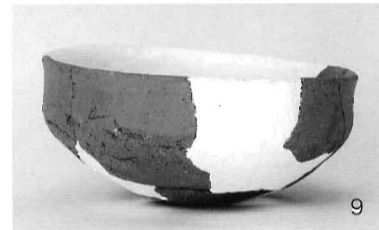
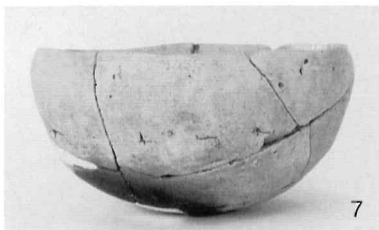
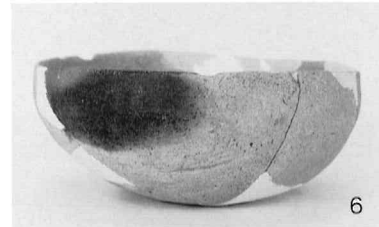
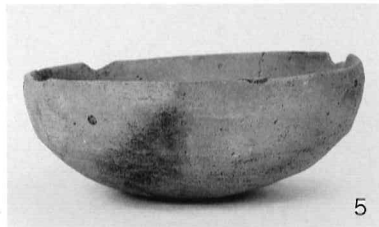
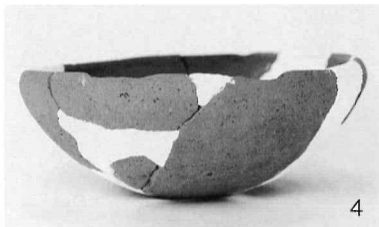
SI10出土遺物 (1)



SI10出土遺物 (2)

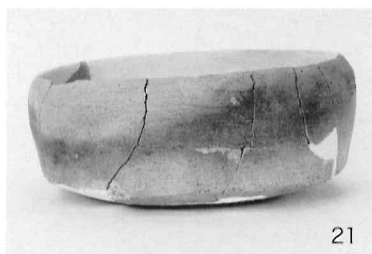
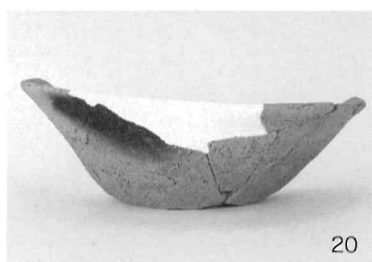
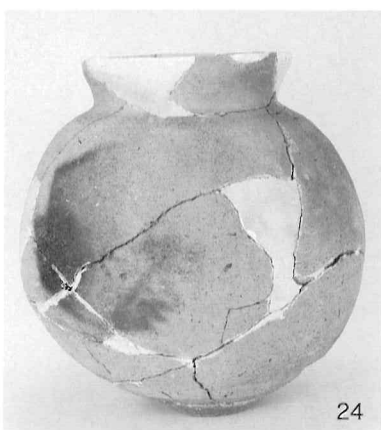
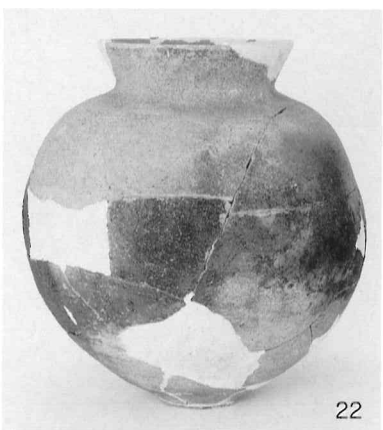
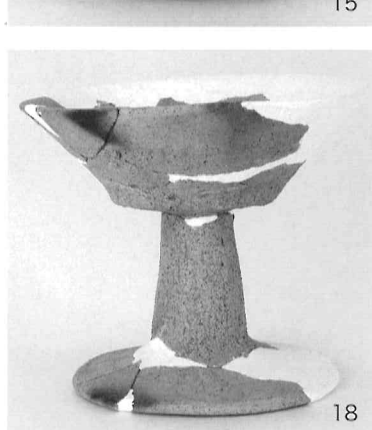
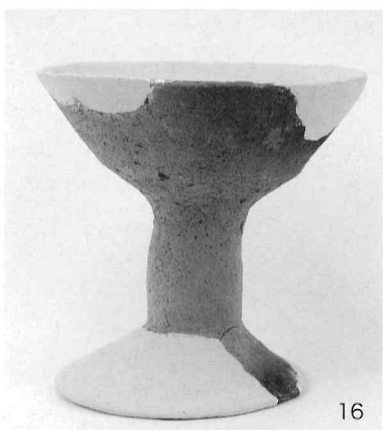
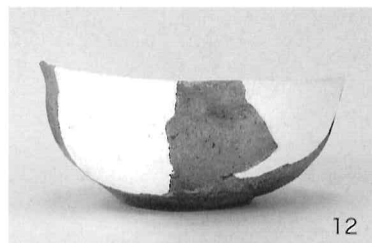
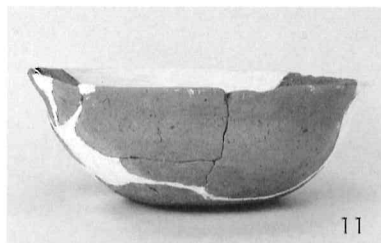


SI11出土遺物



SI12出土遺物 (1)

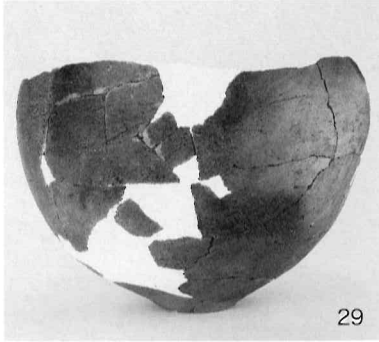
PL 16 北若松原遺跡



SI12出土遺物 (2)



27



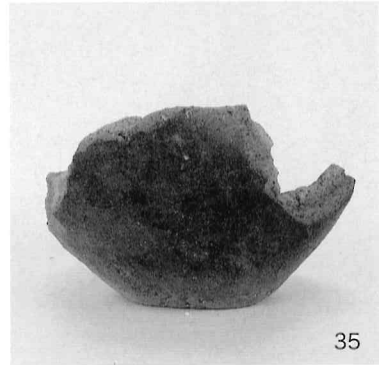
29



34



30

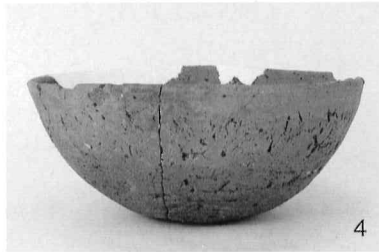


35

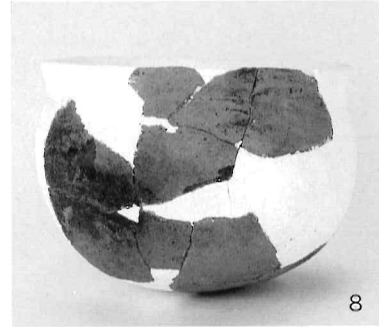
SI12出土遺物 (3)



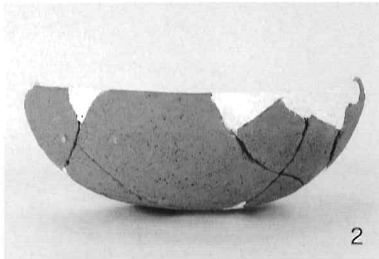
1



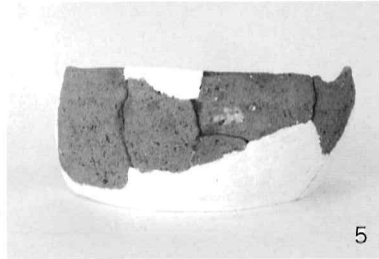
4



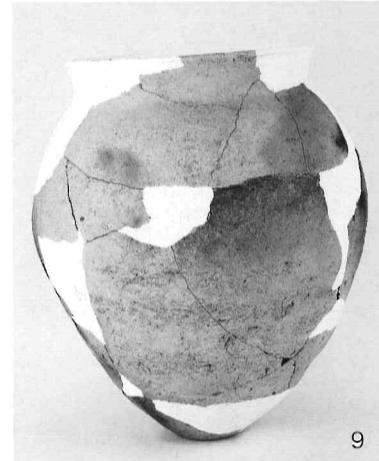
8



2



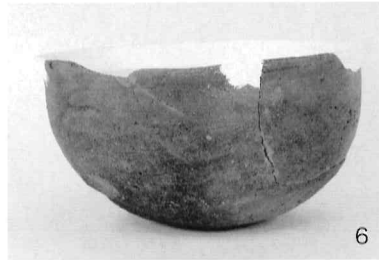
5



9



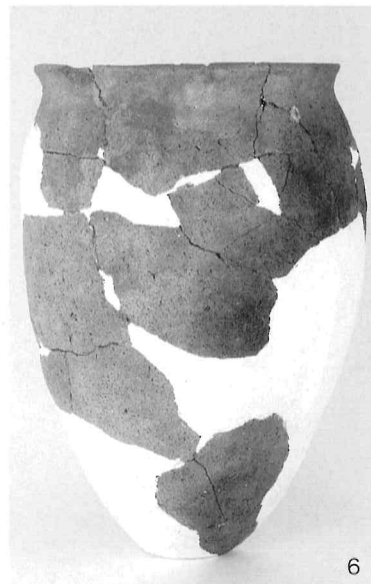
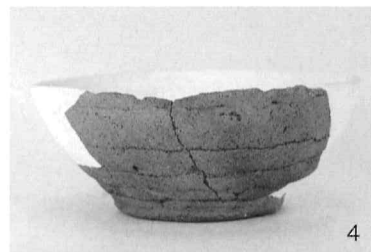
3



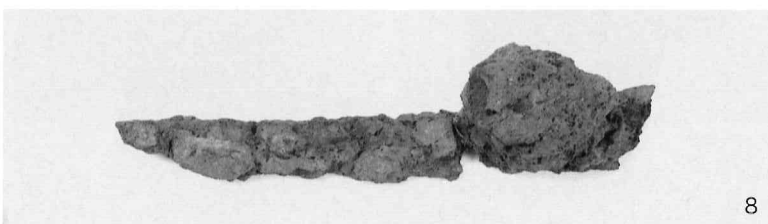
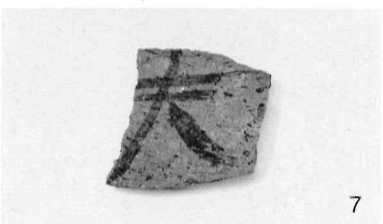
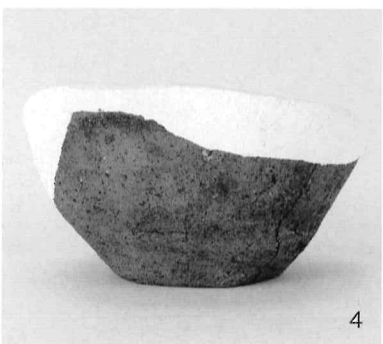
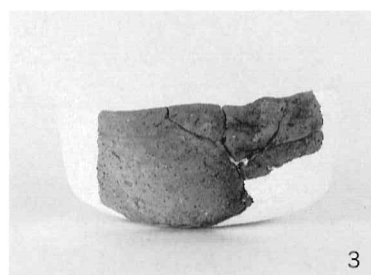
6

SI13出土遺物

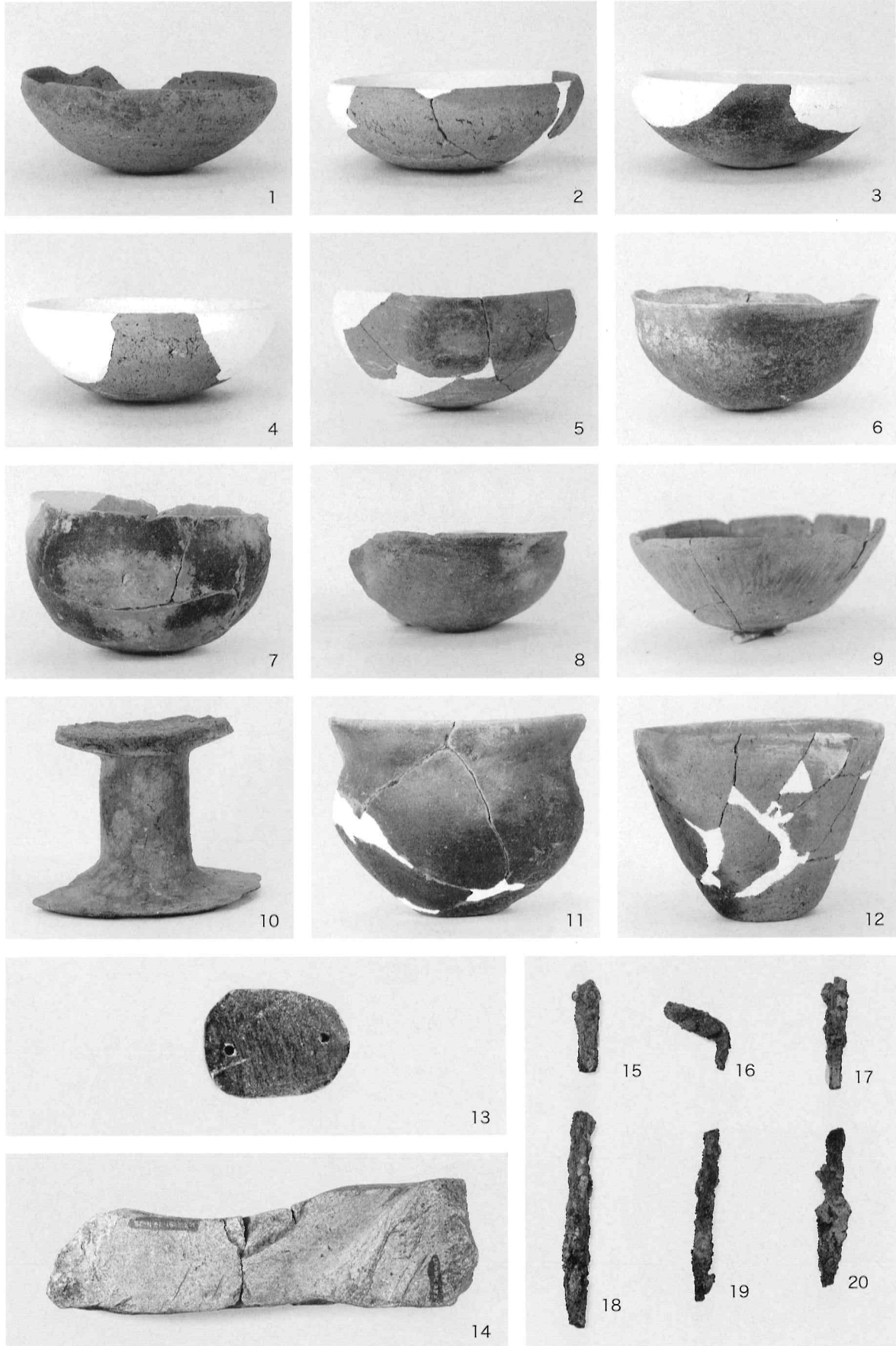
PL18 北若松原遺跡



SI14出土遺物

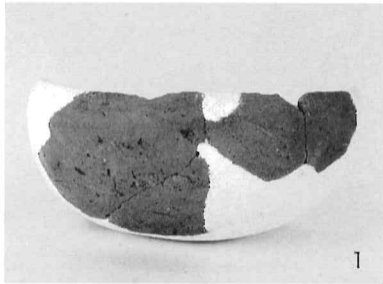


SI15出土遺物

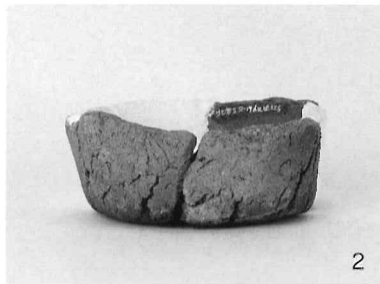


SI16出土遺物

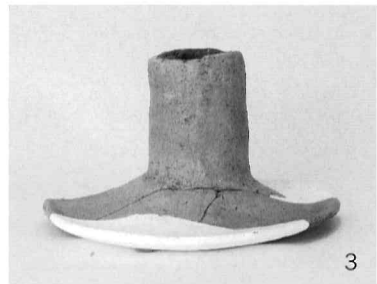
PL 20 北若松原遺跡



1



2



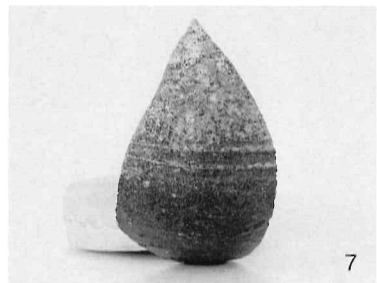
3



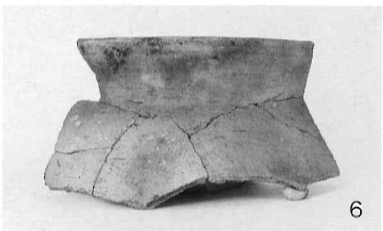
4



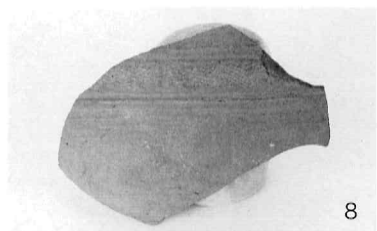
5



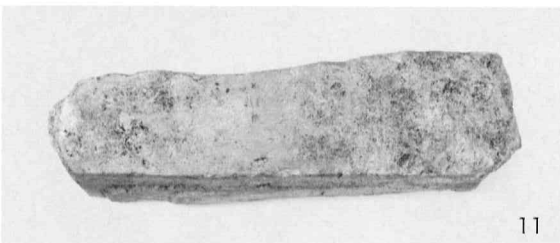
7



6



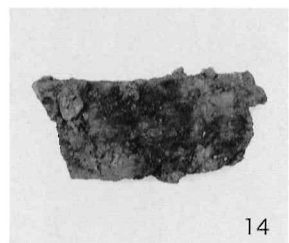
8



11

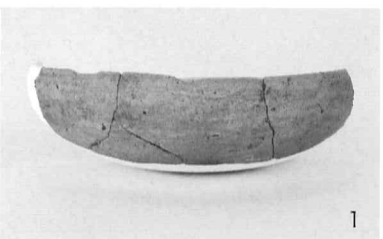


10

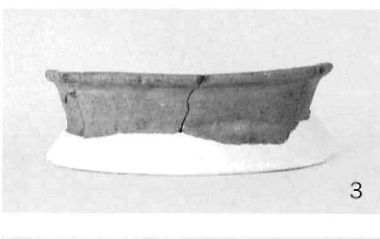


14

SI17出土遺物



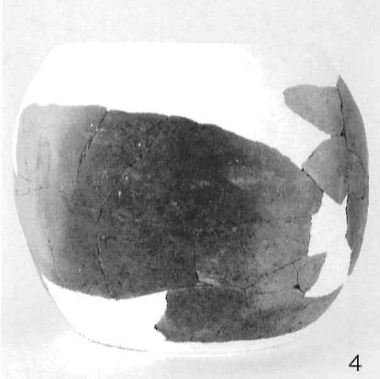
1



3



2



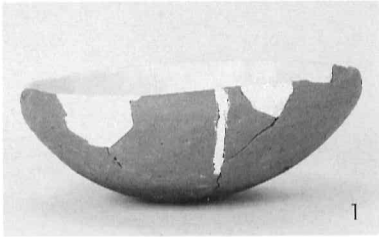
4



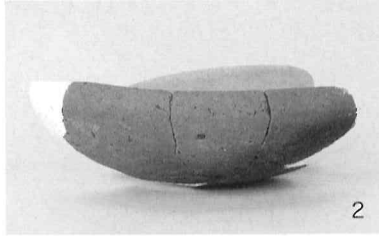
1

SI18出土遺物

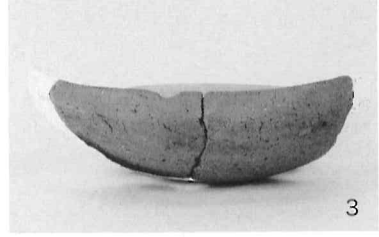
SI20出土遺物



1



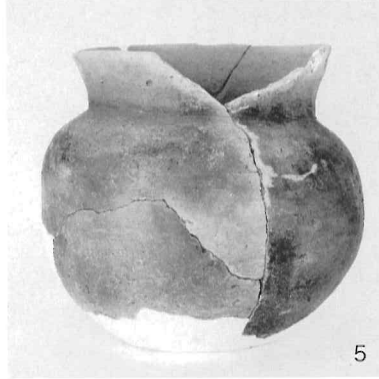
2



3



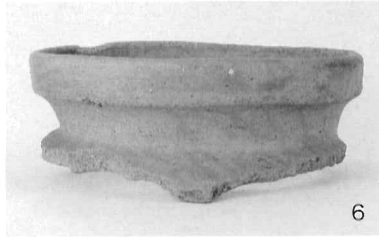
4



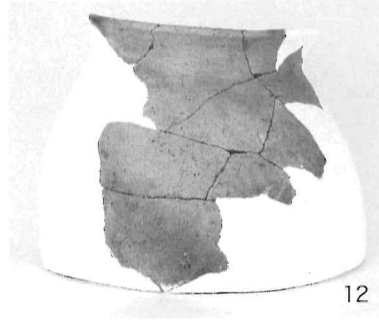
5



7



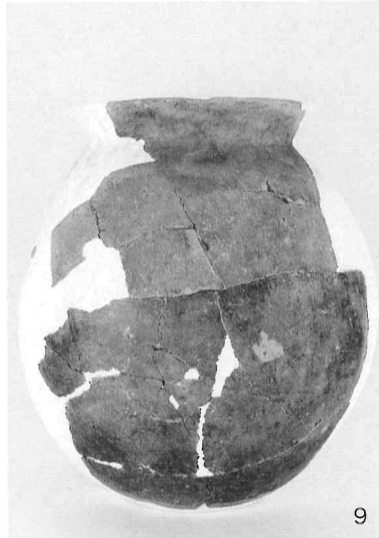
6



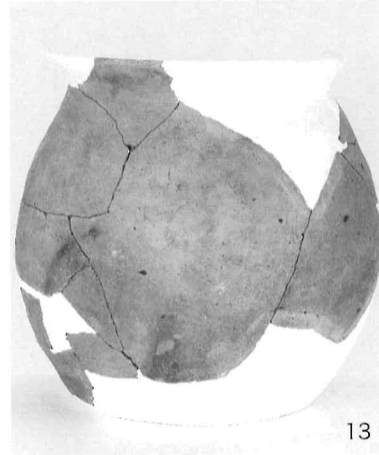
12



11



9

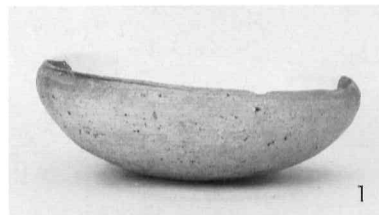


13

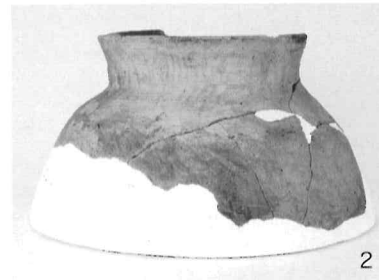


14

SI19出土遺物



1



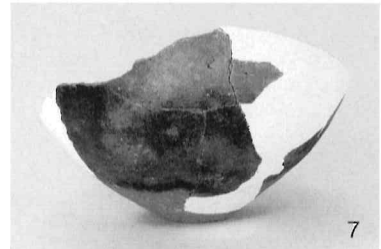
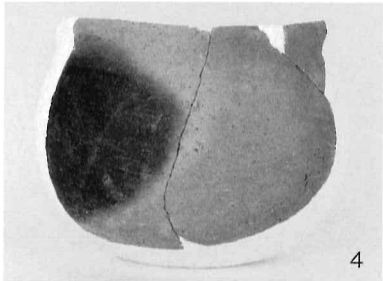
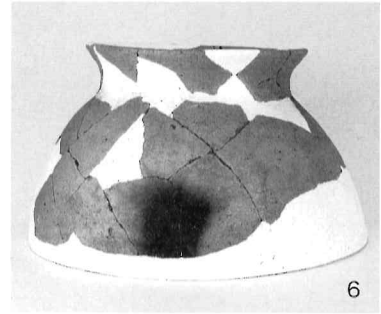
2



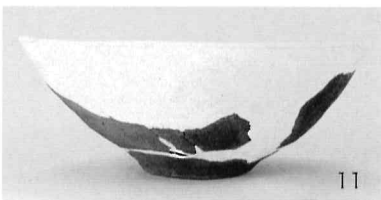
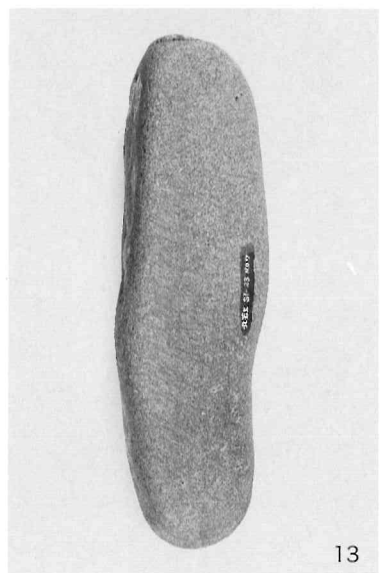
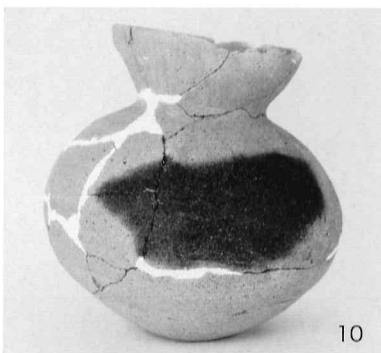
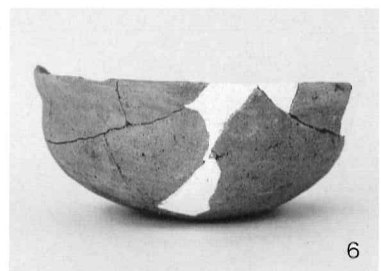
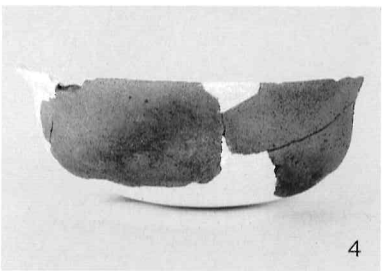
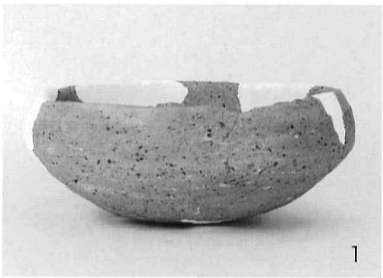
3

SI21出土遺物

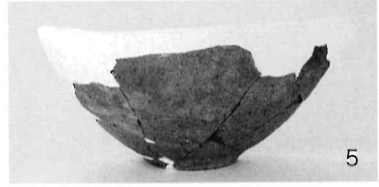
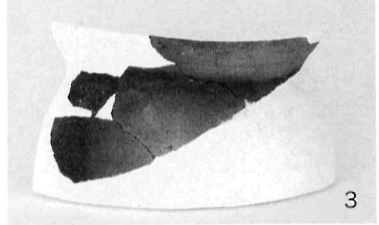
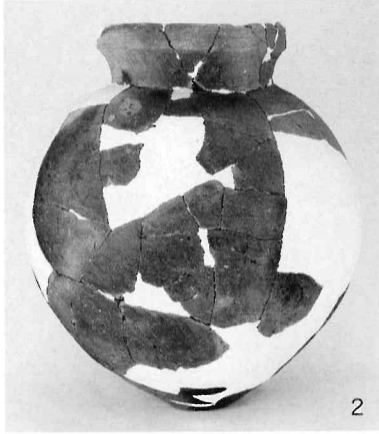
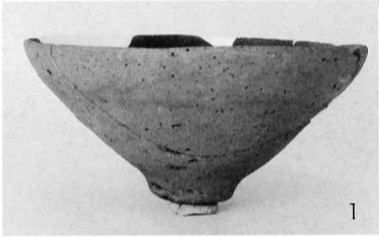
PL 22 北若松原遺跡



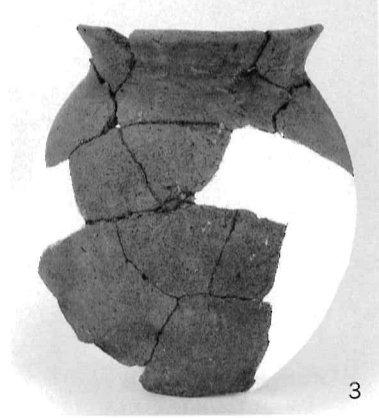
SI22出土遺物



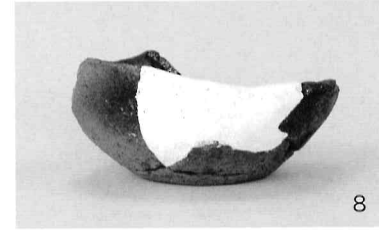
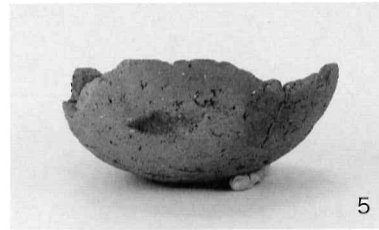
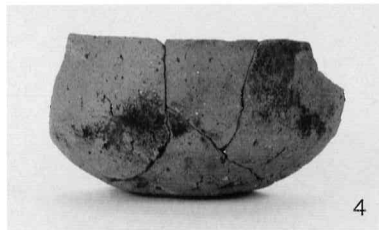
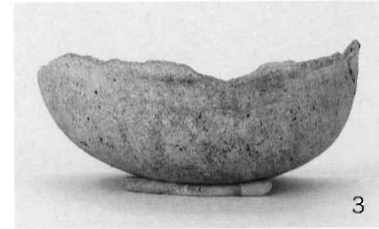
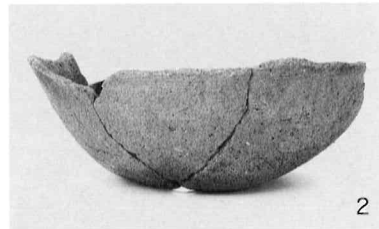
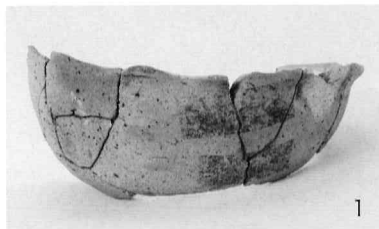
SI23出土遺物



SI24出土遺物



SI25出土遺物

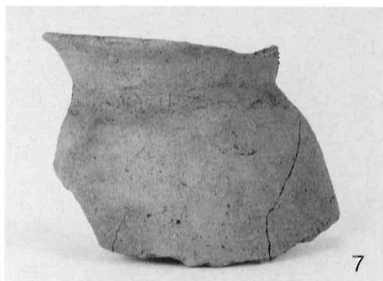


SI26出土遺物 (1)

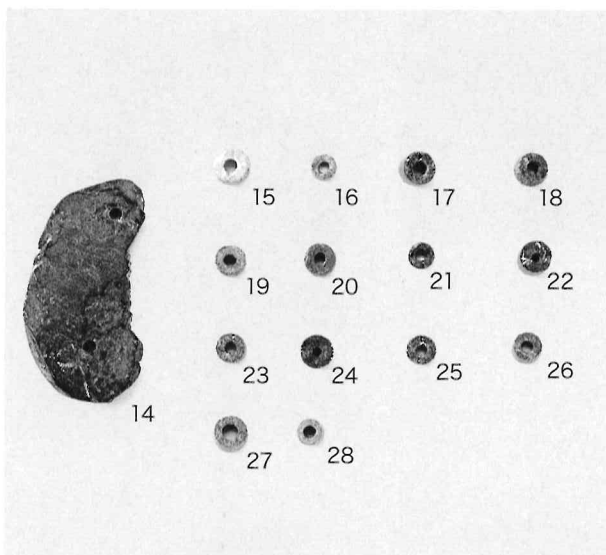
PL 24 北若松原遺跡



6



7



SI26出土遺物 (2)



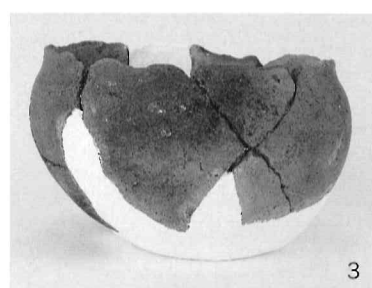
29



1



2



3



4



5

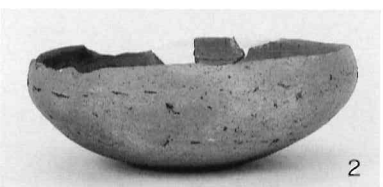


6



8

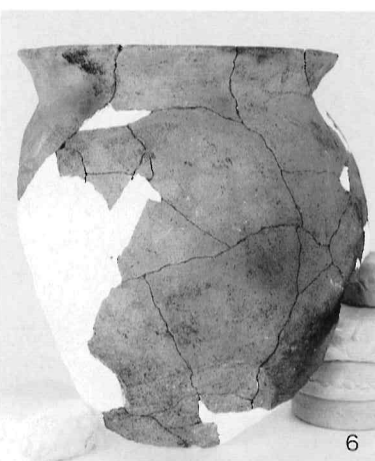
SI27出土遺物



2



4



6

SI28出土遺物



SI01土層（北から）



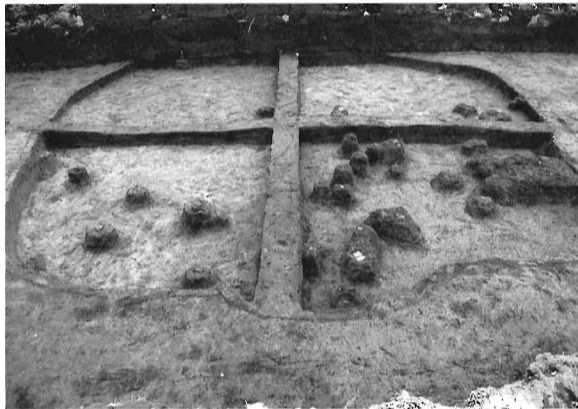
SI01カマド（南から）



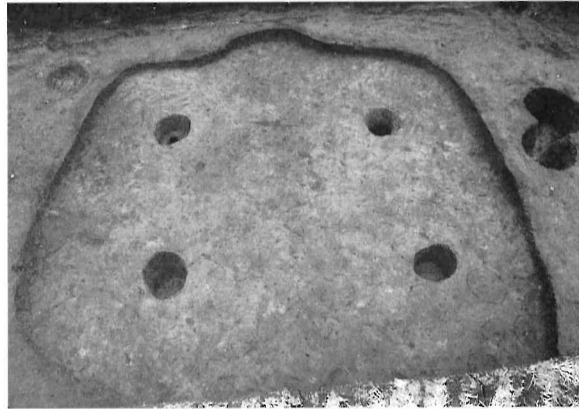
SI01完掘状況（西から）



SI03完掘状況（南から）



SI02遺物出土状況（南から）



SI02完掘状況（北から）



SI04遺物出土状況（西から）



SI04柱穴埋土遺物出土状況

PL26 若松原南遺跡



SI04カマド遺物出土状況 (西から)



SI04完掘状況 (西から)



SB01 (北東から)



SB03 (北東から)



SB02柱穴 (北から)



SX01 (東から)



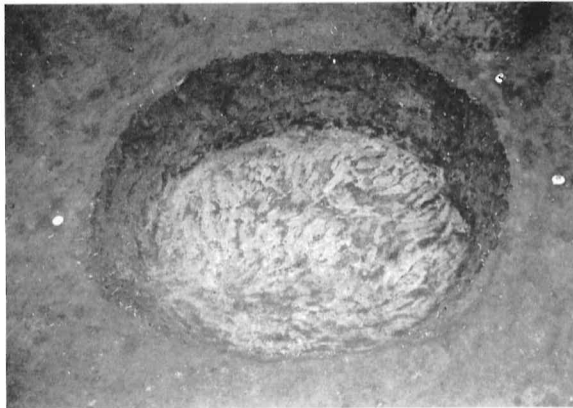
SK02 (北から)



SK03 (南から)



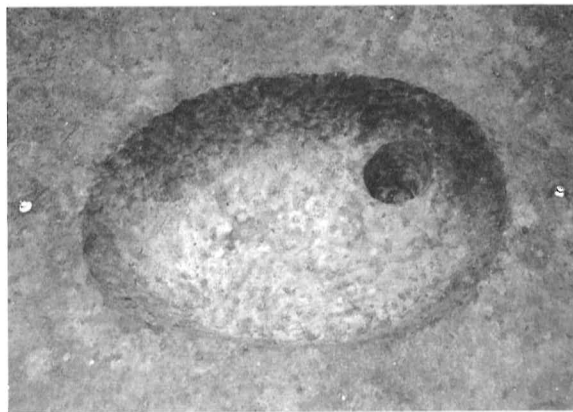
SK05 (南から)



SK08 (南から)



SK12 (南東から)



SK18 (南東から)



調査区全景 (西から)

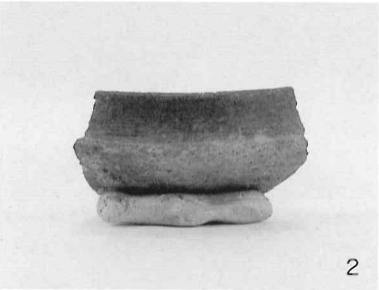


調査区全景 (東から)

PL28 若松原南遺跡



SI01出土遺物



SI04出土遺物

報 告 書 抄 録

ふりがな	きたわかまつはらいせき わかまつはらみなみいせき
書名	北若松原遺跡 若松原南遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	宇都宮市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第105集
編著者名	梁木 誠 澁谷麻友子 近藤 真
編集機関	宇都宮市教育委員会
所在地	宇都宮市旭1丁目1番5号 TEL028-632-2764
発行年月日	西暦 2019年(令和元年)12月3日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
きたわかまつはらいせき 北若松原遺跡	うつのみやし 宇都宮市 わかまつはら 若松原	09201	3226	36度 30分 26秒	139度 51分 58秒	19910402～ 19910510 19930513～ 19931130	3,500	民間の大 型店舗建 設
わかまつはらみなみいせき 若松原南遺跡	うつのみやし 宇都宮市 わかまつはら 若松原	09201	4195	36度 29分 56秒	131度 51分 45秒	20071016 ～ 20080212	1,000	市道拡幅 工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
北若松原遺跡	集落跡	古墳時代 平安時代	竪穴住居跡 28 軒、土坑17基等	土師器、須恵器、 鉄器、石製品等	栃木県中期を代表 する塚山古墳群の 近隣に展開した同 時期の集落跡
若松原南遺跡	集落跡	古墳時代	竪穴住居跡 7 軒、掘立柱建物 跡3棟等	土師器、須恵器	

宇都宮市埋蔵文化財調査報告書第105集

北若松原遺跡

若松原南遺跡

発行 宇都宮市教育委員会

編集 宇都宮市教育委員会

宇都宮市旭1丁目1番5号

TEL 028-632-2764

発行日 令和元年12月3日発行

印刷 有限会社 印刷親友社

宇都宮市瑞穂3-9-11

TEL 028-656-3655
